

男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査
男女共同参画社会づくりに関する事業所実態調査

報告書

令和5年2月

焼津市 市民協働課

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象	1
3 調査期間	1
4 調査方法	1
5 回収状況	1
6 調査結果の表示方法	1
7 国・県との比較データについて	1
II 調査結果のまとめ	2
市民意識調査	2
1 基本属性について	2
2 男女共同参画社会について	2
3 就業について	3
4 ワーク・ライフ・バランスについて	3
5 暴力について	4
6 性的マイノリティについて	4
7 防災について	4
8 行政について	5
事業所調査	5
1 女性の採用・雇用について	5
2 女性の活躍に向けて	5
3 ワーク・ライフ・バランスについて	5
4 とともに働きやすい社会づくりについて	5
III 調査結果	6
市民意識調査	6
1 基本属性について	6
2 男女共同参画について	15

3	就業について.....	52
4	ワーク・ライフ・バランスについて.....	66
5	暴力について.....	108
6	性的マイノリティについて.....	143
7	防災について.....	154
8	行政について.....	157
事業所調査.....		180
1	事業所概要について.....	180
2	女性の採用・登用について.....	188
3	女性の活躍に向けて.....	198
4	育児・介護休業制度について.....	207
5	ハラスメントについて.....	214
6	ワーク・ライフ・バランスについて.....	219
7	ともに働きやすい社会づくりについて.....	223

I 調査の概要

1 調査の目的

焼津市では男女が社会のあらゆる分野で対等な構成員として、ともに参画し、それぞれの個性や能力を十分に発揮しながら、互いにいきいきと暮らすことのできる「男女共同参画社会」の実現に向けて取り組みを進めている。この調査は、今後の男女共同参画社会づくりの指針となる計画の策定や効果的な取り組みにあたって、市民および市内事業所の実情や考えを把握するために実施した。

2 調査対象

一般市民：焼津市在住の満 18 歳以上の市民 2,000 人

事業所：焼津市内の事業所 200 社

3 調査期間

令和 4 年 11 月 28 日～12 月 23 日


4 調査方法

郵送調査

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
一般市民	2,000 通	659 通	33.0%
事業所	200 通	87 通	43.5%

6 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・ 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・ 回答者数が 1 桁の場合、回答件数による表記としています。

7 国・県との比較データについて

県調査：令和元年度「男女共同参画に関する県民意識調査」

国調査：令和元年度「男女共同参画社会に関する世論調査」

II 調査結果のまとめ

市民意識調査

1 基本属性について

- ・性別について、女性が368人、男性が285人、その他が0人、無回答が6人。性的マイノリティの方への配慮として「その他」を選択肢に加えたが、0人となっている。
- ・年代について、全体と女性は、60代以上で5割を超えており、男性は6割弱となっている。
- ・雇用形態について、女性の非正規雇用の割合が53.3%となっています。新型コロナウイルス感染症で雇用が不安定であったり、それに伴う経済的困窮など社会問題として顕在化している。

2 男女共同参画社会について

- ・①男女共同参画社会、②ジェンダー、③ポジティブ・アクション、④ワーク・ライフ・バランス、⑤女性活躍推進法、⑥リプロダクティブ・ヘルツ/ライツの認知度について、顕著に認知度が低かった項目（「知らない」と回答した割合）をみると、「⑥リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ」の割合が84.7%と最も高く、次いで「③ポジティブ・アクション」の割合が53.0%、「⑤女性活躍推進法」の割合が39.9%となっている。
- ・意思決定の場に女性が参画することについて、男性の方が意識は高い。女性は、現状のギャップ等からも男性に比べ意識は控えめである。
- ・女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、大切なことについて、平成29年度と比較すると、「妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供」「不妊に関する専門的な相談体制や経済的支援の充実」「学校における人権尊重及び健康の視点に立ったジェンダー平等教育の実施」の割合が増加している。
- ・「夫は外で働き、妻は家で家事・育児をする」という考え方について、男性も女性も「賛成」が減少し、「反対」が増加している。「反対」については、女性に比べ男性が、14.1ポイント低く、ギャップがある。
- ・分野ごとの男女の平等感について、「男女平等になっている」と感じているのは、「③学校教育で」が最も高く、47.3%となっている。「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合が最も高いのは「⑦政治の場で」で、次いで「⑧社会全体で」「⑤社会通念や慣習・しきたりなどで」となっている。「女性のほうが優遇されている」の割合が高い項目はなかった。

3 就業について

- ・結婚は個人の自由であるから結婚しなくてもどちらでもよいについて、全体では「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成派」は、70.7%と割合が高い。特に20代、30代では8割を超えている。10代を除き、年代が上がるにつれて「賛成」の割合が低くなる傾向がある。
- ・負担感や生きづらさを感じるかについて、「働きながらも、家事・育児・介護を求められる」の割合が40.8%と最も高い。「家事、育児、介護は女性がするものだと考えられている」の割合が40.2%となっている。女性に対して働きながらの家事、育児、介護をするのが当たり前といった周囲からのアンコンシャスバイアスの改善が必要である。
- ・女性が働くことに対する考えについて、平成29年度の調査と比べ、「結婚しても子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が46.6%と15.5ポイント上昇している。一方、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」の割合が22.8%と8.6ポイント減少している。
- ・女性が働く上での障害について、平成29年度の調査と比べ、「賃金の男女格差」「昇進・昇格における男女の格差」「仕事内容における男女の格差」「雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと」「家族の反対や、協力が得られないこと」の割合が増加している。女性活躍推進法の趣旨を踏まえ、男女の雇用格差の是正すべく、企業への情報発信など支援が必要である。

4 ワーク・ライフ・バランスについて

- ・「家庭生活」「地域・社会活動への参加」「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなど」「休養」に時間を取れているかについて、「家庭生活」を除き、すべての項目で女性が「あまり取れていない」と「まったく取れていない」を合わせた”取れていない人”の割合が、男性に比べ割合が高い。
- ・すべての人が仕事と家庭の両立を実現するために必要な条件について、「育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること」の割合が49.6%と最も高く、次いで「働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」、「在宅勤務（テレワーク）やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が高い。
- ・男性が家事・育児を行うことに対するイメージについて、すべての年代で「男性も家事・育児を行うことは当然である」の割合が高く、次いで「子どもにいい影響を与える」の割合が高い。一方で、男性で「仕事と両立させることは長時間労働による時間の制約があり難しい」と感じている割合も高く、両立のためには働き方の改善とあわせて考えていく必要がある。
- ・男性が「家事」「子育て」「介護」「地域活動」に参画していくために必要なことについて、女性・男性ともに「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」が最も高い。男性に比べ女性で「男性が家事などに参画するに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が10.5ポイント

ト高い。一方、女性に比べ男性で「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」の割合が高い。

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて、「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識の変化の有無について、「変化はない」の割合が62.4%と最も高い。「生活を重視するように変化」の割合が18.7%、「わからない」の割合が10.2%、「仕事を重視するように変化」の割合が3.0%となっている。

5 暴力について

- ・ドメスティック・バイオレンスについて、経験したり見聞きしたりしたことの有無について、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が61.8%と最も高い。次いで、「経験したり見聞きしたりしたことはない」の割合が23.1%、「身近に暴力を受けた人がいると聞いたことがある」の割合が10.5%となっている。平成29年度と比較すると、「経験したり見聞きしたりしたことはない」の割合が増加している。
- ・パートナー間における暴力を防止するために必要なことについて、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が69.2%と最も高い。次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」の割合が39.8%、「加害者への罰則を強化する」の割合が37.6%となっている。

6 性的マイノリティについて

- ・①性的マイノリティ、②性的指向、③性自認の認知度について、「言葉も意味も知っている」の割合が「①性的マイノリティ」で47.6%、「②性的指向」で34.3%となっている。「③性自認」については、「知らない」の割合が49.5%と高くなっている。
- ・周りに性的マイノリティの方がいるかについて、「いない」の割合が48.7%と最も高く、次いで「わからない」が37.6%となっている。一方、「いる」の割合が10.3%となり、10代や20代の若い世代の割合が高い。
- ・性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思うかについて、「必要だと思う」の割合が58.3%と最も高い。「わからない」の割合が32.8%となっている。年齢別に見ると、10代から30代の若い方で「必要だと思う」の割合が高い。

7 防災について

- ・男女共同参画の視点を防災に活かすために必要な施策について、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」の割合が70.3%と最も高く、次いで「女性も男性も役割を固定せず防災活動や訓練に取り組む」、「避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする」の割合が高い。

8 行政について

- ・「男女共同参画社会」を実現するために、行政が力を入れていくべきことについて、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が 58.6%と最も高い。次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が 56.8%、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」の割合が 53.1%となっている。

事業所調査

1 女性の採用・雇用について

- ・女性の管理職が増えるために必要なことについて、「必要な知識や経験等を持つ女性を増やすこと」の割合が 63.2%と最も高い。次いで、「管理職になることを希望する女性を増やすこと」の割合が 47.1%、「夫等の家族が子育て・介護・家事等をともに分担すること」の割合が 23.0%となっている。

2 女性の活躍に向けて

- ・女性の活躍に向けて、「すでに実施している」取組について、「②パートタイマー・アルバイト・契約社員などから正社員への登用」の割合が 51.7%と最も高く、次いで「⑥男女ともに異動や担当業務について本人の意向確認」「①女性従業員の採用拡大」の割合が高い。
- ・職場で女性の活躍に向けて取り組みを実施し、どのような効果があったかについて、「特に目立った効果はなかった」の割合が 32.2%と最も高い。次いで、「女性従業員の労働意欲が向上した」の割合が 29.9%、「男性が女性を対等な存在として見るようになった」の割合が 20.7%となっている。

3 ワーク・ライフ・バランスについて

- ・従業員のワーク・ライフ・バランスの実現を一層図るために、今後、整備・充実していく意向がある事項について、「有給休暇の取得促進」の割合が 43.7%と最も高い。次いで、「労働時間の弾力的な運用」の割合が 26.4%、「ノー残業デーの実施」の割合が 21.8%となっている。

4 とともに働きやすい社会づくりについて

- ・事業所での男女共同参画を進めるにあたって、焼津市が今後どのようなことに力を入れていくべきかについて、「保育施設や保育サービスの充実」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実」の割合が 33.3%、「女性従業員の雇用管理などについて参考となる事例の紹介」の割合が 31.0%となっている。

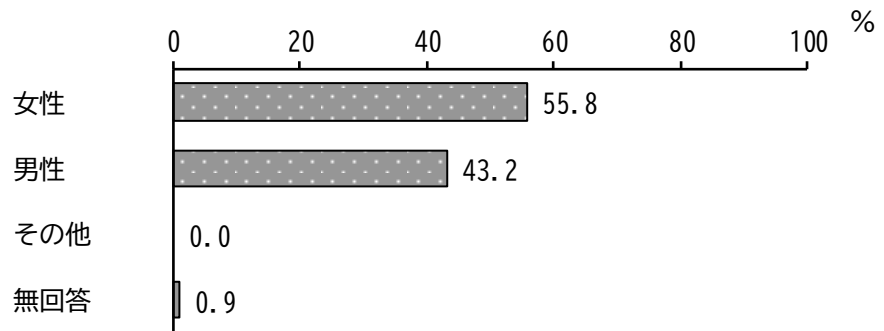
Ⅲ 調査結果

市民意識調査

1 基本属性について

F 1 あなたの性別をおしえてください。(○は1つ)

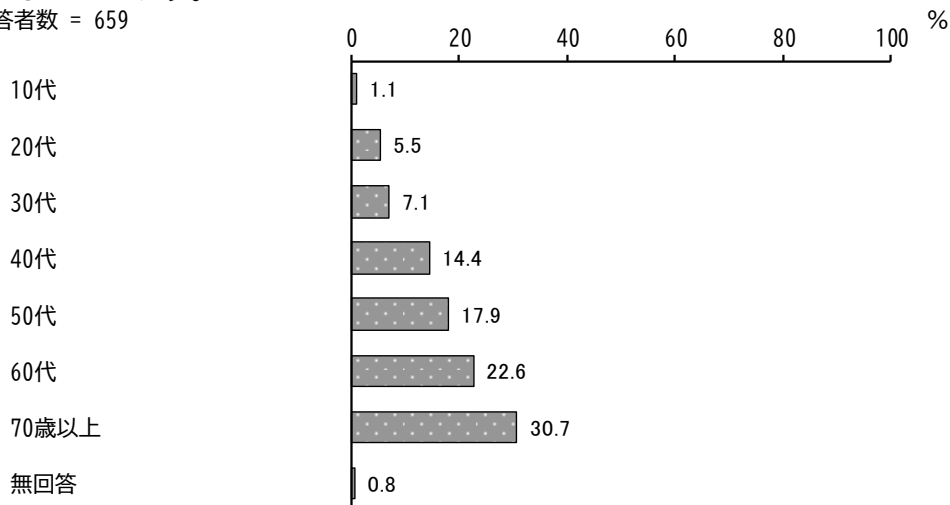
回答者数 = 659



F 2 あなたの年齢をおしえてください。(○は1つ)

「70歳以上」の割合が30.7%と最も高く、次いで「60代」の割合が22.6%、「50代」の割合が17.9%となっています。

回答者数 = 659



【性別】

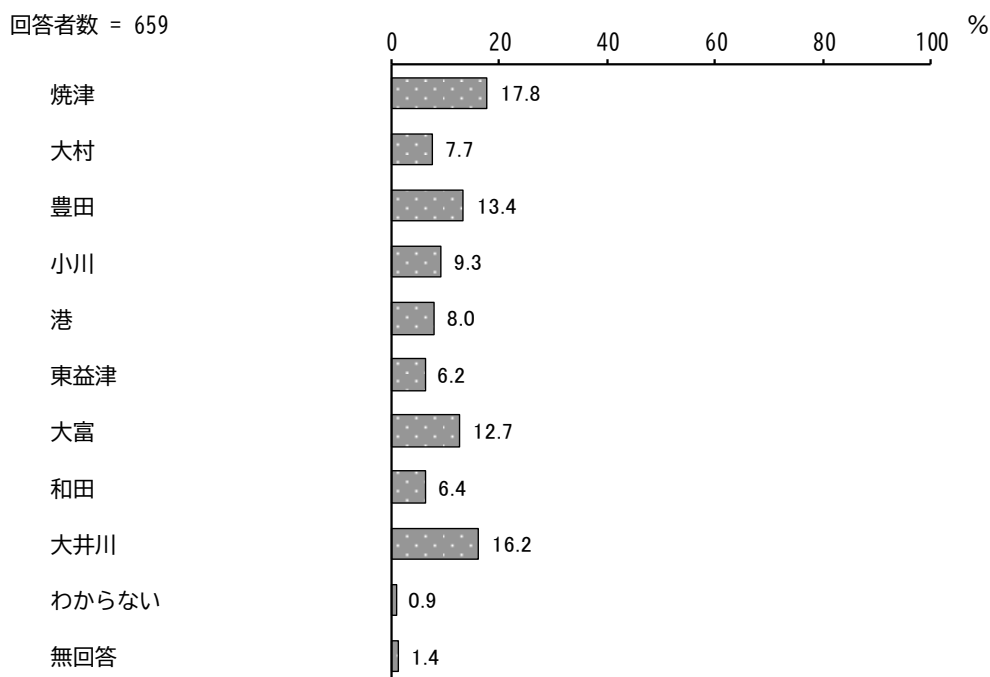
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
全体	659	1.1	5.5	7.1	14.4	17.9	22.6	30.7	0.8
女性	368	1.4	5.4	8.2	14.1	20.4	19.3	31.3	—
男性	285	0.7	5.6	6.0	15.1	14.7	27.4	30.5	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—

F3 あなたの居住地区をおしえてください。(○は1つ)

「焼津」の割合が17.8%と最も高く、次いで「大井川」の割合が16.2%、「豊田」の割合が13.4%となっています。



【性別】

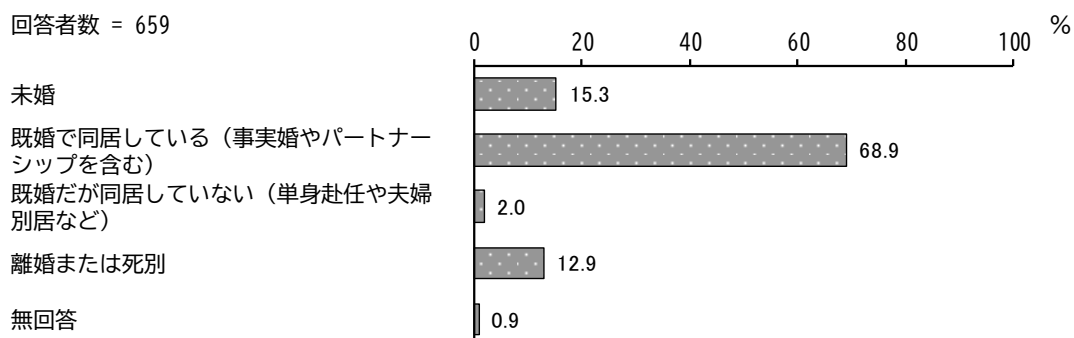
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	焼津	大村	豊田	小川	港	東益津	大富	和田	大井川	わからない	無回答
全体	659	17.8	7.7	13.4	9.3	8.0	6.2	12.7	6.4	16.2	0.9	1.4
女性	368	19.6	6.8	14.4	9.2	8.7	7.6	11.7	6.8	14.4	0.3	0.5
男性	285	15.8	9.1	12.3	9.5	7.4	4.6	14.4	6.0	18.6	1.8	0.7
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

F 4 あなたは結婚していますか。(〇は1つ)

「既婚で同居している（事実婚やパートナーシップを含む）」の割合が 68.9%と最も高く、次いで「未婚」の割合が 15.3%、「離婚または死別」の割合が 12.9%となっています。



【性別】

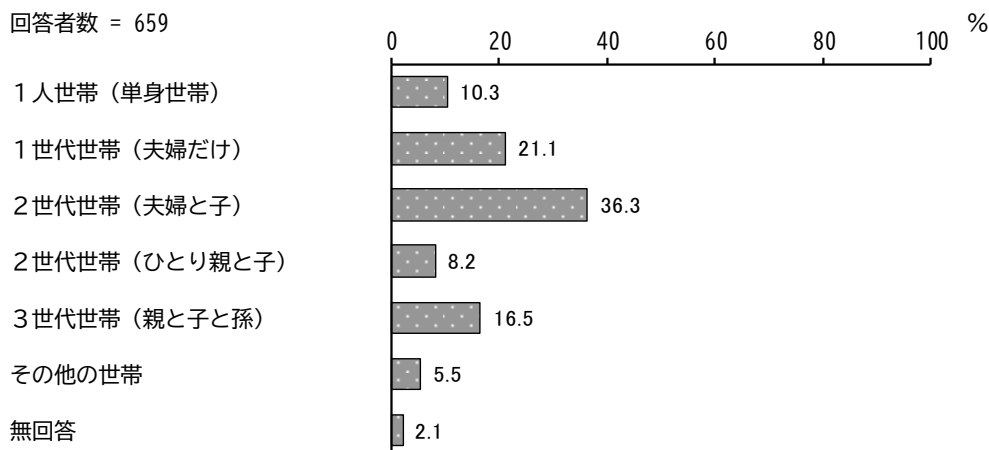
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	未婚	既婚で同居している (事実婚やパートナーシップを含む)	既婚だが同居していない (単身赴任や夫婦別居など)	離婚または死別	無回答
全体	659	15.3	68.9	2.0	12.9	0.9
女性	368	13.3	68.2	2.2	16.0	0.3
男性	285	17.9	71.2	1.8	9.1	—
その他	—	—	—	—	—	—

F 5 あなたの家族構成をおしえてください。(〇は1つ)

「2世代世帯（夫婦と子）」の割合が 36.3%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦だけ）」の割合が 21.1%、「3世代世帯（親と子と孫）」の割合が 16.5%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

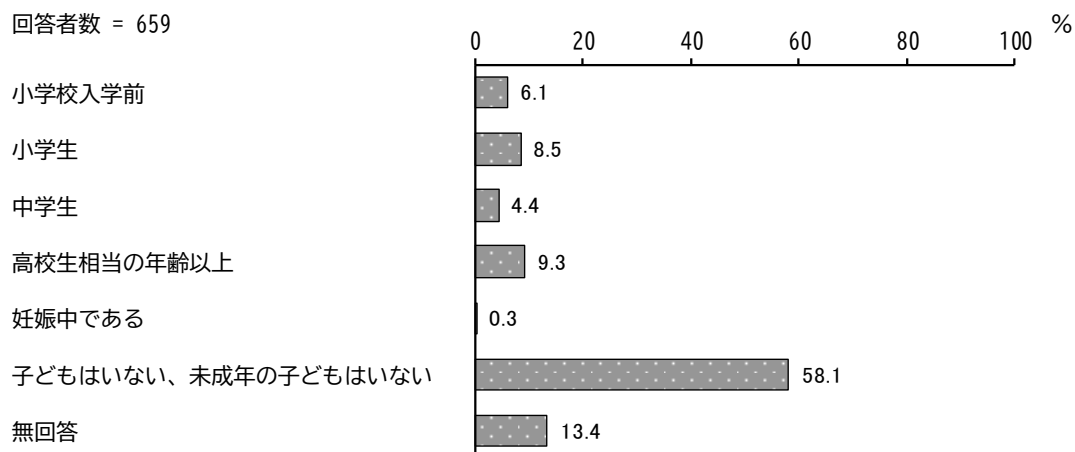
単位：%

区分	回答者数 (件)	1人世帯 (単身世帯)	1世代世帯 (夫婦だけ)	2世代世帯 (夫婦と子)	2世代世帯 (ひとり親と子)	3世代世帯 (親と子と孫)	その他の世帯	無回答
全体	659	10.3	21.1	36.3	8.2	16.5	5.5	2.1
女性	368	9.5	20.4	35.9	8.4	18.5	5.7	1.6
男性	285	11.2	22.5	37.5	8.1	14.4	5.3	1.1
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

F 6 同居家族に未成年（18歳未満）の子どもはいますか。2人以上いる場合は一番下の子どもについて回答ください。（○は1つ）

「子どもはいない、未成年の子どもはいない」の割合が58.1%と最も高くなっています。

回答者数 = 659



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「子どもはいない、未成年の子どもはいない」の割合が高くなっています。

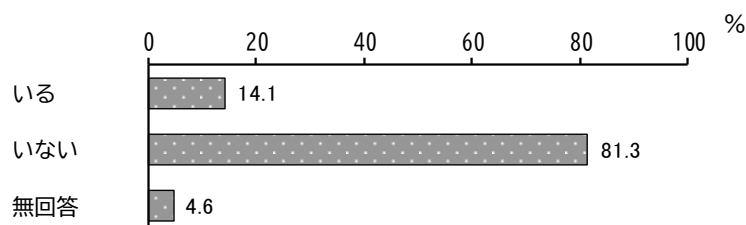
単位：％

区分	回答者数(件)	小学校入学前	小学生	中学生	高校生相当の年齢以上	妊娠中である	子どもはいない、未成年の子どもはいない	無回答
全体	659	6.1	8.5	4.4	9.3	0.3	58.1	13.4
女性	368	6.3	9.5	4.3	10.9	0.3	54.6	14.1
男性	285	6.0	7.4	4.6	7.4	0.4	63.5	10.9
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

F 7 同居家族に障がい者・要介護者の方はいますか。(○は1つ)

「いる」の割合が14.1%、「いない」の割合が81.3%となっています。

回答者数 = 659



【性別】

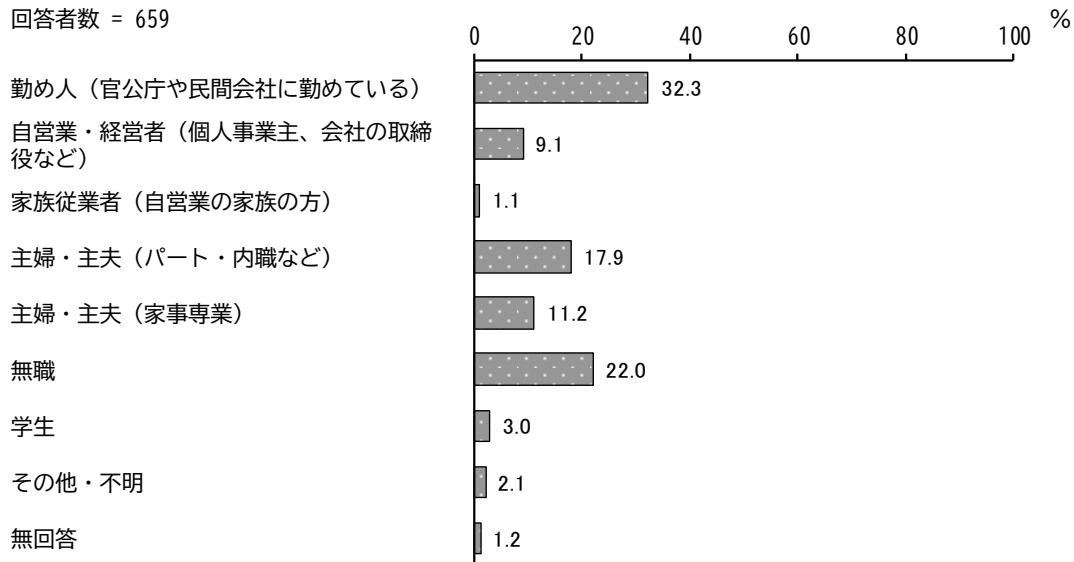
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	いる	いない	無回答
全体	659	14.1	81.3	4.6
女性	368	14.9	81.5	3.5
男性	285	13.3	82.5	4.2
その他	—	—	—	—

F 8 あなたは現在働いていますか。(〇は1つ)

「勤め人（官公庁や民間会社に勤めている）」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「無職」の割合が 22.0%、「主婦・主夫（パート・内職など）」の割合が 17.9%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「勤め人（官公庁や民間会社に勤めている）」の割合が、女性で「主婦・主夫（パート・内職など）」「主婦・主夫（家事専業）」の割合が高くなっています。また、男性で「主婦・主夫（家事専業）」「主婦・主夫（パート・内職など）」の割合が、女性で「勤め人（官公庁や民間会社に勤めている）」の割合が低くなっています。

単位：%

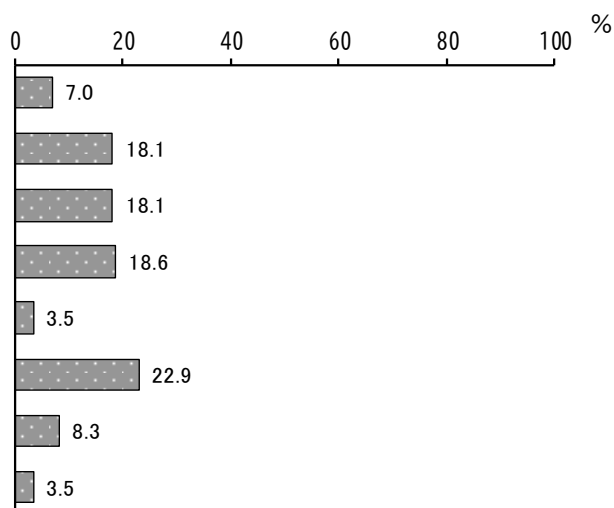
区分	回答者数（件）	勤め人（官公庁や民間会社に勤めている）	自営業・経営者（個人事業主、会社の取締役など）	家族従業者（自営業の家族の方）	主婦・主夫（パート・内職など）	主婦・主夫（家事専業）	無職	学生	その他・不明	無回答
全体	659	32.3	9.1	1.1	17.9	11.2	22.0	3.0	2.1	1.2
女性	368	22.8	6.5	1.9	26.4	19.6	17.4	3.5	1.1	0.8
男性	285	44.9	12.6	—	7.4	0.7	28.4	2.5	3.5	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

F 8- 1 あなたの職業をおしえてください。(○は1つ)

「生産・輸送・建設・清掃等従事者（生産・印刷・検査作業員、運転手、大工、建設従事者など）」の割合が 22.9%と最も高く、次いで「販売・サービス・保安職業従事者（販売店員、介護職員、看護助手、警察官、警備員など）」の割合が 18.6%、「専門的・技術的職業従事者（研究者、技術者、医療従事者、弁護士、教員など）」、「事務従事者（一般事務、営業・販売事務など）」の割合が 18.1%となっています。

回答者数 = 398

管理的職業従事者（官公庁や民間会社の課長以上、
議会議員、法人や団体の役員など）
専門的・技術的職業従事者（研究者、技術者、医療
従事者、弁護士、教員など）
事務従事者（一般事務、営業・販売事務など）
販売・サービス・保安職業従事者（販売店員、介護
職員、看護助手、警察官、警備員など）
農林漁業従事者（農耕・養畜、漁業・漁労、植木・
造園作業者など）
生産・輸送・建設・清掃等従事者（生産・印刷・検
査作業員、運転手、大工、建設従事者など）
その他・不明
無回答



【性別】

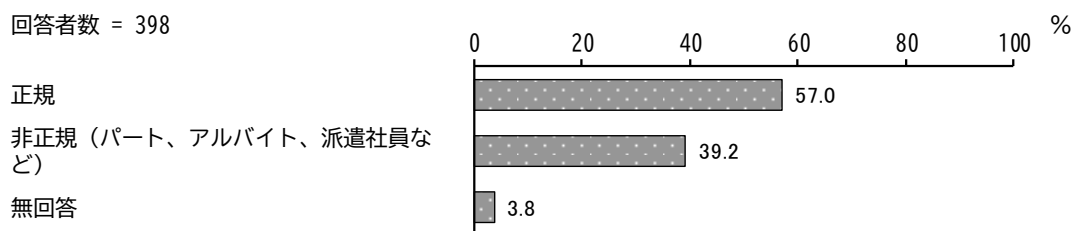
性別にみると、他に比べ、女性で「販売・サービス・保安職業従事者（販売店員、介護職員、看護助手、警察官、警備員など）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「販売・サービス・保安職業従事者（販売店員、介護職員、看護助手、警察官、警備員など）」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	管理的職業従事者（官公庁や民間会社の課長以上、議会議員、法人や団体の役員など）	専門的・技術的職業従事者（研究者、技術者、医療従事者、弁護士、教員など）	事務従事者（一般事務、営業・販売事務など）	販売・サービス・保安職業従事者（販売店員、介護職員、看護助手、警察官、警備員など）	農林漁業従事者（農耕・養畜、漁業・漁労、植木・造園作業者など）	生産・輸送・建設・清掃等従事者（生産・印刷・検査作業員、運転手、大工、建設従事者など）	その他・不明	無回答
全体	398	7.0	18.1	18.1	18.6	3.5	22.9	8.3	3.5
女性	212	2.4	17.5	21.7	25.5	1.4	19.3	9.0	3.3
男性	185	11.9	18.9	14.1	10.8	5.9	27.0	7.6	3.8
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-

F 8- 2 あなたの当てはまる雇用形態をおしえてください。(○は1つ)

「正規」の割合が57.0%、「非正規（パート、アルバイト、派遣社員など）」の割合が39.2%となっています。



【性別】

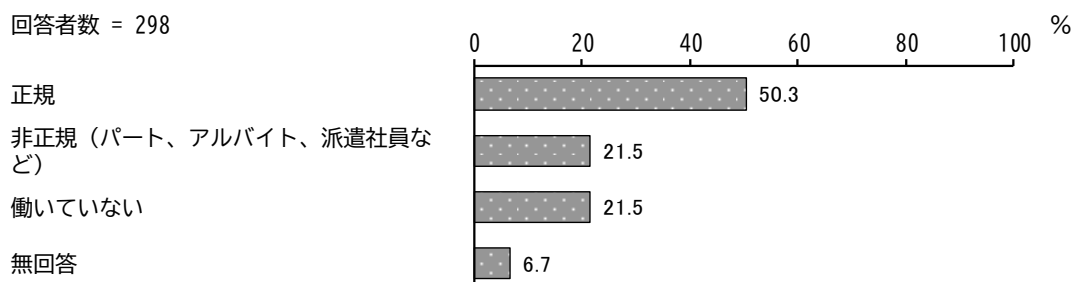
性別にみると、他に比べ、男性で「正規」の割合が、女性で「非正規（パート、アルバイト、派遣社員など）」の割合が高くなっています。また、男性で「非正規（パート、アルバイト、派遣社員など）」の割合が、女性で「正規」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	正規	非正規 (パート、アルバイト、派遣社員など)	無回答
全体	398	57.0	39.2	3.8
女性	212	42.5	53.3	4.2
男性	185	73.5	23.2	3.2
その他	-	-	-	-

F 8- 3 配偶者（パートナー）の当てはまる雇用形態をおしえてください。(○は1つ)

「正規」の割合が50.3%と最も高く、次いで「非正規（パート、アルバイト、派遣社員など）」、「働いていない」の割合が21.5%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「正規」の割合が、男性で「非正規（パート、アルバイト、派遣社員など）」「働いていない」の割合が高くなっています。また、男性で「正規」の割合が、女性で「非正規（パート、アルバイト、派遣社員など）」「働いていない」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	正規	非正規（パート、 アルバイト、派遣社員 など）	働いていない	無回答
全 体	298	50.3	21.5	21.5	6.7
女性	154	72.7	7.8	12.3	7.1
男性	144	26.4	36.1	31.3	6.3
その他	—	—	—	—	—

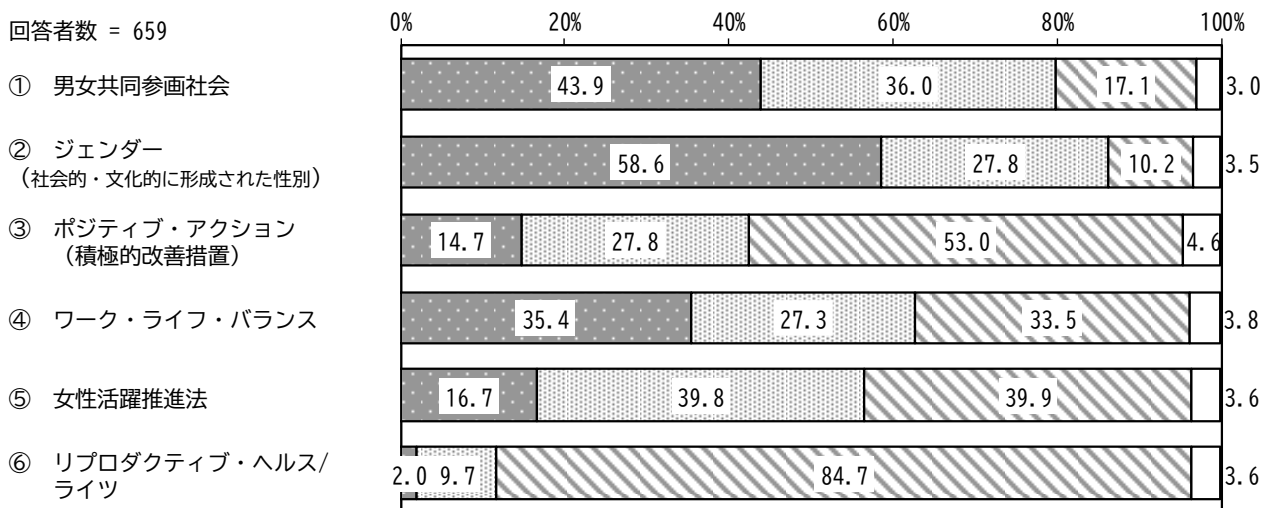
2 男女共同参画について

問1 あなたは次の言葉やその意味を知っていますか。(それぞれ1つに○)

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」を知らない割合が高くなっています。次いで、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」の「言葉の意味も知っている」の割合が高くなっています。

■ 言葉も意味も知っている ■ 言葉だけ知っている ■ 知らない □ 無回答

回答者数 = 659

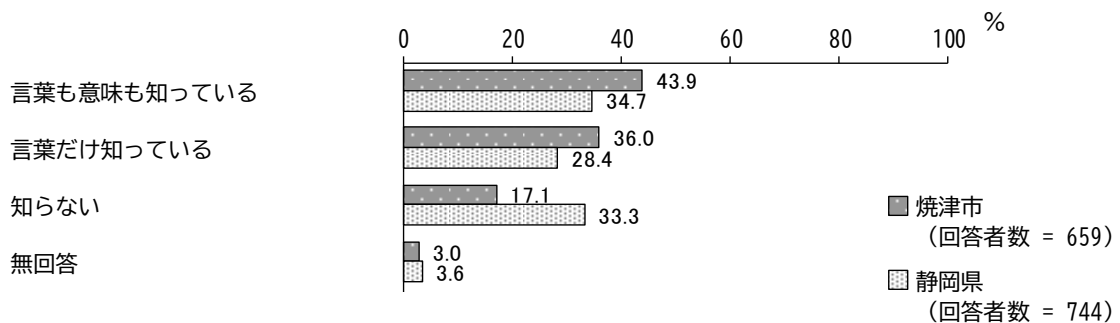


①男女共同参画社会

【県比較】

静岡県と比較すると、「言葉も意味も知っている」「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合が増加しています。一方、「言葉だけ知っている」「知らない」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「言葉も意味も知っている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	43.9	36.0	17.1	3.0
女性	368	40.2	38.0	18.8	3.0
男性	285	49.5	33.7	15.4	1.4
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「知らない」の割合が、20代で「言葉も意味も知っている」「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。また、20代で「知らない」の割合が、50代で「言葉も意味も知っている」の割合が、40代で「言葉も意味も知っている」の割合が低くなっています。

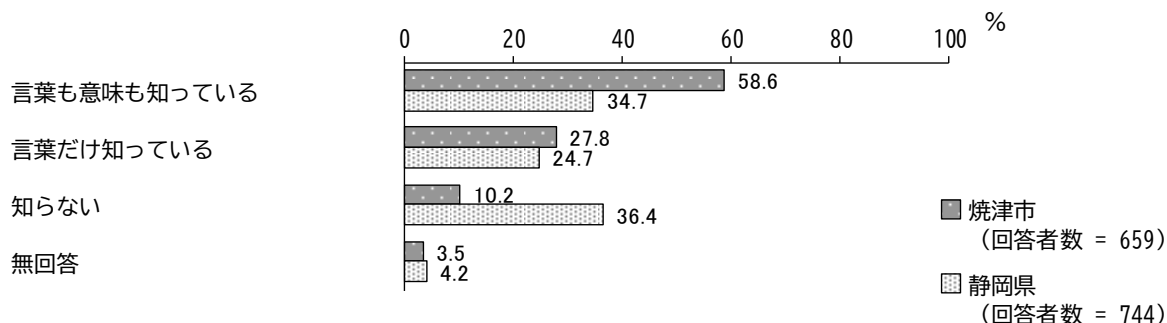
単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	43.9	36.0	17.1	3.0
10代	7	57.1	42.9	—	—
20代	36	52.8	44.4	2.8	—
30代	47	40.4	31.9	27.7	—
40代	95	38.9	36.8	23.2	1.1
50代	118	38.1	38.1	23.7	—
60代	149	45.0	40.3	14.1	0.7
70歳以上	202	48.5	31.2	13.9	6.4

②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

「言葉も意味も知っている」の割合が58.6%と最も高く、次いで「言葉だけ知っている」の割合が27.8%、「知らない」の割合が10.2%となっています。

静岡県と比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合が高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っている	言葉だけ知っている	知らない	無回答
全体	659	58.6	27.8	10.2	3.5
女性	368	61.7	26.6	8.4	3.3
男性	285	55.8	29.5	12.6	2.1
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「言葉も意味も知っている」の割合が、30代で「言葉も意味も知っている」の割合が、40代で「言葉も意味も知っている」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「言葉も意味も知っている」の割合が、20代で「言葉だけ知っている」の割合が、40代で「知らない」の割合が低くなっています。

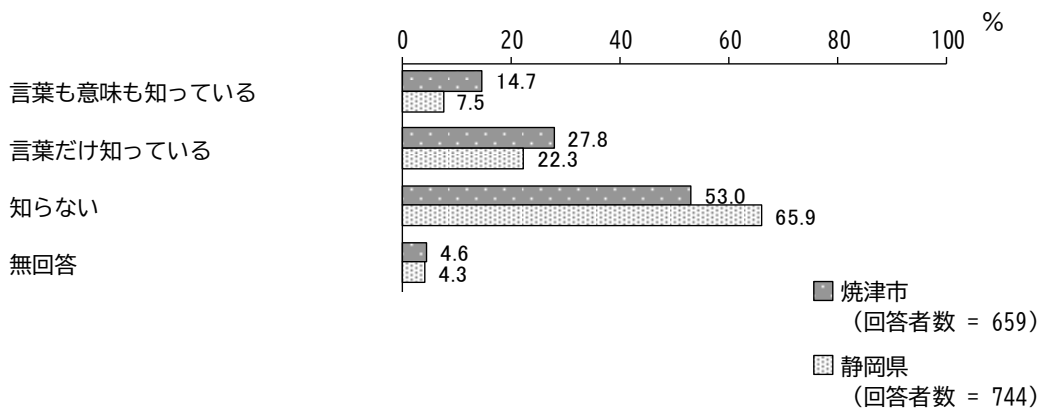
単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知って いる	知らない	無回答
全 体	659	58.6	27.8	10.2	3.5
10代	7	57.1	42.9	—	—
20代	36	80.6	19.4	—	—
30代	47	70.2	21.3	8.5	—
40代	95	69.5	26.3	3.2	1.1
50代	118	64.4	28.8	6.8	—
60代	149	58.4	30.9	8.7	2.0
70歳以上	202	45.0	28.7	19.3	6.9

③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「知らない」の割合が 53.0%と最も高く、次いで「言葉だけ知っている」の割合が 27.8%、「言葉も意味も知っている」の割合が 14.7%となっています。

静岡県と比較すると、「言葉も意味も知っている」「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	14.7	27.8	53.0	4.6
女性	368	14.4	29.1	52.2	4.3
男性	285	15.4	26.3	55.1	3.2
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「知らない」の割合が、40代で「知らない」の割合が、20代で「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。また、30代で「言葉だけ知っている」の割合が、40代で「言葉も意味も知っている」の割合が、70歳以上で「知らない」の割合が低くなっています。

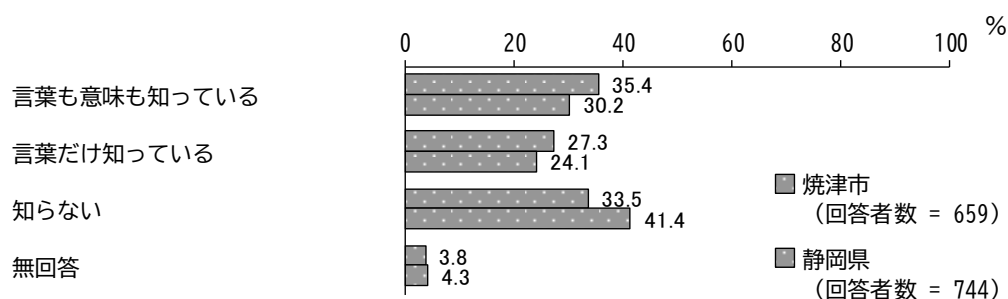
単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	14.7	27.8	53.0	4.6
10代	7	14.3	42.9	42.9	—
20代	36	13.9	33.3	50.0	2.8
30代	47	10.6	17.0	72.3	—
40代	95	5.3	26.3	66.3	2.1
50代	118	12.7	33.1	53.4	0.8
60代	149	19.5	29.5	49.7	1.3
70歳以上	202	18.3	25.7	46.5	9.4

④ワーク・ライフ・バランス

「言葉も意味も知っている」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「知らない」の割合が 33.5%、「言葉だけ知っている」の割合が 27.3%となっています。

静岡県と比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合が高くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「言葉も意味も知っている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っている	言葉だけ知っている	知らない	無回答
全体	659	35.4	27.3	33.5	3.8
女性	368	32.1	29.9	34.5	3.5
男性	285	40.4	24.2	33.0	2.5
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「言葉も意味も知っている」の割合が、40代で「言葉も意味も知っている」の割合が、30代で「言葉も意味も知っている」の割合が高くなっています。また、20代で「知らない」「言葉だけ知っている」の割合が、70歳以上で「言葉も意味も知っている」の割合が低くなっています。

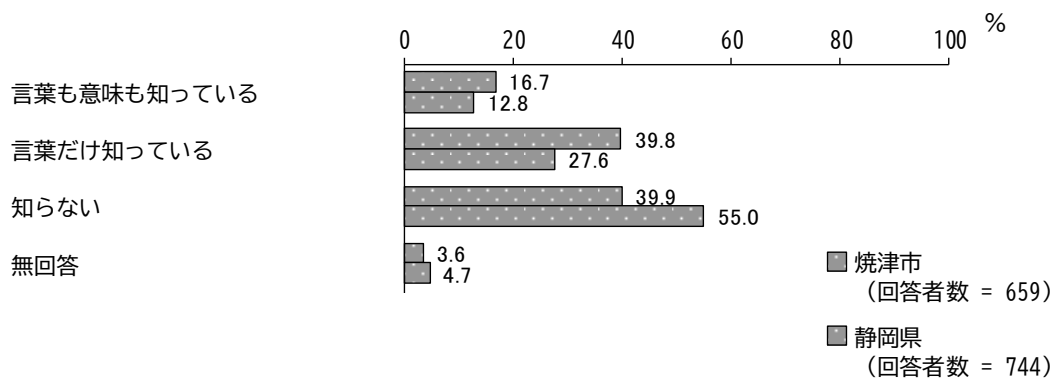
単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知って いる	知らない	無回答
全 体	659	35.4	27.3	33.5	3.8
10代	7	100.0	—	—	—
20代	36	77.8	16.7	5.6	—
30代	47	51.1	21.3	27.7	—
40代	95	51.6	21.1	26.3	1.1
50代	118	36.4	28.0	35.6	—
60代	149	26.2	34.9	36.9	2.0
70歳以上	202	21.3	29.2	41.6	7.9

⑤女性活躍推進法

「知らない」の割合が 39.9%と最も高く、次いで「言葉だけ知っている」の割合が 39.8%、「言葉も意味も知っている」の割合が 16.7%となっています。

静岡県と比較すると、「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	16.7	39.8	39.9	3.6
女性	368	16.0	41.8	38.9	3.3
男性	285	17.9	37.5	42.1	2.5
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、60代で「知らない」の割合が、30代で「言葉だけ知っている」の割合が、20代で「言葉も意味も知っている」の割合が高くなっています。また、30代で「知らない」の割合が、60代で「言葉だけ知っている」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	16.7	39.8	39.9	3.6
10代	7	57.1	14.3	28.6	—
20代	36	22.2	41.7	36.1	—
30代	47	19.1	46.8	34.0	—
40代	95	17.9	36.8	44.2	1.1
50代	118	16.9	44.9	37.3	0.8
60代	149	14.8	34.2	50.3	0.7
70歳以上	202	14.9	42.1	35.1	7.9

⑥リプロダクティブ・ヘルス/ ライツ

「知らない」の割合が84.7%と最も高くなっています。

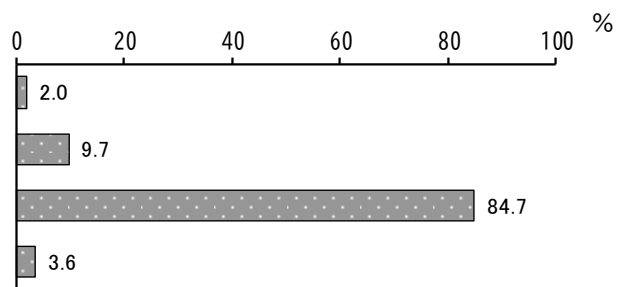
回答者数 = 659

言葉も意味も知っている

言葉だけ知っている

知らない

無回答



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っている	言葉だけ知っている	知らない	無回答
全体	659	2.0	9.7	84.7	3.6
女性	368	2.2	9.2	85.3	3.3
男性	285	1.8	10.5	85.3	2.5
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、40代で「知らない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、20代で「知らない」の割合が低くなっています。

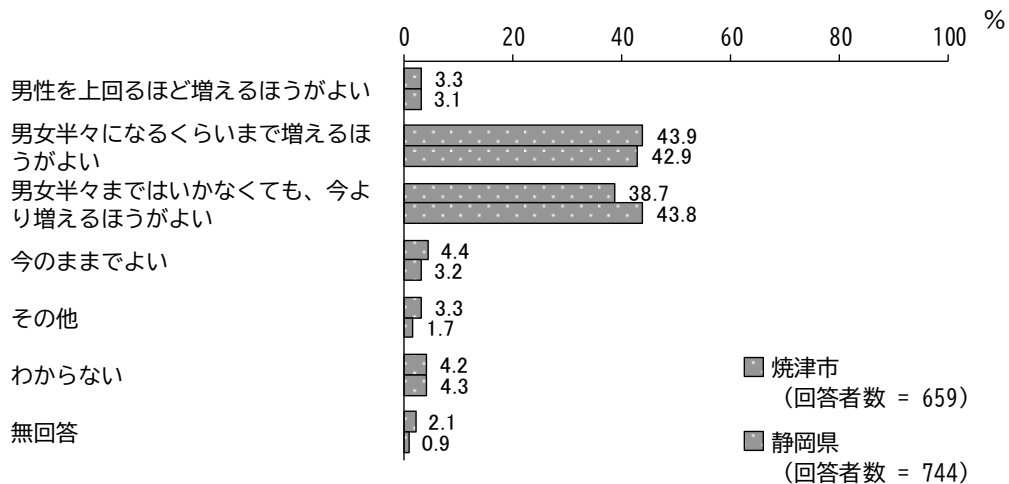
単位：%

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	2.0	9.7	84.7	3.6
10代	7	14.3	—	85.7	—
20代	36	2.8	22.2	75.0	—
30代	47	—	14.9	85.1	—
40代	95	1.1	4.2	93.7	1.1
50代	118	1.7	11.0	86.4	0.8
60代	149	2.0	9.4	87.9	0.7
70歳以上	202	2.5	8.9	80.7	7.9

問2 あなたは、意思決定の場に女性が参画することについて、どのように考えますか。(○は1つ)

「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」の割合が43.9%と最も高く、次いで「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」の割合が38.7%となっています。

静岡県と比較すると、「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」の割合が低くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性を上回るほど増えるほうがよい	男女半々になるくらいまで増えるほうがよい	男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい	今のままでよい	その他	わからない	無回答
全体	659	3.3	43.9	38.7	4.4	3.3	4.2	2.1
女性	368	3.3	42.1	43.8	3.5	1.9	4.1	1.4
男性	285	3.5	46.7	33.0	5.6	5.3	4.6	1.4
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」の割合が、40代で「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」の割合が、70歳以上で「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」の割合が高くなっています。また、40代で「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」の割合が、20代で「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」の割合が、70歳以上で「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」の割合が低くなっています。

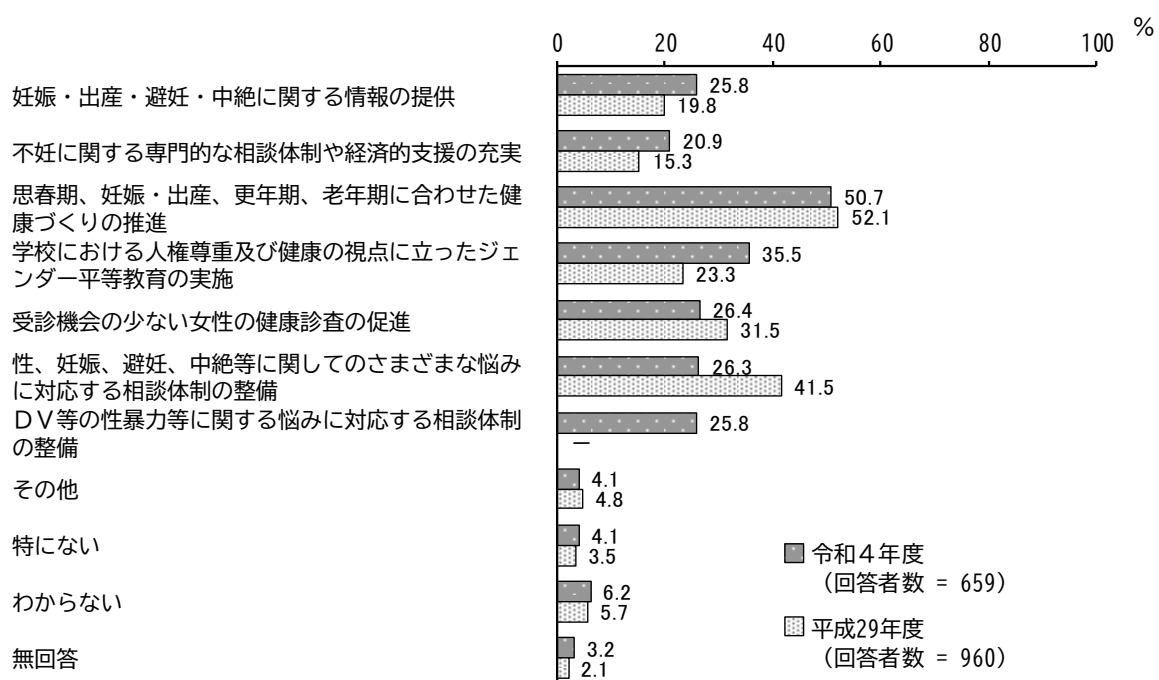
単位：％

区分	回答者数 (件)	男性を上回るほど 増えるほうがよい	男女半々になるく らいまで増えるほ うがよい	男女半々まではい かなくても、今より 増えるほうがよい	今のままでよい	その他	わからない	無回答
全 体	659	3.3	43.9	38.7	4.4	3.3	4.2	2.1
10代	7	—	57.1	28.6	—	—	14.3	—
20代	36	2.8	61.1	30.6	2.8	—	2.8	—
30代	47	6.4	42.6	38.3	—	4.3	6.4	2.1
40代	95	4.2	56.8	25.3	4.2	8.4	1.1	—
50代	118	5.9	41.5	39.8	5.9	4.2	1.7	0.8
60代	149	2.0	45.0	39.6	4.7	3.4	4.0	1.3
70歳以上	202	2.0	36.1	46.5	5.0	1.0	6.9	2.5

問3 女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが大切だと考えますか。(〇は3つまで)

「思春期、妊娠・出産、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」の割合が50.7%と最も高く、次いで「学校における人権尊重及び健康の視点に立ったジェンダー平等教育の実施」の割合が35.5%、「受診機会の少ない女性の健康診査の促進」の割合が26.4%となっています。

平成29年度と比較すると、「妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供」「不妊に関する専門的な相談体制や経済的支援の充実」「学校における人権尊重及び健康の視点に立ったジェンダー平等教育の実施」の割合が増加しています。一方、「受診機会の少ない女性の健康診査の促進」「性、妊娠、避妊、中絶等に関してのさまざまな悩みに対応する相談体制の整備」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「思春期、妊娠・出産、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」の割合が、男性で「DV等の性暴力等に関する悩みに対応する相談体制の整備」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「思春期、妊娠・出産、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供	不妊に関する専門的な相談体制や経済的支援の充実	思春期、妊娠・出産、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進	学校における人権尊重及び健康の視点に立ったジェンダー平等教育の実施	受診機会の少ない女性の健康診査の促進	性、妊娠、避妊、中絶等に関してのさまざまな悩みに対応する相談体制の整備	DV等の性暴力等に関する悩みに対応する相談体制の整備	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	25.8	20.9	50.7	35.5	26.4	26.3	25.8	4.1	4.1	6.2	3.2
女性	368	26.6	23.9	56.3	36.4	26.4	24.7	22.3	4.3	4.9	3.3	1.6
男性	285	25.3	17.5	44.6	35.1	27.0	28.8	30.9	3.9	3.2	9.8	3.5
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供」「性、妊娠、避妊、中絶等に関するさまざまな悩みに対応する相談体制の整備」の割合が、30代で「妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供」の割合が高くなっています。また、30代で「思春期、妊娠・出産、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」の割合が、20代で「受診機会の少ない女性の健康診査の促進」「思春期、妊娠・出産、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」の割合が低くなっています。

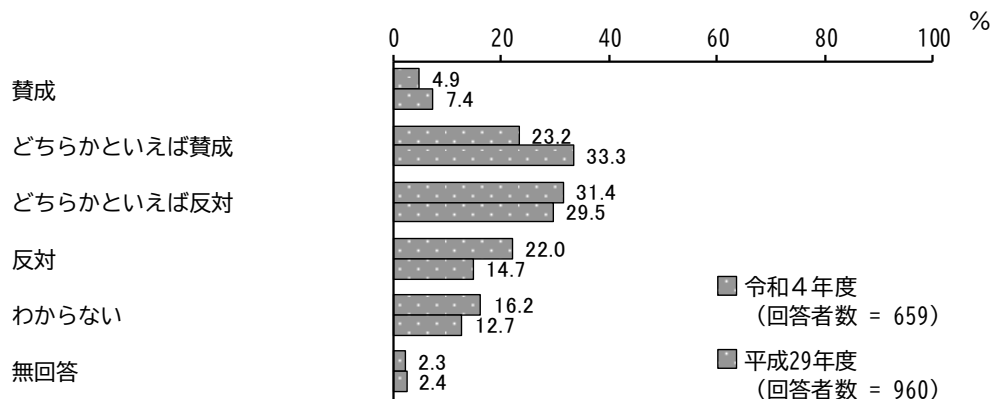
単位：％

区分	回答者数(件)	妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供	不妊に関する専門的な相談体制や経済的支援の充実	思春期、妊娠・出産、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進	学校における人権尊重及び健康の視点に立ったジェンダー平等教育の実施	受診機会の少ない女性の健康診査の促進	性、妊娠、避妊、中絶等に関するさまざまな悩みに対応する相談体制の整備	DV等の性暴力等に関する悩みに対応する相談体制の整備	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	25.8	20.9	50.7	35.5	26.4	26.3	25.8	4.1	4.1	6.2	3.2
10代	7	14.3	42.9	14.3	28.6	28.6	42.9	28.6	14.3	—	14.3	—
20代	36	63.9	19.4	41.7	33.3	11.1	44.4	30.6	16.7	—	2.8	—
30代	47	38.3	27.7	34.0	31.9	34.0	25.5	21.3	8.5	—	10.6	2.1
40代	95	32.6	17.9	52.6	30.5	32.6	28.4	28.4	4.2	3.2	5.3	1.1
50代	118	23.7	19.5	53.4	37.3	27.1	22.9	22.0	5.9	4.2	5.9	0.8
60代	149	21.5	22.8	54.4	41.6	24.2	25.5	31.5	0.7	2.0	7.4	2.0
70歳以上	202	18.3	20.3	53.5	34.7	26.2	24.8	23.3	2.0	7.9	5.4	5.0

問4 「夫は外で働き、妻は家で家事・育児をする」という考え方について、あなたは賛成ですか、反対ですか。(○は1つ)

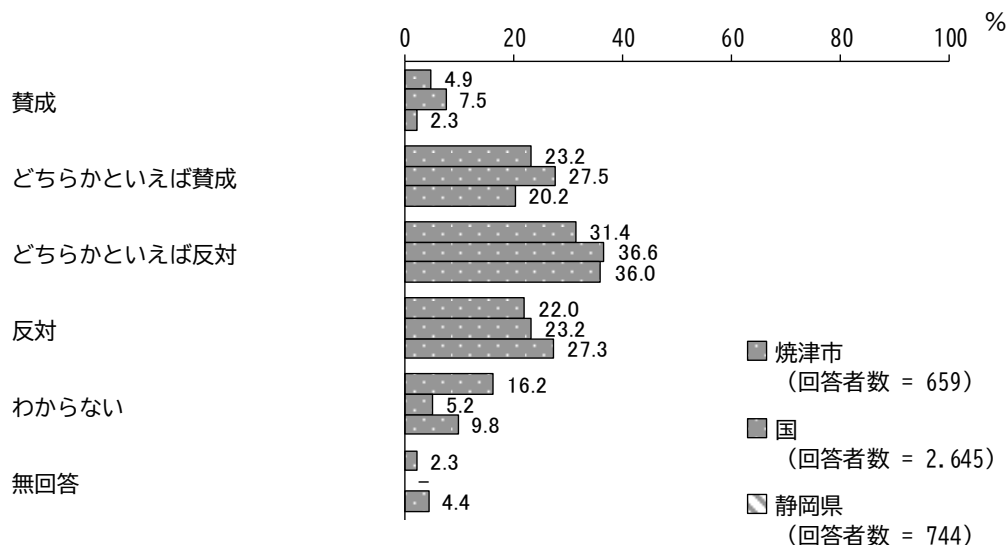
「どちらかといえば反対」の割合が31.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が23.2%、「反対」の割合が22.0%となっています。

平成29年度と比較すると、「反対」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば賛成」の割合が減少しています。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の割合が、国より低く、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「どちらかといえば反対」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「どちらかといえば反対」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	わからない	無回答
全 体	659	4.9	23.2	31.4	22.0	16.2	2.3
女性	368	3.8	20.7	37.8	22.3	13.9	1.6
男性	285	6.3	27.0	23.9	22.1	19.3	1.4
その他	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「反対」の割合が、70歳以上で「どちらかといえば賛成」の割合が、40代で「わからない」の割合が高くなっています。また、20代で「どちらかといえば賛成」の割合が、40代で「どちらかといえば賛成」の割合が、30代で「どちらかといえば賛成」の割合が低くなっています。

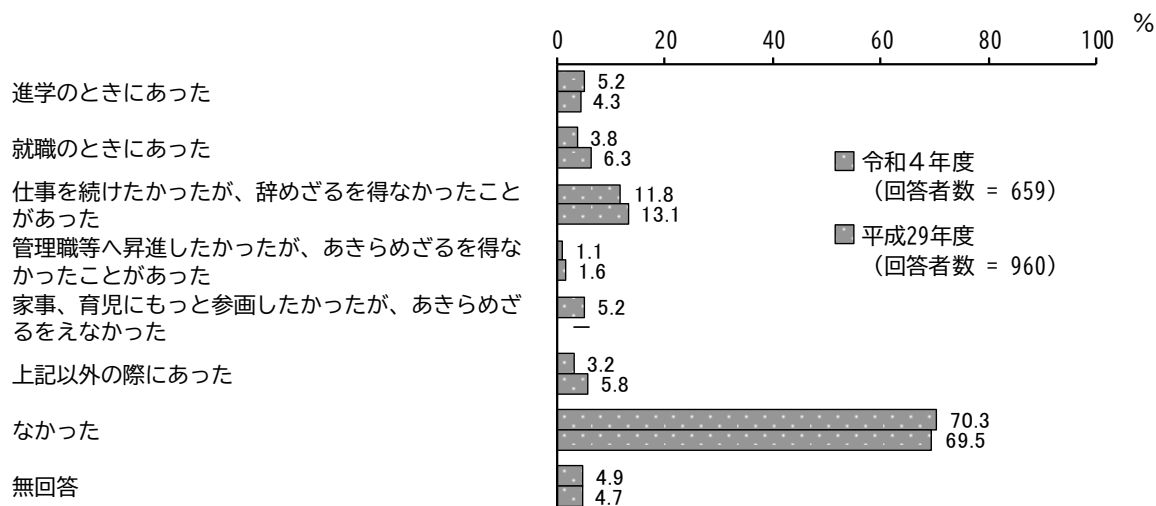
単位：％

区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	わからない	無回答
全 体	659	4.9	23.2	31.4	22.0	16.2	2.3
10代	7	—	—	42.9	28.6	28.6	—
20代	36	2.8	11.1	33.3	38.9	13.9	—
30代	47	4.3	14.9	27.7	27.7	23.4	2.1
40代	95	9.5	14.7	26.3	23.2	25.3	1.1
50代	118	2.5	21.2	35.6	25.4	14.4	0.8
60代	149	4.7	24.8	27.5	23.5	18.1	1.3
70歳以上	202	5.0	32.7	35.1	14.4	10.4	2.5

問5 「夫は外で働き、妻は家で家事・育児を行う」「男子生徒は理系、女子生徒は文系を選ぶべき」といった、男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことがありますか。(〇はいくつでも)

「なかった」の割合が70.3%と最も高く、次いで「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」の割合が11.8%となっています。

平成29年度と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「なかった」の割合が、女性で「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」の割合が高くなっています。また、男性で「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」の割合が、女性で「なかった」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	進学のとときにあった	就職のとときにあった	仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった	管理職等へ昇進したかったが、あきらめざるを得なかったことがあった	家事、育児にもっと参画したかったが、あきらめざるをえなかった	上記以外の際にあった	なかった	無回答
全体	659	5.2	3.8	11.8	1.1	5.2	3.2	70.3	4.9
女性	368	7.1	4.9	19.0	1.1	3.8	5.2	62.2	3.8
男性	285	2.8	2.5	2.8	1.1	7.0	0.7	81.8	4.6
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「なかった」の割合が、50代で「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」の割合が高くなっています。また、20代で「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」の割合が、70歳以上で「なかった」の割合が低くなっています。

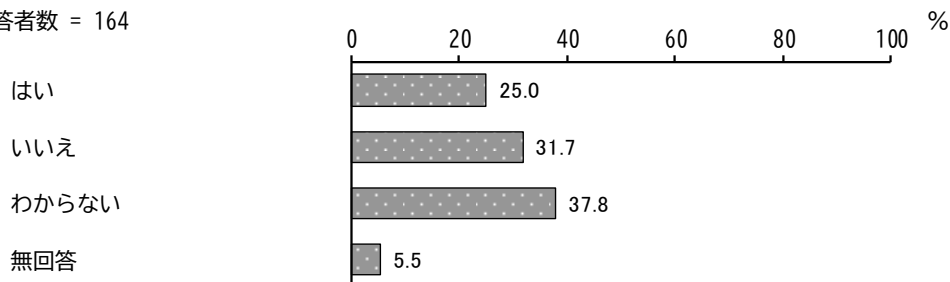
単位：%

区分	回答者数(件)	進学のとぎにあった	就職のとぎにあった	仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった	管理職等へ昇進したかったが、あきらめざるを得なかったことがあった	家事、育児にもっと参画したかったが、あきらめざるを得なかった	上記以外の際にあった	なかった	無回答
全体	659	5.2	3.8	11.8	1.1	5.2	3.2	70.3	4.9
10代	7	—	—	—	—	—	14.3	85.7	—
20代	36	—	—	2.8	—	—	2.8	94.4	—
30代	47	—	2.1	10.6	2.1	8.5	4.3	74.5	2.1
40代	95	8.4	3.2	10.5	2.1	4.2	7.4	68.4	2.1
50代	118	8.5	4.2	18.6	0.8	1.7	5.9	69.5	0.8
60代	149	5.4	4.7	9.4	—	6.7	0.7	73.2	4.7
70歳以上	202	4.0	4.5	12.9	1.5	6.9	1.0	65.3	7.9

問5- 1 現在同じような状況になった場合、性別を理由に自分の希望とは違う選択をせざるを得ないと思いますか。(○は1つ)

「わからない」の割合が37.8%と最も高く、次いで「いいえ」の割合が31.7%、「はい」の割合が25.0%となっています。

回答者数 = 164



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「わからない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「はい」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	はい	いいえ	わからない	無回答
全 体	164	25.0	31.7	37.8	5.5
女性	125	27.2	31.2	36.0	5.6
男性	39	17.9	33.3	43.6	5.1
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「はい」の割合が、60代で「いいえ」の割合が、50代で「はい」の割合が高くなっています。また、30代で「いいえ」「わからない」の割合が、50代で「いいえ」の割合が低くなっています。

単位：％

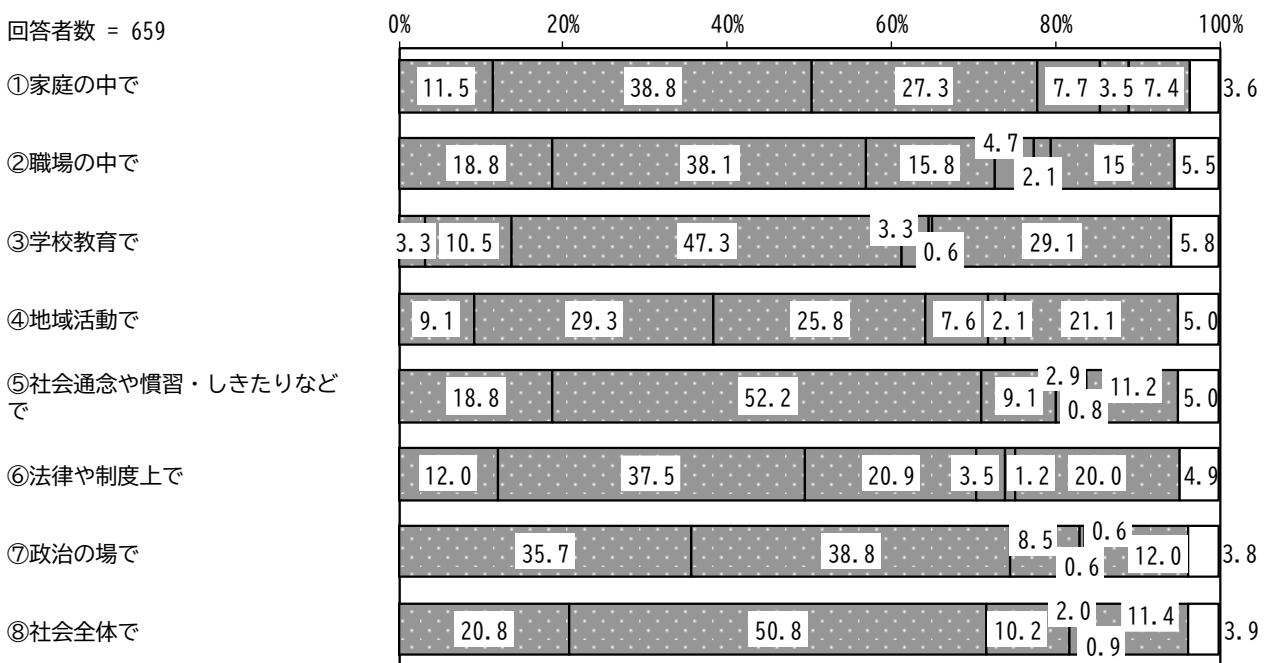
区分	回答者数 (件)	はい	いいえ	わからない	無回答
全 体	164	25.0	31.7	37.8	5.5
10代	1	—	100.0	—	—
20代	2	—	50.0	50.0	—
30代	11	63.6	9.1	27.3	—
40代	28	28.6	35.7	35.7	—
50代	35	31.4	20.0	40.0	8.6
60代	33	18.2	39.4	39.4	3.0
70歳以上	54	16.7	35.2	38.9	9.3

問6 次の分野での男女の平等感について、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

「社会通念や慣習・しきたりなどで」、「政治の場で」、「社会全体で」で「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた割合が高くなっています。

- 男性のほうが優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 男女平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性のほうが優遇されている
- わからない
- 無回答

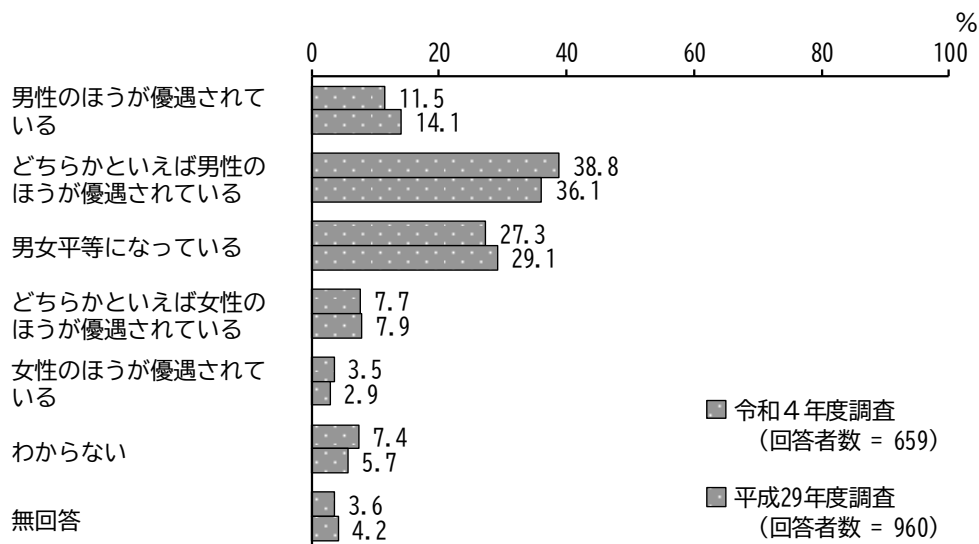
回答者数 = 659



①家庭の中で

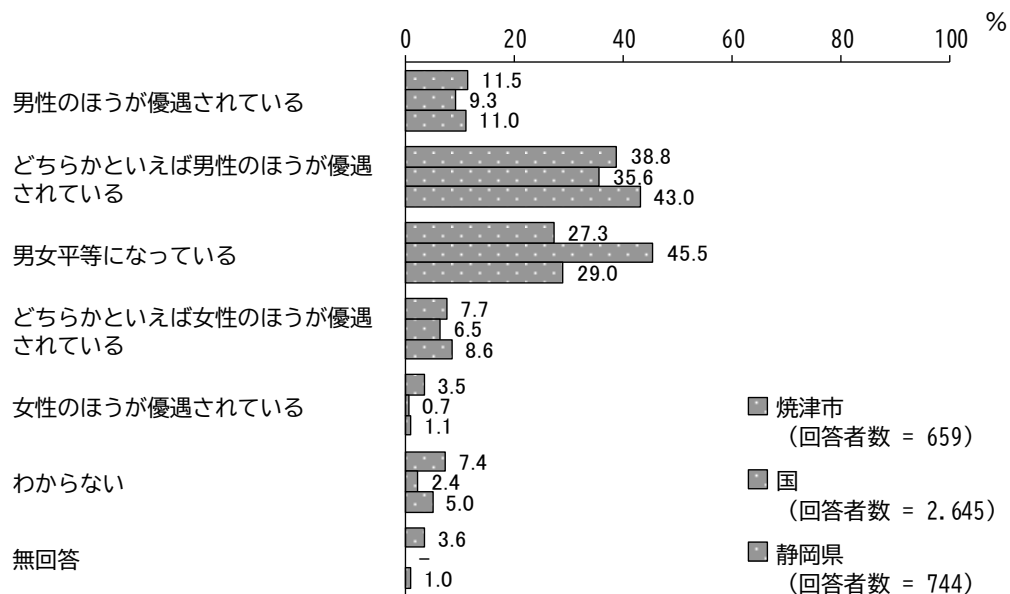
「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が38.8%と最も高く、次いで「男女平等になっている」の割合が27.3%、「男性のほうが優遇されている」の割合が11.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「男女平等になっている」の割合が、国より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が優遇 されている	どちらかとい えれば 男性のほう が優遇 されている	男女平等に なっ ている	どちらかとい えれば 女性のほう が優遇 されている	女性のほう が優遇 されている	わからない	無回答
全 体	659	11.5	38.8	27.3	7.7	3.5	7.4	3.6
女性	368	14.7	40.8	25.8	5.2	2.7	7.9	3.0
男性	285	7.7	36.8	29.8	11.2	4.6	7.0	2.8
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、50代で「男性のほうで優遇されている」の割合が高くなっています。また、20代で「男性のほうで優遇されている」の割合が、40代で「男女平等になっている」の割合が、30代で「男性のほうで優遇されている」の割合が低くなっています。

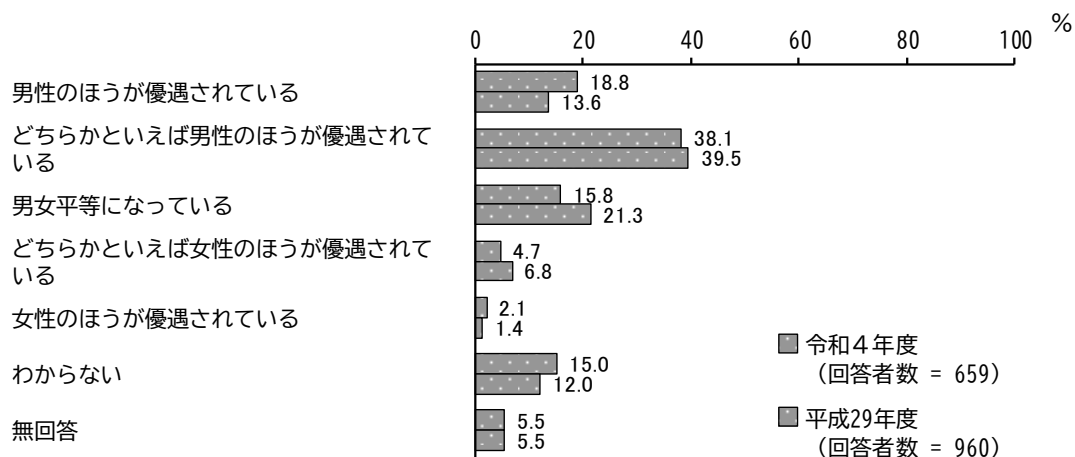
単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が優遇 されている	どちらかとい えれば 男性のほう が優遇 されている	男女平等に なっ ている	どちらかとい えれば 女性のほう が優遇 されている	女性のほう が優遇 されている	わからない	無回答
全 体	659	11.5	38.8	27.3	7.7	3.5	7.4	3.6
10代	7	-	14.3	42.9	-	14.3	28.6	-
20代	36	5.6	36.1	30.6	11.1	5.6	11.1	-
30代	47	6.4	36.2	25.5	17.0	2.1	8.5	4.3
40代	95	7.4	42.1	22.1	8.4	9.5	9.5	1.1
50代	118	16.9	36.4	26.3	7.6	3.4	8.5	0.8
60代	149	12.1	38.9	28.9	8.1	2.7	6.0	3.4
70歳以上	202	12.9	41.6	29.2	5.0	1.0	5.4	5.0

②職場の中で

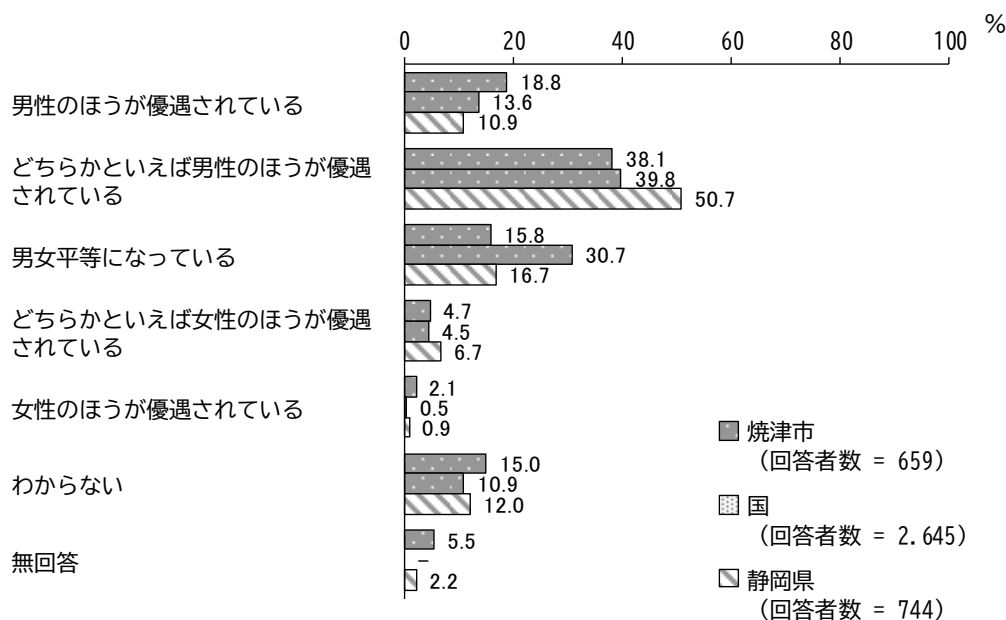
「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が38.1%と最も高く、次いで「男性のほうが優遇されている」の割合が18.8%、「男女平等になっている」の割合が15.8%となっています。

平成29年度と比較すると、「男性のほうが優遇されている」の割合が増加しています。一方、「男女平等になっている」の割合が減少しています。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「男女平等になっている」の割合が、国より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全体	659	18.8	38.1	15.8	4.7	2.1	15.0	5.5
女性	368	19.3	36.1	14.9	4.3	1.4	18.5	5.4
男性	285	18.6	41.1	17.2	5.3	3.2	10.9	3.9
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「男女平等になっている」の割合が、60代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が、30代で「男性のほうが優遇されている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、40代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」「わからない」の割合が低くなっています。

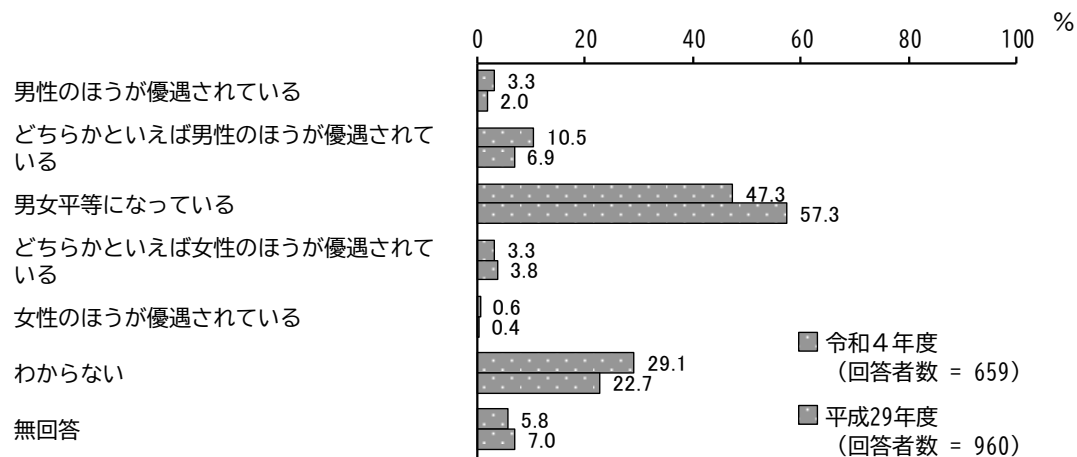
単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全体	659	18.8	38.1	15.8	4.7	2.1	15.0	5.5
10代	7	-	14.3	14.3	14.3	-	42.9	14.3
20代	36	16.7	33.3	27.8	5.6	-	16.7	-
30代	47	25.5	36.2	14.9	2.1	6.4	12.8	2.1
40代	95	18.9	30.5	22.1	11.6	5.3	9.5	2.1
50代	118	21.2	35.6	20.3	7.6	2.5	11.0	1.7
60代	149	20.8	45.0	12.1	3.4	1.3	12.8	4.7
70歳以上	202	15.8	41.1	11.4	1.0	0.5	21.3	8.9

③学校教育で

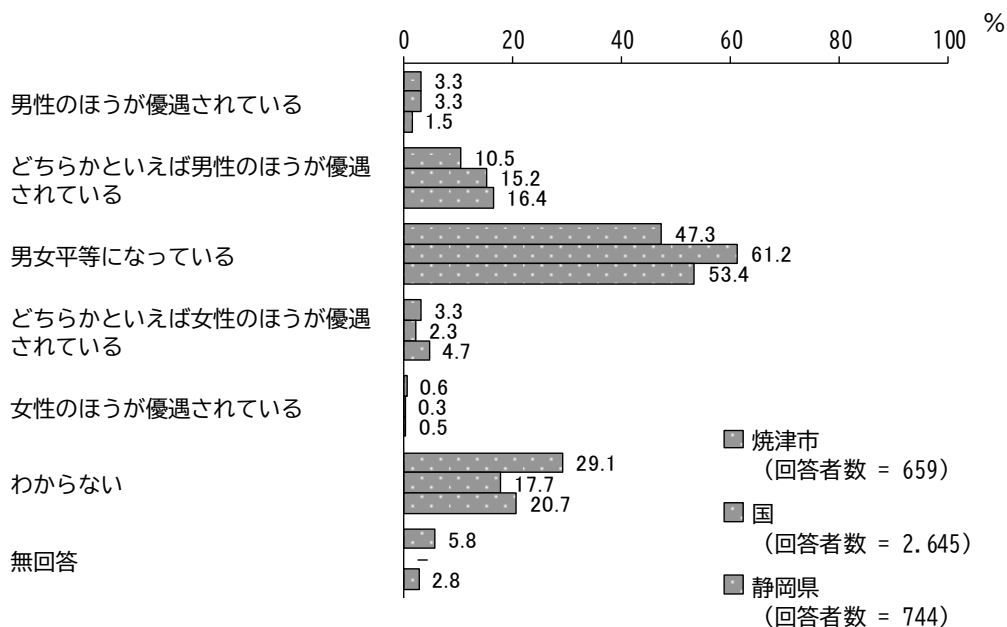
「男女平等になっている」の割合が47.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が29.1%、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が10.5%となっています。

平成29年度と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「男女平等になっている」の割合が減少しています。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「男女平等になっている」の割合が、国、静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全 体	659	3.3	10.5	47.3	3.3	0.6	29.1	5.8
女性	368	3.8	10.9	45.4	1.9	0.5	32.3	5.2
男性	285	2.8	10.2	50.5	5.3	0.7	25.6	4.9
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「男女平等になっている」の割合が、30代で「男女平等になっている」の割合が、50代で「わからない」の割合が高くなっています。また、20代で「わからない」の割合が、30代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が、70歳以上で「男女平等になっている」の割合が低くなっています。

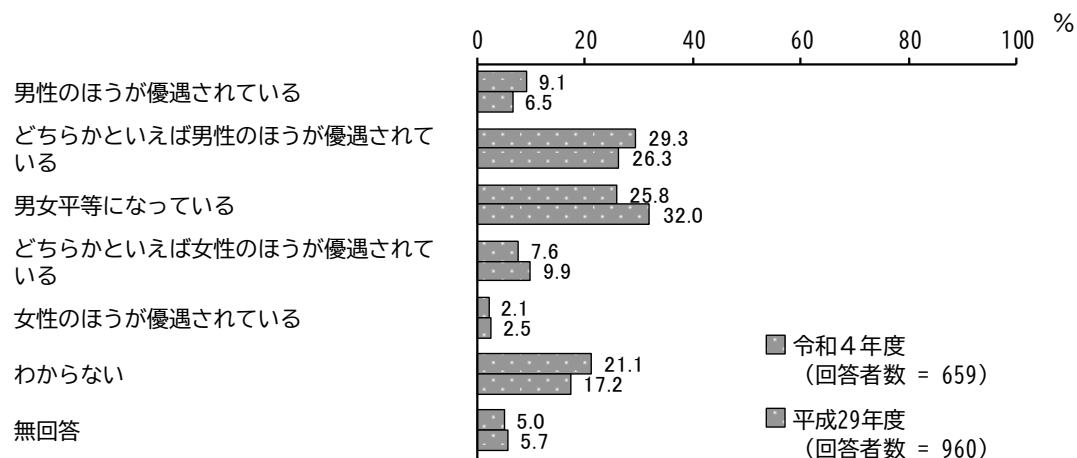
単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全 体	659	3.3	10.5	47.3	3.3	0.6	29.1	5.8
10代	7	-	-	28.6	42.9	-	28.6	-
20代	36	-	5.6	63.9	5.6	2.8	22.2	-
30代	47	2.1	4.3	59.6	-	-	31.9	2.1
40代	95	1.1	10.5	52.6	5.3	2.1	27.4	1.1
50代	118	3.4	8.5	44.9	4.2	0.8	34.7	3.4
60代	149	6.7	12.1	48.3	2.0	-	26.8	4.0
70歳以上	202	3.0	13.4	41.6	2.0	-	29.7	10.4

④地域活動で

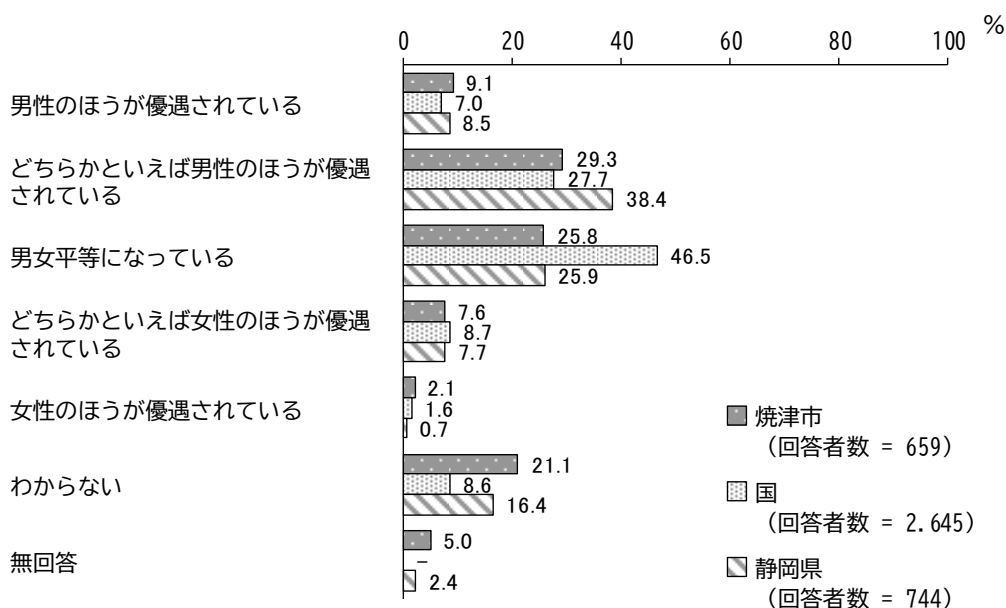
「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が29.3%と最も高く、次いで「男女平等になっている」の割合が25.8%、「わからない」の割合が21.1%となっています。

平成29年度と比較すると、「男女平等になっている」の割合が減少しています。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「男女平等になっている」の割合が、国より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が優遇 されている	どちらか といえ ば男性 のほう が優遇 されて いる	男女平 等にな って いる	女性 のほう が優遇 されて いる	どちら かとい えれば 女性 のほう が優遇 されて いる	わから ない	無回 答
全 体	659	9.1	29.3	25.8	7.6	2.1	21.1	5.0
女性	368	11.1	31.0	23.1	5.2	2.2	22.8	4.6
男性	285	6.7	27.7	29.5	10.9	2.1	19.3	3.9
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「わからない」の割合が、70歳以上で「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」の割合が、40代で「男女平等になっている」の割合が高くなっています。また、40代で「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」の割合が、30代で「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」の割合が、70歳以上で「男女平等になっている」の割合が低くなっています。

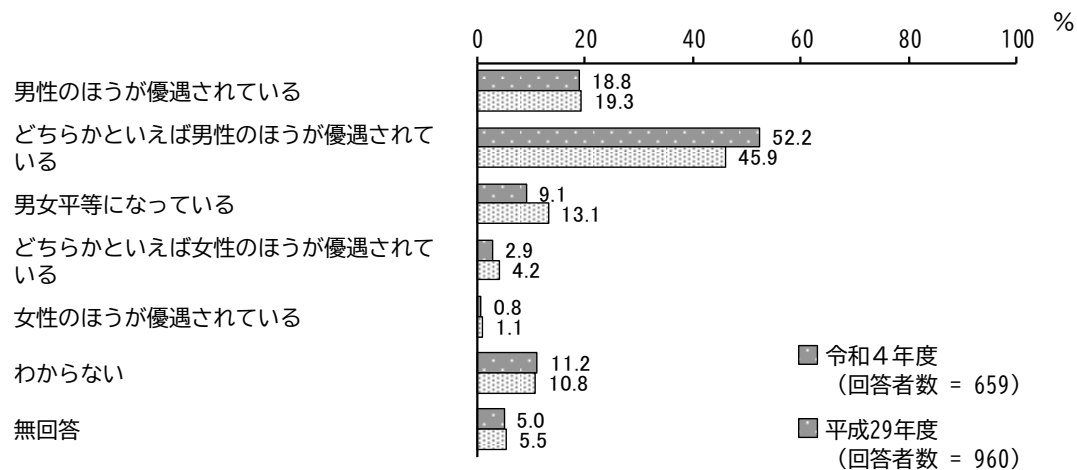
単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が優遇 されている	どちらか といえ ば男性 のほう が優遇 されて いる	男女平 等にな って いる	女性 のほう が優遇 されて いる	どちら かとい えれば 女性 のほう が優遇 されて いる	わから ない	無回 答
全 体	659	9.1	29.3	25.8	7.6	2.1	21.1	5.0
10代	7	-	28.6	14.3	-	-	57.1	-
20代	36	8.3	25.0	25.0	5.6	-	36.1	-
30代	47	4.3	23.4	31.9	10.6	2.1	25.5	2.1
40代	95	8.4	22.1	32.6	9.5	4.2	22.1	1.1
50代	118	9.3	27.1	26.3	9.3	2.5	22.9	2.5
60代	149	11.4	26.2	28.2	10.1	2.7	18.1	3.4
70歳以上	202	9.4	39.1	20.3	4.0	1.0	17.3	8.9

⑤社会通念や慣習・しきたりなどで

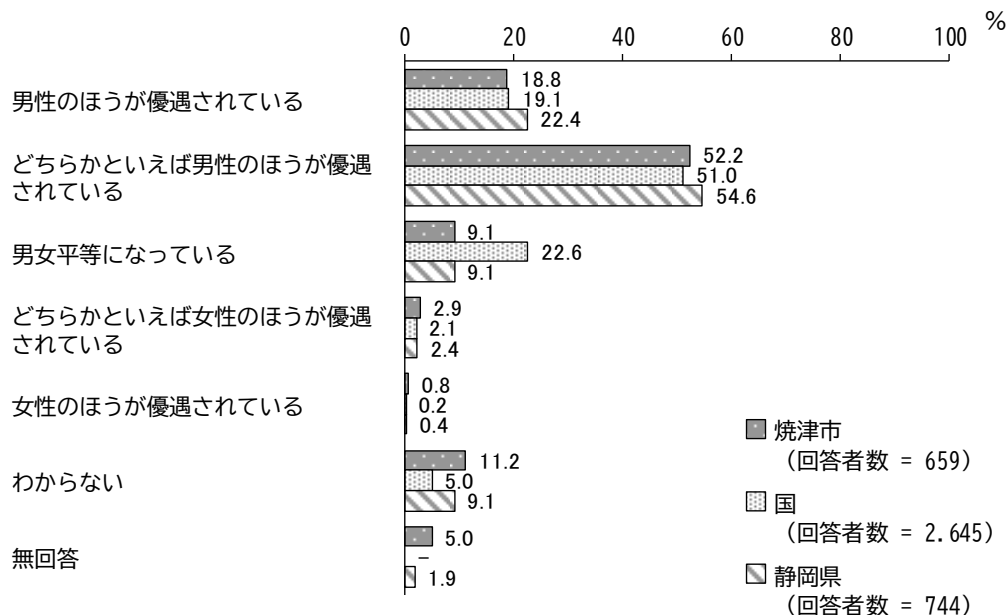
「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が52.2%と最も高く、次いで「男性のほうが優遇されている」の割合が18.8%、「わからない」の割合が11.2%となっています。

平成29年度と比較すると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が増加しています。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「男女平等になっている」の割合が、国より低くなっています。



【性別】

性別にみると、男性で「男性のほうが優遇されている」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全 体	659	18.8	52.2	9.1	2.9	0.8	11.2	5.0
女性	368	23.1	52.4	6.8	1.6	0.5	11.4	4.1
男性	285	13.7	52.6	12.3	4.6	1.1	11.2	4.6
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「わからない」の割合が、20代で「わからない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、40代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が低くなっています。

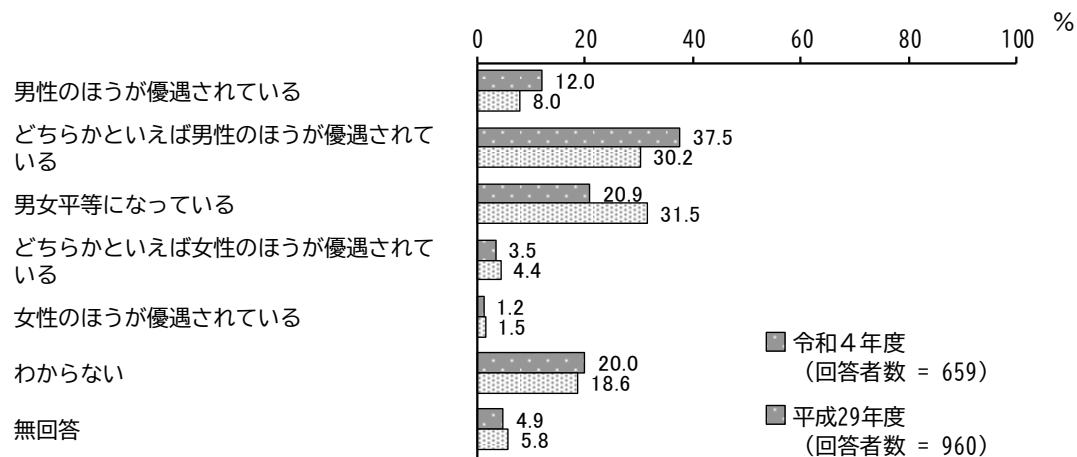
単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全 体	659	18.8	52.2	9.1	2.9	0.8	11.2	5.0
10代	7	14.3	28.6	28.6	14.3	-	14.3	-
20代	36	19.4	55.6	8.3	-	-	16.7	-
30代	47	21.3	51.1	4.3	2.1	-	19.1	2.1
40代	95	18.9	43.2	12.6	5.3	3.2	15.8	1.1
50代	118	22.0	56.8	6.8	3.4	0.8	7.6	2.5
60代	149	18.1	50.3	11.4	4.0	0.7	10.7	4.7
70歳以上	202	17.3	56.9	7.9	1.0	-	8.9	7.9

⑥法律や制度上で

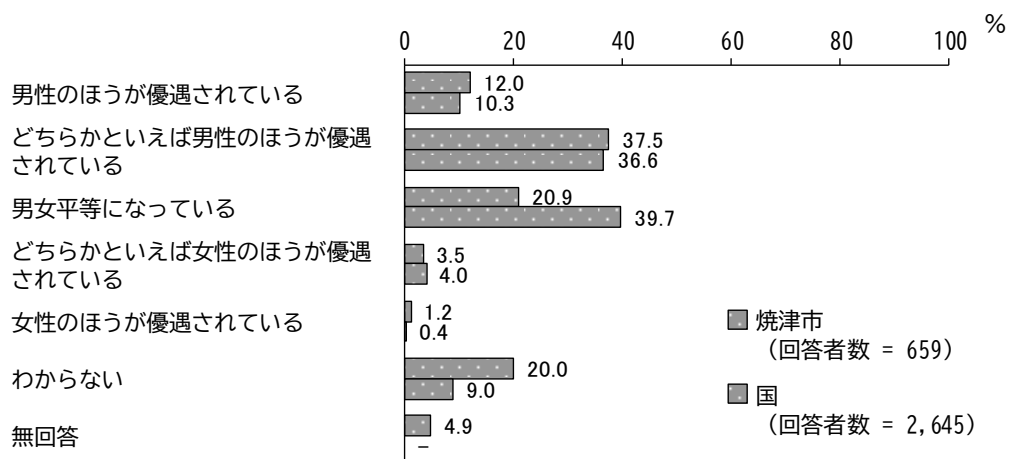
「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が37.5%と最も高く、次いで「男女平等になっている」の割合が20.9%、「わからない」の割合が20.0%となっています。

平成29年度と比較すると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が増加しています。一方、「男女平等になっている」の割合が減少しています。



【国との比較】

国と比較すると、「男女平等になっている」の割合が、国より低くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「男女平等になっている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性で「男女平等になっている」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全体	659	12.0	37.5	20.9	3.5	1.2	20.0	4.9
女性	368	15.5	40.5	14.9	2.4	0.3	21.7	4.6
男性	285	7.7	34.0	29.1	4.9	2.5	18.2	3.5
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「わからない」の割合が、50代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が、20代で「男女平等になっている」の割合が高くなっています。また、30代で「男女平等になっている」の割合が、40代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が低くなっています。

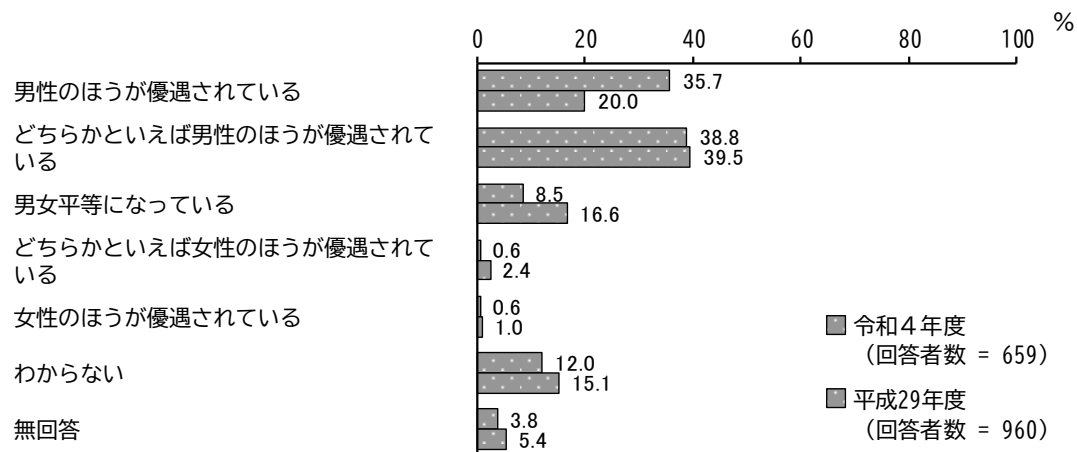
単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全体	659	12.0	37.5	20.9	3.5	1.2	20.0	4.9
10代	7	14.3	14.3	—	28.6	—	42.9	—
20代	36	16.7	33.3	27.8	—	2.8	19.4	—
30代	47	12.8	34.0	8.5	4.3	2.1	36.2	2.1
40代	95	10.5	27.4	23.2	7.4	4.2	25.3	2.1
50代	118	12.7	45.8	18.6	2.5	1.7	16.9	1.7
60代	149	11.4	42.3	22.8	4.0	—	15.4	4.0
70歳以上	202	11.9	37.1	22.8	1.5	—	18.8	7.9

⑦政治の場で

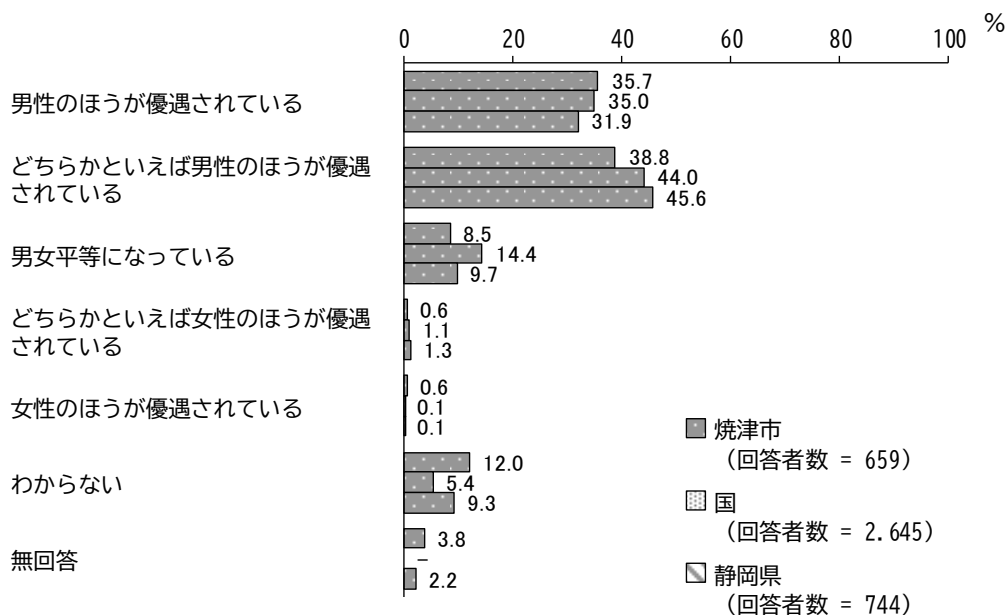
「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が38.8%と最も高く、次いで「男性のほうが優遇されている」の割合が35.7%、「わからない」の割合が12.0%となっています。

平成29年度と比較すると、「男性のほうが優遇されている」の割合が増加しています。一方、「男女平等になっている」の割合が減少しています。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「男女平等になっている」の割合が、国より低くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「男性のほうが優遇されている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「男性のほうが優遇されている」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全体	659	35.7	38.8	8.5	0.6	0.6	12.0	3.8
女性	368	43.2	37.5	4.9	—	—	10.9	3.5
男性	285	26.3	41.4	13.3	1.4	1.4	13.7	2.5
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「男性のほうが優遇されている」の割合が、30代で「わからない」の割合が、50代で「男性のほうが優遇されている」の割合が高くなっています。また、30代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が、20代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」「わからない」の割合が低くなっています。

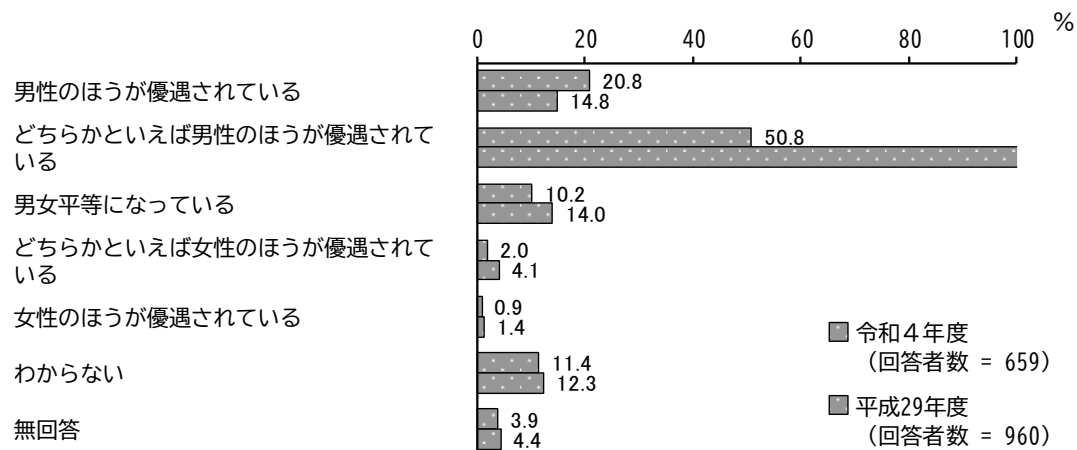
単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない	無回答
全体	659	35.7	38.8	8.5	0.6	0.6	12.0	3.8
10代	7	28.6	42.9	—	—	—	28.6	—
20代	36	50.0	27.8	16.7	—	—	5.6	—
30代	47	40.4	27.7	4.3	2.1	—	23.4	2.1
40代	95	37.9	37.9	7.4	1.1	3.2	11.6	1.1
50代	118	41.5	41.5	5.9	—	—	10.2	0.8
60代	149	30.9	44.3	12.1	0.7	0.7	8.7	2.7
70歳以上	202	32.2	39.1	7.9	0.5	—	13.9	6.4

⑧社会全体で

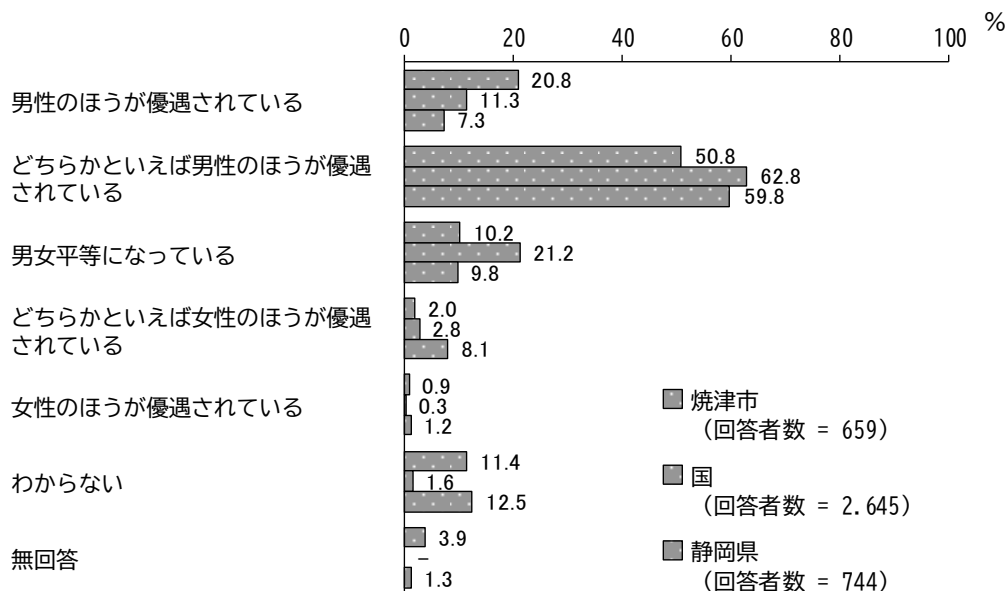
「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が50.8%と最も高く、次いで「男性のほうが優遇されている」の割合が20.8%、「わからない」の割合が11.4%となっています。

平成29年度と比較すると、「男性のほうが優遇されている」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が減少しています。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「男女平等になっている」の割合が、国より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が優遇 されている	どちらか といえ ば男性 のほう が優遇 されて いる	男女平 等にな って いる	女性 のほう が優遇 されて いる	どちら かとい えれば 女性 のほう が優遇 されて いる	わから ない	無回 答
全 体	659	20.8	50.8	10.2	2.0	0.9	11.4	3.9
女性	368	24.5	51.6	7.1	0.5	0.5	12.2	3.5
男性	285	16.1	50.9	14.4	3.9	1.4	10.5	2.8
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「わからない」の割合が、50代で「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が高くなっています。また、30代で「男性のほうが優遇されている」「男女平等になっている」の割合が、40代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が低くなっています。

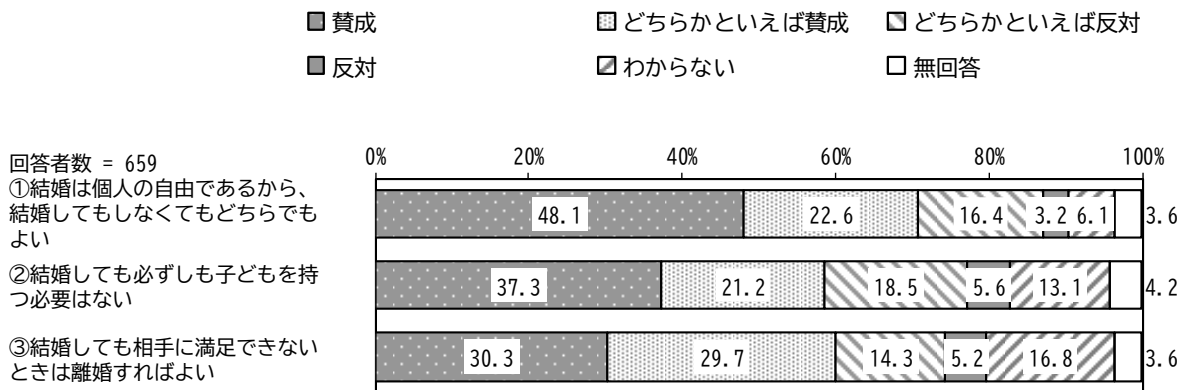
単位：％

区分	回答者数(件)	男性のほう が優遇 されている	どちらか といえ ば男性 のほう が優遇 されて いる	男女平 等にな って いる	女性 のほう が優遇 されて いる	どちら かとい えれば 女性 のほう が優遇 されて いる	わから ない	無回 答
全 体	659	20.8	50.8	10.2	2.0	0.9	11.4	3.9
10代	7	-	42.9	28.6	-	-	28.6	-
20代	36	25.0	52.8	13.9	2.8	-	5.6	-
30代	47	12.8	51.1	4.3	2.1	2.1	25.5	2.1
40代	95	20.0	43.2	13.7	4.2	2.1	15.8	1.1
50代	118	26.3	55.9	6.8	0.8	0.8	8.5	0.8
60代	149	20.1	53.7	13.4	2.0	0.7	6.7	3.4
70歳以上	202	20.8	50.5	8.4	1.5	0.5	11.9	6.4

3 就業について

問7 結婚・家庭等について、あなたはどうお考えですか。(〇はそれぞれ1つずつ)

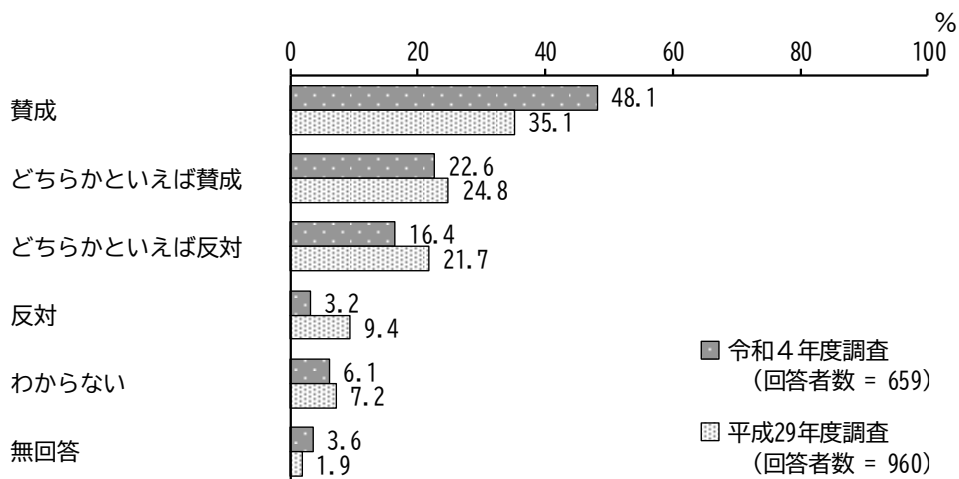
「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」で、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が高くなっています。



①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

「賛成」の割合が48.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が22.6%、「どちらかといえば反対」の割合が16.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「賛成」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば反対」「反対」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえ ば	反対 どちらか といえ ば	反対	わからない	無回答
全 体	659	48.1	22.6	16.4	3.2	6.1	3.6
女性	368	52.2	24.2	13.6	1.6	5.7	2.7
男性	285	43.5	21.1	20.4	5.3	6.7	3.2
その他	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「賛成」の割合が、30代で「賛成」の割合が、70歳以上で「どちらかといえば反対」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「賛成」の割合が、30代で「どちらかといえば賛成」の割合が、20代で「どちらかといえば反対」の割合が低くなっています。

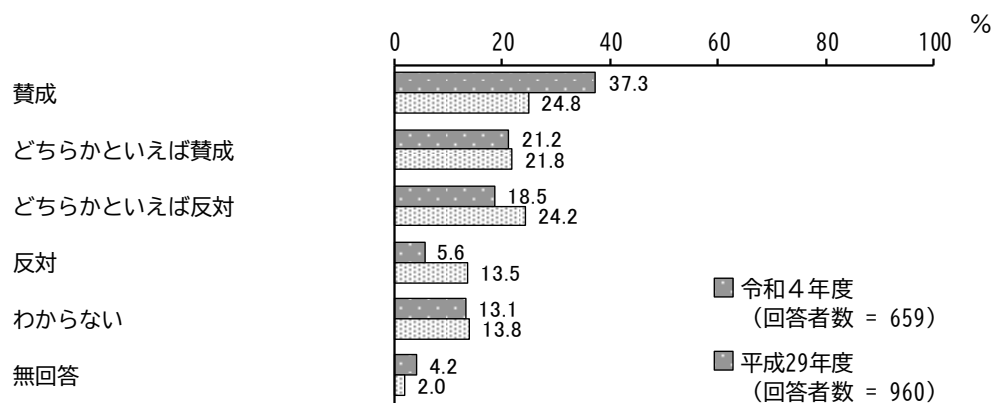
単位：％

区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえ ば	反対 どちらか といえ ば	反対	わからない	無回答
全 体	659	48.1	22.6	16.4	3.2	6.1	3.6
10代	7	57.1	42.9	—	—	—	—
20代	36	83.3	11.1	2.8	2.8	—	—
30代	47	83.0	6.4	—	4.3	2.1	4.3
40代	95	63.2	22.1	9.5	2.1	2.1	1.1
50代	118	50.0	29.7	9.3	0.8	9.3	0.8
60代	149	45.0	24.2	15.4	2.0	8.1	5.4
70歳以上	202	28.7	23.3	31.7	5.9	6.9	3.5

②結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

「賛成」の割合が37.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が21.2%、「どちらかといえば反対」の割合が18.5%となっています。

平成29年度と比較すると、「賛成」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば反対」「反対」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「どちらかといえば反対」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「賛成」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	わからない	無回答
全 体	659	37.3	21.2	18.5	5.6	13.1	4.2
女性	368	41.8	23.9	14.4	3.8	13.3	2.7
男性	285	31.9	18.2	24.2	8.1	13.0	4.6
その他	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「賛成」の割合が、30代で「賛成」の割合が、40代で「賛成」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「賛成」の割合が、30代で「どちらかといえば反対」の割合が、20代で「どちらかといえば反対」の割合が低くなっています。

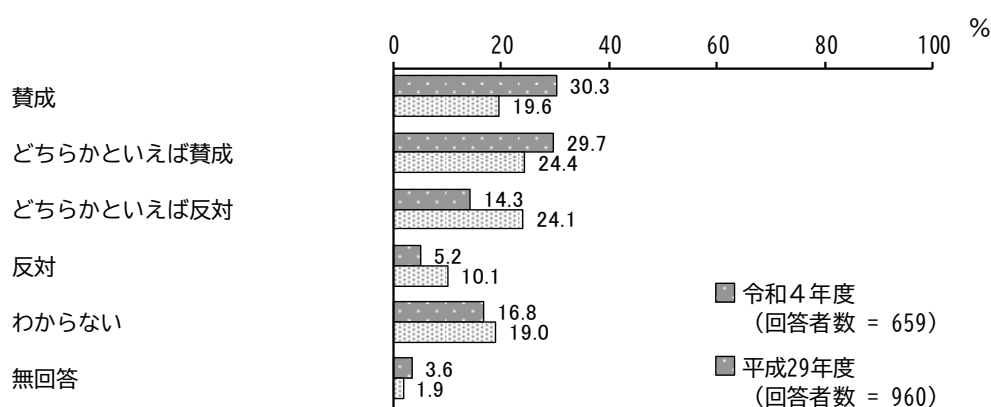
単位：％

区分	回答者数(件)	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	わからない	無回答
全 体	659	37.3	21.2	18.5	5.6	13.1	4.2
10代	7	57.1	42.9	—	—	—	—
20代	36	83.3	8.3	2.8	2.8	2.8	—
30代	47	63.8	17.0	2.1	4.3	8.5	4.3
40代	95	52.6	20.0	9.5	6.3	10.5	1.1
50代	118	42.4	25.4	12.7	0.8	16.9	1.7
60代	149	32.9	21.5	24.2	4.7	11.4	5.4
70歳以上	202	16.3	22.3	29.7	9.9	16.8	5.0

③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

「賛成」の割合が30.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が29.7%、「わからない」の割合が16.8%となっています。

平成29年度と比較すると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば反対」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	わからない	無回答
全 体	659	30.3	29.7	14.3	5.2	16.8	3.6
女性	368	31.5	30.7	14.1	3.8	17.1	2.7
男性	285	29.1	29.1	14.7	7.0	16.8	3.2
その他	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「賛成」の割合が、40代で「賛成」の割合が、30代で「賛成」の割合が高くなっています。また、30代で「どちらかといえば反対」の割合が、70歳以上で「賛成」の割合が、20代で「わからない」の割合が低くなっています。

単位：％

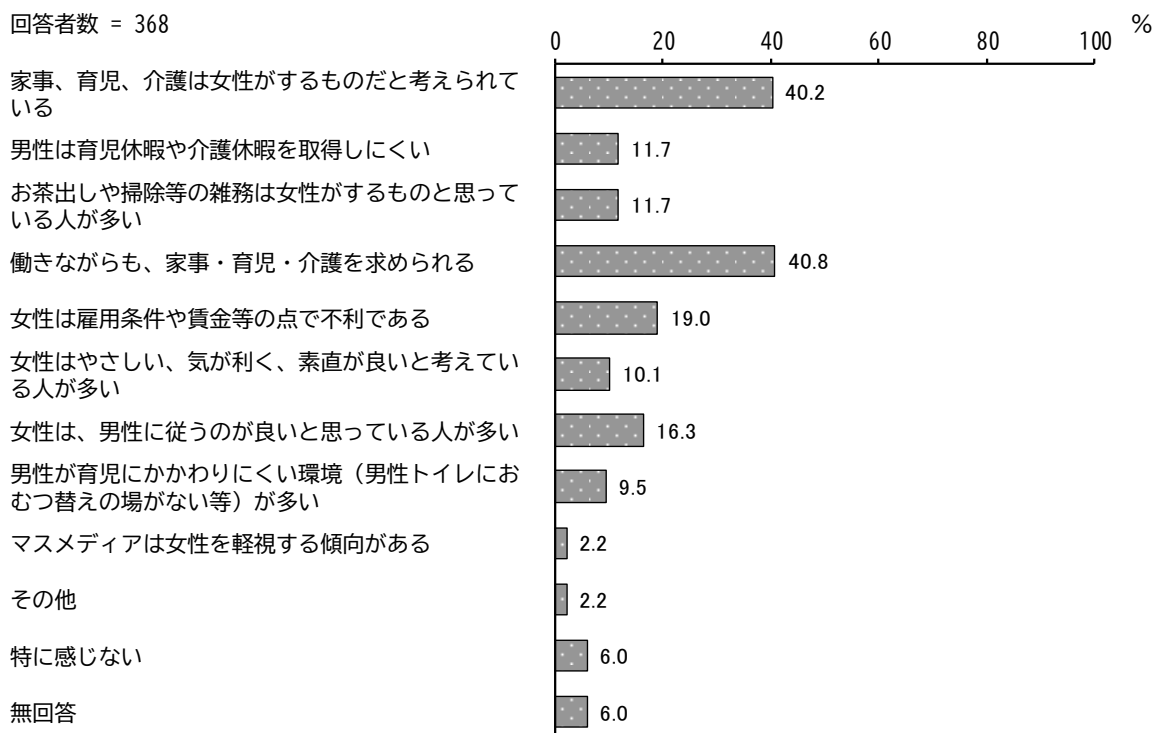
区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	わからない	無回答
全 体	659	30.3	29.7	14.3	5.2	16.8	3.6
10代	7	42.9	28.6	—	—	28.6	—
20代	36	44.4	30.6	11.1	2.8	11.1	—
30代	47	38.3	31.9	2.1	—	23.4	4.3
40代	95	43.2	29.5	9.5	3.2	13.7	1.1
50代	118	33.1	32.2	13.6	5.9	14.4	0.8
60代	149	29.5	29.5	14.8	5.4	16.1	4.7
70歳以上	202	19.3	28.7	20.8	7.4	19.8	4.0

(女性の方に伺います。)

問8 あなたは、どのようなことで負担感や生きづらさを感じますか。(2つまでに○)

「働きながらも、家事・育児・介護を求められる」の割合が40.8%と最も高く、次いで「家事、育児、介護は女性がするものだと考えられている」の割合が40.2%、「女性は雇用条件や賃金等の点で不利である」の割合が19.0%となっています。

回答者数 = 368



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	家事、育児、介護は女性がするものだと考えられている	男性は育児休暇や介護休暇を取得しにくい	お茶出しや掃除等の雑務は女性がするものと思っている人が多い	働きながらも、家事・育児・介護を求められる	女性は雇用条件や賃金等の点で不利である	女性はやさしい、気が利く、素直が良いと考えている人が多い	女性は、男性に従うのが良いと思っている人が多い	男性が育児にかかわりにくい環境（男性トイレにおむつ替えの場がない等）が多い	マスメディアは女性を軽視する傾向がある	その他	特に感じない	無回答
全体	368	40.2	11.7	11.7	40.8	19.0	10.1	16.3	9.5	2.2	2.2	6.0	6.0
女性	368	40.2	11.7	11.7	40.8	19.0	10.1	16.3	9.5	2.2	2.2	6.0	6.0
男性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、50代で「家事、育児、介護は女性がするものだと考えられている」の割合が、30代で「男性は育児休暇や介護休暇を取得しにくい」の割合が、40代で「働きながらも、家事・育児・介護を求められる」の割合が、20代で「働きながらも、家事・育児・介護を求められる」の割合が高くなっています。また、20代で「家事、育児、介護は女性がするものだと考えられている」の割合が、30代で「働きながらも、家事・育児・介護を求められる」「女性は、男性に従うのが良いと思っている人が多い」の割合が低くなっています。

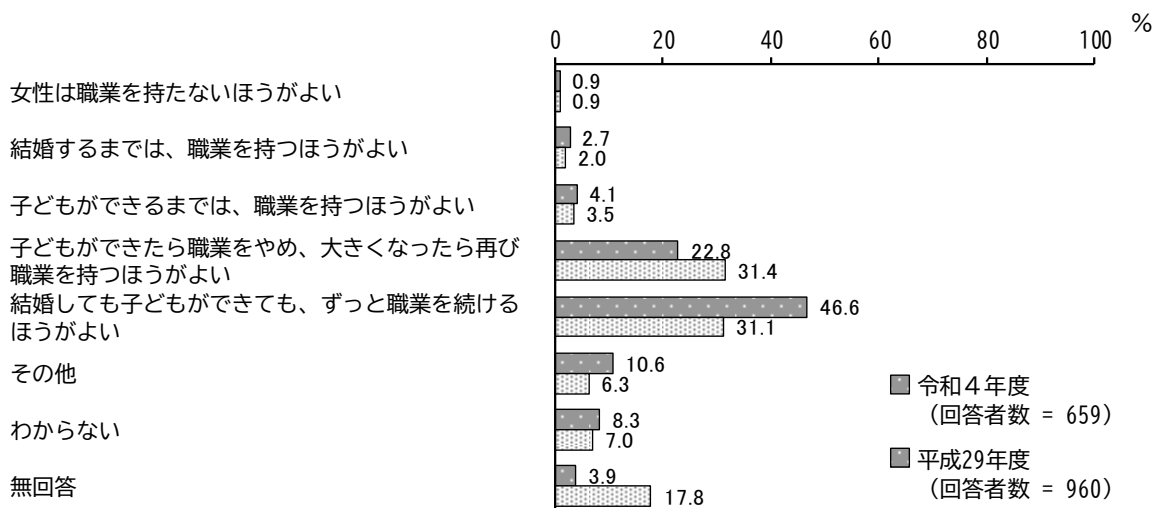
単位：％

区分	回答者数(件)	家事、育児、介護は女性がするものだと考えられている	男性は育児休暇や介護休暇を取得しにくい	お茶出しや掃除等の雑務は女性がするものと思っっている人が多い	働きながらも、家事・育児・介護を求められる	女性は雇用条件や賃金等の点で不利である	女性はやさしい、気が利く、素直が良いと考えている人が多い	女性は、男性に従うのが良いと思っっている人が多い	男性が育児にかかわりにくい環境(男性トイレにおむつ替えの場がない等)が多い	マスメディアは女性を軽視する傾向がある	その他	特に感じない	無回答
全体	368	40.2	11.7	11.7	40.8	19.0	10.1	16.3	9.5	2.2	2.2	6.0	6.0
10代	5	60.0	—	40.0	40.0	—	40.0	20.0	—	—	—	—	—
20代	20	25.0	20.0	10.0	55.0	15.0	5.0	15.0	20.0	5.0	10.0	5.0	—
30代	30	30.0	26.7	20.0	26.7	16.7	10.0	3.3	26.7	3.3	10.0	—	6.7
40代	52	42.3	9.6	7.7	55.8	15.4	9.6	5.8	9.6	—	—	3.8	11.5
50代	75	56.0	9.3	9.3	37.3	21.3	6.7	21.3	9.3	5.3	2.7	4.0	2.7
60代	71	38.0	12.7	16.9	38.0	21.1	14.1	15.5	8.5	—	—	5.6	4.2
70歳以上	115	34.8	8.7	8.7	39.1	20.0	9.6	21.7	4.3	1.7	0.9	10.4	7.8

問9 一般的に、女性が働くことに対してどう考えますか。(○は1つ)

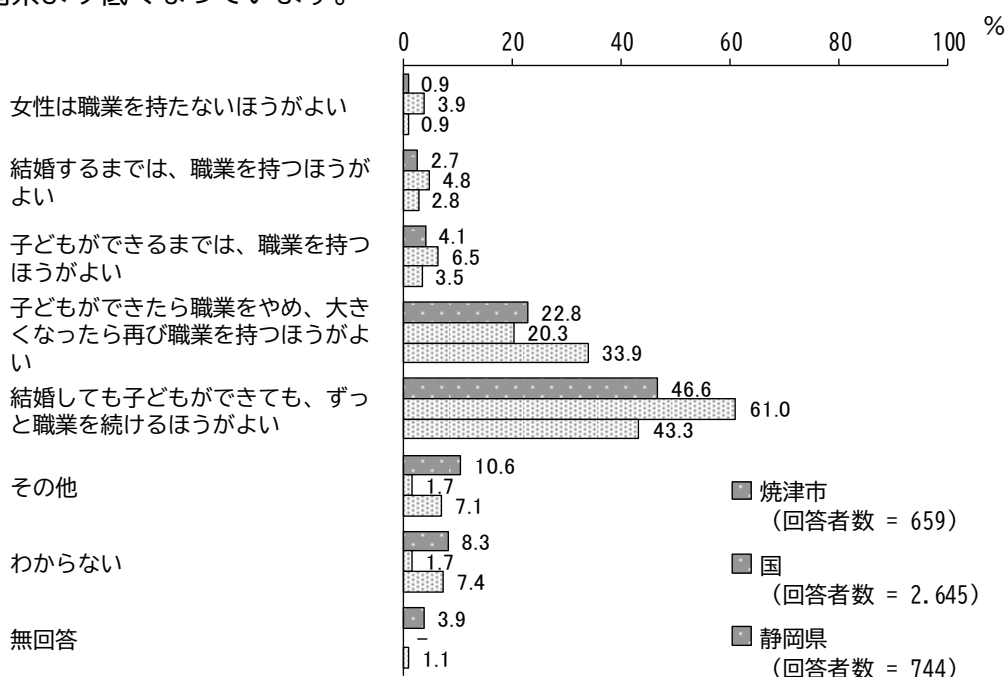
「結婚しても子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が46.6%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が22.8%となっています。

平成29年度と比較すると、「結婚しても子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が増加しています。一方、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が減少しています。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「結婚しても子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が国より低く、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性は職業を持たないほうがよい	結婚するまでは、職業を持つほうがよい	子どもができるまでは、職業を持つほうがよい	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい	結婚しても子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	その他	わからない	無回答
全体	659	0.9	2.7	4.1	22.8	46.6	10.6	8.3	3.9
女性	368	1.1	3.3	3.8	24.7	45.4	11.4	8.4	1.9
男性	285	0.7	2.1	4.6	20.7	49.1	9.8	8.1	4.9
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、60代で「結婚しても子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が、50代で「結婚しても子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が、70歳以上で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が高くなっています。また、30代で「結婚しても子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が、20代で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が低くなっています。

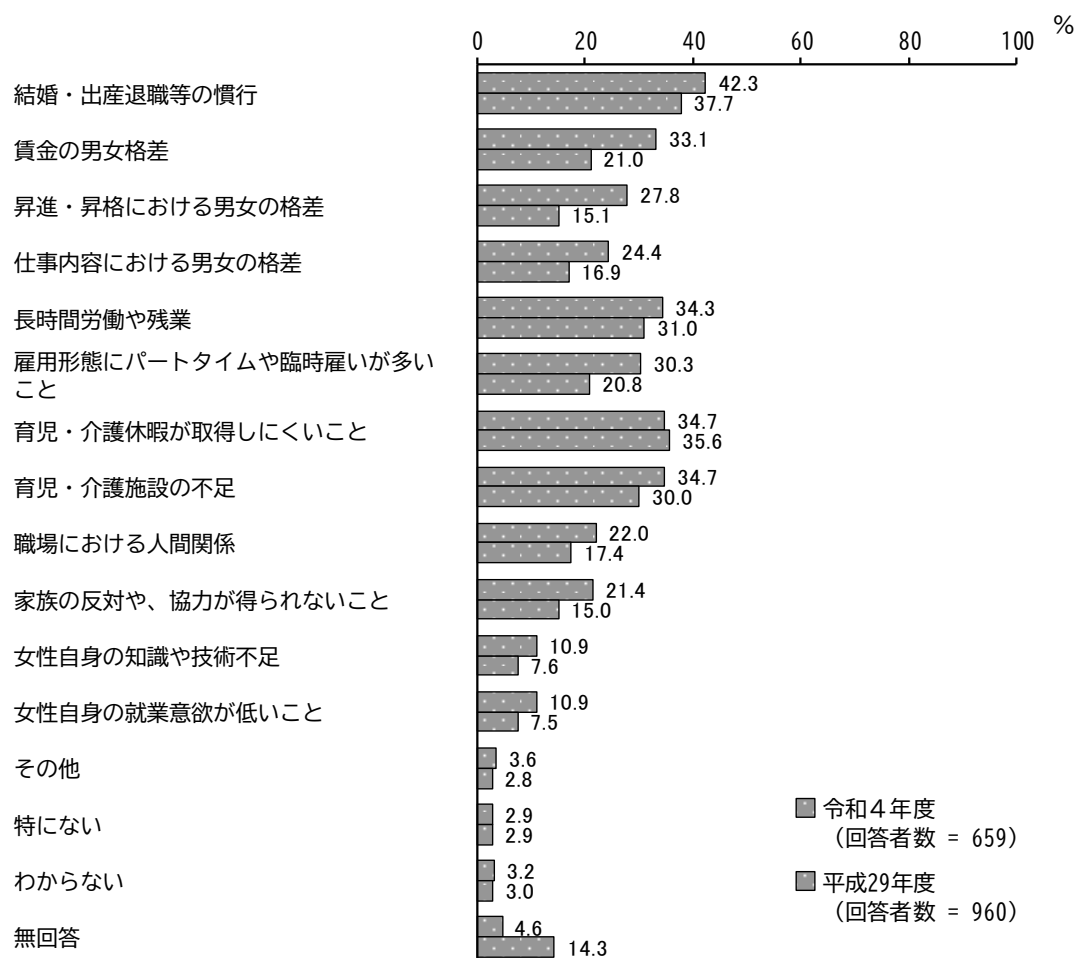
単位：%

区分	回答者数(件)	女性は職業を持たないほうがよい	結婚するまでは、職業を持つほうがよい	子どもができるまでは、職業を持つほうがよい	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい	結婚しても子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	その他	わからない	無回答
全体	659	0.9	2.7	4.1	22.8	46.6	10.6	8.3	3.9
10代	7	—	—	—	42.9	14.3	28.6	14.3	—
20代	36	—	5.6	5.6	16.7	41.7	22.2	8.3	—
30代	47	—	2.1	6.4	12.8	34.0	23.4	19.1	2.1
40代	95	—	2.1	2.1	21.1	52.6	13.7	7.4	1.1
50代	118	—	1.7	1.7	19.5	53.4	14.4	8.5	0.8
60代	149	1.3	1.3	5.4	22.1	53.7	6.7	4.0	5.4
70歳以上	202	2.0	4.5	5.0	29.2	40.6	4.5	9.4	5.0

問10 女性が働く上での障害は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

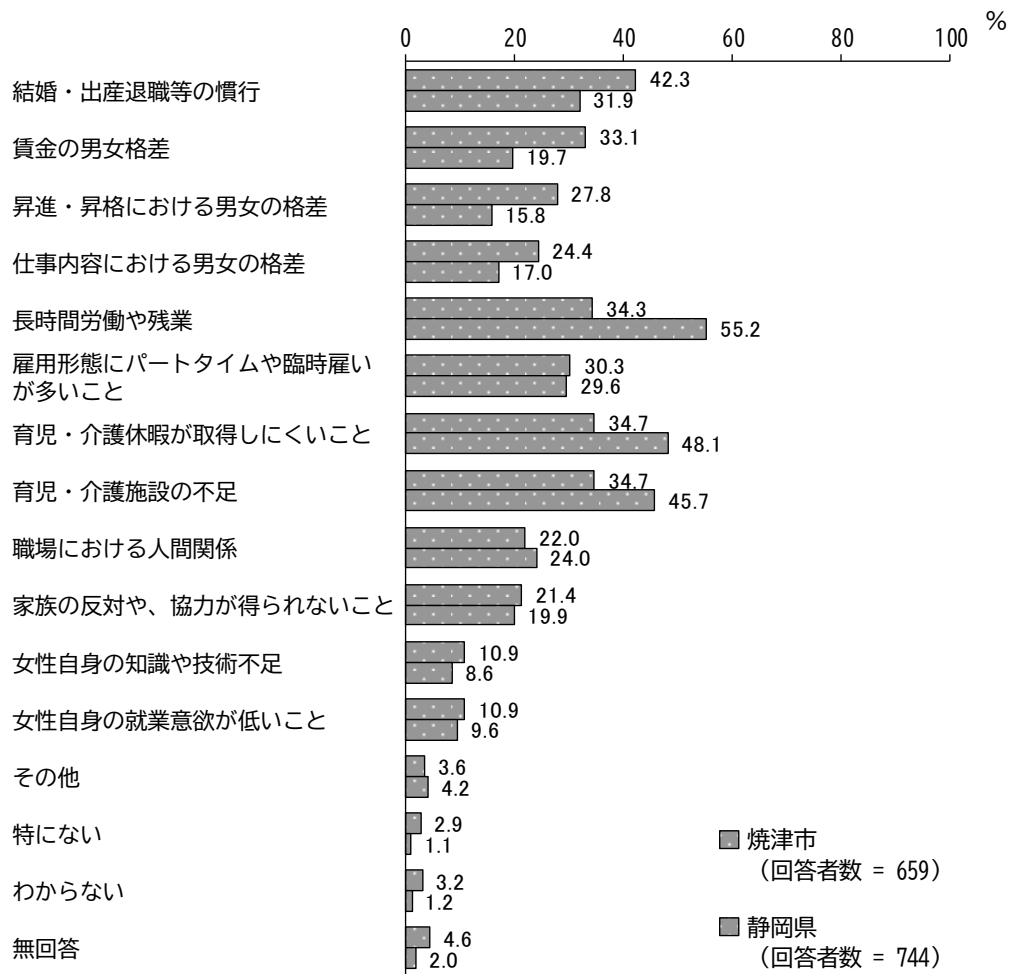
「結婚・出産退職等の慣行」の割合が42.3%と最も高く、次いで「育児・介護休暇が取得しにくいこと」、「育児・介護施設の不足」の割合が34.7%となっています。

平成29年度と比較すると、「賃金の男女格差」「昇進・昇格における男女の格差」「仕事内容における男女の格差」「雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと」「家族の反対や、協力が得られないこと」の割合が増加しています。



【県との比較】

静岡県と比較すると、「結婚・出産退職等の慣行」「賃金の男女格差」「昇進・昇格における男女の格差」の割合が静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「育児・介護施設の不足」「仕事内容における男女の格差」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	結婚・出産退職等の慣行	賃金の男女格差	昇進・昇格における男女の格差	仕事内容における男女の格差	長時間労働や残業	雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと	育児・介護休暇が取得しにくいこと	育児・介護施設の不足	職場における人間関係	家族の反対や、協力が得られないこと	女性自身の知識や技術不足	女性自身の就業意欲が低いこと	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	42.3	33.1	27.8	24.4	34.3	30.3	34.7	34.7	22.0	21.4	10.9	10.9	3.6	2.9	3.2	4.6
女性	368	39.4	35.1	26.4	20.4	38.6	31.8	32.6	30.7	23.6	22.8	11.4	7.9	3.5	3.3	2.7	1.6
男性	285	47.0	30.9	29.8	29.8	29.5	28.8	38.2	40.7	20.0	19.6	10.5	15.1	3.9	2.5	3.9	6.7
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「結婚・出産退職等の慣行」「昇進・昇格における男女の格差」の割合が、30代で「職場における人間関係」の割合が高くなっています。また、20代で「雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと」「女性自身の就業意欲が低いこと」の割合が、40代で「育児・介護施設の不足」の割合が低くなっています。

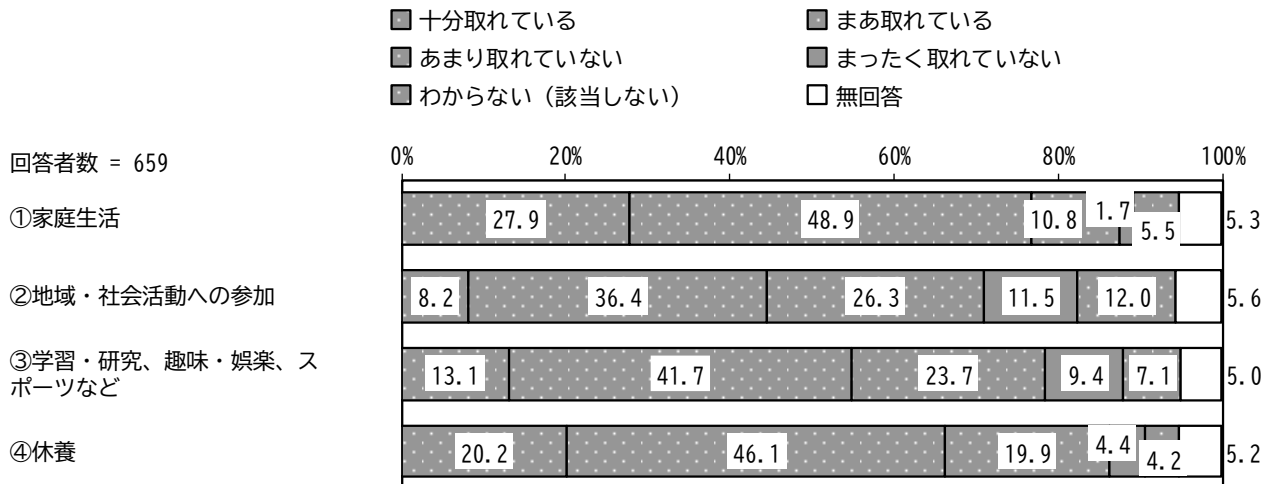
単位：%

区分	回答者数(件)	結婚・出産退職等の慣行	賃金の男女格差	昇進・昇格における男女の格差	仕事内容における男女の格差	長時間労働や残業	雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと	育児・介護休暇が取得しにくいこと	育児・介護施設の不足	職場における人間関係	家族の反対や、協力が得られないこと	女性自身の知識や技術不足	女性自身の就業意欲が低いこと	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	42.3	33.1	27.8	24.4	34.3	30.3	34.7	34.7	22.0	21.4	10.9	10.9	3.6	2.9	3.2	4.6
10代	7	42.9	28.6	42.9	14.3	28.6	14.3	42.9	28.6	—	14.3	28.6	—	—	—	14.3	—
20代	36	58.3	33.3	41.7	22.2	27.8	16.7	36.1	41.7	33.3	19.4	8.3	2.8	5.6	2.8	—	—
30代	47	51.1	36.2	34.0	21.3	31.9	23.4	42.6	40.4	34.0	19.1	—	4.3	12.8	2.1	2.1	2.1
40代	95	42.1	33.7	26.3	21.1	34.7	28.4	27.4	24.2	17.9	26.3	12.6	20.0	7.4	1.1	2.1	2.1
50代	118	46.6	33.9	31.4	25.4	35.6	26.3	34.7	38.1	20.3	23.7	11.9	11.9	5.9	3.4	2.5	0.8
60代	149	43.6	34.2	30.9	28.2	35.6	34.2	36.9	40.3	23.5	22.1	12.1	8.7	1.3	2.7	2.0	4.0
70歳以上	202	35.1	31.7	20.3	24.8	35.1	36.1	35.1	32.2	20.3	18.8	11.4	11.4	—	4.0	5.4	7.4

4 ワーク・ライフ・バランスについて

問 11 あなたは、次の①～④の項目のための時間が取れていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

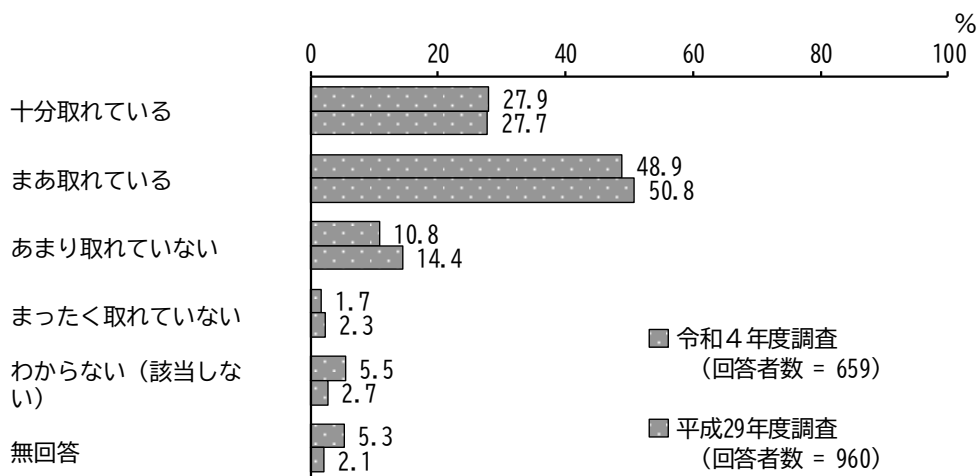
「家庭の中で」で「十分取れている」と「まあ取れている」を合わせた『取れている』の割合が高くなっています。また、「職場の中で」で「あまり取れていない」と「まったく取れていない」を合わせた「取れていない」の割合が高くなっています。



①家庭生活

「まあ取れている」の割合が48.9%と最も高く、次いで「十分取れている」の割合が27.9%、「あまり取れていない」の割合が10.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	十分 取れて いる	まあ 取れて いる	あま り取 れて いな い	ま た た く 取 れ て い な い	わ か ら な い (該 当 し な い)	無 回 答
全 体	659	27.9	48.9	10.8	1.7	5.5	5.3
女性	368	27.7	52.4	10.9	0.5	4.1	4.3
男性	285	28.8	45.3	10.5	3.2	7.4	4.9
その他	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「あまり取れていない」の割合が、20代で「まあ取れている」の割合が、40代で「あまり取れていない」の割合が高くなっています。また、40代で「十分取れている」の割合が、70歳以上で「あまり取れていない」の割合が、30代で「十分取れている」の割合が低くなっています。

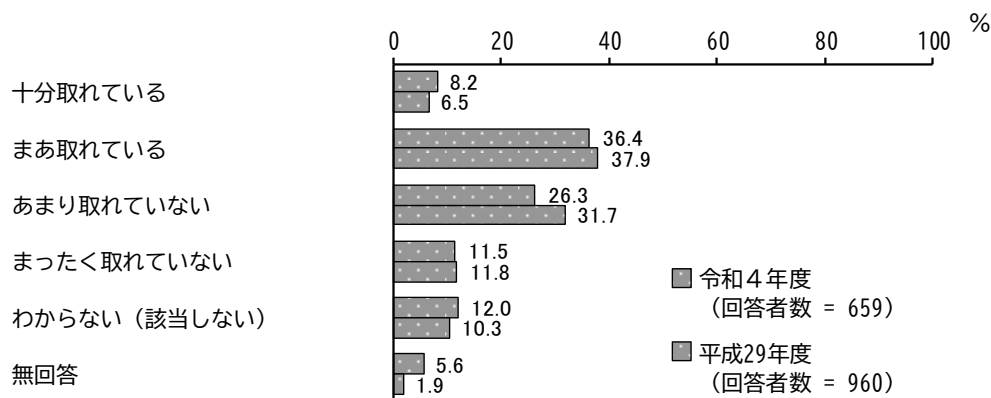
単位：％

区分	回答者数 (件)	十分 取れて いる	まあ 取れて いる	あま り取 れて いな い	ま た た く 取 れ て い な い	わ か ら な い (該 当 し な い)	無 回 答
全 体	659	27.9	48.9	10.8	1.7	5.5	5.3
10代	7	28.6	71.4	—	—	—	—
20代	36	27.8	58.3	5.6	—	8.3	—
30代	47	21.3	46.8	21.3	—	4.3	6.4
40代	95	17.9	53.7	20.0	7.4	—	1.1
50代	118	23.7	53.4	16.9	1.7	3.4	0.8
60代	149	31.5	46.3	8.7	1.3	6.7	5.4
70歳以上	202	34.7	45.0	3.5	—	8.4	8.4

②地域・社会活動への参加

「まあ取れている」の割合が36.4%と最も高く、次いで「あまり取れていない」の割合が26.3%、「わからない（該当しない）」の割合が12.0%となっています。

平成29年度と比較すると、「あまり取れていない」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	十分取れている	まあ取れている	あまり取れていない	まったく取れていない	わからない (該当しない)	無回答
全体	659	8.2	36.4	26.3	11.5	12.0	5.6
女性	368	5.7	35.1	28.3	13.0	13.6	4.3
男性	285	11.6	38.9	24.2	9.5	10.2	5.6
その他	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「まったく取れていない」の割合が、20代で「わからない（該当しない）」の割合が、40代で「あまり取れていない」の割合が高くなっています。また、30代で「まあ取れている」の割合が、20代で「まあ取れている」「あまり取れていない」の割合が低くなっています。

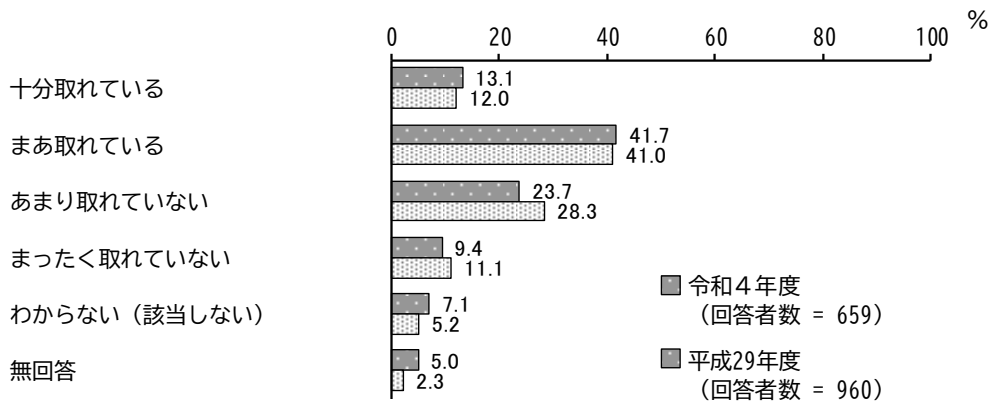
単位：％

区分	回答者数 (件)	十分取れている	まあ取れている	あまり取れていない	まったく取れていない	わからない(該当しない)	無回答
全 体	659	8.2	36.4	26.3	11.5	12.0	5.6
10代	7	14.3	42.9	28.6	14.3	—	—
20代	36	11.1	27.8	19.4	13.9	27.8	—
30代	47	4.3	12.8	23.4	31.9	21.3	6.4
40代	95	5.3	31.6	35.8	17.9	8.4	1.1
50代	118	5.9	39.8	33.1	11.0	9.3	0.8
60代	149	12.1	37.6	26.2	8.1	10.1	6.0
70歳以上	202	8.4	43.6	20.3	6.4	12.4	8.9

③学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなど

「まあ取れている」の割合が41.7%と最も高く、次いで「あまり取れていない」の割合が23.7%、「十分取れている」の割合が13.1%となっています。

平成29年度と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	十分 取れて いる	まあ 取れて いる	あま り取 れて いな い	ま た た く 取 れ て い な い	わ か ら な い (該 当 し な い)	無 回 答
全 体	659	13.1	41.7	23.7	9.4	7.1	5.0
女性	368	10.9	41.0	26.6	10.6	7.1	3.8
男性	285	16.1	43.5	20.4	7.7	7.4	4.9
その他	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「十分取れている」の割合が、50代で「あまり取れていない」の割合が、40代で「あまり取れていない」の割合が高くなっています。また、20代で「あまり取れていない」の割合が、30代で「あまり取れていない」の割合が、70歳以上で「あまり取れていない」の割合が低くなっています。

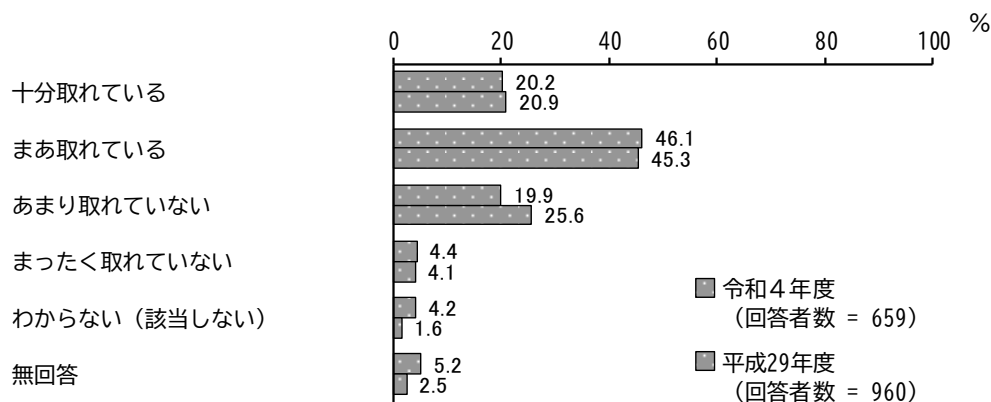
単位：％

区分	回答者数 (件)	十分 取れて いる	まあ 取れて いる	あま り取 れて いな い	ま た た く 取 れ て い な い	わ か ら な い (該 当 し な い)	無 回 答
全 体	659	13.1	41.7	23.7	9.4	7.1	5.0
10代	7	57.1	42.9	—	—	—	—
20代	36	30.6	41.7	13.9	5.6	8.3	—
30代	47	12.8	38.3	14.9	17.0	10.6	6.4
40代	95	8.4	38.9	35.8	13.7	2.1	1.1
50代	118	6.8	39.8	36.4	11.9	4.2	0.8
60代	149	18.8	42.3	24.2	5.4	4.0	5.4
70歳以上	202	10.4	45.5	15.3	8.4	12.9	7.4

④休養

「まあ取れている」の割合が46.1%と最も高く、次いで「十分取れている」の割合が20.2%、「あまり取れていない」の割合が19.9%となっています。

平成29年度と比較すると、「あまり取れていない」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	十分取れている	まあ取れている	あまり取れていない	まったく取れていない	わからない(該当しない)	無回答
全体	659	20.2	46.1	19.9	4.4	4.2	5.2
女性	368	19.0	45.7	23.6	4.3	3.5	3.8
男性	285	22.1	47.7	15.1	4.6	5.3	5.3
その他	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「あまり取れていない」の割合が、70歳以上で「十分取れている」の割合が、50代で「まあ取れている」の割合が高くなっています。また、30代で「十分取れている」の割合が、20代で「あまり取れていない」の割合が、70歳以上で「あまり取れていない」の割合が低くなっています。

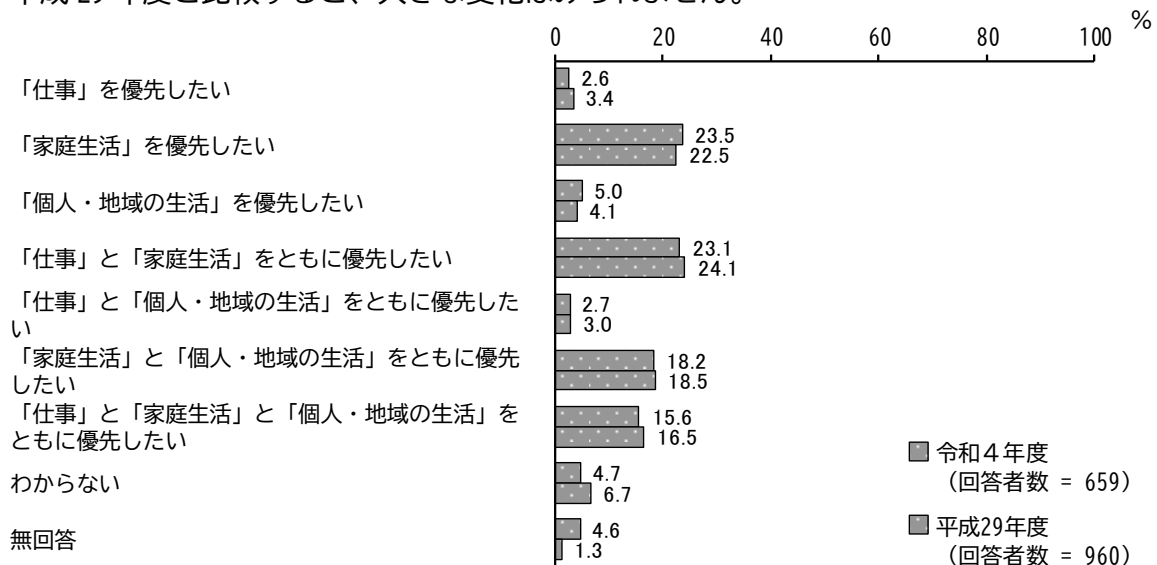
単位：％

区分	回答者数(件)	十分取れている	まあ取れている	あまり取れていない	まったく取れていない	わからない(該当しない)	無回答
全体	659	20.2	46.1	19.9	4.4	4.2	5.2
10代	7	28.6	28.6	42.9	—	—	—
20代	36	25.0	50.0	8.3	8.3	8.3	—
30代	47	8.5	40.4	36.2	8.5	—	6.4
40代	95	10.5	50.5	25.3	9.5	2.1	2.1
50代	118	10.2	52.5	25.4	7.6	3.4	0.8
60代	149	22.8	43.0	23.5	2.0	3.4	5.4
70歳以上	202	30.7	45.0	9.4	0.5	6.9	7.4

問12 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人・地域の生活(学習・趣味・付き合い・地域活動等)」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

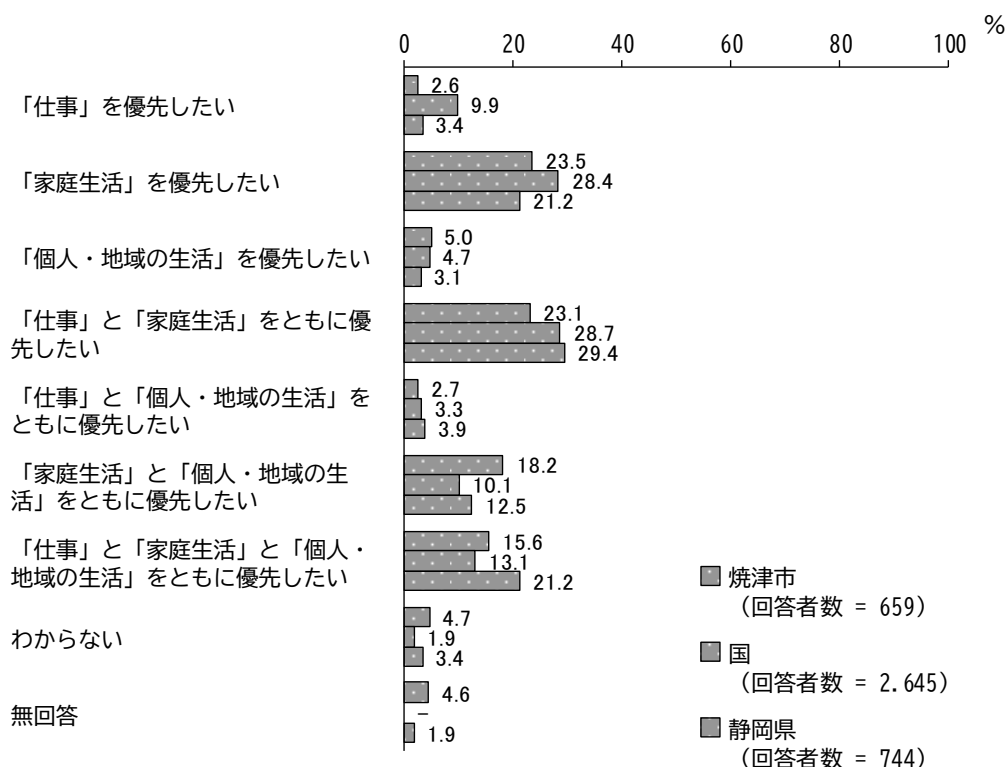
「家庭生活」を優先したい」の割合が23.5%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が23.1%、「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したい」の割合が18.2%となっています。

平成29年度と比較すると、大きな変化はみられません。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したい」の割合が、国、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「個人・地域の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「個人・地域の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したい	わからない	無回答
全体	659	2.6	23.5	5.0	23.1	2.7	18.2	15.6	4.7	4.6
女性	368	1.4	26.1	3.3	21.2	2.4	18.8	18.2	6.3	2.4
男性	285	4.2	20.7	7.4	26.0	3.2	17.5	12.6	2.8	5.6
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したいの割合が、50代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいの割合が、30代で「家庭生活」を優先したいの割合が高くなっています。また、20代で「家庭生活」を優先したいの割合が、50代で「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したいの割合が、70歳以上で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいの割合が低くなっています。

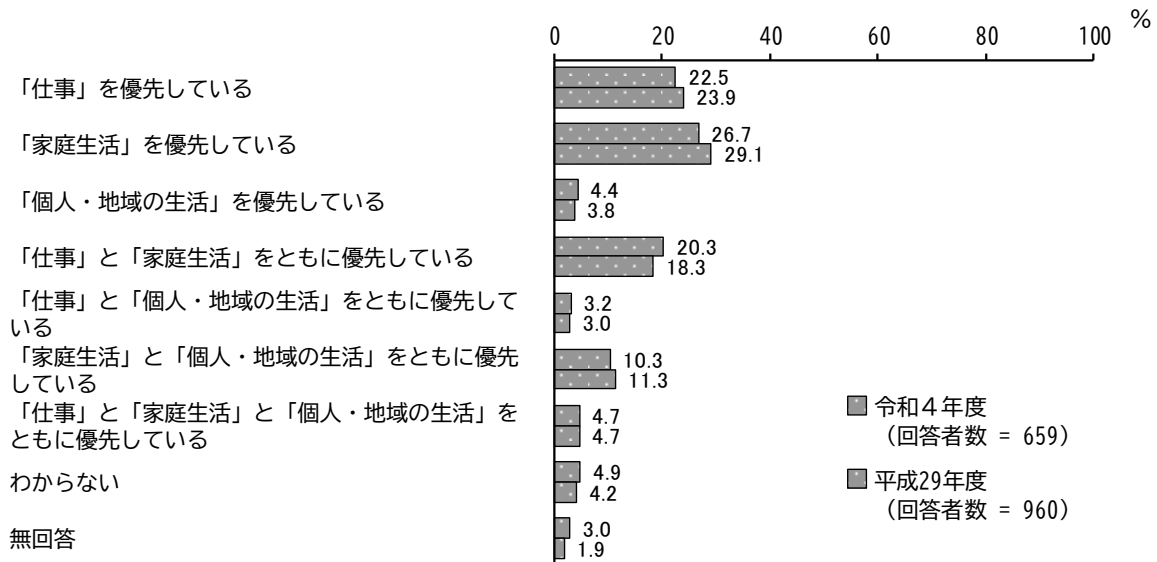
単位：%

区分	回答者数(件)	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「個人・地域の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「個人・地域の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したい	わからない	無回答
全体	659	2.6	23.5	5.0	23.1	2.7	18.2	15.6	4.7	4.6
10代	7	—	—	—	—	14.3	28.6	57.1	—	—
20代	36	—	11.1	13.9	16.7	8.3	30.6	19.4	—	—
30代	47	6.4	31.9	6.4	21.3	6.4	10.6	10.6	2.1	4.3
40代	95	2.1	21.1	8.4	30.5	—	17.9	18.9	—	1.1
50代	118	4.2	22.9	2.5	33.9	2.5	7.6	19.5	5.1	1.7
60代	149	0.7	19.5	5.4	26.8	2.0	19.5	17.4	3.4	5.4
70歳以上	202	3.0	29.7	3.0	13.4	2.5	23.3	9.9	9.4	5.9

問 13 それでは、優先度についてあなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。
（○は1つ）

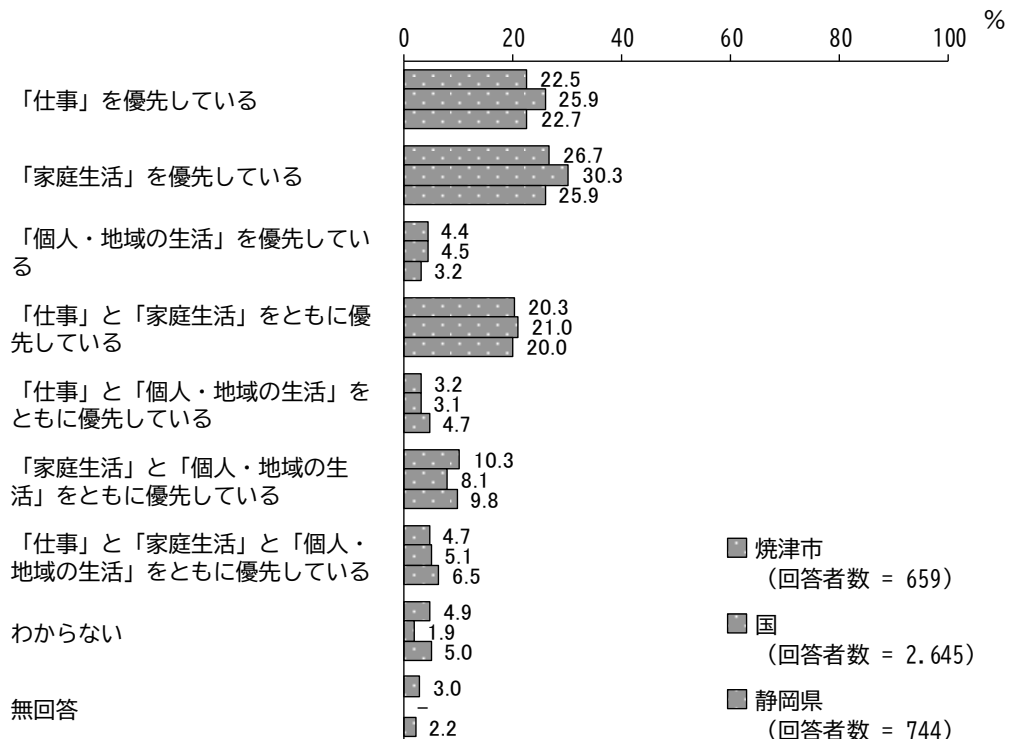
「家庭生活」を優先している」の割合が 26.7%と最も高く、次いで「仕事」を優先している」の割合が 22.5%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が 20.3%となっています。

平成 29 年度と比較すると、大きな変化はみられません。



【国、県との比較】

国、静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「家庭生活」を優先している」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「個人・地域の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「個人・地域の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先している	わからない	無回答
全体	659	22.5	26.7	4.4	20.3	3.2	10.3	4.7	4.9	3.0
女性	368	19.6	35.3	0.8	19.6	1.4	11.4	4.1	5.4	2.4
男性	285	26.3	16.1	9.1	21.8	5.6	9.1	5.6	4.2	2.1
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「仕事」を優先している」の割合が、40代で「仕事」を優先している」の割合が、50代で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。また、20代で「家庭生活」を優先している」の割合が、70歳以上で「仕事」を優先している」の割合が、30代で「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先している」の割合が低くなっています。

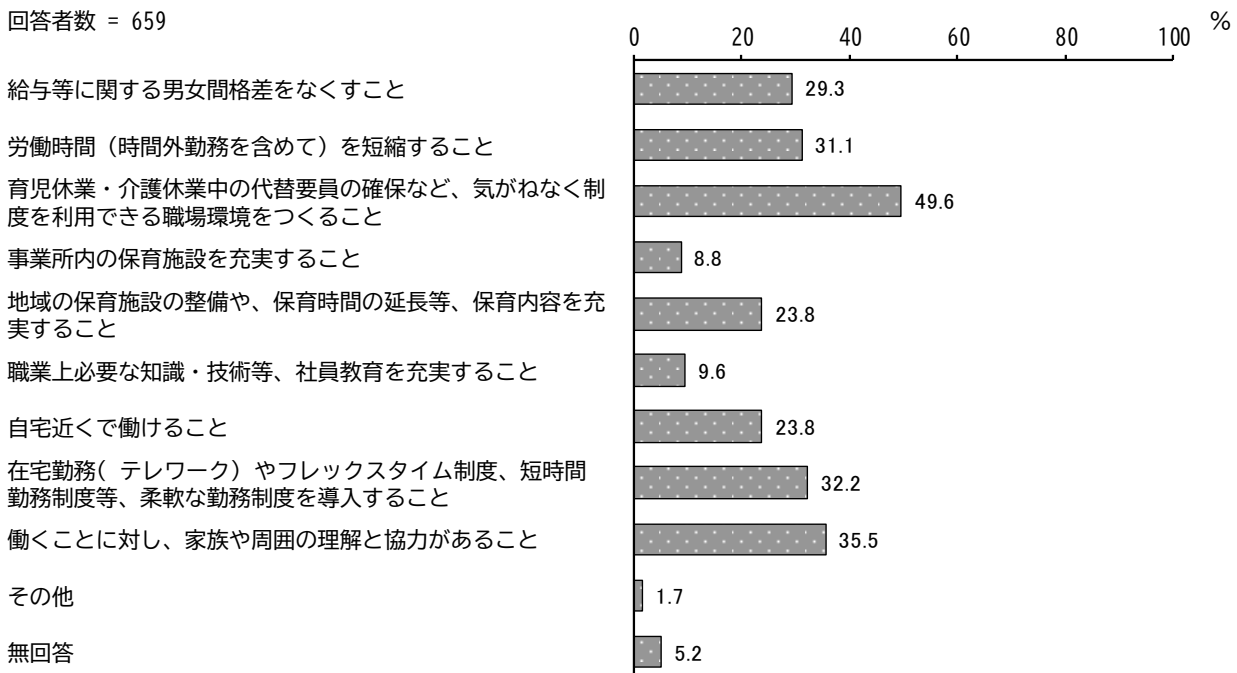
単位：％

区分	回答者数(件)	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「個人・地域の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「個人・地域の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先している	わからない	無回答
全体	659	22.5	26.7	4.4	20.3	3.2	10.3	4.7	4.9	3.0
10代	7	-	-	28.6	14.3	42.9	-	-	14.3	-
20代	36	27.8	5.6	22.2	25.0	2.8	8.3	5.6	2.8	-
30代	47	40.4	23.4	2.1	21.3	2.1	2.1	4.3	2.1	2.1
40代	95	38.9	23.2	1.1	20.0	4.2	4.2	4.2	1.1	3.2
50代	118	36.4	21.2	0.8	28.0	1.7	2.5	2.5	5.9	0.8
60代	149	20.1	27.5	6.0	20.8	3.4	10.1	7.4	3.4	1.3
70歳以上	202	4.5	37.1	3.5	15.3	2.5	20.8	4.5	7.9	4.0

問 14 性別に関わりなく、すべての人が、仕事と家庭の両立を実現するためには、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること」の割合が49.6%と最も高く、次いで「働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合が35.5%、「在宅勤務(テレワーク)やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が32.2%となっています。

回答者数 = 659



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「地域の保育施設の整備や、保育時間の延長等、保育内容を充実すること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	給与等に関する男女間格差をなくすこと	労働時間(時間外勤務を含めて)を短縮すること	育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること	事業所内の保育施設を充実すること	地域の保育施設の整備や、保育時間の延長等、保育内容を充実すること	職業上必要な知識・技術等、社員教育を充実すること	自宅近くで働けること	在宅勤務(テレワーク)やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること	働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	その他	無回答
全体	659	29.3	31.1	49.6	8.8	23.8	9.6	23.8	32.2	35.5	1.7	5.2
女性	368	31.8	29.3	50.3	9.0	19.0	8.4	24.5	35.3	39.4	1.4	5.2
男性	285	26.7	34.0	49.8	8.8	30.5	11.2	23.5	28.4	31.2	2.1	3.5
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「在宅勤務(テレワーク)やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること」「労働時間(時間外勤務を含めて)を短縮すること」の割合が、30代で「在宅勤務(テレワーク)やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が高くなっています。また、20代で「働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合が、60代で「在宅勤務(テレワーク)やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が、40代で「働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合が低くなっています。

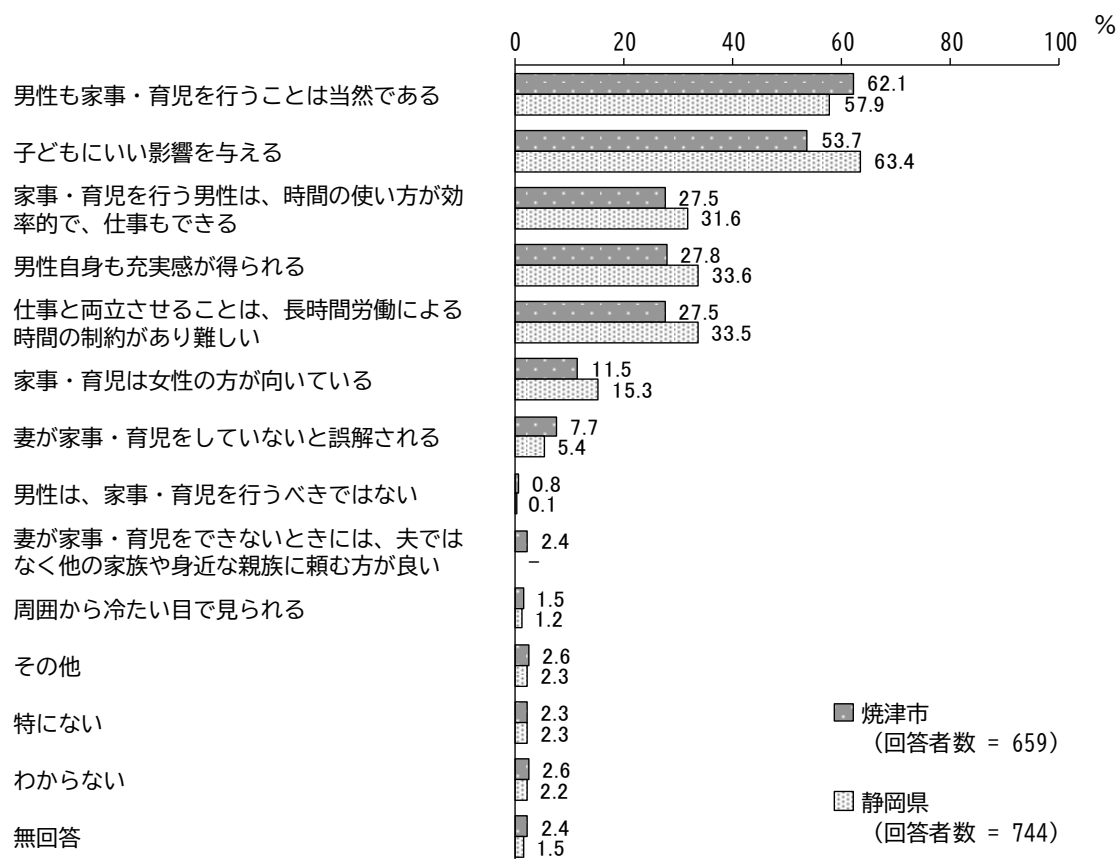
単位：％

区分	回答者数(件)	給与等に関する男女間格差をなくすこと	労働時間(時間外勤務を含めて)を短縮すること	育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること	事業所内の保育施設を充実すること	地域の保育施設の整備や、保育時間の延長等、保育内容を充実すること	職業上必要な知識・技術等、社員教育を充実すること	自宅近くで働けること	在宅勤務(テレワーク)やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること	働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	その他	無回答
全体	659	29.3	31.1	49.6	8.8	23.8	9.6	23.8	32.2	35.5	1.7	5.2
10代	7	28.6	28.6	85.7	28.6	42.9	—	—	28.6	14.3	14.3	—
20代	36	33.3	47.2	61.1	8.3	16.7	8.3	25.0	55.6	22.2	—	5.6
30代	47	21.3	36.2	51.1	12.8	27.7	4.3	25.5	55.3	34.0	4.3	2.1
40代	95	26.3	45.3	48.4	9.5	20.0	11.6	22.1	41.1	24.2	3.2	3.2
50代	118	38.1	35.6	39.0	9.3	19.5	7.6	21.2	35.6	39.0	0.8	2.5
60代	149	28.9	27.5	56.4	8.1	32.2	11.4	25.5	20.8	38.9	—	2.7
70歳以上	202	27.7	21.3	49.0	7.4	22.3	10.4	25.7	25.7	40.6	2.0	7.9

問 15 男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(〇はいくつでも)

「男性も家事・育児を行うことは当然である」の割合が62.1%と最も高く、次いで「子どもにいい影響を与える」の割合が53.7%、「男性自身も充実感が得られる」の割合が27.8%となっています。

静岡県と比較すると、「子どもにいい影響を与える」「男性自身も充実感が得られる」「仕事と両立させることは、長時間労働による時間の制約があり難しい」の割合が、静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「子どもにいい影響を与える」の割合が、男性で「家事・育児は女性の方が向いている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「子どもにいい影響を与える」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性も家事・育児を行うことは当然である	子どもにいい影響を与える	家事・育児を行う男性は、時間を使い方が効率的で、仕事もできる	男性自身も充実感が得られる	仕事と両立させることは、長時間労働による時間の制約があり難しい	家事・育児は女性の方が向いている	妻が家事・育児をしていないと誤解される	男性は、家事・育児を行うべきではない	妻が家事・育児をできないときには、夫ではなく他の家族や身近な親族に頼む方がよい	周囲から冷たい目で見られる	その他	特になし	わからない	無回答
全 体	659	62.1	53.7	27.5	27.8	27.5	11.5	7.7	0.8	2.4	1.5	2.6	2.3	2.6	2.4
女性	368	64.1	61.4	29.6	27.2	24.5	7.6	10.1	0.5	3.5	1.9	2.2	2.7	1.9	1.9
男性	285	60.4	44.9	25.3	29.1	31.9	16.8	4.9	1.1	1.1	1.1	3.2	1.8	3.5	1.4
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「男性も家事・育児を行うことは当然である」の割合が、30代で「男性も家事・育児を行うことは当然である」「子どもにいい影響を与える」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「男性も家事・育児を行うことは当然である」の割合が、20代で「家事・育児は女性の方が向いている」の割合が低くなっています。

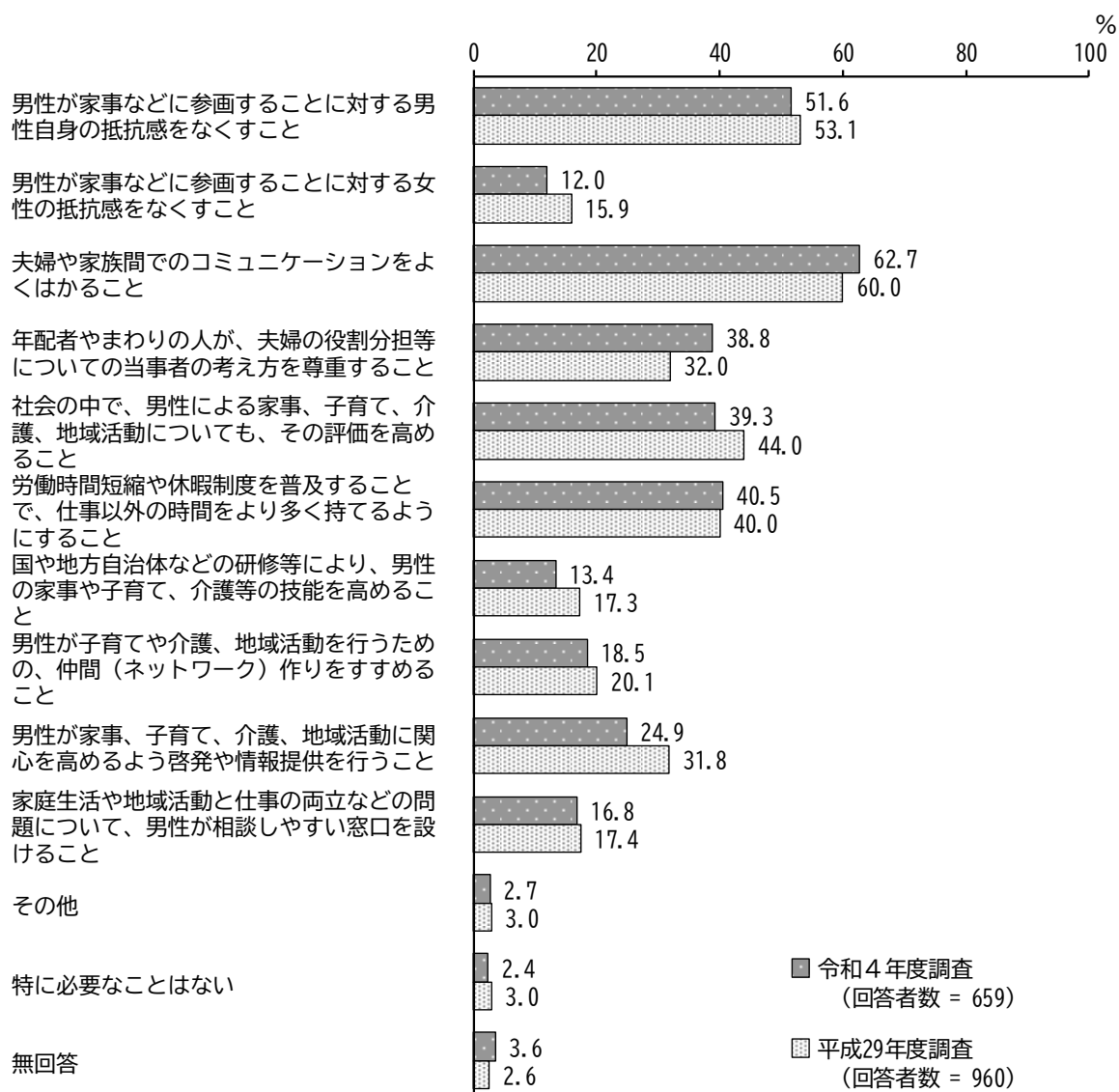
単位：％

区分	回答者数(件)	男性も家事・育児を行うことは当然である	子どもにいい影響を与える	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	男性自身も充実感が得られる	仕事と両立させることは、長時間労働による時間の制約があり難しい	家事・育児は女性の方が向いている	妻が家事・育児をしていないと誤解される	男性は、家事・育児を行うべきではない	妻が家事・育児をできないときには、夫ではなく他の家族や身近な親族に頼む方がよい	周囲から冷たい目で見られる	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	62.1	53.7	27.5	27.8	27.5	11.5	7.7	0.8	2.4	1.5	2.6	2.3	2.6	2.4
10代	7	57.1	57.1	42.9	14.3	42.9	—	—	—	—	—	14.3	—	—	—
20代	36	83.3	66.7	25.0	36.1	30.6	5.6	11.1	—	2.8	—	—	—	—	—
30代	47	83.0	68.1	31.9	29.8	27.7	8.5	8.5	—	4.3	—	2.1	—	2.1	2.1
40代	95	63.2	57.9	28.4	24.2	32.6	9.5	9.5	3.2	2.1	4.2	4.2	2.1	1.1	2.1
50代	118	60.2	53.4	27.1	28.8	26.3	11.0	10.2	0.8	3.4	1.7	2.5	2.5	2.5	0.8
60代	149	63.8	51.0	24.8	26.8	26.2	9.4	5.4	—	1.3	2.0	2.7	2.0	1.3	—
70歳以上	202	54.5	49.5	28.7	28.7	26.2	16.8	6.9	0.5	2.5	0.5	2.0	3.5	5.0	3.5

問 16 今後、男性が「家事」「子育て」「介護」「地域活動」に参画していくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

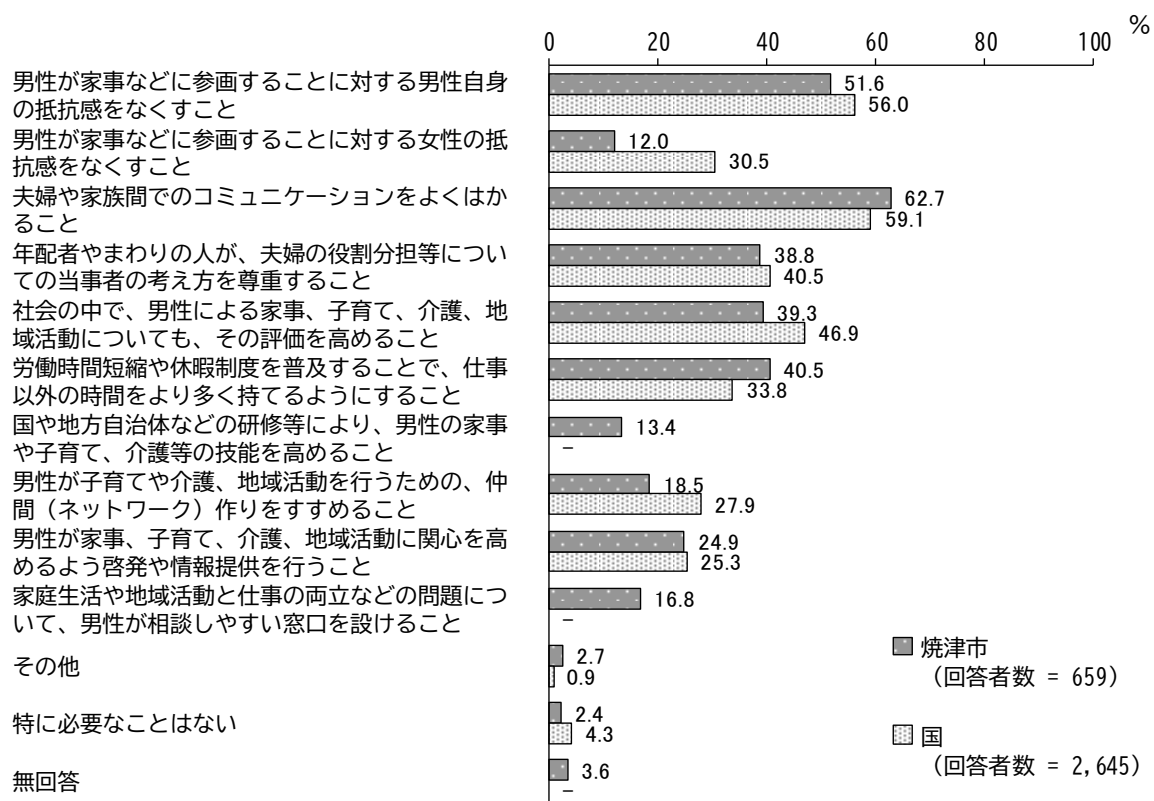
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が 62.7%と最も高く、次いで「男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が 51.6%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が 40.5%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」の割合が増加しています。一方、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」の割合が減少しています。



【国との比較】

国と比較すると、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が、国より高くなっています。



※国の設問は「男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと」

【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が、女性で「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」の割合が高くなっています。また、男性で「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」「男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が、女性で「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	子育て、介護等の技能を高めること	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	家庭生活や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	659	51.6	12.0	62.7	38.8	39.3	40.5	13.4	18.5	24.9	16.8	2.7	2.4	3.6	
女性	368	56.5	13.3	64.9	46.7	43.2	33.7	13.6	18.2	26.6	19.3	3.3	1.1	3.3	
男性	285	46.0	10.5	61.1	29.5	34.7	50.2	13.3	19.3	23.2	14.0	2.1	4.2	2.5	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

【年齢別】

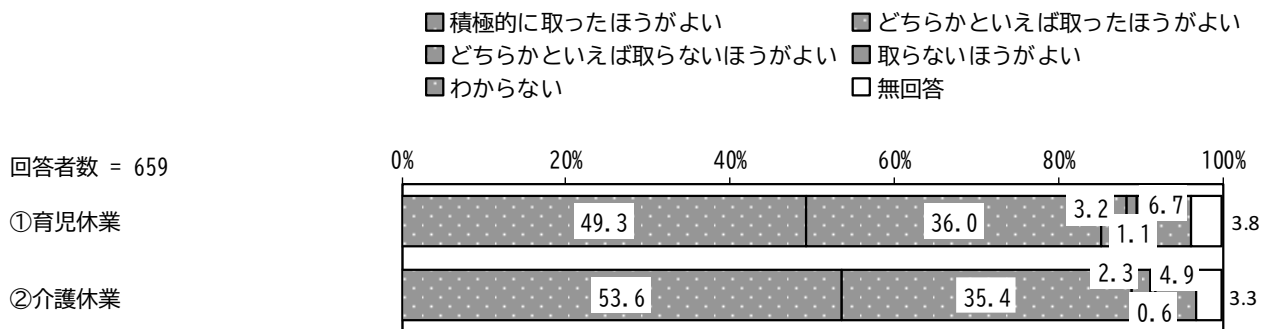
年齢別にみると、他に比べ、20代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」の割合が、30代で「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が高くなっています。また、30代で「男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が、60代で「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」の割合が、40代で「男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	家庭生活や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	659	51.6	12.0	62.7	38.8	39.3	40.5	13.4	18.5	24.9	16.8	2.7	2.4	3.6
10代	7	85.7	14.3	71.4	71.4	42.9	57.1	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	—	—
20代	36	61.1	13.9	83.3	55.6	44.4	52.8	8.3	19.4	25.0	25.0	—	2.8	—
30代	47	42.6	10.6	70.2	38.3	42.6	59.6	12.8	19.1	27.7	23.4	2.1	4.3	2.1
40代	95	45.3	11.6	56.8	32.6	42.1	46.3	15.8	25.3	22.1	16.8	7.4	3.2	2.1
50代	118	50.8	15.3	59.3	39.8	43.2	36.4	13.6	14.4	30.5	17.8	5.1	2.5	0.8
60代	149	53.7	8.1	68.5	38.9	35.6	37.6	12.1	20.1	18.1	12.8	0.7	1.3	1.3
70歳以上	202	54.0	13.4	58.9	38.1	37.6	36.1	13.9	16.8	27.7	16.8	0.5	2.5	6.4

問 17 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度がありますが、男性がこの制度を活用して休暇を取ることに、どう思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

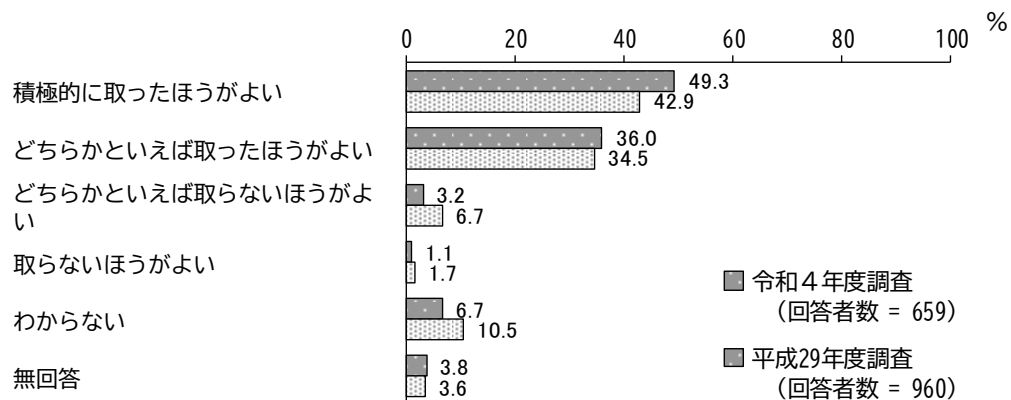
「育児休業」、「介護休業」の両方で、「積極的に取ったほうがよい」と「どちらかといえば取ったほうがよい」を合わせた『取ったほうがよい』の割合が高くなっています。



①育児休業

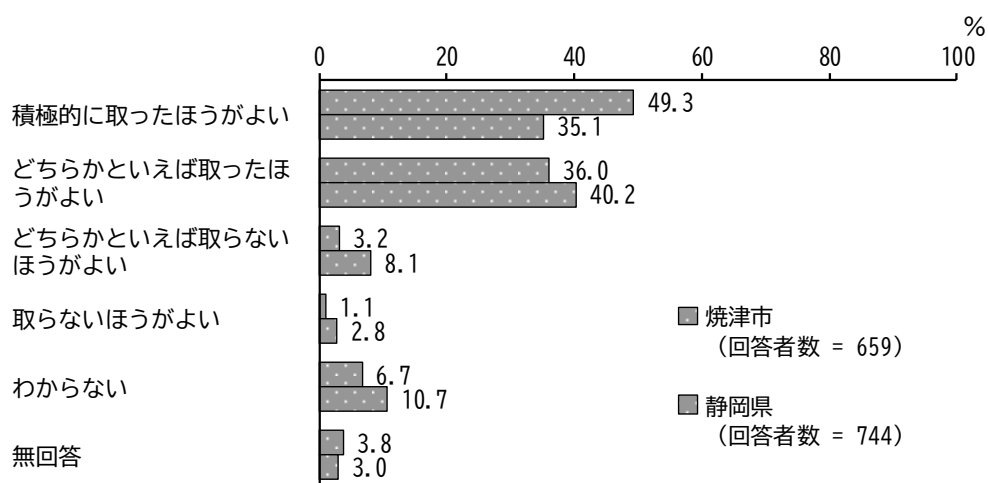
「積極的に取ったほうがよい」の割合が49.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合が36.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「積極的に取ったほうがよい」の割合が増加しています。



【県との比較】

静岡県と比較すると、「積極的に取ったほうがよい」の割合が、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	積極的に取ったほうがよい	どちらかといえば取ったほうがよい	どちらかといえば取らないほうがよい	取らないほうがよい	わからない	無回答
全体	659	49.3	36.0	3.2	1.1	6.7	3.8
女性	368	50.8	37.2	1.1	0.3	7.1	3.5
男性	285	48.4	34.7	6.0	2.1	6.3	2.5
その他	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「積極的に取ったほうがよい」の割合が、30代で「積極的に取ったほうがよい」の割合が、50代で「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「積極的に取ったほうがよい」の割合が、30代で「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合が、20代で「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合が低くなっています。

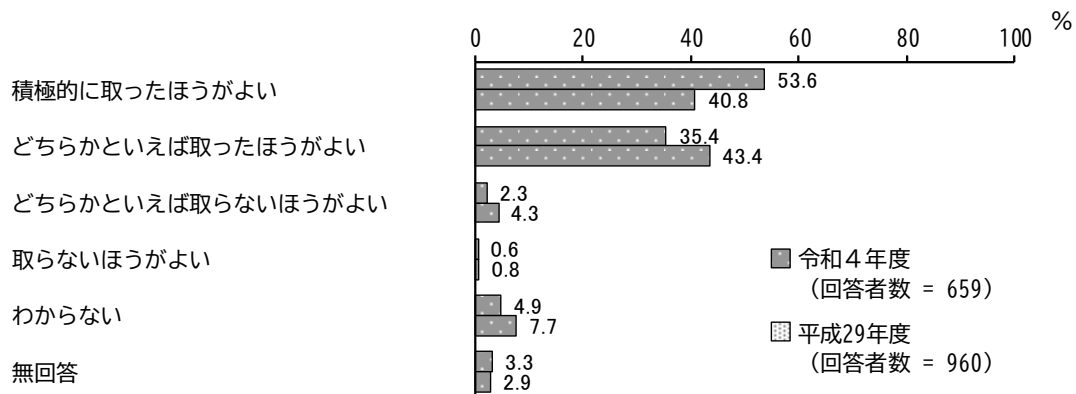
単位：%

区分	回答者数(件)	積極的に取ったほうがよい	どちらかといえば取ったほうがよい	どちらかといえば取らないほうがよい	取らないほうがよい	わからない	無回答
全体	659	49.3	36.0	3.2	1.1	6.7	3.8
10代	7	85.7	14.3	—	—	—	—
20代	36	66.7	27.8	—	2.8	—	2.8
30代	47	61.7	27.7	—	—	8.5	2.1
40代	95	51.6	31.6	3.2	4.2	7.4	2.1
50代	118	44.1	44.1	4.2	0.8	5.9	0.8
60代	149	56.4	32.9	2.7	—	8.1	—
70歳以上	202	40.1	40.6	4.5	0.5	6.9	7.4

②介護休業

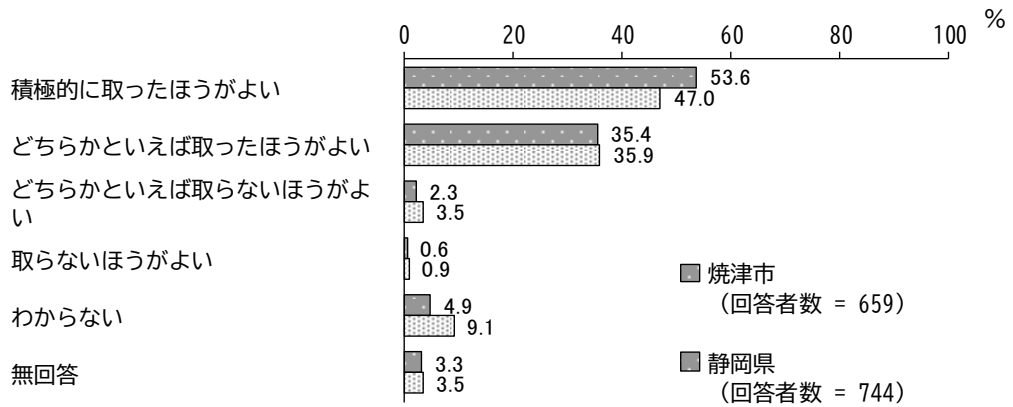
「積極的に取ったほうがよい」の割合が53.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合が35.4%となっています。

平成29年度と比較すると、「積極的に取ったほうがよい」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合が減少しています。



【県との比較】

静岡県と比較すると、「積極的に取ったほうがよい」の割合が、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	積極的に取ったほうがよい	どちらかといえば取ったほうがよい	どちらかといえば取らないほうがよい	取らないほうがよい	わからない	無回答
全体	659	53.6	35.4	2.3	0.6	4.9	3.3
女性	368	56.5	35.3	1.4	—	4.1	2.7
男性	285	50.9	35.8	3.5	1.4	6.0	2.5
その他	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

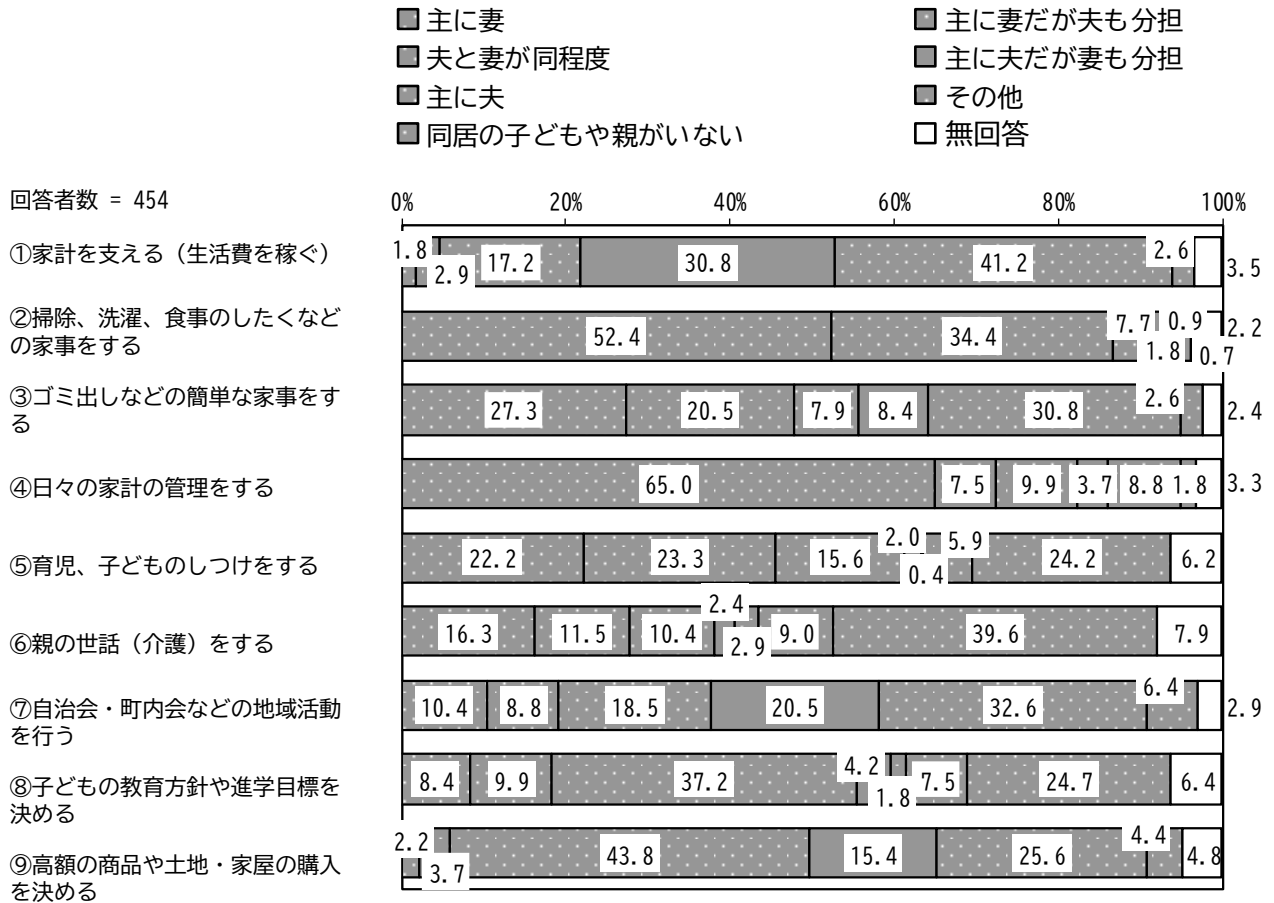
年齢別にみると、他に比べ、20代で「積極的に取ったほうがよい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「積極的に取ったほうがよい」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	積極的に 取ったほ うがよい	どちらか とえば 取ったほ うがよい	どちらか とえば 取らない ほうがよ	取らない ほうがよ	わから ない	無回 答
全 体	659	53.6	35.4	2.3	0.6	4.9	3.3
10代	7	85.7	14.3	—	—	—	—
20代	36	63.9	30.6	—	2.8	—	2.8
30代	47	53.2	34.0	2.1	—	8.5	2.1
40代	95	55.8	32.6	2.1	2.1	5.3	2.1
50代	118	56.8	36.4	1.7	0.8	3.4	0.8
60代	149	57.7	36.2	1.3	—	4.0	0.7
70歳以上	202	46.0	38.1	4.0	—	6.4	5.4

問18 現在、配偶者（パートナー）のいる方に伺います。あなたのご家庭では、次にあげる家庭での役割を、主にどなたが担っていますか。（それぞれ1つに○）

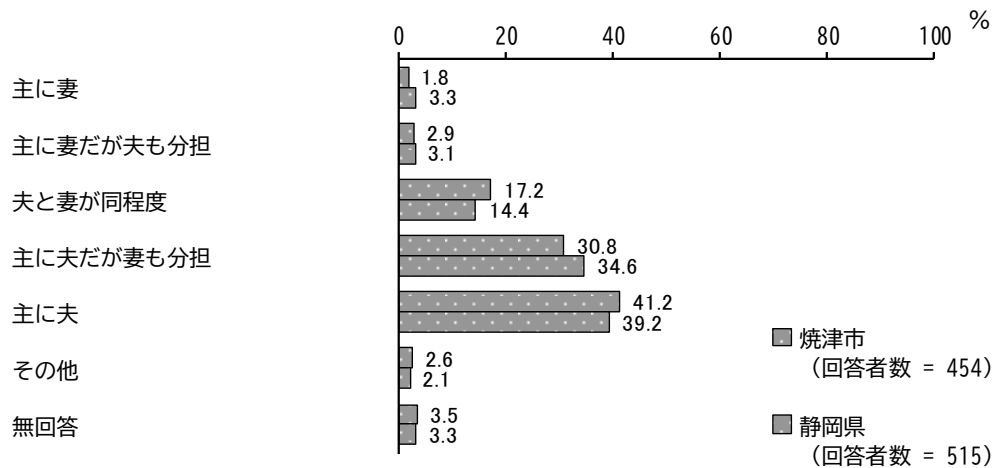
「日々の家計の管理をする」で「主に妻」の割合が高くなっています。次いで、「掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする」で「主に妻」の割合が高くなっています。また、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」で「主に夫」の割合が高くなっています。



①家計を支える（生活費を稼ぐ）

「主に夫」の割合が41.2%と最も高く、次いで「主に夫だが妻も分担」の割合が30.8%、「夫と妻が同程度」の割合が17.2%となっています。

静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
全体	454	1.8	2.9	17.2	30.8	41.2	2.6	3.5
女性	251	1.2	2.8	17.5	32.3	39.8	2.8	3.6
男性	203	2.5	3.0	16.7	29.1	42.9	2.5	3.4
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代、40代で「主に夫」「夫と妻が同程度」の割合が高くなっています。

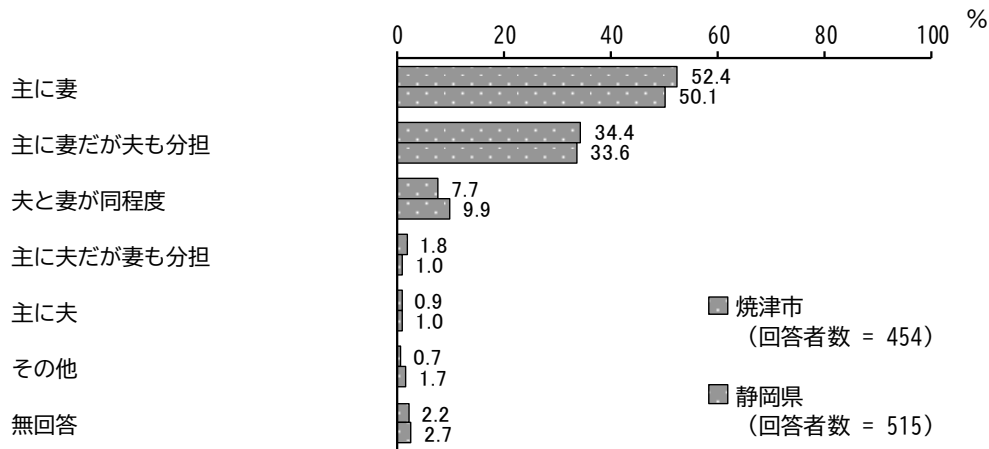
単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	担主に妻だが夫も分	夫と妻が同程度	担主に夫だが妻も分	主に夫	その他	無回答
全 体	454	1.8	2.9	17.2	30.8	41.2	2.6	3.5
10代	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	5	—	—	—	60.0	40.0	—	—
30代	27	—	7.4	25.9	14.8	51.9	—	—
40代	70	1.4	2.9	8.6	30.0	55.7	—	1.4
50代	85	3.5	—	14.1	38.8	42.4	—	1.2
60代	112	1.8	1.8	18.8	30.4	43.8	0.9	2.7
70歳以上	155	1.3	4.5	20.6	29.0	30.3	7.1	7.1

②掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする

「主に妻」の割合が52.4%と最も高く、次いで「主に妻だが夫も分担」の割合が34.4%となっています。

静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「主に妻」の割合が、男性で「主に妻だが夫も分担」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
全 体	454	52.4	34.4	7.7	1.8	0.9	0.7	2.2
女性	251	59.8	29.9	6.8	0.8	0.8	0.4	1.6
男性	203	43.3	39.9	8.9	3.0	1.0	1.0	3.0
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「主に妻だが夫も分担」の割合が、50代で「主に妻」の割合が高くなっています。

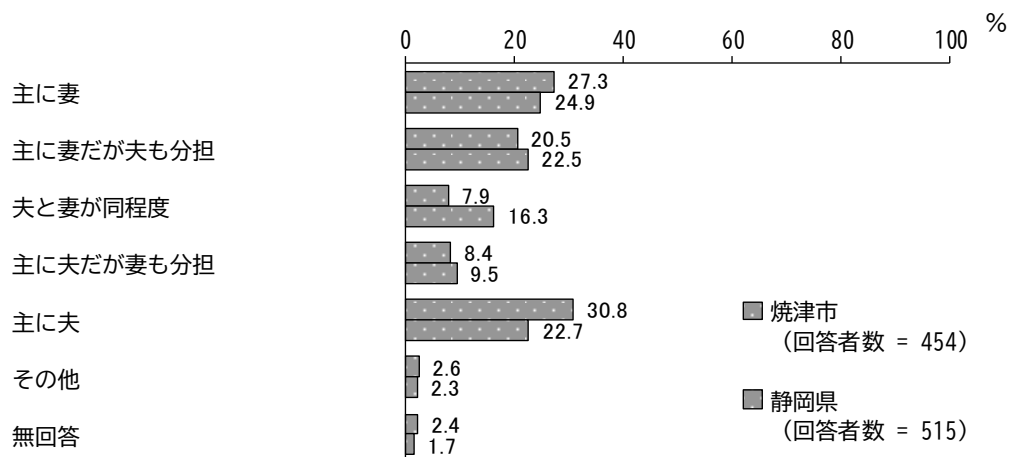
単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
全 体	454	52.4	34.4	7.7	1.8	0.9	0.7	2.2
10代	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	5	40.0	20.0	20.0	20.0	—	—	—
30代	27	37.0	48.1	14.8	—	—	—	—
40代	70	54.3	34.3	4.3	4.3	—	2.9	—
50代	85	63.5	32.9	2.4	—	1.2	—	—
60代	112	49.1	34.8	9.8	2.7	0.9	—	2.7
70歳以上	155	51.0	32.9	9.0	0.6	1.3	0.6	4.5

③ゴミ出しなどの簡単な家事をする

「主に夫」の割合が30.8%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が27.3%、「主に妻だが夫も分担」の割合が20.5%となっています。

静岡県と比較すると、「主に夫」の割合が、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
全体	454	27.3	20.5	7.9	8.4	30.8	2.6	2.4
女性	251	31.5	20.7	6.8	9.2	27.9	2.4	1.6
男性	203	22.2	20.2	9.4	7.4	34.5	3.0	3.4
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、50代で「主に妻」「主に妻だが夫も分担」の割合が、70歳以上で「主に夫」の割合が高くなっています。

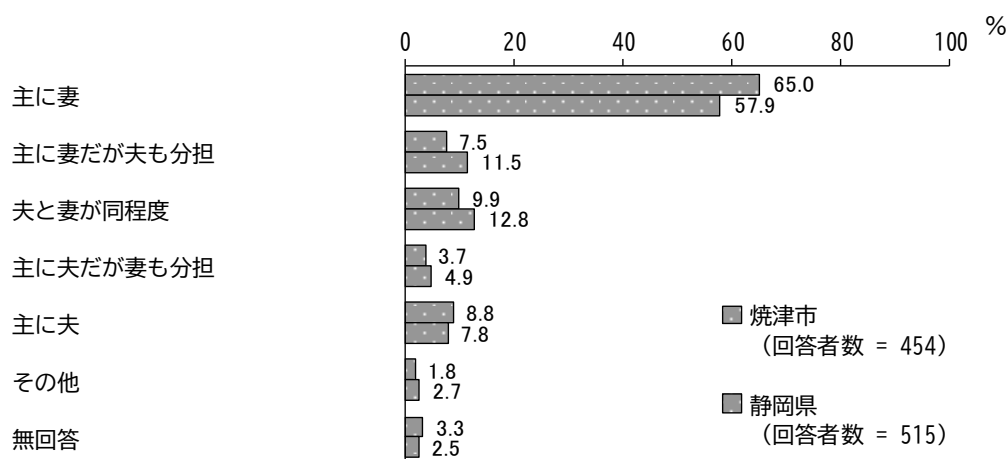
単位：％

区分	回答者数(件)	主に妻	担主に妻だが夫も分	夫と妻が同程度	担主に夫だが妻も分	主に夫	その他	無回答
全体	454	27.3	20.5	7.9	8.4	30.8	2.6	2.4
10代	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	5	20.0	40.0	—	—	40.0	—	—
30代	27	18.5	18.5	14.8	11.1	37.0	—	—
40代	70	31.4	18.6	5.7	8.6	24.3	11.4	—
50代	85	37.6	27.1	2.4	4.7	27.1	1.2	—
60代	112	30.4	20.5	13.4	8.9	23.2	0.9	2.7
70歳以上	155	19.4	17.4	7.1	9.7	40.0	1.3	5.2

④日々の家計の管理をする

「主に妻」の割合が65.0%と最も高くなっています。

静岡県と比較すると、「主に妻」の割合が、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
全 体	454	65.0	7.5	9.9	3.7	8.8	1.8	3.3
女性	251	67.3	5.2	10.4	4.0	7.6	2.0	3.6
男性	203	62.1	10.3	9.4	3.4	10.3	1.5	3.0
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。

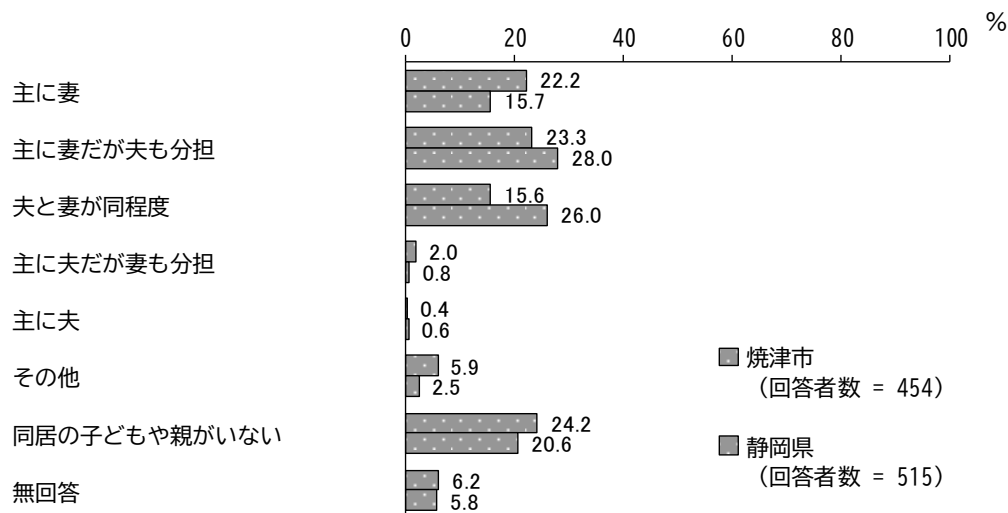
単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
全 体	454	65.0	7.5	9.9	3.7	8.8	1.8	3.3
10代	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	5	60.0	20.0	20.0	—	—	—	—
30代	27	55.6	3.7	18.5	3.7	11.1	7.4	—
40代	70	64.3	7.1	7.1	—	17.1	2.9	1.4
50代	85	67.1	12.9	9.4	3.5	4.7	1.2	1.2
60代	112	61.6	4.5	12.5	8.0	10.7	—	2.7
70歳以上	155	68.4	7.1	7.7	2.6	5.8	1.9	6.5

⑤育児、子どものしつけをする

「同居の子どもや親がいない」の割合が24.2%と最も高く、次いで「主に妻だが夫も分担」の割合が23.3%、「主に妻」の割合が22.2%となっています。

静岡県と比較すると、「主に妻」の割合が、静岡県より高くなっています。また、「夫と妻が同程度」の割合が、静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	主に妻	担主に妻だが夫も分	夫と妻が同程度	担主に夫だが妻も分	主に夫	その他	同居の子どもや親がいない	無回答
全体	454	22.2	23.3	15.6	2.0	0.4	5.9	24.2	6.2
女性	251	26.7	22.3	14.3	1.2	0.8	5.6	23.1	6.0
男性	203	16.7	24.6	17.2	3.0	—	6.4	25.6	6.4
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代、40代で「主に妻だが夫も分担」の割合が、50代で「主に妻」の割合が高くなっています。

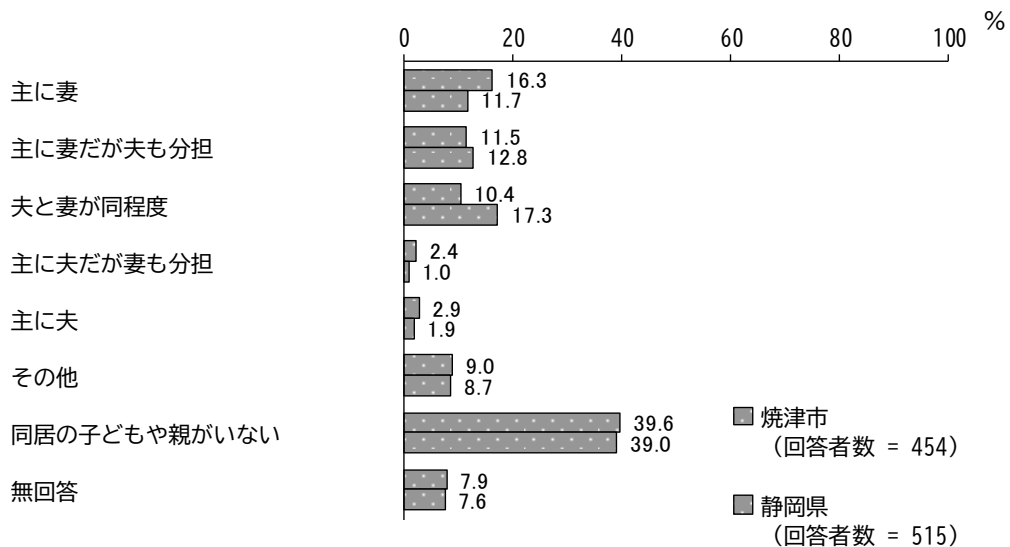
単位：％

区分	回答者数(件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	同居の子どもや親がない	無回答
全体	454	22.2	23.3	15.6	2.0	0.4	5.9	24.2	6.2
10代	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	5	—	40.0	40.0	—	—	—	20.0	—
30代	27	11.1	48.1	25.9	—	—	—	14.8	—
40代	70	28.6	44.3	12.9	2.9	—	2.9	7.1	1.4
50代	85	32.9	23.5	15.3	1.2	—	4.7	18.8	3.5
60代	112	24.1	16.1	20.5	0.9	0.9	5.4	26.8	5.4
70歳以上	155	14.8	14.2	11.0	3.2	0.6	9.7	34.8	11.6

⑥親の世話（介護）をする

「同居の子どもや親がない」の割合が39.6%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が16.3%、「主に妻だが夫も分担」の割合が11.5%となっています。

静岡県と比較すると、「夫と妻が同程度」の割合が、静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	担 主に妻だが夫も分	夫と妻が同程度	担 主に夫だが妻も分	主に夫	その他	同居の子どもや親 がない	無回答
全 体	454	16.3	11.5	10.4	2.4	2.9	9.0	39.6	7.9
女性	251	21.5	11.2	11.2	0.4	0.8	8.0	38.2	8.8
男性	203	9.9	11.8	9.4	4.9	5.4	10.3	41.4	6.9
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「同居の子どもや親がない」の割合が、50代で「夫と妻が同程度」「主に妻」の割合が高くなっています。

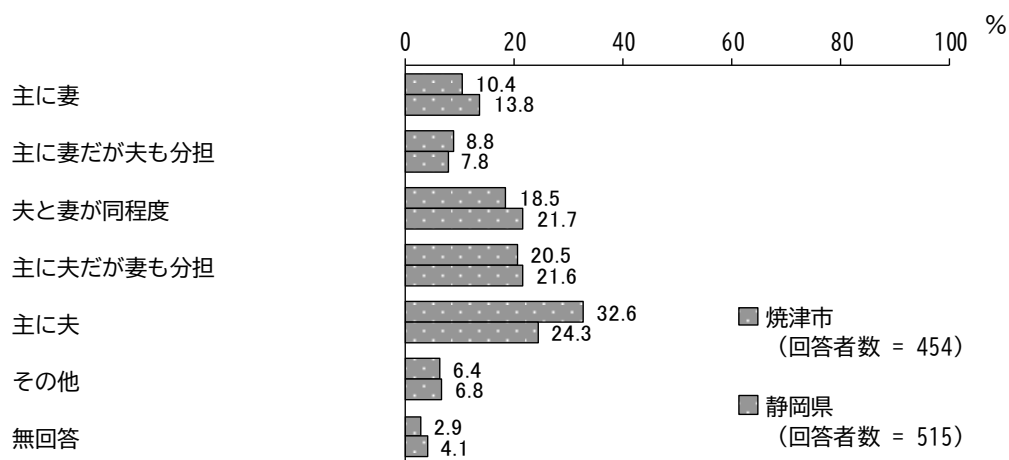
単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	担 主に妻だが夫も分	夫と妻が同程度	担 主に夫だが妻も分	主に夫	その他	同居の子どもや親 がない	無回答
全 体	454	16.3	11.5	10.4	2.4	2.9	9.0	39.6	7.9
10代	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	5	—	—	—	20.0	—	20.0	60.0	—
30代	27	7.4	—	7.4	—	—	14.8	70.4	—
40代	70	14.3	11.4	11.4	2.9	4.3	14.3	40.0	1.4
50代	85	24.7	10.6	18.8	—	7.1	10.6	25.9	2.4
60代	112	19.6	15.2	10.7	6.3	3.6	6.3	33.9	4.5
70歳以上	155	12.3	11.6	5.8	0.6	—	6.5	45.2	18.1

⑦自治会・町内会などの地域活動を行う

「主に夫」の割合が32.6%と最も高く、次いで「主に夫だが妻も分担」の割合が20.5%、「夫と妻が同程度」の割合が18.5%となっています。

静岡県と比較すると、「主に夫」の割合が、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「主に夫」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	主に妻	担主に妻だが夫も分	夫と妻が同程度	担主に夫だが妻も分	主に夫	その他	無回答
全 体	454	10.4	8.8	18.5	20.5	32.6	6.4	2.9
女性	251	11.6	10.4	22.3	19.9	24.7	8.0	3.2
男性	203	8.9	6.9	13.8	21.2	42.4	4.4	2.5
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、50代で「夫と妻が同程度」の割合が、70歳以上で「主に夫」の割合が高くなっています。

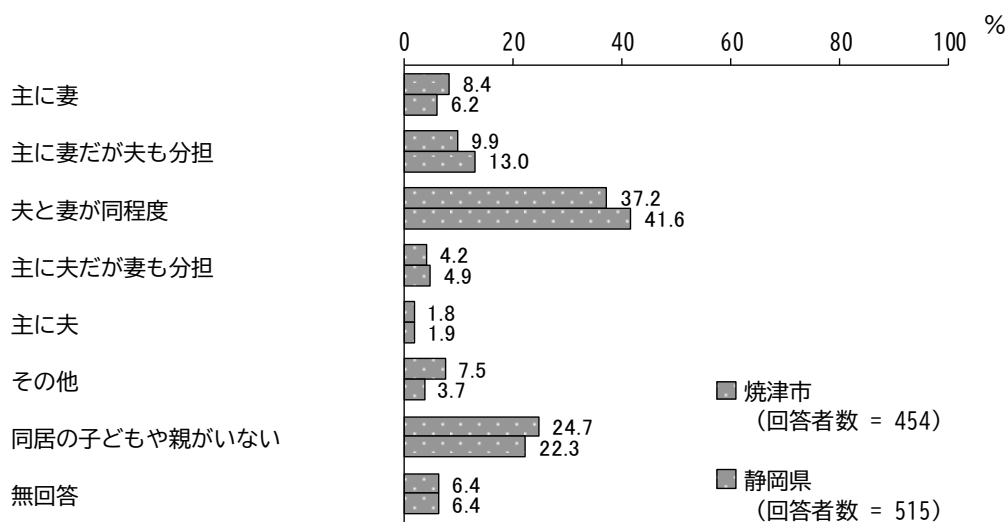
単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	担主に妻だが夫も分	夫と妻が同程度	担主に夫だが妻も分	主に夫	その他	無回答
全体	454	10.4	8.8	18.5	20.5	32.6	6.4	2.9
10代	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	5	—	—	20.0	20.0	20.0	40.0	—
30代	27	—	7.4	22.2	7.4	29.6	29.6	3.7
40代	70	14.3	12.9	21.4	17.1	24.3	10.0	—
50代	85	12.9	9.4	29.4	21.2	21.2	5.9	—
60代	112	12.5	9.8	16.1	19.6	34.8	2.7	4.5
70歳以上	155	7.7	6.5	12.3	24.5	41.9	2.6	4.5

⑧子どもの教育方針や進学目標を決める

「夫と妻が同程度」の割合が37.2%と最も高く、次いで「同居の子どもや親がいない」の割合が24.7%となっています。

静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	同居の子どもや親がない	無回答
全 体	454	8.4	9.9	37.2	4.2	1.8	7.5	24.7	6.4
女性	251	10.0	11.6	35.5	3.2	2.0	8.0	23.5	6.4
男性	203	6.4	7.9	39.4	5.4	1.5	6.9	26.1	6.4
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代、40代で「夫と妻が同程度」の割合が、70歳以上で「同居の子どもや親がない」の割合が高くなっています。

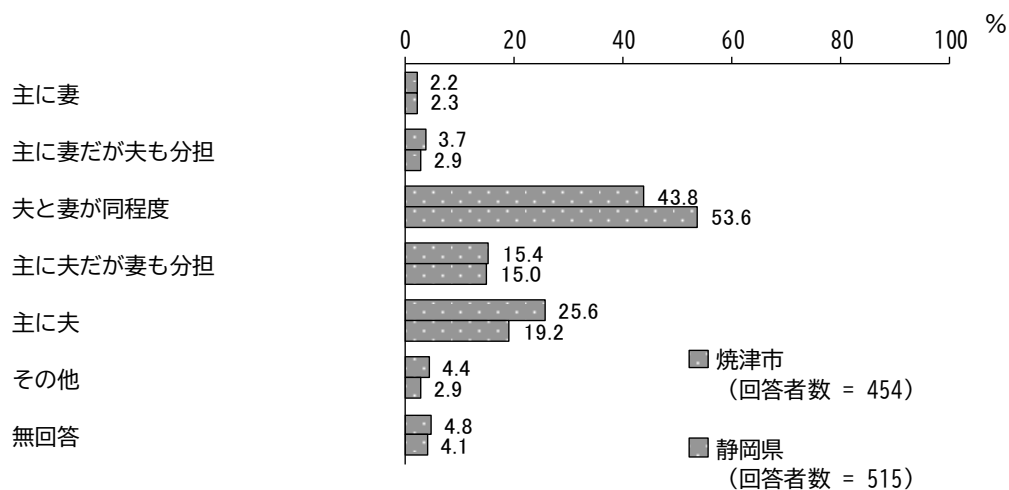
単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	同居の子どもや親がない	無回答
全 体	454	8.4	9.9	37.2	4.2	1.8	7.5	24.7	6.4
10代	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	5	—	20.0	40.0	20.0	—	20.0	—	—
30代	27	7.4	18.5	48.1	3.7	—	7.4	14.8	—
40代	70	15.7	11.4	57.1	2.9	2.9	2.9	7.1	—
50代	85	12.9	17.6	41.2	2.4	2.4	4.7	16.5	2.4
60代	112	7.1	8.9	37.5	4.5	1.8	7.1	28.6	4.5
70歳以上	155	3.9	3.9	23.9	5.2	1.3	11.0	36.8	14.2

⑨高額の商品や土地・家屋の購入を決める

「夫と妻が同程度」の割合が43.8%と最も高く、次いで「主に夫」の割合が25.6%、「主に夫だが妻も分担」の割合が15.4%となっています。

静岡県と比較すると、「主に夫」の割合が、静岡県より高くなっています。また、「夫と妻が同程度」の割合が、静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
全体	454	2.2	3.7	43.8	15.4	25.6	4.4	4.8
女性	251	1.2	4.4	42.2	15.1	28.3	4.4	4.4
男性	203	3.4	3.0	45.8	15.8	22.2	4.4	5.4
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

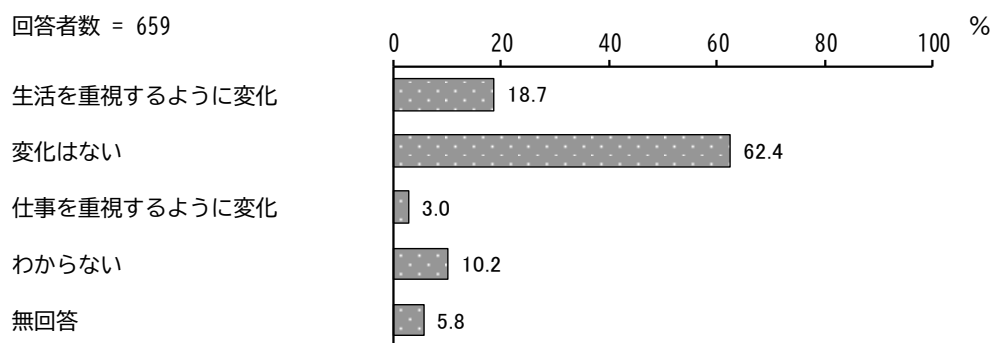
年齢別にみると、他に比べ、30代、40代で「夫と妻が同程度」の割合が、50代で「主に夫」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
全体	454	2.2	3.7	43.8	15.4	25.6	4.4	4.8
10代	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	5	—	—	20.0	40.0	40.0	—	—
30代	27	—	3.7	63.0	3.7	14.8	11.1	3.7
40代	70	1.4	5.7	51.4	14.3	25.7	1.4	—
50代	85	1.2	4.7	41.2	15.3	31.8	4.7	1.2
60代	112	6.3	3.6	37.5	16.1	28.6	2.7	5.4
70歳以上	155	0.6	2.6	43.9	16.8	21.3	5.8	9.0

問 19 新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて、御自身の「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識に変化はありましたか。(○は1つ)

「変化はない」の割合が 62.4%と最も高く、次いで「生活を重視するように変化」の割合が 18.7%、「わからない」の割合が 10.2%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「変化はない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	生活を重視する ように変化	変化はない	仕事を重視する ように変化	わからない	無回答
全 体	659	18.7	62.4	3.0	10.2	5.8
女性	368	21.2	59.2	2.7	12.2	4.6
男性	285	15.8	67.7	3.5	7.4	5.6
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「変化はない」の割合が、60代で「変化はない」の割合が、40代で「変化はない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「変化はない」の割合が低くなっています。

単位：％

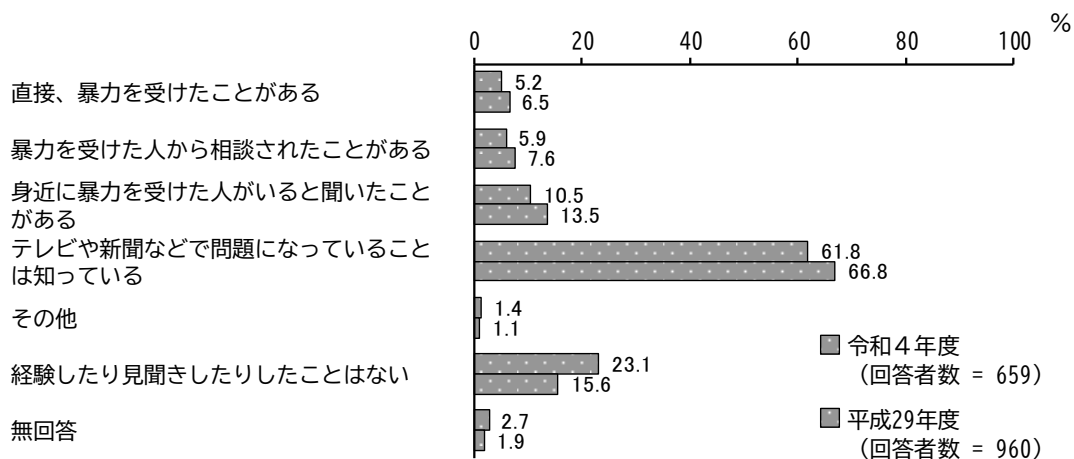
区分	回答者数 (件)	生活を重視するよ うに変化	変化はない	仕事を重視するよ うに変化	わからない	無回答
全 体	659	18.7	62.4	3.0	10.2	5.8
10代	7	28.6	14.3	—	57.1	—
20代	36	13.9	58.3	8.3	13.9	5.6
30代	47	14.9	72.3	2.1	6.4	4.3
40代	95	16.8	68.4	5.3	8.4	1.1
50代	118	21.2	63.6	4.2	9.3	1.7
60代	149	16.8	69.1	1.3	8.1	4.7
70歳以上	202	21.3	55.4	2.0	11.9	9.4

5 暴力について

問 20 最近、夫婦や恋人など親しい間柄にある

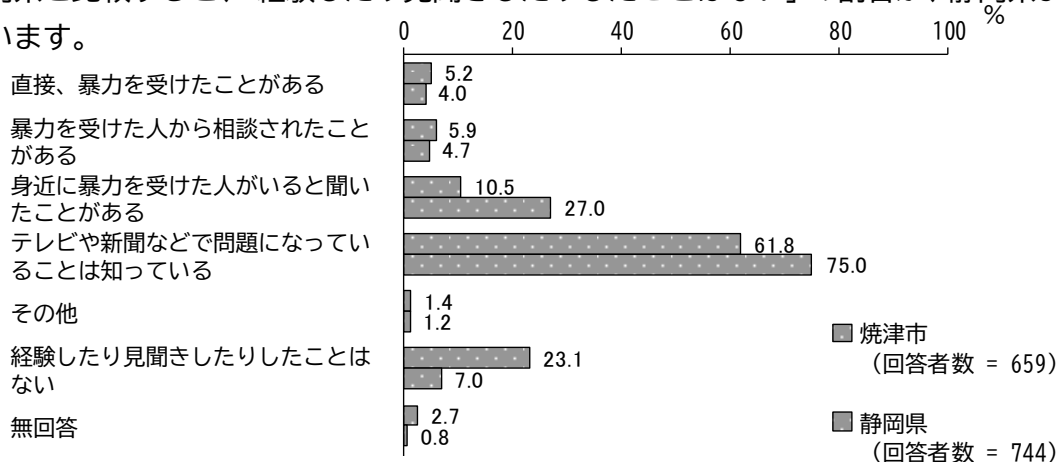
「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が 61.8%と最も高く、次いで「経験したり見聞きしたりしたことはない」の割合が 23.1%、「身近に暴力を受けた人がいると聞いたことがある」の割合が 10.5%となっています。

平成 29 年度と比較すると、「経験したり見聞きしたりしたことはない」の割合が増加しています。



【県との比較】

静岡県と比較すると、「経験したり見聞きしたりしたことはない」の割合が、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	直接、暴力を受けたことがある	暴力を受けた人から相談されたことがある	身近に暴力を受けた人がいると聞いたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	その他	経験したり見聞きしたりしたことはない	無回答
全 体	659	5.2	5.9	10.5	61.8	1.4	23.1	2.7
女性	368	8.4	7.3	11.7	62.2	1.9	21.2	2.2
男性	285	1.1	4.2	9.1	62.5	0.7	25.6	1.8
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、50代で「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が低くなっています。

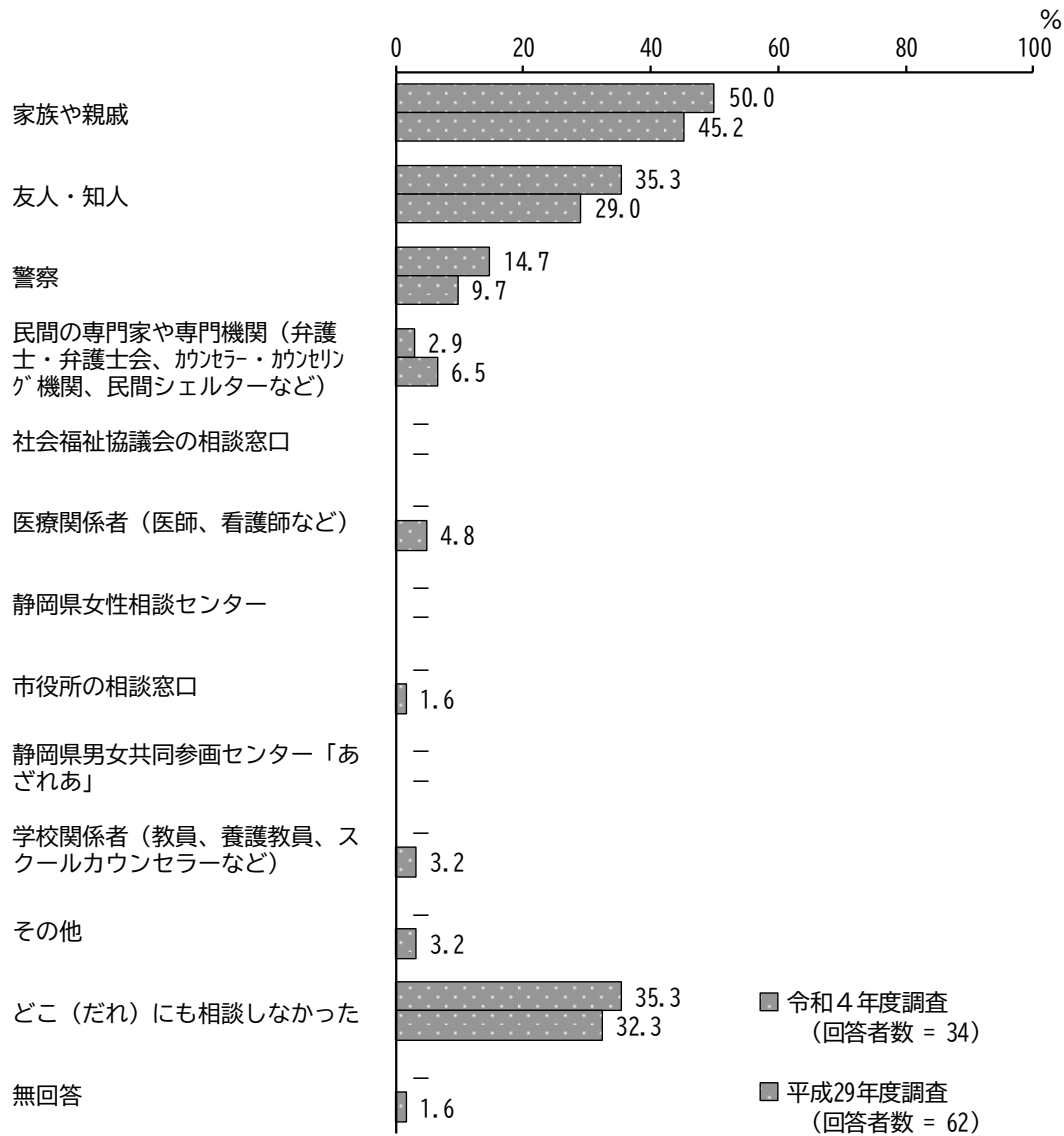
単位：％

区分	回答者数(件)	直接、暴力を受けたことがある	暴力を受けた人から相談されたことがある	身近に暴力を受けた人がいると聞いたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	その他	経験したり見聞きしたりしたことはない	無回答
全 体	659	5.2	5.9	10.5	61.8	1.4	23.1	2.7
10代	7	14.3	28.6	14.3	57.1	—	28.6	—
20代	36	5.6	2.8	11.1	63.9	—	25.0	—
30代	47	10.6	4.3	12.8	63.8	—	19.1	2.1
40代	95	4.2	8.4	10.5	65.3	2.1	20.0	—
50代	118	6.8	5.1	9.3	56.8	3.4	27.1	—
60代	149	3.4	6.7	13.4	59.1	2.0	24.8	2.0
70歳以上	202	4.5	5.0	8.4	65.8	—	21.8	4.5

問 20- 1 暴力を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

「家族や親戚」の割合が50.0%と最も高く、次いで「友人・知人」、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が35.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「友人・知人」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	家族や親戚	友人・知人	警察	民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、センター・カウンセリング機関、民間エンターなど)	社会福祉協議会の相談窓口	医療関係者(医師、看護師など)	静岡県女性相談センター	市役所の相談窓口	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」	学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
全 体	34	50.0	35.3	14.7	2.9	-	-	-	-	-	-	-	35.3	-
女性	31	54.8	35.5	16.1	3.2	-	-	-	-	-	-	-	32.3	-
男性	3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

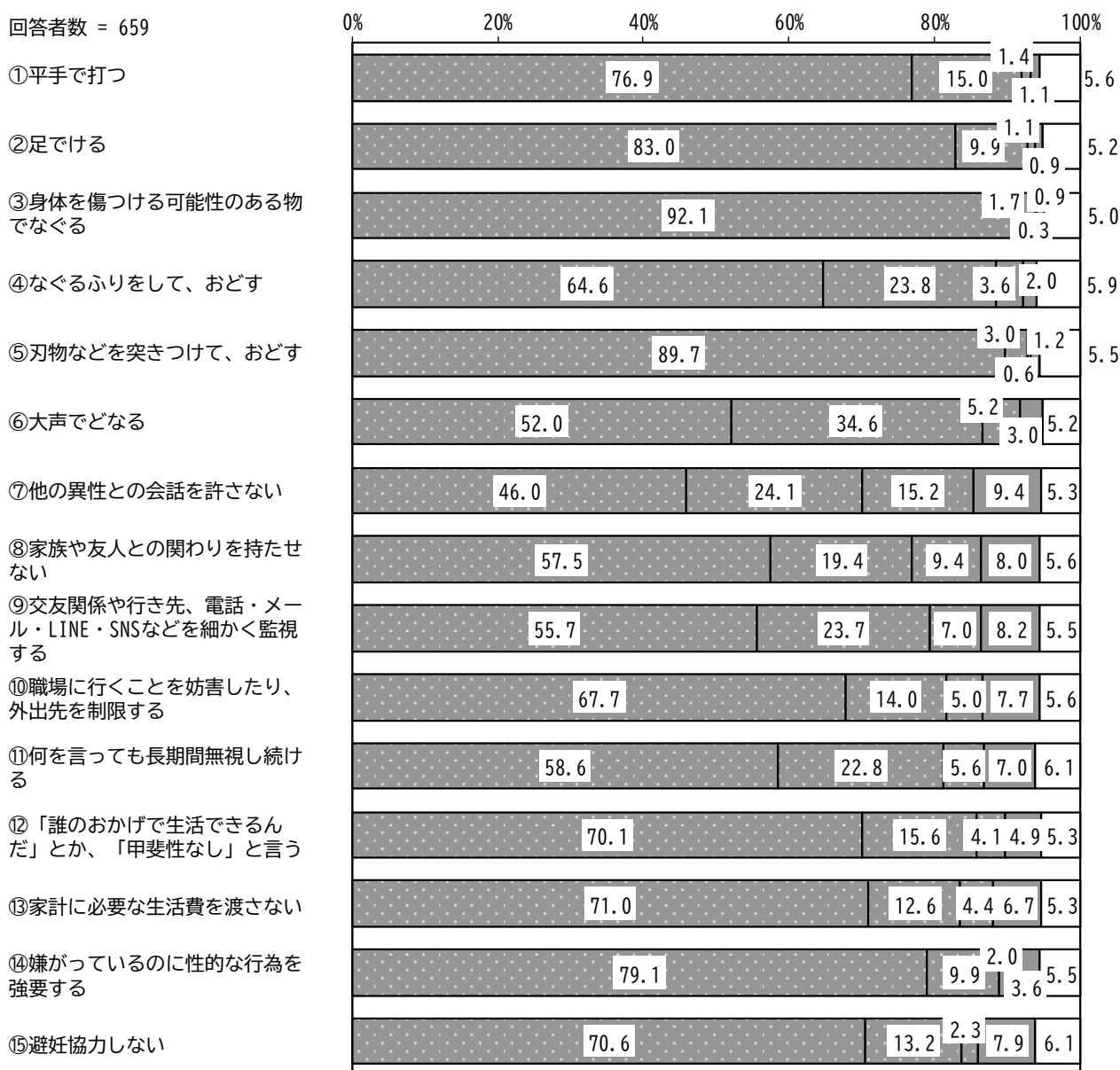
区分	回答者数(件)	家族や親戚	友人・知人	警察	民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、NPO・カウリング)機関、民間シエルトなど)	社会福祉協議会の相談窓口	医療関係者(医師、看護師など)	静岡県女性相談センター	市役所の相談窓口	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」	学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
全体	34	50.0	35.3	14.7	2.9	-	-	-	-	-	-	-	35.3	-
10代	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20代	2	100.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30代	5	40.0	80.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40代	4	25.0	50.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-
50代	8	37.5	25.0	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	62.5	-
60代	5	60.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0	-
70歳以上	9	55.6	22.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44.4	-

問 21 あなたは、次のようなことが夫婦・恋人など親しい間柄にあるパートナー間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。①～⑮のそれぞれについて、「1」から「4」のうちあなたの考えに近い番号をお選びください。なお、ここでの「夫婦」には、事実婚やパートナーシップも含まれます。

「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」、「刃物などを突きつけて、おどす」で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、「他の異性との会話を許さない」で「暴力にあたるとは思わない」の割合が他に比べて高くなっています。

- どんな場合でも暴力にあたると思う
- 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- その他
- 無回答

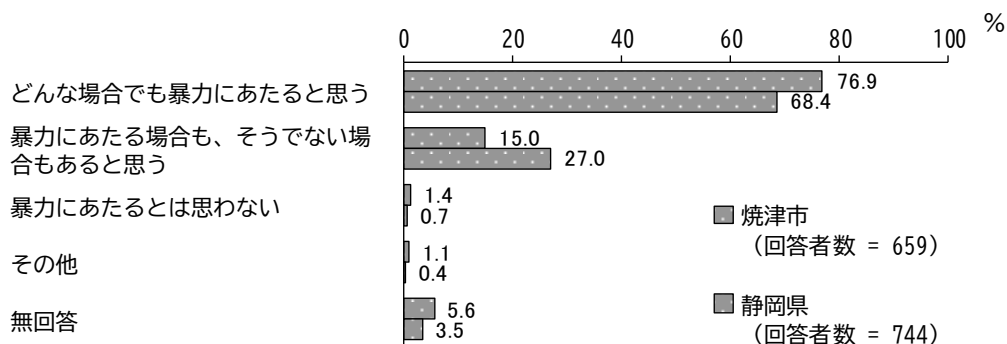
回答者数 = 659



①平手で打つ

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が76.9%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が15.0%となっています。

静岡県と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全 体	659	76.9	15.0	1.4	1.1	5.6
女性	368	79.3	13.3	1.1	1.1	5.2
男性	285	75.1	17.5	1.8	1.1	4.6
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

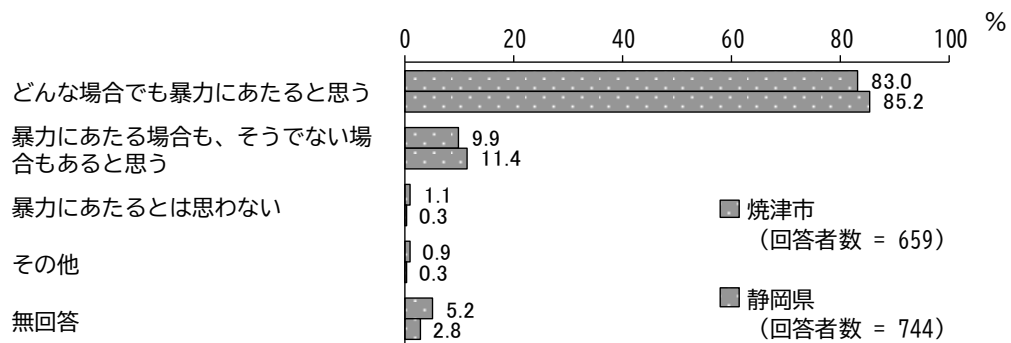
年齢別にみると、他に比べ、60代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、20代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	76.9	15.0	1.4	1.1	5.6
10代	7	57.1	42.9	—	—	—
20代	36	77.8	22.2	—	—	—
30代	47	85.1	8.5	—	2.1	4.3
40代	95	80.0	18.9	1.1	—	—
50代	118	77.1	16.1	3.4	—	3.4
60代	149	85.2	10.1	1.3	1.3	2.0
70歳以上	202	69.8	15.8	1.0	2.0	11.4

②足でける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が83.0%と最も高くなっています。静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全 体	659	83.0	9.9	1.1	0.9	5.2
女性	368	84.0	9.5	1.1	0.5	4.9
男性	285	83.2	10.5	1.1	1.4	3.9
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

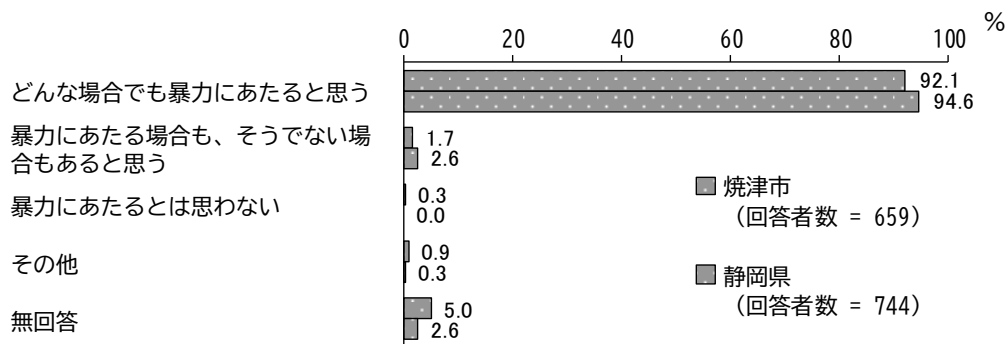
年齢別にみると、他に比べ、60代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全 体	659	83.0	9.9	1.1	0.9	5.2
10代	7	71.4	28.6	—	—	—
20代	36	80.6	19.4	—	—	—
30代	47	85.1	8.5	—	2.1	4.3
40代	95	88.4	10.5	1.1	—	—
50代	118	87.3	7.6	1.7	—	3.4
60代	149	88.6	6.7	1.3	1.3	2.0
70歳以上	202	76.2	11.4	1.0	1.5	9.9

③身体を傷つける可能性のある物でなく

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が92.1%と最も高くなっています。
静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	92.1	1.7	0.3	0.9	5.0
女性	368	92.9	1.9	—	0.5	4.6
男性	285	92.6	1.4	0.7	1.4	3.9
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

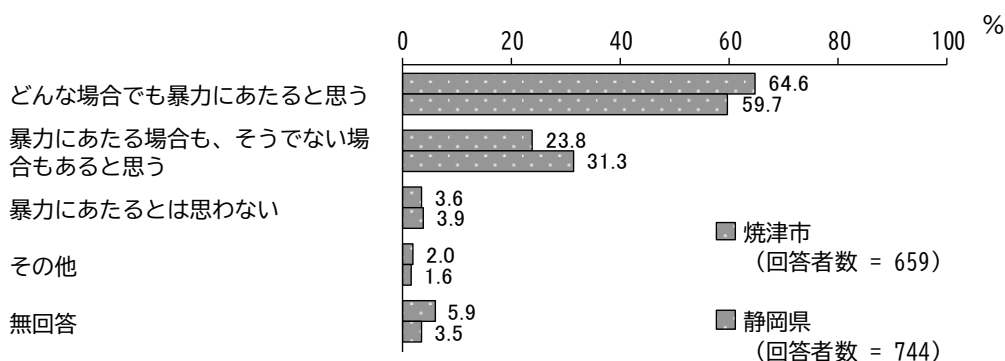
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	92.1	1.7	0.3	0.9	5.0
10代	7	85.7	14.3	—	—	—
20代	36	100.0	—	—	—	—
30代	47	95.7	—	—	2.1	2.1
40代	95	97.9	—	1.1	1.1	—
50代	118	94.1	2.5	—	—	3.4
60代	149	96.0	1.3	—	0.7	2.0
70歳以上	202	85.6	2.5	0.5	1.5	9.9

④なぐるふりをして、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が64.6%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が23.8%となっています。

静岡県と比較すると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	64.6	23.8	3.6	2.0	5.9
女性	368	67.9	21.7	3.0	1.4	6.0
男性	285	61.8	26.7	4.6	2.8	4.2
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

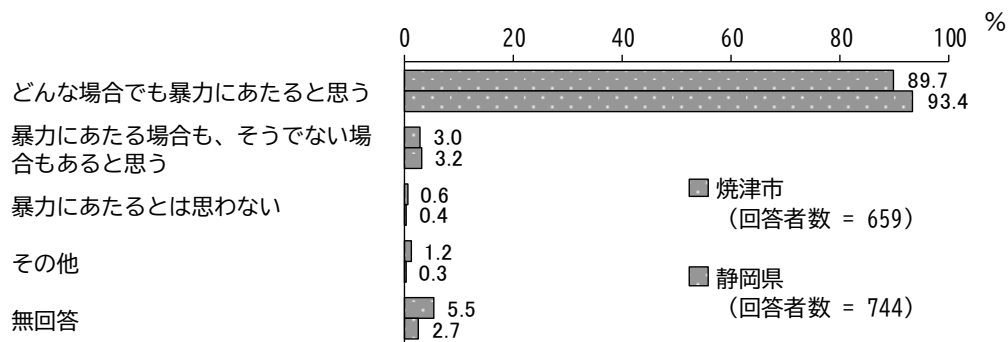
年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、20代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、30代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	64.6	23.8	3.6	2.0	5.9
10代	7	71.4	28.6	—	—	—
20代	36	80.6	16.7	2.8	—	—
30代	47	72.3	17.0	4.3	2.1	4.3
40代	95	74.7	24.2	—	1.1	—
50代	118	69.5	24.6	0.8	1.7	3.4
60代	149	66.4	26.8	2.7	1.3	2.7
70歳以上	202	52.5	24.3	7.9	3.5	11.9

⑤刃物などを突きつけて、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が89.7%と最も高くなっています。
静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	89.7	3.0	0.6	1.2	5.5
女性	368	91.6	2.2	0.3	1.1	4.9
男性	285	88.8	4.2	1.1	1.4	4.6
その他	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

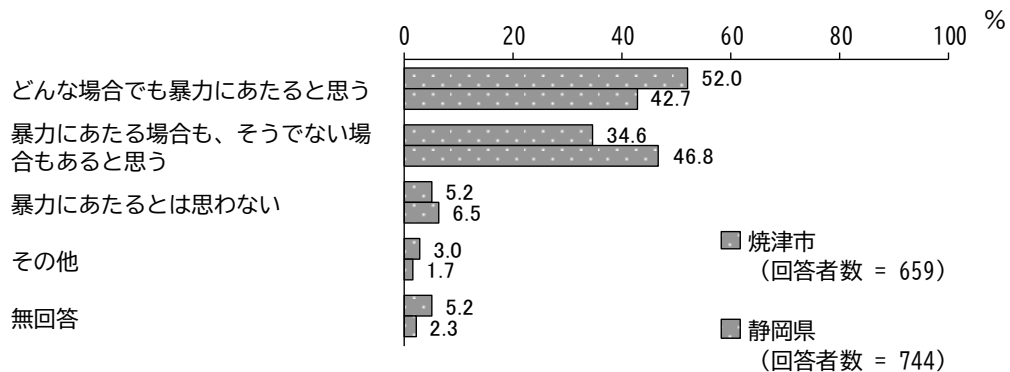
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	89.7	3.0	0.6	1.2	5.5
10代	7	100.0	—	—	—	—
20代	36	97.2	—	—	2.8	—
30代	47	91.5	—	2.1	2.1	4.3
40代	95	96.8	2.1	1.1	—	—
50代	118	92.4	4.2	—	—	3.4
60代	149	94.6	2.0	—	0.7	2.7
70歳以上	202	81.2	5.0	1.0	2.5	10.4

⑥大声でどなる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が52.0%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が34.6%となっています。

静岡県と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、静岡県より高くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、男性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、女性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全 体	659	52.0	34.6	5.2	3.0	5.2
女性	368	60.6	29.1	3.5	2.4	4.3
男性	285	42.1	42.1	7.4	3.9	4.6
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、20代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

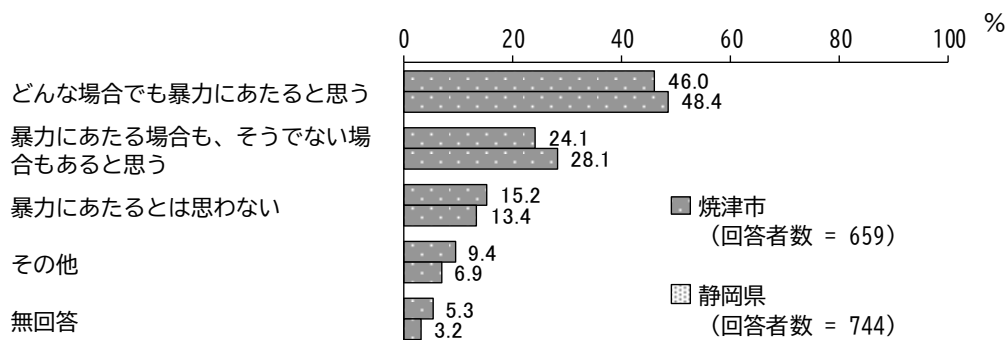
単位：％

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全 体	659	52.0	34.6	5.2	3.0	5.2
10代	7	57.1	42.9	—	—	—
20代	36	55.6	41.7	2.8	—	—
30代	47	42.6	46.8	6.4	2.1	2.1
40代	95	56.8	35.8	4.2	3.2	—
50代	118	55.9	34.7	3.4	2.5	3.4
60代	149	55.7	34.2	5.4	2.0	2.7
70歳以上	202	47.5	30.7	6.9	5.0	9.9

⑦他の異性との会話を許さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が46.0%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が24.1%、「暴力にあたるとは思わない」の割合が15.2%となっています。

静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	46.0	24.1	15.2	9.4	5.3
女性	368	50.3	23.9	12.2	8.7	4.9
男性	285	41.1	24.9	19.3	10.5	4.2
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「暴力にあたるとは思わない」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が低くなっています。

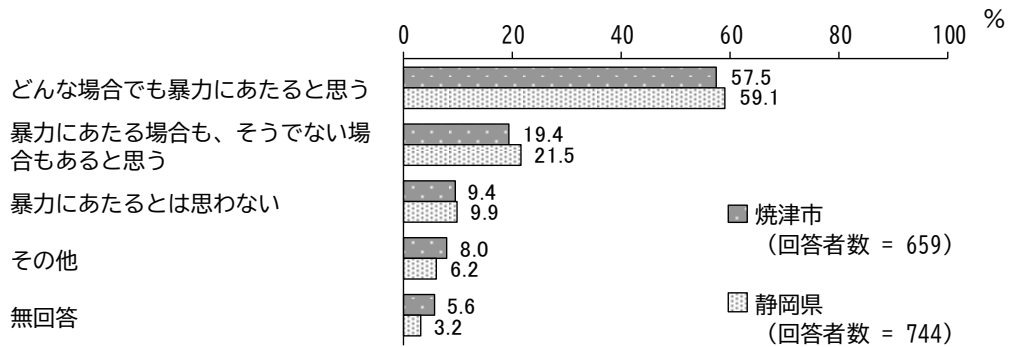
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	46.0	24.1	15.2	9.4	5.3
10代	7	28.6	71.4	—	—	—
20代	36	63.9	19.4	13.9	2.8	—
30代	47	51.1	14.9	23.4	8.5	2.1
40代	95	52.6	28.4	14.7	4.2	—
50代	118	51.7	25.4	11.0	8.5	3.4
60代	149	48.3	24.8	14.8	8.7	3.4
70歳以上	202	35.1	22.8	17.3	14.9	9.9

⑧家族や友人との関わりを持たせない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が57.5%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が19.4%となっています。

静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	57.5	19.4	9.4	8.0	5.6
女性	368	63.6	16.3	7.9	7.3	4.9
男性	285	50.5	23.9	11.6	9.1	4.9
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、50代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

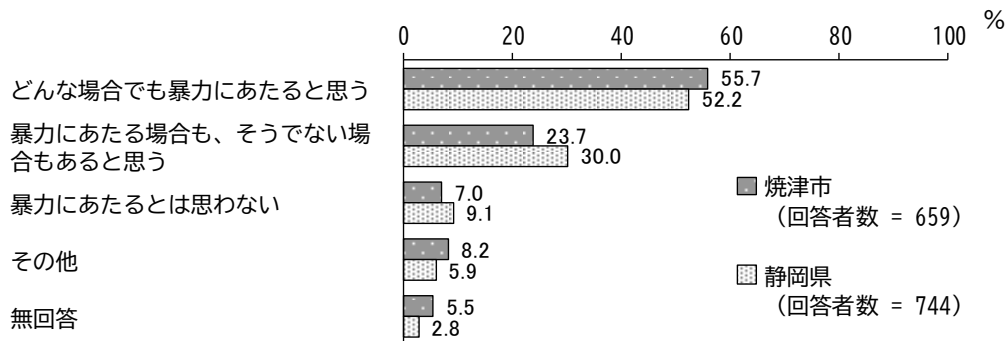
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	57.5	19.4	9.4	8.0	5.6
10代	7	85.7	14.3	—	—	—
20代	36	75.0	16.7	5.6	2.8	—
30代	47	61.7	17.0	14.9	4.3	2.1
40代	95	68.4	21.1	5.3	5.3	—
50代	118	64.4	18.6	7.6	5.9	3.4
60代	149	59.7	20.1	10.7	6.0	3.4
70歳以上	202	43.1	20.3	11.4	14.4	10.9

⑨交友関係や行き先、電話・メール・LINE・SNSなどを細かく監視する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が55.7%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が23.7%となっています。

静岡県と比較すると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	55.7	23.7	7.0	8.2	5.5
女性	368	61.7	20.7	6.0	6.5	5.2
男性	285	48.8	28.1	8.4	10.5	4.2
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、60代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

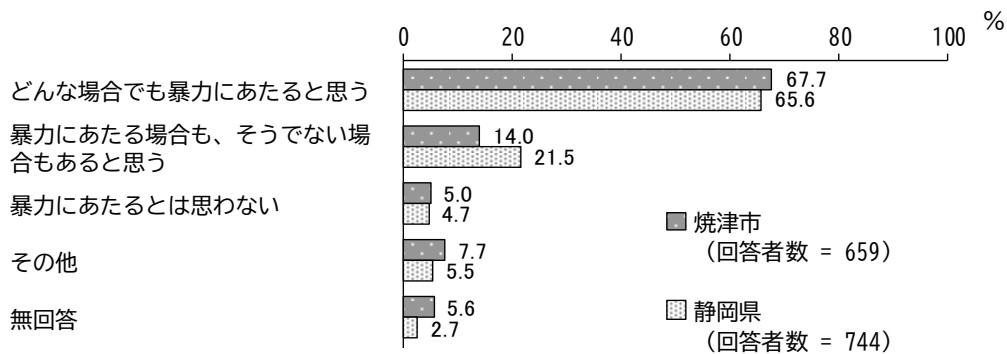
単位：％

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	55.7	23.7	7.0	8.2	5.5
10代	7	57.1	42.9	—	—	—
20代	36	58.3	33.3	8.3	—	—
30代	47	57.4	21.3	12.8	6.4	2.1
40代	95	61.1	29.5	4.2	5.3	—
50代	118	58.5	23.7	7.6	5.9	4.2
60代	149	63.1	20.8	6.0	7.4	2.7
70歳以上	202	46.5	21.8	7.4	13.9	10.4

⑩職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が67.7%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が14.0%となっています。

静岡県と比較すると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	67.7	14.0	5.0	7.7	5.6
女性	368	72.0	11.4	3.8	7.3	5.4
男性	285	63.2	17.5	6.7	8.4	4.2
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、20代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、30代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が低くなっています。

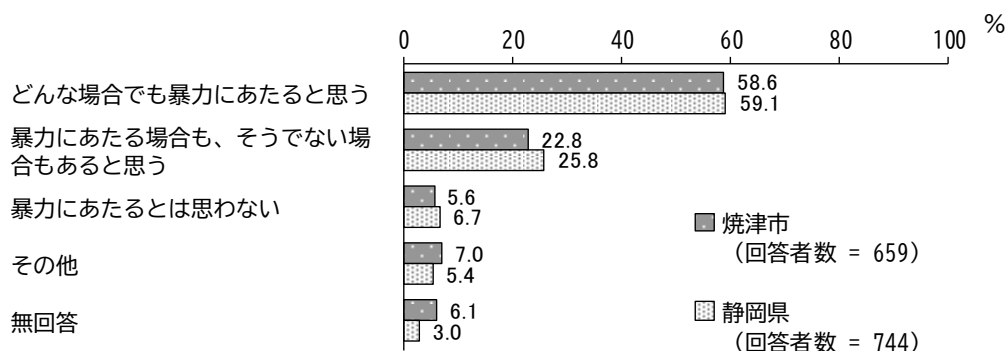
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	67.7	14.0	5.0	7.7	5.6
10代	7	85.7	14.3	—	—	—
20代	36	91.7	2.8	5.6	—	—
30代	47	76.6	8.5	6.4	6.4	2.1
40代	95	73.7	21.1	2.1	3.2	—
50代	118	72.0	11.9	6.8	5.9	3.4
60代	149	70.5	13.4	7.4	6.0	2.7
70歳以上	202	55.0	15.8	3.5	14.4	11.4

⑪何を言っても長期間無視し続ける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が58.6%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が22.8%となっています。

静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	58.6	22.8	5.6	7.0	6.1
女性	368	64.4	18.8	5.2	6.3	5.4
男性	285	51.9	28.4	6.3	8.1	5.3
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、50代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、50代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が低くなっています。

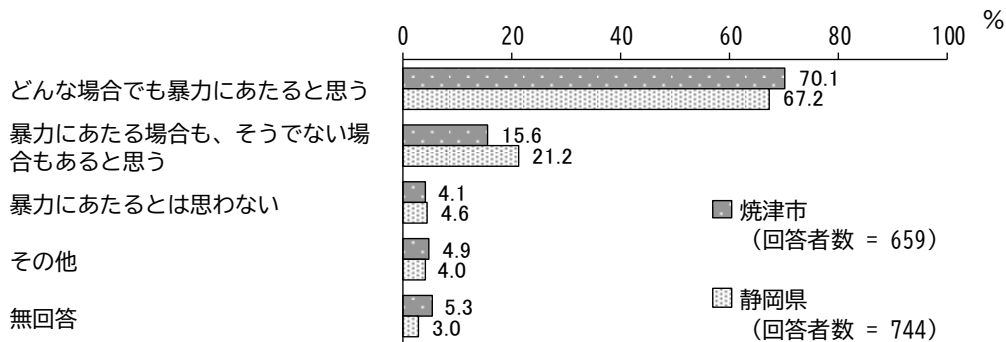
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	58.6	22.8	5.6	7.0	6.1
10代	7	57.1	42.9	—	—	—
20代	36	77.8	19.4	2.8	—	—
30代	47	59.6	21.3	8.5	6.4	4.3
40代	95	61.1	29.5	4.2	4.2	1.1
50代	118	66.1	16.9	7.6	5.1	4.2
60代	149	65.1	24.2	3.4	5.4	2.0
70歳以上	202	46.0	22.8	6.9	12.4	11.9

⑫ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が70.1%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が15.6%となっています。

静岡県と比較すると、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が、静岡県より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	70.1	15.6	4.1	4.9	5.3
女性	368	73.9	14.7	3.0	3.5	4.9
男性	285	66.3	17.2	5.6	6.7	4.2
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

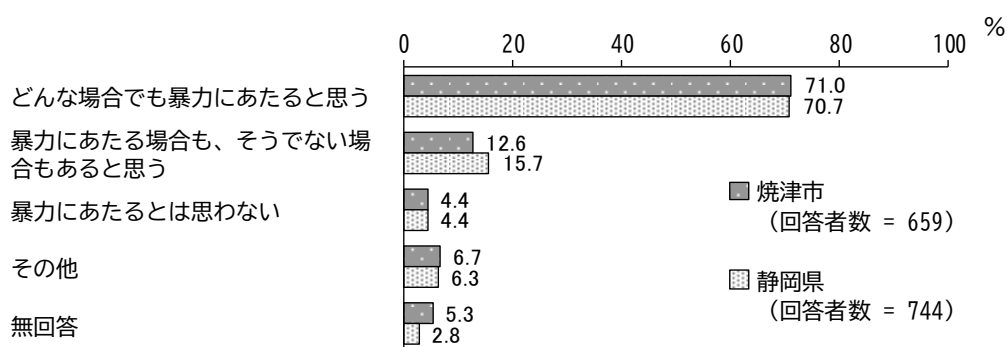
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	70.1	15.6	4.1	4.9	5.3
10代	7	85.7	14.3	—	—	—
20代	36	86.1	11.1	2.8	—	—
30代	47	76.6	12.8	6.4	2.1	2.1
40代	95	75.8	15.8	4.2	4.2	—
50代	118	72.9	16.9	2.5	3.4	4.2
60代	149	73.8	16.8	2.0	5.4	2.0
70歳以上	202	59.9	15.8	6.4	7.4	10.4

⑬家計に必要な生活費を渡さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が71.0%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が12.6%となっています。

静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	71.0	12.6	4.4	6.7	5.3
女性	368	74.2	12.2	3.8	4.9	4.9
男性	285	68.4	13.0	5.3	9.1	4.2
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

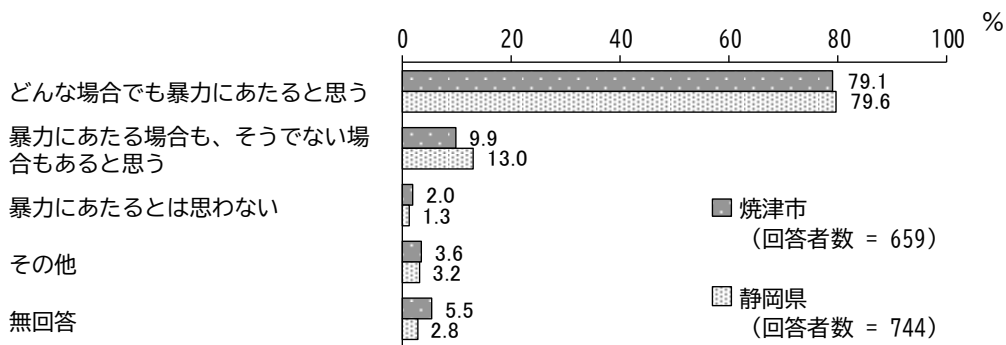
年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	71.0	12.6	4.4	6.7	5.3
10代	7	57.1	42.9	—	—	—
20代	36	83.3	11.1	5.6	—	—
30代	47	80.9	4.3	10.6	2.1	2.1
40代	95	82.1	11.6	1.1	5.3	—
50代	118	71.2	13.6	6.8	5.1	3.4
60代	149	75.8	10.7	4.7	6.7	2.0
70歳以上	202	59.9	15.3	3.0	10.9	10.9

⑭嫌がっているのに性的な行為を強要する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が79.1%と最も高くなっています。静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	79.1	9.9	2.0	3.6	5.5
女性	368	80.2	10.1	1.4	3.5	4.9
男性	285	78.9	9.8	2.8	3.9	4.6
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

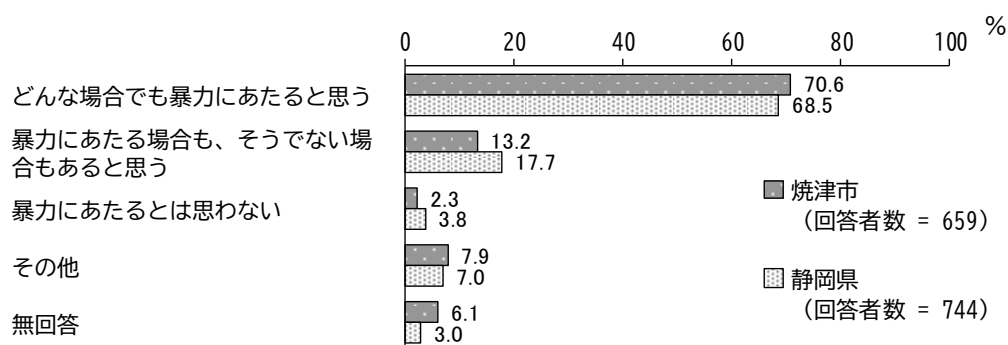
単位：％

区分	回答者数(件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	79.1	9.9	2.0	3.6	5.5
10代	7	100.0	—	—	—	—
20代	36	94.4	2.8	2.8	—	—
30代	47	93.6	—	2.1	2.1	2.1
40代	95	87.4	8.4	4.2	—	—
50代	118	84.7	8.5	0.8	2.5	3.4
60代	149	83.9	10.1	0.7	2.7	2.7
70歳以上	202	63.4	15.3	2.5	7.9	10.9

⑮避妊協力しない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が70.6%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が13.2%となっています。

静岡県と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全体	659	70.6	13.2	2.3	7.9	6.1
女性	368	72.0	12.0	2.4	8.2	5.4
男性	285	69.8	15.1	2.1	7.7	5.3
その他	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

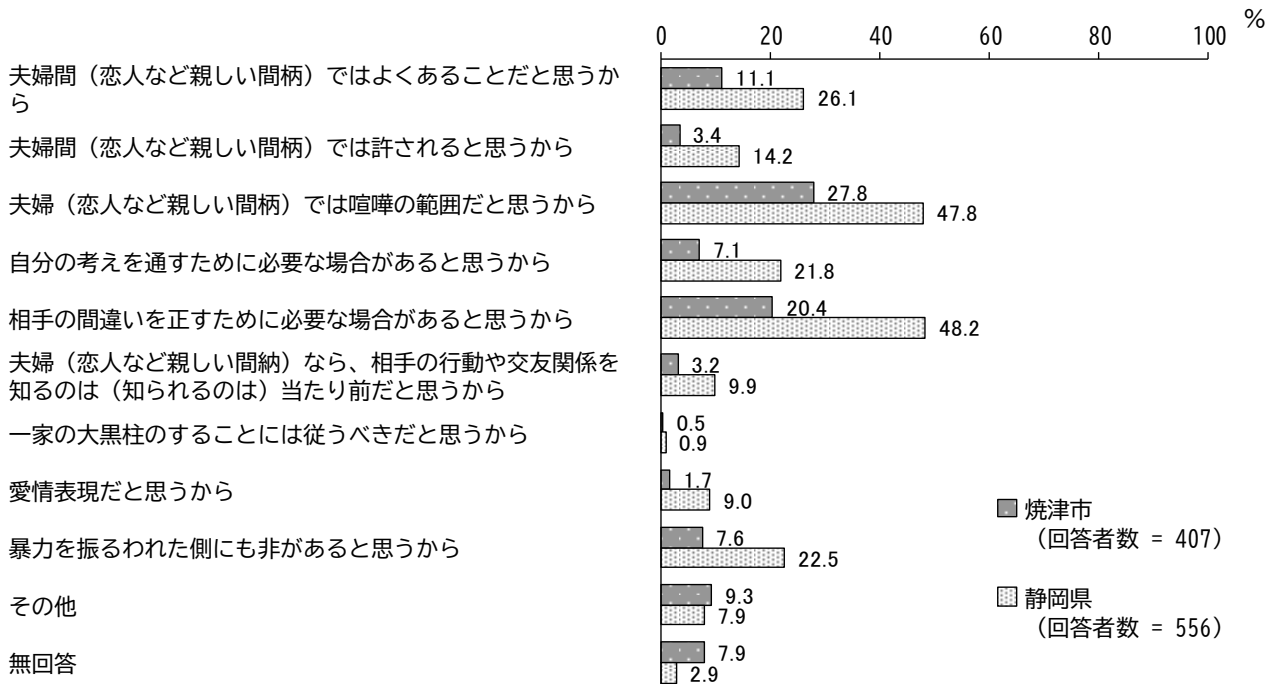
単位：%

区分	回答者数 (件)	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	その他	無回答
全 体	659	70.6	13.2	2.3	7.9	6.1
10代	7	85.7	14.3	—	—	—
20代	36	97.2	—	2.8	—	—
30代	47	80.9	12.8	2.1	2.1	2.1
40代	95	81.1	15.8	1.1	2.1	—
50代	118	76.3	11.9	3.4	5.1	3.4
60代	149	73.8	10.7	2.0	9.4	4.0
70歳以上	202	54.0	17.3	2.5	14.4	11.9

問 21- 1 そのような行為が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。(○は1つ)

「夫婦（恋人など親しい間柄）では喧嘩の範囲だと思うから」の割合が 27.8%と最も高く、次いで「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」の割合が 20.4%、「夫婦間（恋人など親しい間柄）ではよくあることだと思うから」の割合が 11.1%となっています。

県と比較すると、すべての項目の割合が、国より低くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	夫婦間(恋人など親しい間柄)ではよくあることだと思うから	夫婦間(恋人など親しい間柄)では許されると思うから	夫婦(恋人など親しい間柄)では喧嘩の範囲だと思うから	自分の考えを通すために必要な場合があると思うから	相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから	夫婦(恋人など親しい間柄)なら、相手の行動や交友関係をj知るのは(知られるのは)当たり前だと思うから	一家の大黒柱のすることには従うべきだと思うから	愛情表現だと思うから	暴力を振るわれた側にも非があると思うから	その他	無回答
全体	407	11.1	3.4	27.8	7.1	20.4	3.2	0.5	1.7	7.6	9.3	7.9
女性	210	10.0	4.8	25.7	8.1	18.6	4.3	—	1.9	5.7	11.9	9.0
男性	196	12.2	2.0	29.6	6.1	22.4	2.0	1.0	1.5	9.7	6.6	6.6
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、50代で「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」の割合が、30代で「夫婦（恋人など親しい間柄）では喧嘩の範囲だと思うから」の割合が高くなっています。また、30代で「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」の割合が、60代で「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」の割合が低くなっています。

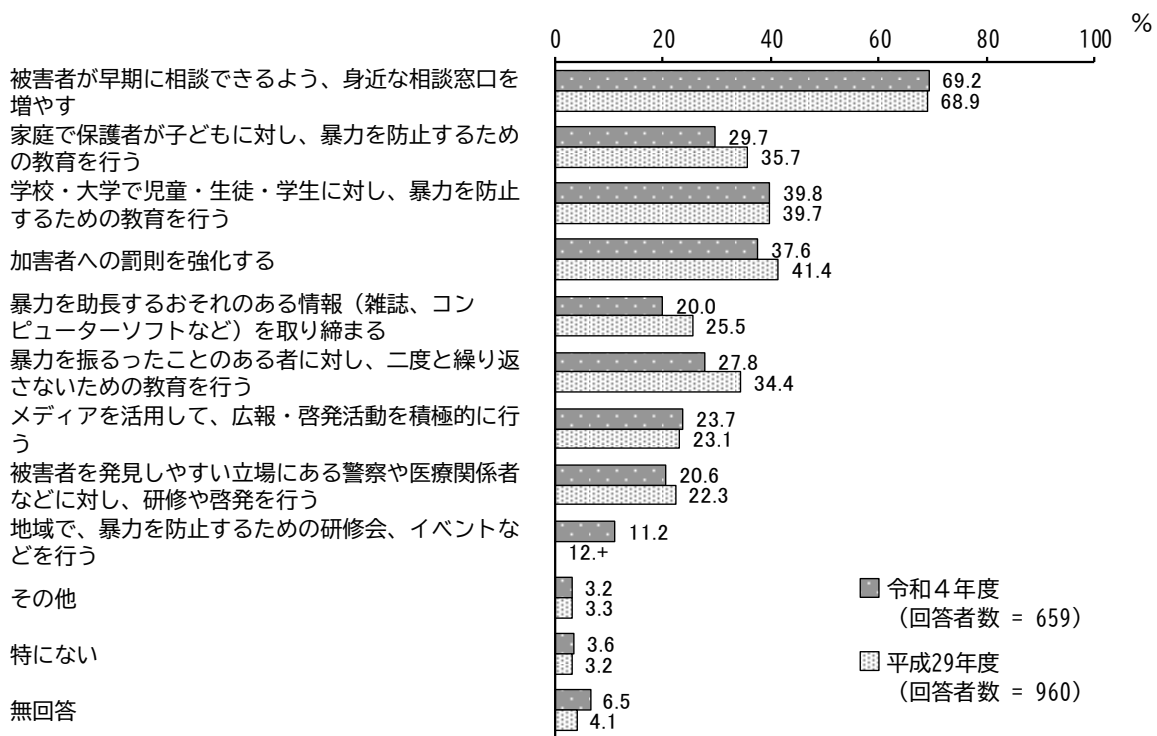
単位：%

区分	回答者数 (件)	夫婦間 (恋人など親しい間柄) ではよくあることだと思 うから	夫婦間 (恋人など親しい間柄) では許されると思うから	夫婦 (恋人など親しい間柄) では喧嘩の範囲だと思 うから	自 分の 考 え を 通 す た め に 必 要 な 場 合 が あ る と 思 う か ら	相 手 の 間 違 い を 正 す た め に 必 要 な 場 合 が あ る と 思 う か ら	夫 婦 (恋 人 な ど 親 し い 間 柄) な ら、 相 手 の 行 動 や 交 友 関 係 を 知 る の は (知 ら れ る の は) 当 た り 前 だ と 思 う か ら	一 家 の 大 黒 柱 の す る こ と に は 従 う べ き だ と 思 う か ら	愛 情 表 現 だ と 思 う か ら	暴 力 を 振 る わ れ た 側 に も 非 が あ る と 思 う か ら	そ の 他	無 回 答
全 体	407	11.1	3.4	27.8	7.1	20.4	3.2	0.5	1.7	7.6	9.3	7.9
10代	6	—	—	16.7	—	—	—	—	—	—	50.0	33.3
20代	26	—	—	30.8	7.7	23.1	7.7	—	3.8	3.8	19.2	3.8
30代	29	13.8	6.9	34.5	3.4	6.9	—	3.4	—	6.9	17.2	6.9
40代	67	10.4	—	31.3	7.5	22.4	1.5	—	3.0	6.0	10.4	7.5
50代	70	7.1	2.9	24.3	4.3	34.3	2.9	—	—	5.7	12.9	5.7
60代	85	15.3	2.4	30.6	9.4	14.1	2.4	1.2	3.5	4.7	8.2	8.2
70歳以上	124	12.9	6.5	24.2	8.1	19.4	4.8	—	0.8	12.9	1.6	8.9

問22 パートナー間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が69.2%と最も高く、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」の割合が39.8%、「加害者への罰則を強化する」の割合が37.6%となっています。

平成29年度と比較すると、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる」「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	その他	特になし	無回答
全体	659	69.2	29.7	39.8	37.6	20.0	27.8	23.7	20.6	11.2	3.2	3.6	6.5
女性	368	75.0	31.8	42.1	38.0	21.7	28.3	20.9	21.5	9.0	2.7	2.2	6.0
男性	285	62.8	27.7	37.5	37.5	18.2	27.7	27.7	20.0	14.4	3.9	5.6	5.6
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「加害者への罰則を強化する」の割合が、30代で「加害者への罰則を強化する」「被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「加害者への罰則を強化する」「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が、20代で「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる」の割合が低くなっています。

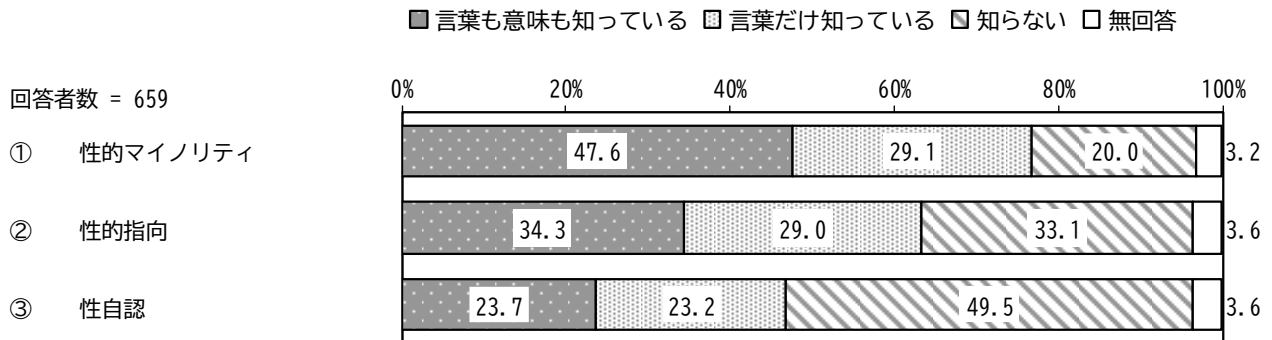
単位：%

区分	回答者数(件)	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	その他	特にない	無回答
全体	659	69.2	29.7	39.8	37.6	20.0	27.8	23.7	20.6	11.2	3.2	3.6	6.5
10代	7	57.1	28.6	42.9	28.6	14.3	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	—	—
20代	36	77.8	27.8	38.9	69.4	8.3	33.3	22.2	33.3	8.3	2.8	—	—
30代	47	80.9	42.6	34.0	57.4	19.1	34.0	19.1	36.2	8.5	4.3	4.3	2.1
40代	95	74.7	28.4	43.2	47.4	13.7	22.1	18.9	20.0	5.3	5.3	1.1	3.2
50代	118	74.6	26.3	37.3	45.8	16.1	30.5	25.4	24.6	8.5	4.2	0.8	4.2
60代	149	73.8	33.6	46.3	38.9	26.2	32.9	25.5	18.8	12.8	1.3	5.4	4.0
70歳以上	202	57.9	27.7	37.1	18.3	23.8	23.8	25.2	14.4	15.3	2.5	5.9	11.4

6 性的マイノリティについて

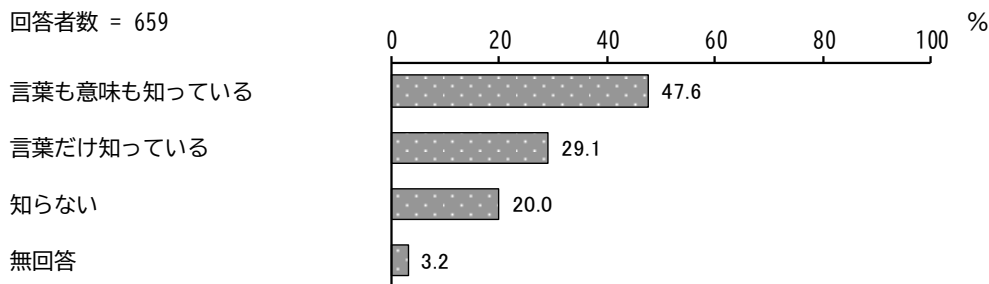
問 23 あなたは次の言葉やその意味を知っていますか。(それぞれ1つに○)

「性的マイノリティ」で「言葉の意味も知っている」の割合が高くなっています。また、「性自認」で「知らない」の割合が高くなっています。



①性的マイノリティ

「言葉も意味も知っている」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「言葉だけ知っている」の割合が 29.1%、「知らない」の割合が 20.0%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	言葉も意味も知っている	言葉だけ知っている	知らない	無回答
全体	659	47.6	29.1	20.0	3.2
女性	368	45.1	31.3	20.7	3.0
男性	285	51.9	26.7	19.6	1.8
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

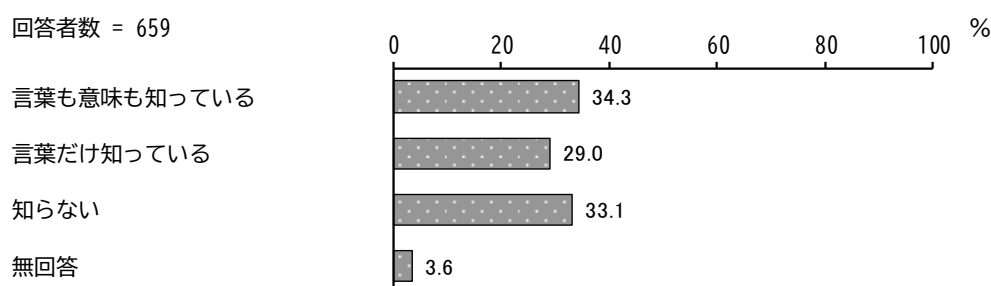
年齢別にみると、他に比べ、20代で「言葉も意味も知っている」の割合が、40代で「言葉も意味も知っている」の割合が、30代で「知らない」の割合が、70歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。また、20代で「言葉だけ知っている」の割合が、70歳以上で「言葉も意味も知っている」の割合が、40代で「言葉だけ知っている」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	47.6	29.1	20.0	3.2
10代	7	42.9	28.6	28.6	—
20代	36	66.7	19.4	13.9	—
30代	47	46.8	23.4	27.7	2.1
40代	95	62.1	22.1	14.7	1.1
50代	118	48.3	36.4	15.3	—
60代	149	46.3	36.2	16.1	1.3
70歳以上	202	39.6	26.7	27.7	5.9

②性的指向

「言葉も意味も知っている」の割合が34.3%と最も高く、次いで「知らない」の割合が33.1%、「言葉だけ知っている」の割合が29.0%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	34.3	29.0	33.1	3.6
女性	368	34.8	27.7	34.2	3.3
男性	285	34.4	30.9	32.3	2.5
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

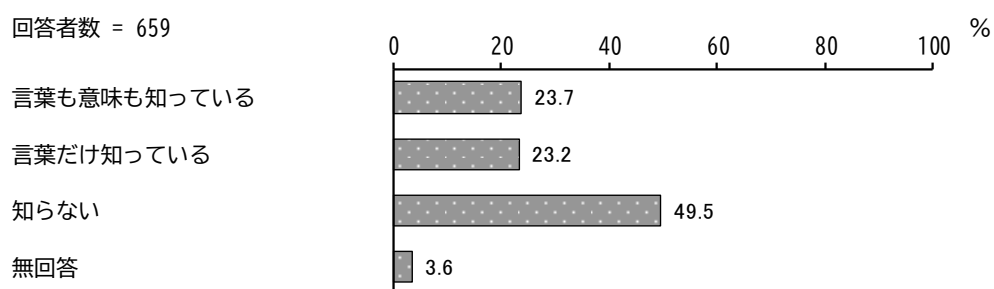
年齢別にみると、他に比べ、20代で「言葉も意味も知っている」の割合が、40代で「言葉も意味も知っている」の割合が、70歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。また、20代で「知らない」の割合が、70歳以上で「言葉も意味も知っている」の割合が、40代で「知らない」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	34.3	29.0	33.1	3.6
10代	7	28.6	42.9	28.6	—
20代	36	61.1	22.2	16.7	—
30代	47	36.2	27.7	34.0	2.1
40代	95	51.6	24.2	22.1	2.1
50代	118	36.4	29.7	33.9	—
60代	149	33.6	30.9	34.2	1.3
70歳以上	202	21.3	31.2	40.6	6.9

③性自認

「知らない」の割合が49.5%と最も高く、次いで「言葉も意味も知っている」の割合が23.7%、「言葉だけ知っている」の割合が23.2%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	言葉も意味も知っている	言葉だけ知っている	知らない	無回答
全体	659	23.7	23.2	49.5	3.6
女性	368	23.6	22.0	51.4	3.0
男性	285	24.2	24.9	48.1	2.8
その他	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「言葉も意味も知っている」の割合が、40代で「言葉も意味も知っている」の割合が、30代で「言葉も意味も知っている」の割合が高くなっています。また、20代で「知らない」の割合が、40代で「知らない」の割合が、70歳以上で「言葉も意味も知っている」の割合が低くなっています。

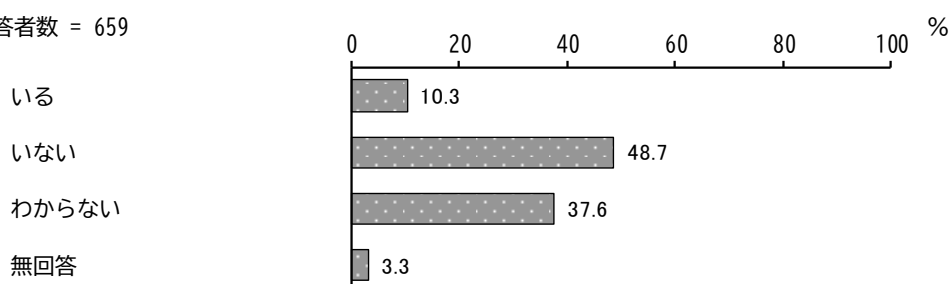
単位：%

区分	回答者数 (件)	言葉も意味も知っ ている	言葉だけ知ってい る	知らない	無回答
全 体	659	23.7	23.2	49.5	3.6
10代	7	42.9	14.3	42.9	—
20代	36	58.3	13.9	27.8	—
30代	47	38.3	17.0	42.6	2.1
40代	95	40.0	22.1	36.8	1.1
50代	118	24.6	23.7	51.7	—
60代	149	14.8	26.2	56.4	2.7
70歳以上	202	12.4	25.2	55.9	6.4

問 24 あなたの周りに性的マイノリティの方はいますか？ (○は1つ)

「いない」の割合が48.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が37.6%、「いる」の割合が10.3%となっています。

回答者数 = 659



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	いる	いない	わからない	無回答
全 体	659	10.3	48.7	37.6	3.3
女性	368	10.9	51.1	35.6	2.4
男性	285	9.8	46.3	41.1	2.8
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、10代と20代で「いる」の割合が、30代以上で「いない」の割合が高くなっています。

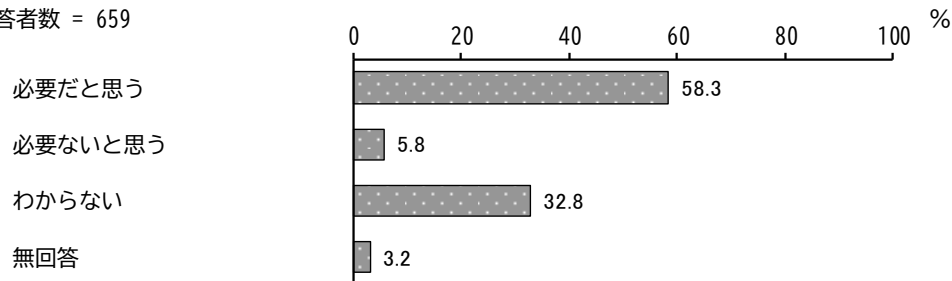
単位：％

区分	回答者数 (件)	いる	いない	わからない	無回答
全 体	659	10.3	48.7	37.6	3.3
10代	7	57.1	14.3	28.6	—
20代	36	41.7	27.8	30.6	—
30代	47	12.8	44.7	40.4	2.1
40代	95	16.8	53.7	28.4	1.1
50代	118	9.3	51.7	39.0	—
60代	149	7.4	53.7	37.6	1.3
70歳以上	202	2.5	48.0	43.1	6.4

問 25 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。(〇は1つ)

「必要だと思う」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 32.8%となっています。

回答者数 = 659



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	必要だと思う	必要ないと思う	わからない	無回答
全 体	659	58.3	5.8	32.8	3.2
女性	368	63.3	2.4	31.8	2.4
男性	285	52.6	10.2	34.7	2.5
その他	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「必要だと思う」の割合が、70歳以上で「わからない」の割合が、30代で「必要だと思う」の割合が高くなっています。また、20代で「わからない」の割合が、70歳以上で「必要だと思う」の割合が、40代で「わからない」の割合が低くなっています。

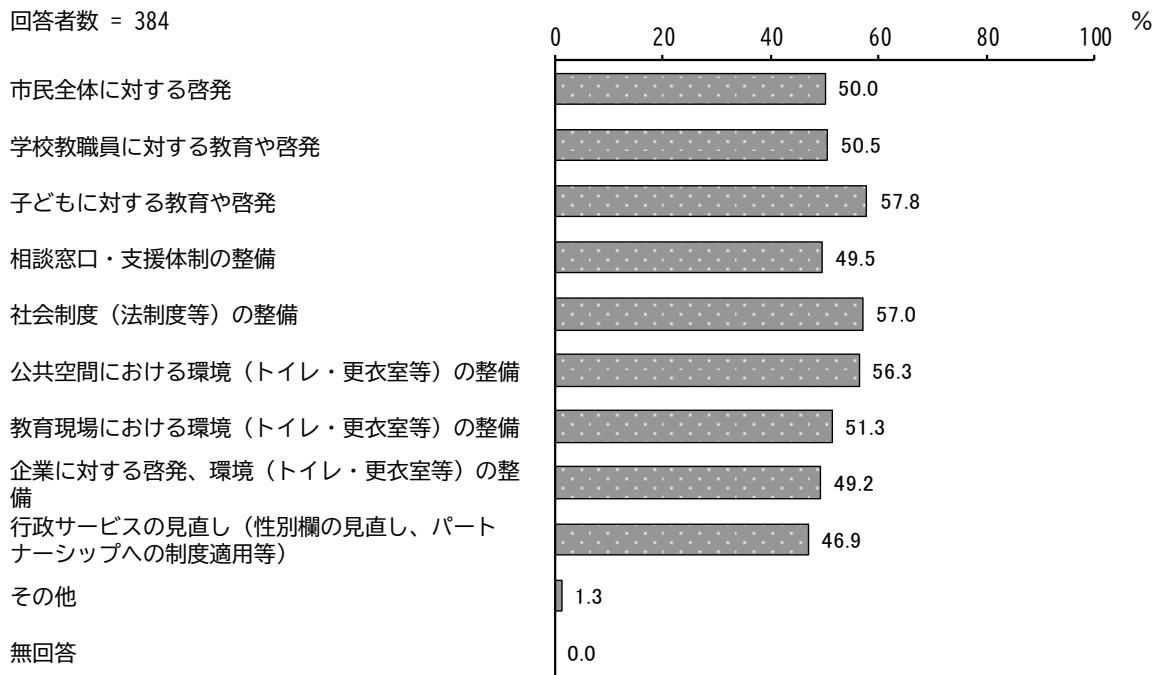
単位：%

区分	回答者数 (件)	必要だと思う	必要ないと思う	わからない	無回答
全 体	659	58.3	5.8	32.8	3.2
10代	7	71.4	14.3	14.3	—
20代	36	83.3	5.6	11.1	—
30代	47	72.3	4.3	21.3	2.1
40代	95	67.4	12.6	18.9	1.1
50代	118	68.6	2.5	28.8	—
60代	149	61.7	4.7	32.2	1.3
70歳以上	202	38.6	5.4	50.0	5.9

問 25- 1 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性別マイノリティの方々が生活しやすくなるためにはどのような対策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「子どもに対する教育や啓発」の割合が 57.8%と最も高く、次いで「社会制度（法制度等）の整備」の割合が 57.0%、「公共空間における環境（トイレ・更衣室等）の整備」の割合が 56.3%となっています。

回答者数 = 384



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「市民全体に対する啓発」の割合が、女性で「公共空間における環境（トイレ・更衣室等）の整備」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「公共空間における環境（トイレ・更衣室等）の整備」「企業に対する啓発、環境（トイレ・更衣室等）の整備」「教育現場における環境（トイレ・更衣室等）の整備」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	市民全体に対する啓発	学校教職員に対する教育や啓発	子どもに対する教育や啓発	相談窓口・支援体制の整備	社会制度（法制度等）の整備	公共空間における環境（トイレ・更衣室等）の整備	教育現場における環境（トイレ・更衣室等）の整備	企業に対する啓発、環境（トイレ・更衣室等）の整備	行政サービスの見直し（性別欄の見直し、パートナーシップへの制度適用等）	その他	無回答
全体	384	50.0	50.5	57.8	49.5	57.0	56.3	51.3	49.2	46.9	1.3	—
女性	233	44.2	49.4	58.8	48.5	55.4	61.8	55.8	54.1	48.1	0.4	—
男性	150	58.7	52.7	56.7	50.7	59.3	48.0	44.7	42.0	45.3	2.7	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「子どもに対する教育や啓発」の割合が、40代で「行政サービスの見直し（性別欄の見直し、パートナーシップへの制度適用等）」「子どもに対する教育や啓発」の割合が高くなっています。また、20代で「社会制度（法制度等）の整備」「相談窓口・支援体制の整備」の割合が、70歳以上で「子どもに対する教育や啓発」の割合が低くなっています。

単位：％

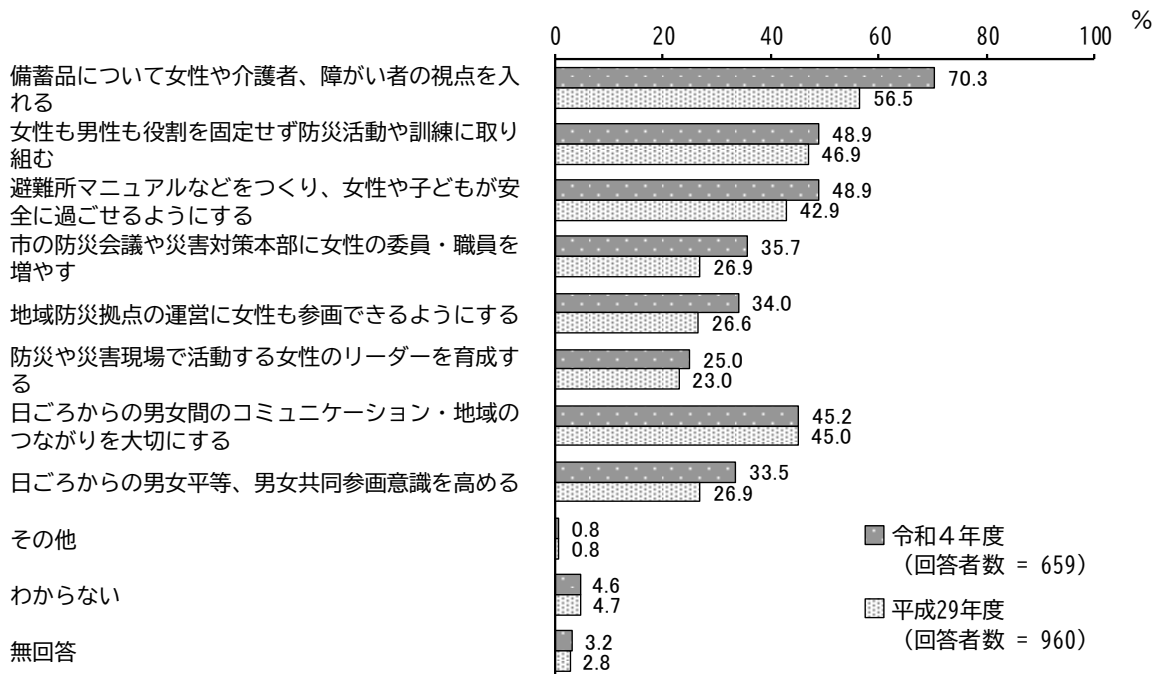
区分	回答者数(件)	市民全体に対する啓発	学校教職員に対する教育や啓発	子どもに対する教育や啓発	相談窓口・支援体制の整備	社会制度（法制度等）の整備	公共空間における環境（トイレ・更衣室等）の整備	教育現場における環境（トイレ・更衣室等）の整備	企業に対する啓発、環境（トイレ・更衣室等）の整備	行政サービスの見直し（性別欄の見直し、パートナーシップへの制度適用等）	その他	無回答
全体	384	50.0	50.5	57.8	49.5	57.0	56.3	51.3	49.2	46.9	1.3	－
10代	5	20.0	40.0	80.0	20.0	80.0	40.0	60.0	60.0	40.0	－	－
20代	30	36.7	46.7	63.3	30.0	36.7	60.0	53.3	56.7	56.7	6.7	－
30代	34	44.1	52.9	73.5	61.8	52.9	61.8	55.9	52.9	52.9	－	－
40代	64	46.9	56.3	70.3	39.1	57.8	67.2	62.5	54.7	60.9	－	－
50代	81	45.7	50.6	55.6	46.9	59.3	58.0	50.6	48.1	43.2	2.5	－
60代	92	58.7	55.4	57.6	53.3	65.2	51.1	51.1	52.2	46.7	1.1	－
70歳以上	78	56.4	41.0	39.7	60.3	52.6	48.7	39.7	37.2	33.3	－	－

7 防災について

問 26 大規模災害時に男女共同参画の視点が重要であることから、男女共同参画の視点を防災に活かすために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」の割合が70.3%と最も高く、次いで「女性も男性も役割を固定せず防災活動や訓練に取り組む」、「避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする」の割合が48.9%となっています。

平成 29 年度と比較すると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」「避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする」「市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」「地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする」「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする」「女性も男性も役割を固定せず防災活動や訓練に取り組む」「市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性で「地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする」「市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」「女性も男性も役割を固定せず防災活動や訓練に取り組む」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる	女性も男性も役割を固定せず防災活動や訓練に取り組む	避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする	市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす	地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする	防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する	日ごろからの男女間コミュニケーション・地域のつながりを大切にする	日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める	その他	わからない	無回答
全体	659	70.3	48.9	48.9	35.7	34.0	25.0	45.2	33.5	0.8	4.6	3.2
女性	368	69.0	43.2	46.5	29.9	25.5	21.5	45.9	30.2	0.3	4.9	2.2
男性	285	73.0	57.2	52.6	43.9	45.6	30.2	44.9	38.6	1.4	4.2	2.8
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする」の割合が、20代で「日ごろからの男女間のコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」「避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする」の割合が高くなっています。また、30代で「地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする」の割合が、70歳以上で「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」の割合が、50代で「地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする」の割合が低くなっています。

単位：%

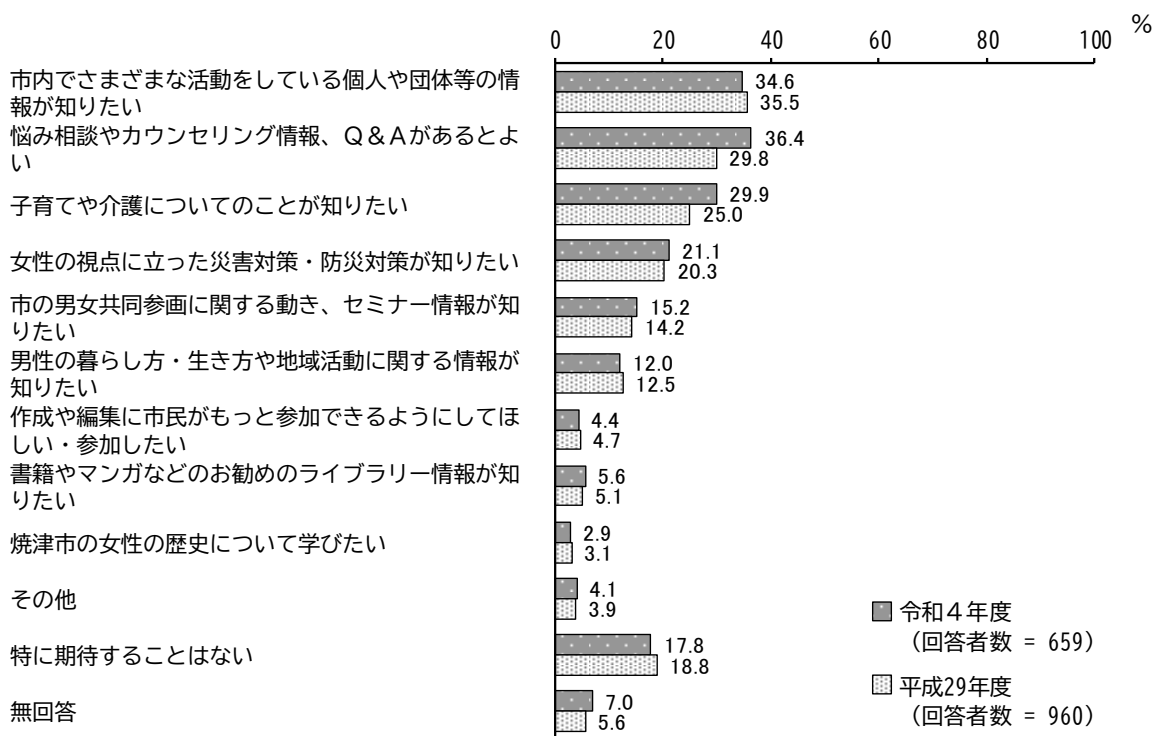
区分	回答者数(件)	備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる	女性も男性も役割を固定せず防災活動や訓練に取り組む	避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする	市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす	地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする	防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する	日ごろからの男女間のコミュニケーション・地域のつながりを大切にする	日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める	その他	わからない	無回答
全体	659	70.3	48.9	48.9	35.7	34.0	25.0	45.2	33.5	0.8	4.6	3.2
10代	7	71.4	28.6	57.1	71.4	28.6	14.3	57.1	57.1	—	14.3	—
20代	36	77.8	50.0	61.1	30.6	38.9	19.4	58.3	44.4	—	—	—
30代	47	78.7	48.9	68.1	36.2	19.1	23.4	44.7	36.2	—	6.4	2.1
40代	95	77.9	49.5	49.5	42.1	38.9	25.3	42.1	28.4	—	3.2	1.1
50代	118	73.7	39.8	48.3	28.0	24.6	22.9	37.3	25.4	0.8	5.9	—
60代	149	73.8	49.7	49.0	35.6	39.6	24.8	45.6	36.9	2.7	2.0	2.7
70歳以上	202	60.4	55.0	43.1	37.6	36.6	28.7	49.5	35.6	—	6.4	5.0

8 行政について

問 27 焼津市では、男女共同参画情報紙『A（あっ）しおかぜ』を発行しています。あなたが男女共同参画情報紙『A（あっ）しおかぜ』に期待することはどれですか。（〇はいくつでも）

「悩み相談やカウンセリング情報、Q & Aがあるとよい」の割合が 36.4%と最も高く、次いで「市内でさまざまな活動をしている個人や団体等の情報が知りたい」の割合が 34.6%、「子育てや介護についてのことが知りたい」の割合が 29.9%となっています。

平成 29 年度と比較すると、「悩み相談やカウンセリング情報、Q & Aがあるとよい」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「男性の暮らし方・生き方や地域活動に関する情報が知りたい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性で「男性の暮らし方・生き方や地域活動に関する情報が知りたい」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	市内でさまざまな活動をしている個人や団体等の情報が知りたい	悩み相談やカウンセリング情報、Q & Aがあるとよい	子育てや介護についてのことが知りたい	女性の視点に立った災害対策・防災対策が知りたい	市の男女共同参画に関する動き、セミナー情報が知りたい	男性の暮らし方・生き方や地域活動に関する情報が知りたい	作成や編集に市民がもっと参加できるようにしてほしい・参加したい	書籍やマンガなどのお勧めのライブラリー情報が知りたい	焼津市の女性の歴史について学びたい	その他	特に期待することはない	無回答
全体	659	34.6	36.4	29.9	21.1	15.2	12.0	4.4	5.6	2.9	4.1	17.8	7.0
女性	368	37.0	37.8	29.3	21.7	11.7	4.9	4.1	3.5	2.7	2.7	17.9	6.3
男性	285	32.3	35.4	30.9	20.4	19.6	21.4	4.9	8.4	3.2	6.0	17.9	6.3
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「子育てや介護についてのことが知りたい」の割合が、30代で「子育てや介護についてのことが知りたい」の割合が、40代で「子育てや介護についてのことが知りたい」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「子育てや介護についてのことが知りたい」の割合が、30代で「市の男女共同参画に関する動き、セミナー情報が知りたい」の割合が、50代で「女性の視点に立った災害対策・防災対策が知りたい」の割合が低くなっています。

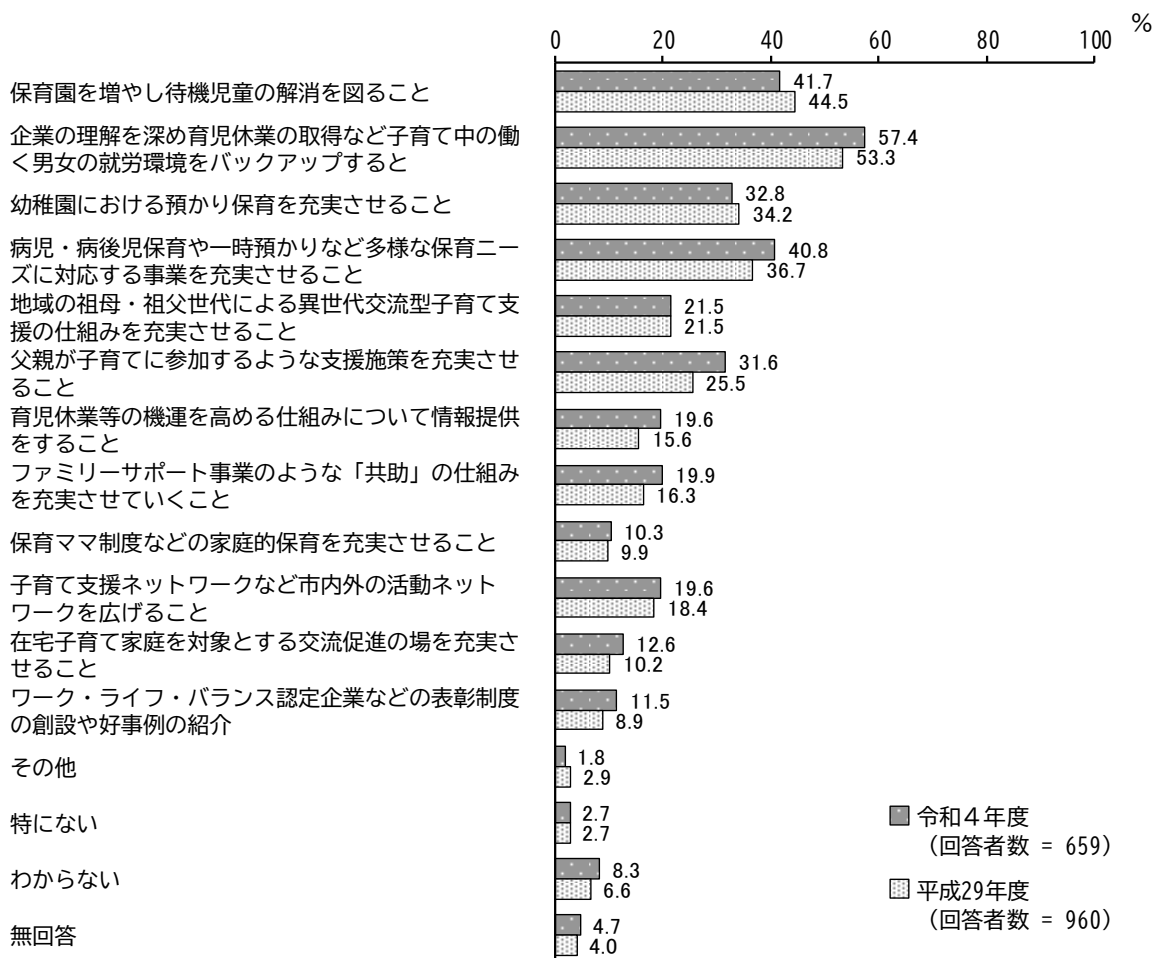
単位：％

区分	回答者数(件)	市内でさまざまな活動をしている個人や団体等の情報が知りたい	悩み相談やカウンセリング情報、Q&Aがあるとよい	子育てや介護についてのことが知りたい	女性の視点に立った災害対策・防災対策が知りたい	市の男女共同参画に関する動き、セミナー情報が知りたい	男性の暮らし方・生き方や地域活動に関する情報が知りたい	作成や編集に市民がもっと参加できるようにしてほしい・参加したい	書籍やマンガなどのお勧めのライブラリー情報が知りたい	焼津市の女性の歴史について学びたい	その他	特に期待することはない	無回答
全体	659	34.6	36.4	29.9	21.1	15.2	12.0	4.4	5.6	2.9	4.1	17.8	7.0
10代	7	42.9	42.9	28.6	42.9	14.3	—	—	14.3	—	42.9	14.3	—
20代	36	33.3	47.2	50.0	33.3	11.1	11.1	8.3	16.7	5.6	5.6	16.7	—
30代	47	40.4	38.3	42.6	31.9	6.4	10.6	2.1	2.1	2.1	—	21.3	2.1
40代	95	34.7	33.7	42.1	24.2	8.4	13.7	3.2	8.4	2.1	5.3	16.8	1.1
50代	118	40.7	46.6	37.3	12.7	16.1	7.6	3.4	4.2	—	5.9	12.7	1.7
60代	149	35.6	34.9	29.5	17.4	14.8	13.4	4.7	6.0	4.0	1.3	20.1	5.4
70歳以上	202	29.7	31.2	14.4	22.3	21.3	13.9	5.4	3.5	4.0	4.0	19.3	14.4

問 28 焼津市では多様な保育・子育て支援策を進めてきましたが、今後男女がともに子育てしていくためには、どのような施策が重要になるとお考えですか。(〇はいくつでも)

「企業の理解を深め育児休業の取得など子育て中の働く男女の就労環境をバックアップすること」の割合が 57.4%と最も高く、次いで「保育園を増やし待機児童の解消を図ること」の割合が 41.7%、「病児・病後児保育や一時預かりなど多様な保育ニーズに対応する事業を充実させること」の割合が 40.8%となっています。

平成 29 年度と比較すると、「父親が子育てに参加するような支援施策を充実させること」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	保育園を増やし待機児童の解消を図ること	企業の理解を深め育児休業の取得など子育て中の働く男女の就業環境をバックアップすること	幼稚園における預かり保育を充実させること	病児・病後児保育や一時預かりなど多様な保育ニーズに対応する事業を充実させること	地域の祖母・祖父世代による異世代交流型子育て支援の仕組みを充実させること	父親が子育てに参加するような支援施策を充実させること	育児休業等の機運を高める仕組みについて情報提供をすること	ファミリーサポート事業のような「共助」の仕組みを充実させていくこと	保育ママ制度などの家庭的保育を充実させること	子育て支援ネットワークなど市内外の活動ネットワークを広げること	在宅子育て家庭を対象とする交流促進の場を充実させること	ワーク・ライフ・バランス認定企業などの表彰制度の創設や好事例の紹介	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	41.7	57.4	32.8	40.8	21.5	31.6	19.6	19.9	10.3	19.6	12.6	11.5	1.8	2.7	8.3	4.7
女性	368	40.5	57.3	30.2	41.6	21.2	32.1	18.2	19.6	9.8	19.3	10.9	11.7	1.4	2.7	8.4	4.1
男性	285	43.9	58.6	36.8	40.7	22.5	31.6	21.8	20.7	11.2	20.4	15.1	11.6	2.5	2.8	8.4	3.9
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

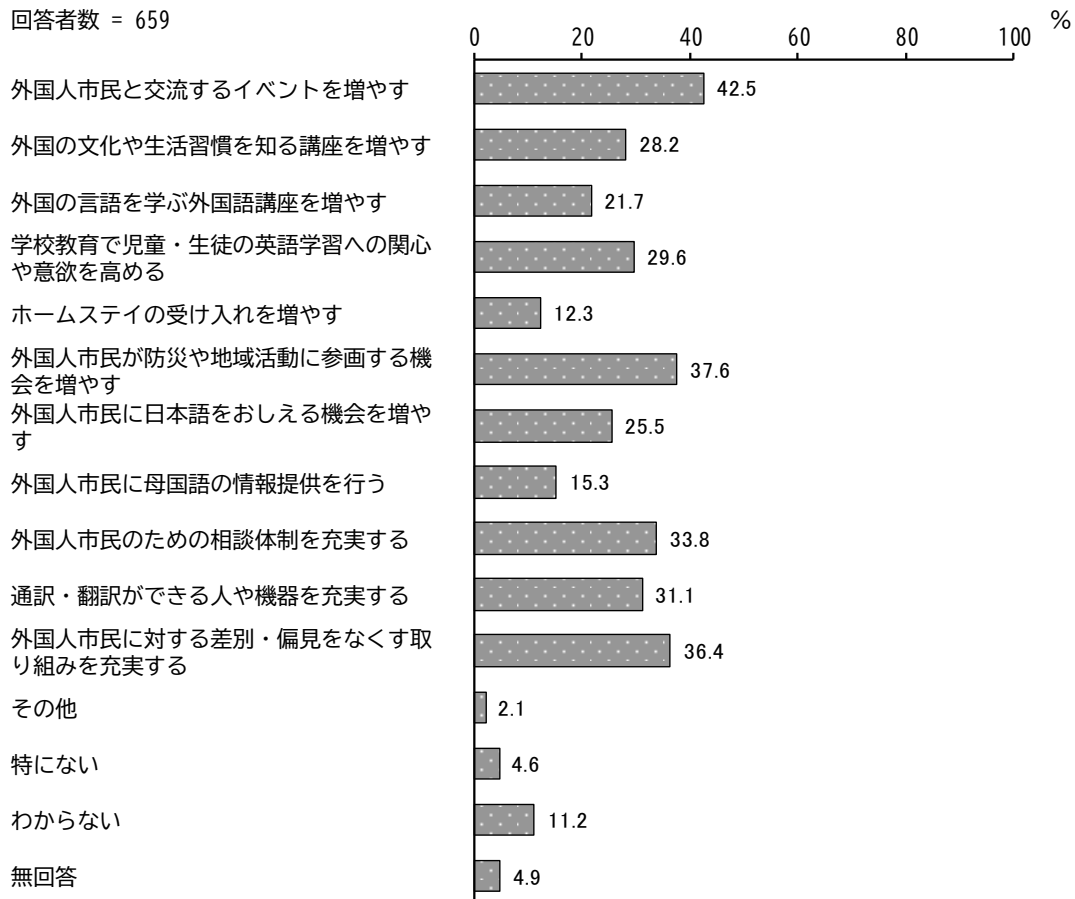
年齢別にみると、他に比べ、20代で「父親が子育てに参加するような支援施策を充実させること」「保育園を増やし待機児童の解消を図ること」「ワーク・ライフ・バランス認定企業などの表彰制度の創設や好事例の紹介」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「保育園を増やし待機児童の解消を図ること」の割合が、40代で「保育園を増やし待機児童の解消を図ること」の割合が、30代で「地域の祖母・祖父世代による異世代交流型子育て支援の仕組みを充実させること」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	保育園を増やし待機児童の解消を図ること	企業の理解を深め育児休業の取得など子育て中の働く男女の就労環境をバックアップすること	幼稚園における預かり保育を充実させること	病児・病後児保育や一時預かりなど多様な保育ニーズに対応する事業を充実させること	地域の祖母・祖父世代による異世代交流型子育て支援の仕組みを充実させること	父親が子育てに参加するような支援施策を充実させること	育児休業等の機運を高める仕組みについて情報提供をすること	ファミリーサポート事業のような「共助」の仕組みを充実させていくこと	保育ママ制度などの家庭的保育を充実させること	子育て支援ネットワークなど市内外の活動ネットワークを広げること	在宅子育て家庭を対象とする交流促進の場を充実させること	ワーク・ライフ・バランス認定企業などの表彰制度の創設や好事例の紹介	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	41.7	57.4	32.8	40.8	21.5	31.6	19.6	19.9	10.3	19.6	12.6	11.5	1.8	2.7	8.3	4.7
10代	7	57.1	85.7	71.4	57.1	14.3	42.9	42.9	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	-	-	-	-
20代	36	63.9	69.4	36.1	36.1	25.0	63.9	22.2	27.8	16.7	22.2	19.4	30.6	2.8	-	5.6	-
30代	47	46.8	66.0	44.7	48.9	12.8	40.4	31.9	23.4	19.1	23.4	12.8	17.0	4.3	4.3	4.3	2.1
40代	95	32.6	56.8	34.7	38.9	22.1	32.6	20.0	16.8	14.7	16.8	13.7	16.8	3.2	2.1	8.4	2.1
50代	118	44.9	53.4	25.4	44.1	16.9	30.5	16.1	21.2	7.6	19.5	11.0	14.4	2.5	0.8	5.9	0.8
60代	149	52.3	61.7	36.9	45.6	28.2	27.5	18.1	22.1	8.1	22.1	14.1	4.7	0.7	3.4	7.4	3.4
70歳以上	202	31.7	53.0	29.2	35.6	21.3	27.2	18.8	16.8	7.9	18.3	10.9	7.9	1.0	4.0	12.4	8.4

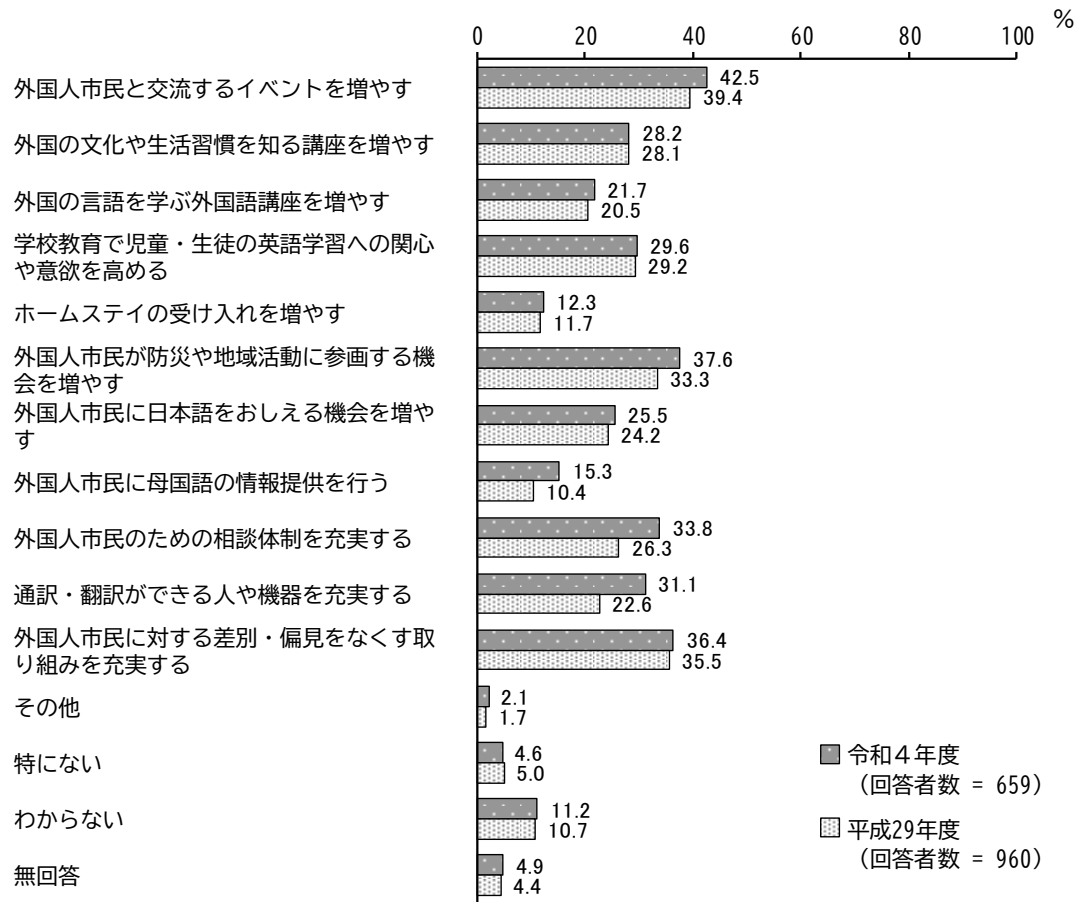
問 29 国際感覚豊かな人づくりや、在住外国人のまちづくりへの参画を進めて、国際社会の視点に立った男女共同参画を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「外国人市民と交流するイベントを増やす」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「外国人市民が防災や地域活動に参画する機会を増やす」の割合が 37.6%、「外国人市民に対する差別・偏見をなくす取り組みを充実する」の割合が 36.4%となっています。



【経年比較】

平成 29 年度と比較すると、「外国人市民のための相談体制を充実する」「通訳・翻訳ができる人や機器を充実する」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「外国人市民が防災や地域活動に参画する機会を増やす」「外国の文化や生活習慣を知る講座を増やす」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性で「学校教育で児童・生徒の英語学習への関心や意欲を高める」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	外国人市民と交流するイベントを増やす	外国の文化や生活習慣を知る講座を増やす	外国の言語を学ぶ外国語講座を増やす	学校教育で児童・生徒の英語学習への関心や意欲を高める	ホームステイの受け入れを増やす	外国人市民が防災や地域活動に参画する機会を増やす	外国人市民に日本語をおしえる機会を増やす	外国人市民に母国語の情報提供を行う	外国人市民のための相談体制を充実する	通訳・翻訳ができる人や機器を充実する	外国人市民に対する差別・偏見をなくす取り組みを充実する	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	42.5	28.2	21.7	29.6	12.3	37.6	25.5	15.3	33.8	31.1	36.4	2.1	4.6	11.2	4.9
女性	368	41.3	24.2	20.7	34.0	12.5	33.4	23.6	14.4	33.2	29.6	35.6	1.6	4.6	12.0	3.8
男性	285	44.6	34.0	23.5	24.6	12.3	43.9	28.4	16.8	35.1	33.3	37.9	2.8	4.6	10.5	4.6
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20代で「通訳・翻訳ができる人や機器を充実する」「学校教育で児童・生徒の英語学習への関心や意欲を高める」「ホームステイの受け入れを増やす」の割合が高くなっています。また、30代で「外国人市民が防災や地域活動に参画する機会を増やす」の割合が、70歳以上で「通訳・翻訳ができる人や機器を充実する」の割合が、60代で「学校教育で児童・生徒の英語学習への関心や意欲を高める」の割合が低くなっています。

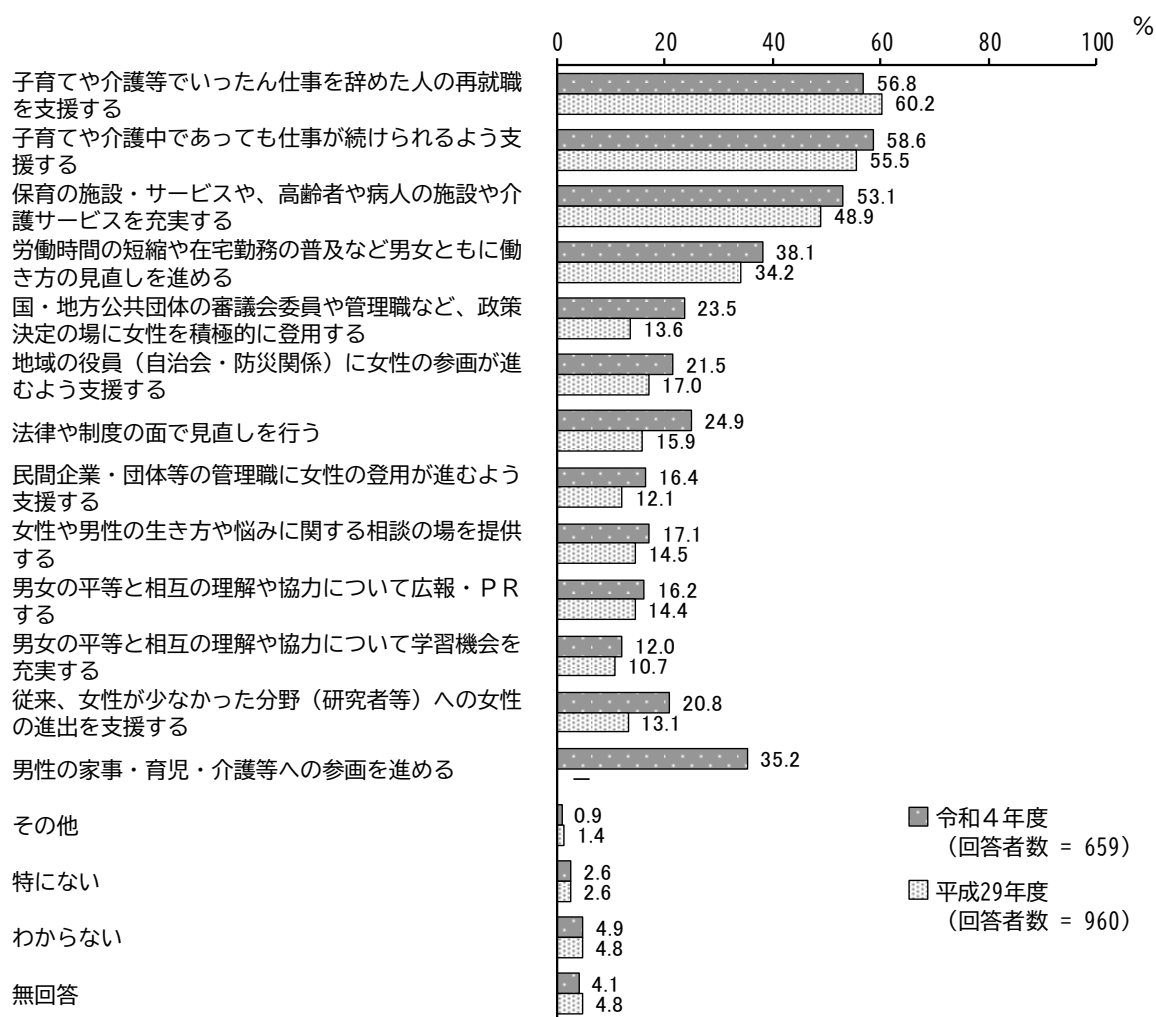
単位：%

区分	回答者数(件)	外国人市民と交流するイベントを増やす	外国の文化や生活習慣を知る講座を増やす	外国の言語を学ぶ外国語講座を増やす	学校教育で児童・生徒の英語学習への関心や意欲を高める	ホームステイの受け入れを増やす	外国人市民が防災や地域活動に参画する機会を増やす	外国人市民に日本語をおしえる機会を増やす	外国人市民に母国語の情報提供を行う	外国人市民のための相談体制を充実する	通訳・翻訳ができる人や機器を充実する	外国人市民に対する差別・偏見をなくす取り組みを充実する	その他	特にない	わからない	無回答
全体	659	42.5	28.2	21.7	29.6	12.3	37.6	25.5	15.3	33.8	31.1	36.4	2.1	4.6	11.2	4.9
10代	7	14.3	14.3	42.9	57.1	28.6	28.6	28.6	14.3	57.1	28.6	57.1	14.3	-	-	-
20代	36	44.4	36.1	27.8	50.0	30.6	38.9	30.6	33.3	50.0	52.8	50.0	2.8	-	8.3	-
30代	47	46.8	25.5	23.4	34.0	25.5	21.3	19.1	19.1	27.7	34.0	31.9	-	6.4	10.6	2.1
40代	95	48.4	31.6	29.5	37.9	15.8	33.7	23.2	24.2	31.6	36.8	29.5	3.2	2.1	9.5	2.1
50代	118	39.0	26.3	16.9	30.5	7.6	35.6	28.8	15.3	38.1	38.1	38.1	3.4	1.7	11.0	-
60代	149	45.0	30.9	21.5	20.8	8.1	40.9	27.5	14.8	33.6	30.2	38.3	2.0	5.4	13.4	3.4
70歳以上	202	40.6	26.2	19.3	26.7	9.9	43.1	24.3	7.9	31.2	21.3	36.1	1.0	7.4	11.9	9.4

問 30 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が 58.6%と最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が 56.8%、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」の割合が 53.1%となっています。

平成 29 年度と比較すると、「国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」「法律や制度の面で見直しを行う」「従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「地域の役員（自治会・防災関係）に女性の参画が進むよう支援する」の割合が高くなっています。また、女性で「地域の役員（自治会・防災関係）に女性の参画が進むよう支援する」の割合が、男性で「男性の家事・育児・介護等への参画を進める」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める	国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	地域の役員（自治会・防災関係）に女性の参画が進むよう支援する	法律や制度の面で見直しを行う	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する	男性の家事・育児・介護等への参画を進める	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	56.8	58.6	53.1	38.1	23.5	21.5	24.9	16.4	17.1	16.2	12.0	20.8	35.2	0.9	2.6	4.9	4.1
女性	368	58.7	62.0	57.1	36.7	21.2	16.3	21.5	14.9	18.5	14.4	11.4	21.5	39.7	0.5	2.2	4.3	2.2
男性	285	55.4	55.4	49.1	40.7	26.7	28.8	29.5	18.6	15.8	18.9	13.0	20.0	30.2	1.4	3.2	5.6	4.9
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30代で「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」の割合が、20代で「男性の家事・育児・介護等への参画を進める」の割合が、40代で「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」の割合が高くなっています。また、50代で「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」「地域の役員（自治会・防災関係）に女性の参画が進むよう支援する」の割合が、70歳以上で「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める	国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	地域の役員（自治会・防災関係）に女性の参画が進むよう支援する	法律や制度の面で見直しを行う	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する	男性の家事・育児・介護等への参画を進める	その他	特になし	わからない	無回答
全体	659	56.8	58.6	53.1	38.1	23.5	21.5	24.9	16.4	17.1	16.2	12.0	20.8	35.2	0.9	2.6	4.9	4.1
10代	7	71.4	100.0	71.4	57.1	28.6	28.6	42.9	28.6	28.6	42.9	42.9	71.4	57.1	28.6	-	-	-
20代	36	75.0	66.7	52.8	47.2	27.8	22.2	36.1	22.2	16.7	19.4	19.4	36.1	58.3	-	-	2.8	5.6
30代	47	70.2	74.5	51.1	63.8	29.8	17.0	27.7	19.1	27.7	14.9	19.1	19.1	42.6	-	2.1	4.3	2.1
40代	95	57.9	65.3	44.2	56.8	22.1	17.9	28.4	15.8	17.9	9.5	9.5	16.8	36.8	1.1	2.1	6.3	2.1
50代	118	61.0	57.6	55.9	25.4	17.8	11.9	22.9	13.6	20.3	13.6	7.6	18.6	39.8	0.8	-	5.1	1.7
60代	149	51.7	62.4	57.0	37.6	24.2	25.5	24.8	16.1	16.1	17.4	12.1	18.8	30.9	0.7	3.4	4.7	4.7
70歳以上	202	52.0	48.0	54.0	29.7	25.2	27.2	21.8	16.8	13.4	19.3	11.9	21.8	29.2	0.5	4.5	5.0	4.0

問 31 男女共同参画に関して、ご意見、ご要望など、ご自由にご記入ください。

10代男性

- ・情報紙だけで無く、動画配信などもした方が良くと思います。働いている職員の皆さんには、負担を増やすことになるとは思いますが、今後の将来のため、無理のない範囲でしっかりとマーケティングを行い、もっとも効果の出る方法で情報を発信してください。

10代女性

- ・男女共同参画について知っていても実際にできてはいないので、それがあたり前にできる世の中になってほしいと思いました。今度新設される焼津市体育館に、ぜひとも武道場を併設してください！よろしくをお願いします！
- ・さまざまなことに対して積極的に行うべきであると感じた。
- ・女子校に通っていて、女性だけの力でもできることが沢山あると知った。もっと女性も仕事ができるということを世の中に広めてほしい。
- ・私と同じくらいの年代の人達は義務教育を受ける中で男女格差について自然と学んできました。日々の生活の中でも、若い年代より年配者の方が男女共同参画に対する意識が低いように感じます。

20代男性

- ・建設業には、結婚して、会社をやめる方が多く、会社には、独身女性が多い。仕事と家庭の両立は、難しいのが現実だと感じた。働いて3年目だが感じた。
- ・他の市町村の活動を参考にする。近隣であれば藤枝市などが男女共同参画に力を入れている。
- ・男女間の差が無くなるのは良い事ですが、これはあくまで、差別という悪い部分を無くすということであり、男女の扱いをまったく同じにすることではないので、履き違えずに施策して行ってほしい。
- ・男女共同参画といっているが女尊を謳うかのような制度ができていく時点で形骸化しているなど感じた。完璧な平等は実現不可能でも、少しでも平等になればいいと思う所存であります。

20代女性

- ・ウェブなどでのアンケートを充実させてほしい。
- ・配偶者控除など日本的雇用慣行が男性稼ぎ手モデルを確立してきたといえる。私も103万の壁に現在苦しめられているが、女性（妻）や子どもは養われて当たり前、という考え方（制度）はもうやめにしてほしいと心から思う。また、ひとり親世帯の貧困率も過去から現在まで改善されていないため、社会保障の充実や企業の努力も必要だと考える。
- ・女性が少ない分野に、やみくもに女性をただ増やすというのは違うと思います。女性が活躍できる選択肢を増やすことができることが理想です。女性が子育てをしてほめられることが少ないように、男性が仕事をしていてもほめられることが少ないです。女性への配慮は今以上に必要だと思いますが、男性・女性とも互いに尊重をしていきたいです。

30代男性

- ・形式的な男女平等はいらない（個々の能力で判断されるべき）・実態として、女性だからずっと働かないでも良いと思っている人は多くいると思う。ただし、出産、育児というハンディキャップがあるこ

とは事実。

- ・一方で男性はやはり生活費を稼がなければならない（生活のために）・市として育児休暇を取得した男性へ独自の支援をすべき。・形式的なアンケートをとるより、他の市より先に、独自の実効性のある支援を行うべき。・焼津市は保守的で、魅力がないと思う。ただアンケート結果を集約してパーセンテージで報告するだけなら、誰も望んでいないのでやめた方が良いと思います。
- ・高齢者への補助ばかり優先させてしまい、今の若い人達にむけた支援が少ない。共同に働ける環境＝経済的に充実にはならない。子供の為に働くしかないから社会進出をせざるおえない女性はたくさんいる。財源は限られているので、高齢者の補助を票欲しさに優先するのではなく、若い人向け（子育て世代）への補助の充実をお願いします。子育てしやすい→出生率が上がる→経済状況が良くなる。経済状況が悪い状態ですすめる共同参画は結局出生率が下がって更に女性が働かざるおえなくなり負のスパイラルになるだけな気がします。また、地域活動で行うスポーツ大会？みたいなものは不要。近隣とのつながり方が昔とは違うので、はっきりいってやる事に対しての成果（メリット）がほぼない。家族での時間にあてる事ができるのに、それをじゃましている。こういった不要なものを取り除くことが、結果財源としても時間の使い方にしても共同参画社会の実現につながるのでは？と思います。共同参画社会のワードがでてきてもう 15 年以上たつと思いますが、またその実現に向けての土台にすらあがれていないと思います。

30代女性

- ・育児は男性より女性の役割がとて多いと感ずます。世の中にもっと男女共同参画が広まると良いです。アンケート結果は公表されますか？他の方がどのように思っているか知りたいです。
- ・女の人がお茶くみ、（トイレ）そうじなどを必然的に行うという考えがなくなってほしい。
- ・現在私は、子育てと仕事を両立させながら過ごしている中で、感じていることを記入させてもらいます。医療現場で働いていますが、患者さんの具合で、業務終了時間が決まるため、定時で帰れることは稀です。子育てをしながら、フルタイムで働くことは難しいので、同僚は皆パートになりました。しかし、育児、介護休業法では、短時間勤務制度というものがあり、私は職場にかけあい、社内で制度を作って頂き、前例のない、第1号として短時間勤務にさせて頂きました。しかしながら、3才までという制約があるため、ほんの1年半しか制度を利用できません。このままでは、パートになる他ありません。看護休暇、介護休暇制度と会社はとり入れていない為、有休が足りなくなると欠勤になり、賞与にも影響します。実親・義親とは遠方のため、援助はありません。子育てと仕事を両立するには会社の制度をうまく活用する他ありません。某転職サイトの担当者によりますと、静岡県全体の傾向として、古くからの中小企業が多く、アップデートされた制度自体知らず、昔ながらの体質であることもうかがいました。そういった企業体質の改善にぜひ、市で制度をPRして頂きたいです。また、鹿児島県の保育園では、夕食の用意やお風呂まで入れてくれるところがあると聞いています。仕事で帰りが遅く、子供の就寝時間に影響し、今後の発育の心配もあります。働き方改革といわれますが、企業の制度利用の改善がないため、そういった市でのとり組みも検討して頂ければとも思います。また、小学校に上がった際の放課後児童保育の時間も 19 時まで延長して頂ければ、保育園同様に仕事ができるかと思ひます。今や全世帯の7割弱が共働きである中、子育て、介護との両立に企業の制度がおいついてないように感ずます。どうか、焼津市内だけでも、子育てと仕事の両立を支援し、バックアップをして頂けますことを願ひます。

- ・あと2世代くらい政治家が入れかわらないと理想的な男女共同参画社会は実現できないように思います。このアンケートも途中女性は結婚して出産して職を辞め家庭に入るのが当然のような設問をされていて大変不愉快でした。私はこんな社会で結婚も出産もしたくありません。私のような人間も尊重されるような社会になるよう願います。

40代男性

- ・アンケートを通してどこまで男女の平等さが保てれば男女共同参画たりえるのか考えさせられました。企業の固定観念など色々難しい点はあるとは思いますがより良い形で女性が管理職など上を目指せる社会になれば良いと思います。(男女バランスを考慮したお飾りではなく、実力主義に基づいた上で)
- ・男女平等はいいことだと思うのでいいことだと思います。
- ・他市町と横並び的施策では何も変わらない。新たな全国的にも例がないような市民がわくわくするような施策を考えてほしい。学校に多目的トイレすらない市ではダメ。
- ・男性であっても、子育てや介護に対する悩みを相談する場所の提供や広報を望みます。
- ・アンケート等への回答はやぶさかではないが、回答の手間やポスト投函が面倒なので、WEBから入力出来るようにしてほしい。
- ・このアンケート回答に時間を掛け、ポストに入れに行く、アンケートを回収し、データを取りまとめる。この時代においてIoTをもっと活用すべきでしょう。働き世代の男女は、時間もお金も多くありません。夢や未来のある子供達には、平等に、男も女も中性でも大きな格差もなく暮らせる社会は、必要だと感じます。
- ・結婚して夫婦で焼津市で豊かな生活ができるように家や土地購入時の支援(補助金)また空き家をいかにして焼津市で買い上げ格安に購入できるようサポートする。将来的に少子化対策、居住者上昇になり税収上昇になる。・公園(広い)を増やす。・地域活動に女性が参加できるよう不安をなくするため情報の発信。
- ・アンケートの量が多すぎる。紙ベースではなく、LINE等でアンケートを取る事は出来ないだろうか?
- ・女だから男のやってた事もできるように、ではなく、才能のある女性は才能のない男よりもしかるべき仕事、しかるべき立場にたてて、才のない男がキツクケンエキの中に安住しない(できない)ような制度になれば~と思います。

40代女性

- ・女性活躍推進法の下に、女性の管理職への登用などに躍起になっている所もあります。しかしながら家庭では、まだまだ女性の負担の方が大きいため家事労働と社会での労働を合わせると1日17時間労働という状態になっていると思います。子供が小さければ夜中も何が起こるかわからないため24時間365日の労働となってしまいます。(極端な考え方かもしれませんが・・・)男性の意識改革もせずに女性を社会進出させようという今の状態では、女性は、社会に過労死させられてしまうのではないかと考えています。男性が1人でも生きていけるだけのスキルを持てるようにしていくことが最も重要ではないかと思っています。
- ・意識は徐々に変化してきていると思う。必要な時の相談窓口は必須だが、力づくで同じくらいを目指す必要はないと感じる(例えば、東京工業大学の女子枠)。

- ・コロナもあり、生活するために自分の意と反する働き方を選ばざるおえない状況です。子どもとの時間をもっと大切にしたいのに、一度離れたら仕事に戻れないこともあり、もどかしさを感じます。家庭の時間を大切にしたいのですが、働かなければならず、またそれでも苦しい状況になってきたと感じています。成長の一瞬一瞬をもっとたくさん見守っていける世の中になって欲しいと思います。
- ・何でもかんでも男女平等というのが気になります。男性には男性の、女性には女性の役割や向き不向きがあります。言えは言うほど女性軽視が出てくるように感じます。LGBTQに関してもそうです。私は全く偏見がありませんが（ほぼ無関心）「私はジェンダーよ！差別しないで！」と言われると逆に引きます。色々な取り組みをしていただき、ありがとうございます。全て平等ではなく、全ての人がやりたい事を受け入れる環境になる事を願っています。
- ・頑張ってください。
- ・子育て中や介護があっても、後ろめたさを感じず働けるようになるといい。・まだ「問5」のような固定的な考えの男性が多いため、なかなか「男女共同参画社会」は進まないと思う。・固定的な考えをなくすような教育を子供にして欲しい。

50代男性

- ・男女共同参画という言葉を使わなくても、男性、女性、性的マイノリティの方、全ての人が違う能力を認め合いながら、人として尊重できる。まずはそこからのような気がします。優しい社会になってほしいと思います。
- ・自分の周りでは比較的男女特に偏った生活をしている人はいない。全て（各事項）が平等ではないが、総合的には半々の配分となっていると思われる。それでも女性の負担が大きいといわれるかもしれないが現実的には女性の方が優遇されている場面が多いと感じられます（そういったイベントや権利の主張が強いように思います）。
- ・女性の市議会議員を増やして女性の目線からの問題点を深掘りしてほしい。
- ・男女でなく人としてのあり様と人として求めるものが何なのか考える必要がある。仕事は生きがいでなく求めるものを得る手段でしかない。男がとか女が参画し平等を訴えるレベルのものでない。職を得る事と働く事は違う。
- ・父親が育児に参加する事で、子供にこんな好影響があった等のpositiveな情報を発信していく事。
- ・非常に平等ではない世の中です。何かあればすぐ動くレスポンスでがんばってください。

50代女性

- ・昭和育ちの私ですが、子育てと介護が同時でした。男の参加は、ほぼありませんでした。夫が入院した時、介護3の姑を、年末年始だった為、（デイサービス休み）あずかってくれる所が無く、病院・手術のつきそいに、ほとんど困った事があります。子供の一時預りのように、介護の必要な（一人にはできない人を）一時預りしてくれるサービスがあれば、ちょっとした用事がある時に便利なのだと思います。デイサービスやショートは、手続きをしなければ利用できないので、不便な事も。女性の社会参加する事は、あたりまえになっていますが、男性の家事参加は、まだまだだと思います。共働きは当然。でも、家事、子育て、介護は妻がする事と、いまだに思っている。50~60代以上は、まだまだ多いと思います。女性の行政参加に、期待はしますが、参加しやすい環境を整えたいと思います。

- ・そもそも、男女共同参画の用語解説がもう少しわかりやすく説明することでできませんかね？もっとくだけた言葉を使ってほしい。すべてにおいて、男・女関係なく、できる人がやればいい。仕事ができない人程、平等でない、というのが、もう一度自分を見直すことができるセミナーを企画したらどうか。思いやりを持つようにすれば色々な事が解決できそう。
- ・男だから～女だから～という考えかたではなく、出来る人が出来ることを行うという考え方に変えていく必要があると思う。制度だけ先走りしても、実際に生活する人たちに合ったしくみでない、利用することができない。
- ・性別の分け方というより本人の希望が通る社会であってほしいと思います。女性でも家庭を守りたい方もいらっしゃるでしょうし、外で社会生活を中心に生きたい方もいらっしゃると思います。男性も同じです。子育て休暇があってもその休んでいる現場への負担には各会社の努力にまかせる、というのではなかなか育休を取ることもできません。助ける方も助けてもらう方もお互いが気持ちよく生きられる様な社会が作れたらいいですね。
- ・あまり男女共同参画ということにピンとこない。男女平等にということには分かるしそう願いつつも自分の中にちょっと面倒（参加することがあったら）で又昭和の考え方がまだ自分にあると思う。若い人たちが色々な発想で盛り上げてほしい。
- ・今の時代、夫は、外で働いて、妻が家で家庭を守るなんて出来ません。ほとんどの家庭が共働きですが、それに介護があります。介護をした事がない人はわからない大変さが、いっぱいあります。例えば病院に付き添うにしても、歩ければ良いが歩けなければそこまでたどり着くだけで大変。そこに階段ある、スロープがない。車いすがない、ましてや、連れていく車もないとなれば、大変。タクシーに乗せるのにも、大変。タクシー代だっただけかかります。介護度に良っては、補助なければ自己負担になります。もっと、ていへいを（下）をみて欲しいと思います。
- ・妻が夫の扶養範囲内で働くため、労働時間を短くするなど、男女平等にしようとして女性がそれを望まない場合もある。税法上の扶養・健康保険の配偶者の扶養・年金の第3号保険者が男女平等の障害となっている部分もあると思う。大人達が子供達を男だから・女だからと区別しないよう育て、個人が自立して本当の男女平等の世の中になってほしい。
- ・社会人になってから男女間の不平等はたくさんみてきました。TOPにたつ方々の世代交代が進めば多少はよくなるのですが、子供のうちから教育をしていくのが一番いいと思います。どんな方でも住みやすい焼津市にするためにがんばってください。いつもありがとうございます。
- ・子供が安心して公園で遊べる場所を作ってほしい。野球はダメとかサッカーがダメとか多い気がします。地域の方の理解も必要とかんじます。あと、焼津市には武道など学ぶところが少ない、子供の門戸を広げてここならばできる、これならばできるをふやしてほしい。また、子供にも総合スポーツを学ば、どれが自分に合うか試せるとよいかと思う！！公園で子供が動かない姿は、心配です。
- ・現在、高齢一人暮らしの母親、生活援助を娘、私1人で負担しています。ストレスで病気にもなりました。最近夫も少し手伝いをしてくれますが、細かな気づかいはやはり仕事をしている為時間も無く無理です。自分の性格上、社交的なので外で働いていたのですが、コロナ禍で仕事を失い、母親を支えながらできる時間帯の仕事を探しているのですが、なかなかありません。年齢的にも60才手前なので・・・。私のような悩みを抱えている方も沢山います。働きやすい世の中になればと思います。
- ・このアンケートは紙での回答ですがSNSやインターネットをつかって回答とすれば集計される方もかなり楽だと思います。SNSやネットでの回答ができるかできないかがむずかしいところですが紙での回答は答える方も集計される方（役所の方）も手間だと思いますので次回ご検討ください。

- ・男女雇用均等法といっても、まだまだお茶くみは女性の仕事だったりするわけで、これは日本の文化というか習慣というか、なかなか全く男女平等はむずかしいとおもいます。
- ・今までの考えが間違っていたと思う事が大事かな。
- ・経営者として、子育て、介護者に対し、柔軟に対応していきたいと考えつつ、大企業ではない限り、人員の確保が難しい。社会全体で、子育て支援や介護者が離職しないで済む支援の充実をしない限り、経営側にだけ求められる事には限界を感じる。アメリカに行った時などは、家の中で本当に男の人が自然に子育て、家事などに参加していた。日本はまだまだ遅れていると感じる。小さいうちからの教育、もっと啓発活動をしないと、変わっていかない。
- ・育児や介護でフルタイムで働く事が出来ず、月日が過ぎそれがなくなかった時の支援や補助。特に介護が終了時の収入支援。介護破産等今後問題になると思う。施設等の負担割等1対1の場合介護者本人の年金が良い場合介護する側の金銭的負担はかなりかかり、介護者が死亡後の生活が大変（収入が減る（年金）が介護していた人はフルタイムや正社員として働くのが難しい為アルバイトやパートなど短時間就労の為1人になった時の収入の確保が難しい）。切実です・・・。
- ・自治会の役員など男性がほとんどの様に思います。災害が起きた時など、女性、高齢者、子どものことなどを考えてもらえるのか不安になることがあります。例えば生理用品、オムツのことなど、日頃から男性もそういったことに関心を向けられるような講座などで情報を提供してほしいです。できれば中学生くらいの男女から参加できるものにし、男女共共通の認識としてある状態にできればいいと思う。
- ・何をもちの平等か、よく考えることが必要である。

60代男性

- ・男女はもちろん老若男女全ての人々がお互いに理解し合える社会を構築していくことが望ましいと考えます。
- ・小中PTAや地域役員は、男性ありきの考えを変えさせていくべき。
- ・行政が主催する会議では、権威者、自治会長、議員等その人の専門性ではなく肩書で、選出された方々で行なわれることもあると思います。そもそもその方たちは男性優位の時代で過ごされて来た方であり、良くないと思っても回り同じ時代の方々に変革を求めるのは難しいのではないのでしょうか。現に直面している今の若い世代・外国人が加わらない会議は、全く意味をなさないと思います。まずは会議のあり方、仕組などの変革から取り組まれた方がよいと思います。すでに取り組まれていらっしゃるのであれば、お詫びいたします。※アンケートということですが、上記はまだ解決していないため、今回アンケートをとられているのではないのでしょうか。防災問題、子育て問題、人口問題いずれも本来解決に近づいていなければならない問題であり、あまり進んでいない感じを受けます。スピードを上げて是非対応お願いします。
- ・期待する事はない。・大括りで男女共同参画といっても抽象的で理解できない。
- ・女性が働けるよう頑張ってください。市長に期待してます。
- ・老若男女にかかわらずに、お互いに理解し合う事が大切ではないのでしょうか！・常に、よく話し合う。誰とでも！
- ・無理・無駄をなくして住みやすい「共生」の生活が実現できる様官民あわせて取り組み是正を図る。

60代女性

- ・高齢化社会が進み、私も高齢な母をデイサービスを利用しながらパートで働いています。ストレスや、悩みを抱えながら働くのは辛いです。相談の場を提供してもらい何かアドバイスをお願いしたいものです。
- ・私は18才で入社した会社で42年勤め今年4月に退職をしました。26才で第1子を出産しその時、生後2ヶ月で会社に復帰しました。(先輩達と同じく) 多少の制度はあったものの当時はほとんど時短など使う女性はいなかった。上司への理解も得られず。たぶん、先輩達は家に姑がいて助かっていたと思う。そんな私も本家に子供を預け働ける環境にあったので42年間働けた。前にも書きましたが子供が病気の時が一番辛く看病に日数をかけられず、又、夫が育児に参加する時代でもなかったため姑にタクシーで何回も病院に連れていってもらった。感謝でいっぱいでした。現在は息子夫婦と2世帯で3人の孫もいます。ダブルワークなので(今は、息子も育休中、4ヶ月取得) いずれ孫の世話は私達夫婦がサポートする事になる。(現在も多少している) 昨今の少子化問題はすごく大事な問題で、安心して勤められる環境であれば女性もすばらしいキャリアを捨てず勤められる。男性も女性も皆、安心して子を産み育てられる社会、制度、会社の理解(制度があっても使いづらさがある)が益々充実していけたら、良いと思う。又、祖父母世代も働いている人が多く、孫の世話をする人は少ないですね。焼津は今以上に子供を育てやすい市であってほしいです。頑張ってくださいね。
- ・身体的、能力的にももちろん男女差があるので、人間同士としてお互いに尊重し合うスタンスで考えたら、いろんな問題にシンプルになると思います。
- ・日常生活に追われていますが、改めて、このような質問を受けたことで、以前には、考えてこなかったような問題が、大都会ではなく、人口の少ないこの焼津でも、おこっているのかな?と!!・デリケートな部分もあり、大きく広める機会が、必要なかわかりませんが、色々な案件をオープンにすることで、私たち市民の理解が増すと思われます。※はっきり意味がわからない言葉が多かったです。(何となく知っているだけ・・・)
- ・女性が社会的に対等な立場になる時代になった、と同時に責任を持つことも必要だと思えます。
- ・アンケートに一応回答させていただきましたが男女共同参画について其々家庭環境、人格etcがちがい仕事についても男性でなければどう頑張っても女性にはできないものその反対もありきです。すべて男女平等にする必要はなくお互い持ちつ持たれつそんな考え方もあるのではないかと60代の私は思います。
- ・私にはむずかしい。
- ・60代の夫は、退職し、今は、アルバイト程度だが、妻が仕事で夫が家にいても、家事はほとんどしない。今までの生活習慣でやらない、女が家事、育児をやるものと思っている。妻の方が病気になる事もあるので、少しずつ、家事をやるように、伝えているが・・・むずかしい。その年代への男性への、家事(料理、そうじ、等)をアピールする事を行政で伝えてほしい。20代~30代の男性は、子育て、家事に協力的な人が多いと感じる。
- ・職種も増え休日がカレンダー通りではないなかで地域活動日が従来同様カレンダー休日がほとんど・・・生活が多様化しているので難しい。
- ・とつぜん、このような調査が届いて、何もわからない状態でアンケートに答えただけ、これからは、こういう時代が来るんだなと実感しました。

- ・地域の役員をやっていた時に懇親会を兼ねた定例会がありました（4月に）。その際会合の後でかん単な宴会のような会がありました。その片づけを女性部と保健委員（女性）がやることになっていて、男性の方（組長さんや役員さん）は、食べるだけで片づけもせず帰っていきました。今までの慣例のようでしたが、30代の若い体育委員さんは食べた食器等を自分で持ってきて片づけを率先してやっていました。洗いものや家事は女性がやるものと思っているおじさんたちがまだたくさんいるんだなと思いました。そのような古いお考えの人たちに今の時代はこうだよと言っても、なかなか考えを変えろとは思えないのでこれからの若い男性女性たちが納得していくための制度改革や予算計上をしてあげてほしいです（乱筆ですみません）。
- ・男女共同参画という言葉を替えたほうが良いと考えます。差別をなくすのは100%無理だと思いますが、小学生の頃から教師や親が学び子供達に態度で示す事が良いと考えます。
- ・それぞれの個性や能力を十分に発揮しながらいきいきらせる社会の実現のために行政として何ができ、そこにいくらの支援を出すことができ、それによって得た結果は何であり、次世代へとつなげられる。位の目標のために必要なアンケートだと思います。アンケートの結果焼津市は男女共同参画社会をこのように実現するための目標をかかげた一等の報告がどこかであれば、又目につくところであればたのしいですね。いつも大変な活動してくれているのは評価しております。これからも頑張って焼津をいい町にしてください！！どうぞ宜しくお願い致します。
- ・問30⑤、⑥、⑧等について。◎何の理由もなく、女性の登用を行なうのでは無く、その人物が、実力（信用・誠実・仕事力）があれば良いけど！！その様な点も注視する必要があると思います。

70歳以上男性

- ・私の若いころの時代と「今」とがだいぶ変わってしまったため、今の時代について行けないかも。
- ・私の場合年金生活、無職であり高齢者ですので回答が資料として利用出来るかと考えます。年令上限をして、対象者を無作為で選んでは、どうですか？
- ・零細企業に従事する者にとって労働規則などあって無に等しい。
- ・焼津市内で英語習得特別学級を作って人材の育成に取り組んで欲しい。IT習得特別学級を作って人材の育成に取り組んで欲しい。（小学校・中学校教育から始めるような学級）
- ・男女共同参画社会を通じて自治会の防災委員長体験の中で防災委員が男性で構成されているのにきずき2015年（平成27年）4月に女性防災専門委員6名任命し、男性と同様に避難所生活訓練に活躍しています。また、避難生活の中で女性の視点で整理用品、ミルク、老人用オムツ等整備できた事は助かった。市民協働化から男女共同参画についてインタビューを受けた。
- ・問30の12について更に推進する！
- ・男女共お互いに認め尊敬する事。
- ・地域の役員において、現在では女性の方が非常に少ないと思います。女性の方も、もっと積極的に役員をやってもらいたい。・一般女性で地域の役員をやりたいという方は、でてこないのが、現状であると思います。
- ・ジェンダー、ポジティブ・アクション、ワーク・ライフ・バランス、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ等々、横文字が多過ぎる。わかり易い日本語に変換すべきと思うが・・・。”男女共同参画”という言葉が出現してもう20年以上になる。今だにその方策が論議されているという事は、その過程、論議の方法に問題があるのではないだろうか？

- ・過去男性だけの職場の方が仕事しやすかった。男性はケンカしても次の日に肩をならべている経験はある。昔からの伝統や文化、しきたりがあった方が流れがスムーズで良い面たくさんある。平等平等と机上で騒がない方が良い事もたくさんある。
- ・男女平等に関して法的（しくみ）には理解出来ていても現実にはそれぞれ男女の特性が有り、全く正反対の事でもあたかも平等に達成出来るかのごとく推進しています。表面上きれい事で済みますが、出来る事と出来ない事があると思います。まだ男女共同の方が私には理解出来ます。自分に都合の良い時だけ平等を声高に叫ぶのはムシが良いと思います。
- ・社会のグローバル化が進む中、時代と共に変化する社会に対応する施策が必要とされる。少子高令化が進む現況に対して 30 年後の焼津市の姿を想像した施策が必要かと思います。
- ・男女共同参画社会の実現という前に、現在の核家族の進展が家族という概念を根底から崩しているように感じています。私の住んでいる地域でも、大半が年金生活者（夫婦）で、児童は数える位しかおりません。従ってコミュニティという単語は中々機能しません。現役世代とその親の世代、子供等による3世代同居が推進されその中に、お互いの配慮による、男女共同参画社会の進展を望みます。
- ・新しい家族の単位を作る結婚について早急に法的に同性婚を認めるべきである。・議会、教職員（特に管理職）の世界の男女のバランスを改革すべき。
- ・アンケート集計結果の公表を望みます。
- ・ジェンダー、男女間較差はこれからの時代なくなる様な社会になる事を希望しています。

70歳以上女性

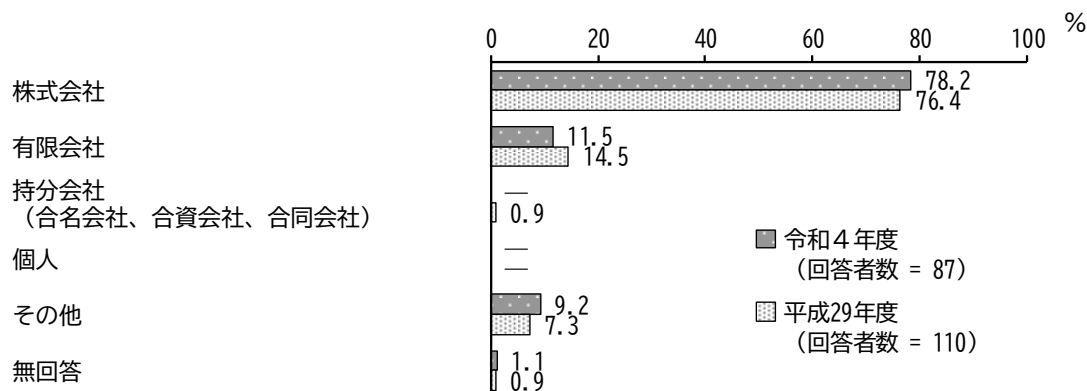
- ・子が誕生したら、どんな人間にしたいか、と父母で考えるところからスタートしたら、子育ては共同作業、楽しいものです。子の20年先を考えて、育てたら、しっかりした人間に成長します。小学校に入学する迄に、ガマンすることを教えておくだけで、社会に出ても適応性のある、自分で生きていける人間になると思う。人にやさしく、人に迷惑をかけない、自分が努力しなければ何もかわらない、時間を無駄にしない、努力は無駄にならない。幸福とは何かと考えたら、家族が明るく、元気で同じ方向をむいて、生活できること、と思えば、人生は楽しいものです。
- ・家事・育児・介護・そして仕事の同時進行の経験をしました。男性女性が平等であるためには女性も学ばなければならない事が多くあると思います。今は自由に学べる時代になりました。専門分野で活躍する女性が世の中に多くなれば嬉しいです。
- ・これ程にさわぐ必要はないと思う。個人の能力、性格により、能力により今までも社会進出している人もいる。男性も家庭の中で上手に家事、子育てが女性より上手にこなす方もいる……。それを、やはり企業、環境（親、ご近所の人達）が応援する。今までも女性が公共企業の中で働いている女性もいましたが、今までの生活の中でもいたわり、大らかに対応、又、アドバイス等は男性の方が群をぬき、女性の方で不愉快な思いをしたことがあり男性の方が強くてやさしい……。これは家庭にも、外にも必要であり、又、女性がえらくなると、やさしさがなくなるのであまり好みません。
- ・退職後、大分、時間が経ち、後期高齢者として「男女共同参画」の言葉は聞いた事がありますが、日頃の生活の中で余り関心なく来ました。これからは、広報活動、情報提供等に注意しながら関心を持ちたいと思います。
- ・とにかく、家庭、教育現場で子供の頃からの教育が大切であると思います。小さい頃に受けた“男らしく、女らしく”という観念は私たちの体に染みついているので、何よりも教育が大切であると感じます。時間がかかっても、それが早道のような気が致します。

- ・難しい事はわからないが、近隣にも外国人はいるが、頭すら下げず仲良くなる事はなく仲良くなる事は全くない。言葉も少しは覚えてみたいと思うので話をする機会は作ってほしい。きっと外国人も仲良くなれたらいいと思う。15年位前になると思うが、近くのアパートに外国人の婦人と子どもがいた。幼稚園生の子供は、色を教えた赤、黄、緑、青、と花で知った時、ものすごくうれしそうに母に話していた。母親も何度もお礼を言った。そんな事からで良いと思う。
- ・誰もが、何に対しても自由に参加できる社会になれば良い。
- ・このアンケート自体が女性を差別している質問かと思われるQがあった。・現在無職なので答えにくいQがあったが、過去の事について答えてある。・現在の共同参画は若い人や働き盛りの人に集中している様に感ずる。これからの高令化社会に向けて60才以上の高令者、介護や高令者世帯についても目を向けて欲しい。
- ・男女共同参画はとても大事な事とは思いますが。私個人として、専業主婦として、子育て、家事すべてやってまいりました。女性は女性の資質、男性は男性のそれぞれ特性もあるのではないのでしょうか。なんでもかんでも平等というわけにはいかないのでは。
- ・こうなることが理想ではなく、実行力を期待します。
- ・80才過ぎの老人には正しい返事が出来なくて意味もわからなくて正しい解答にはなっていないと思います。ごめんなさい。
- ・2,000人の方を無作為に選ばせたと明記してありますがこのアンケートの内容にふさわしい人、調度現在子育て中の人、夫妻で問題を問いてくれる人等、人生を2/3以上過ぎた人にはいいアンケートが得られないと思います。適格な人を選んだ方が良くと思います。
- ・昭和25年生まれの私達が育った頃、結婚して子育てをした頃とは、全く時が移り、変化してきています。社会の変化は当然のこととして受け入れて生活しているのですが、「男女共同参画社会」もその流れの上のことと、とらえています。しかし、男は男らしく、女は女らしくを大切に育ててきた私達には、その辺が、とても飲み込めない所も多々あります。つまりは、人間は人間らしく生きたいと思う所です。個々の考え方によりますが、何でも合理的にはいかないこともあると思うのです。男女の差があってはいけない面ばかりでもないということです。と、私は考えております。
- ・男女平等に賛成でも反対でもありません。ただ女性の人数をふやすために支援するのはおかしいような気がします。能力があれば自然と女性がふえると思います。誰でもよいわけではない。男女は差別ではなく、もともとちがうと思うのでそれぞれに合った場所で参画して下さい。
- ・地域活動に参加して、いつも感じる事ですが、年の多い方は、まだまだ男社会を通過してきた人達なので男女共同参画なんてという想いだと思います。言える時は要望的に言っていますが、簡単な事ではないです。長い目で見ないと。

事業所調査

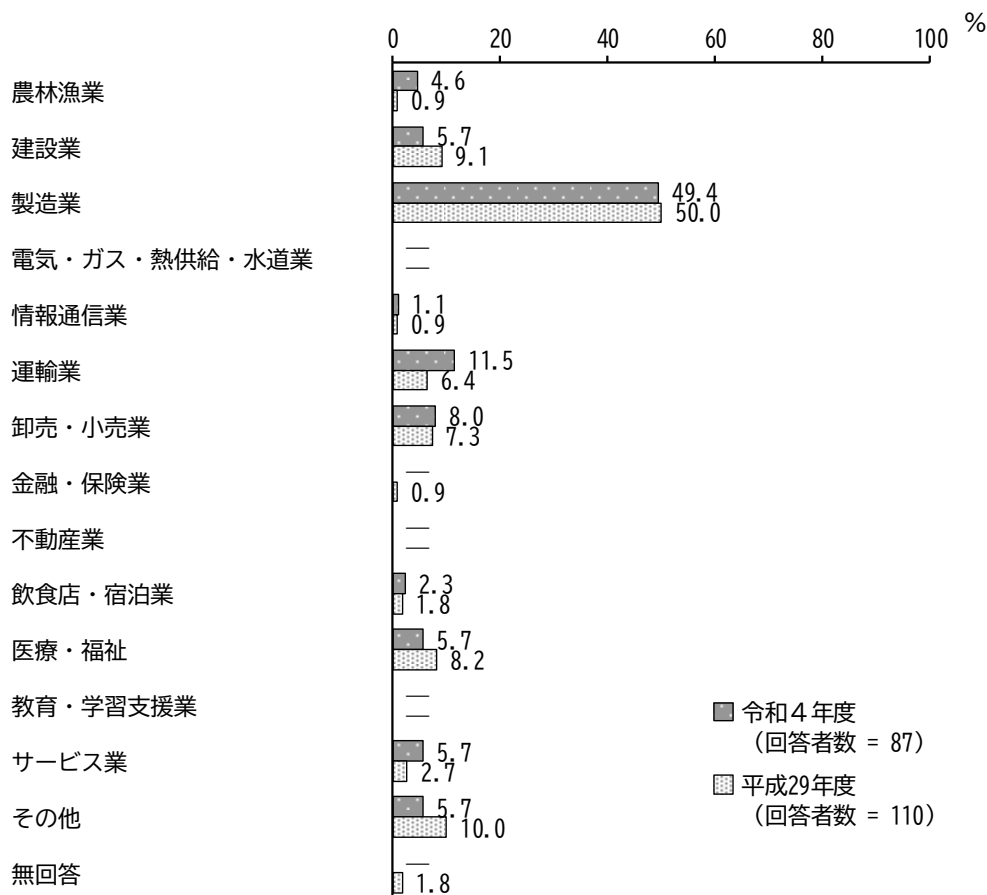
1 事業所概要について

1 貴事業所の組織形態についてお答えください。(○は1つ)



F2 貴事業所の主たる業種についてお答えください。(○は1つ)

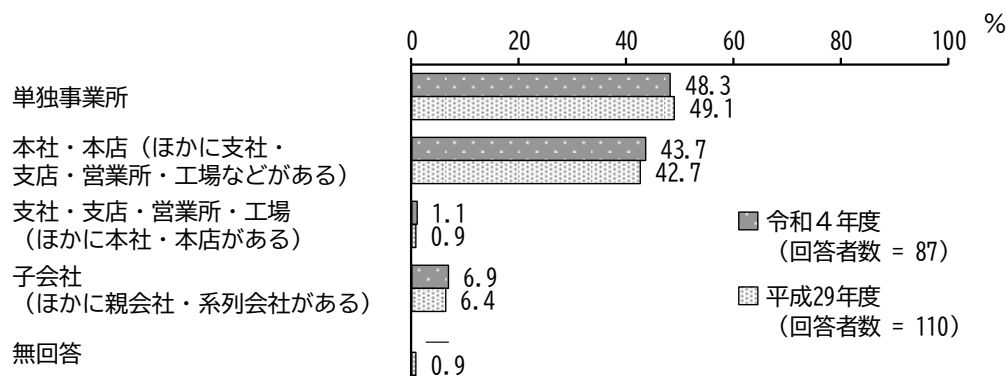
「製造業」の割合が49.4%と最も高く、次いで「運輸業」の割合が11.5%となっています。平成29年度調査と比較すると、「運輸業」の割合が増加しています。



F 3 貴事業所の形態についてお答えください。(○は1つ)

「単独事業所」の割合が48.3%と最も高く、次いで「本社・本店（ほかに支社・支店・営業所・工場などがある）」の割合が43.7%となっています。

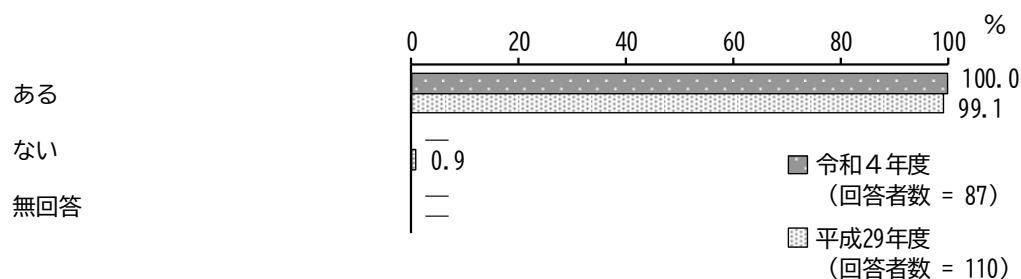
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



F 4 就業規則はありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が100.0%、「ない」の割合が0.0%となっています。

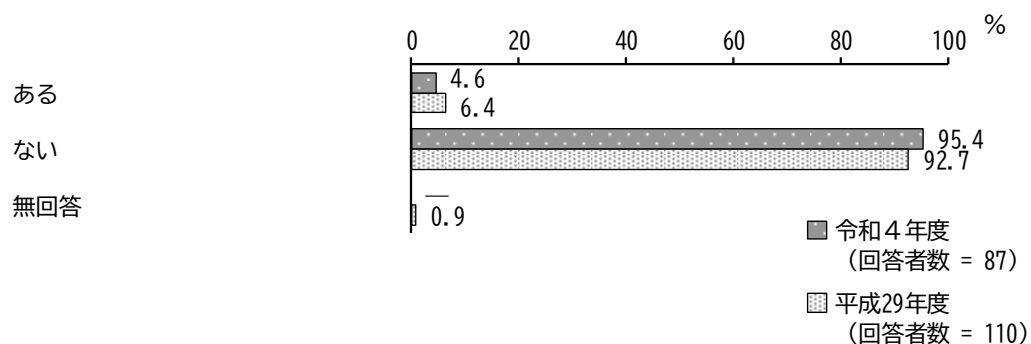
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



F 5 労働組合はありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が4.6%、「ない」の割合が95.4%となっています。

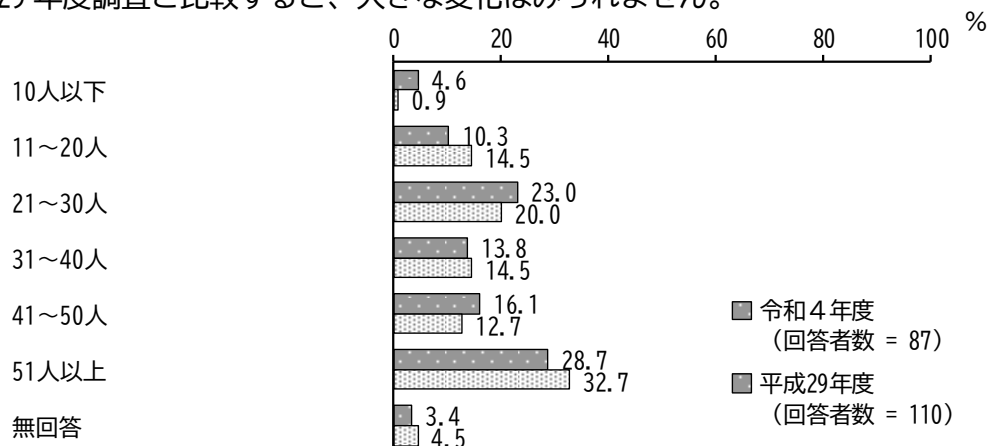
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



F 6 事業所の従業員数と役職者数

「51人以上」の割合が28.7%と最も高く、次いで「21～30人」の割合が23.0%、「41～50人」の割合が16.1%となっています。

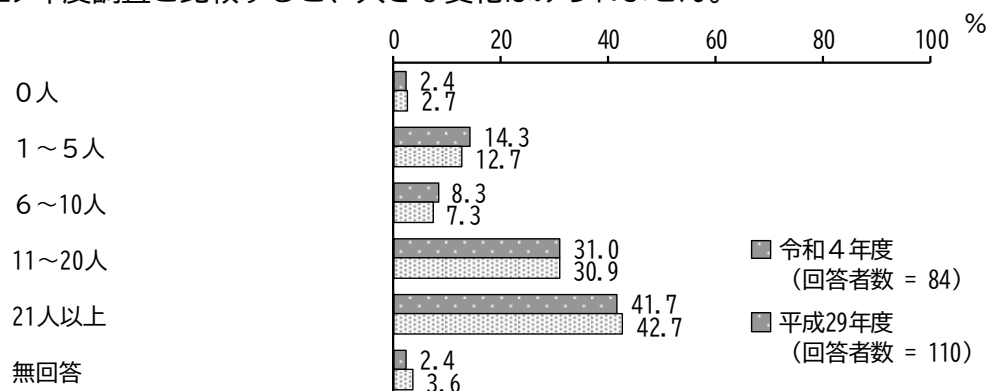
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



男性正規従業員数

「21人以上」の割合が41.7%と最も高く、次いで「11～20人」の割合が31.0%、「1～5人」の割合が14.3%となっています。

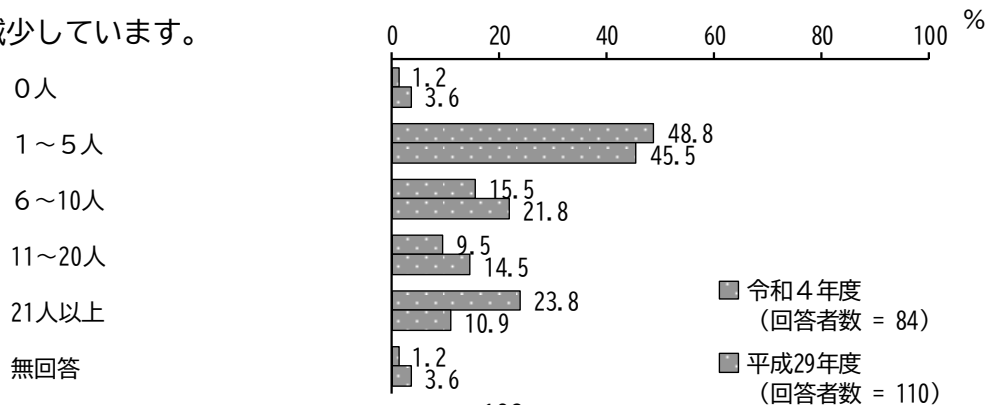
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



女性正規従業員数

「1～5人」の割合が48.8%と最も高く、次いで「21人以上」の割合が23.8%、「6～10人」の割合が15.5%となっています。

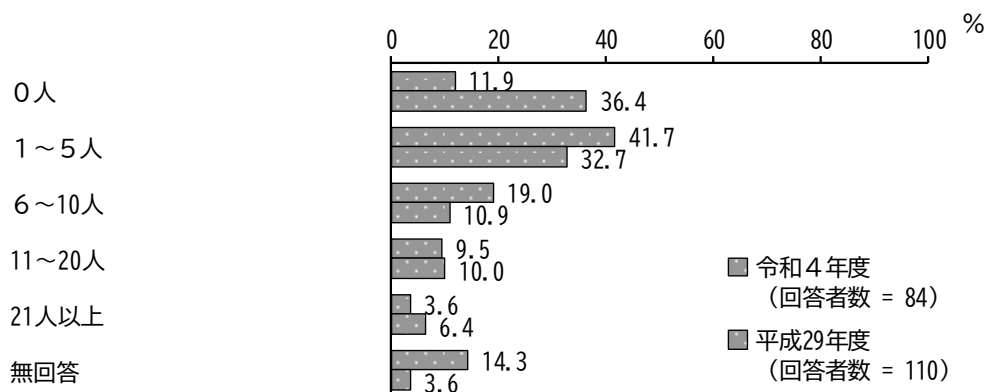
平成29年度調査と比較すると、「21人以上」の割合が増加しています。一方、「6～10人」の割合が減少しています。



男性非正規従業員数

「1～5人」の割合が41.7%と最も高く、次いで「6～10人」の割合が19.0%、「0人」の割合が11.9%となっています。

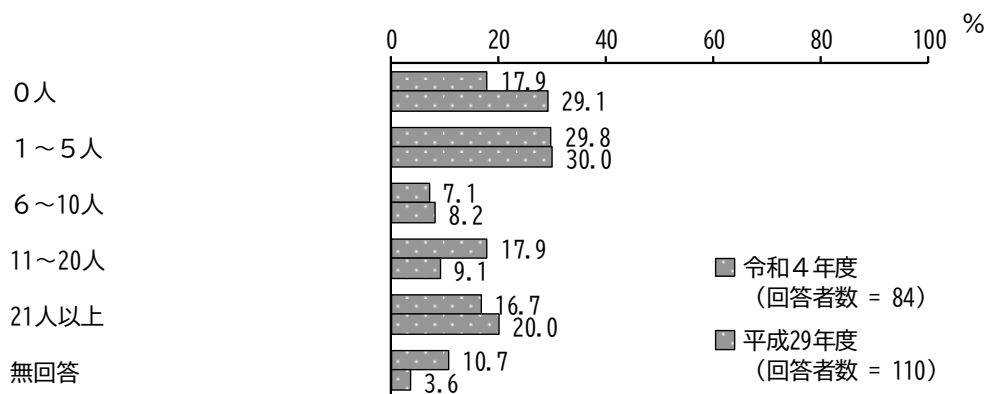
平成29年度調査と比較すると、「1～5人」「6～10人」の割合が増加しています。一方、「0人」の割合が減少しています。



女性非正規従業員数

「1～5人」の割合が29.8%と最も高く、次いで「0人」、「11～20人」の割合が17.9%となっています。

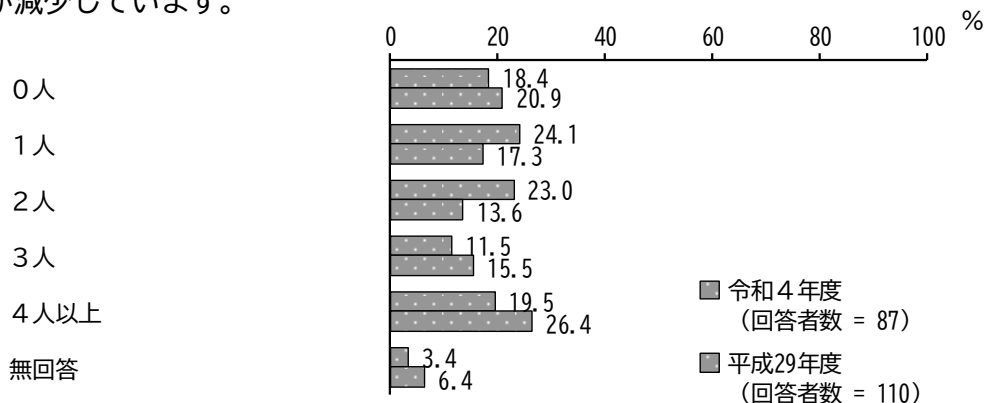
平成29年度調査と比較すると、「11～20人」の割合が増加しています。一方、「0人」の割合が減少しています。



役職者数 部長相当職者数

「1人」の割合が24.1%と最も高く、次いで「2人」の割合が23.0%、「4人以上」の割合が19.5%となっています。

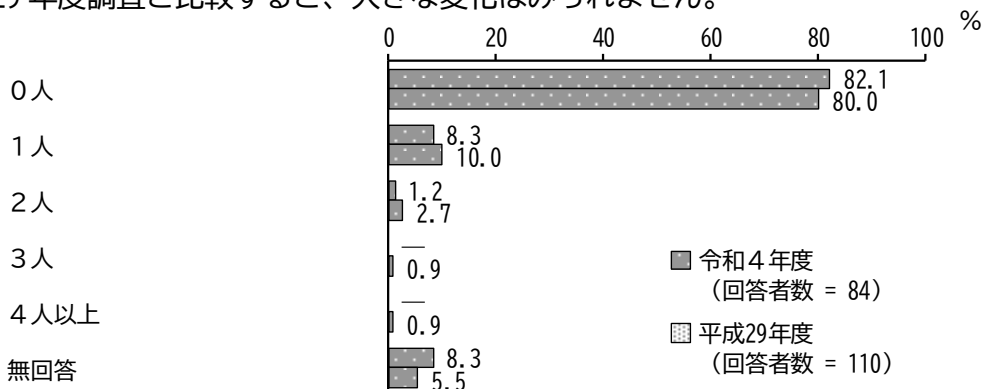
平成29年度調査と比較すると、「1人」「2人」の割合が増加しています。一方、「4人以上」の割合が減少しています。



部長相当職のうち女性役職者数

「0人」の割合が82.1%と最も高くなっています。

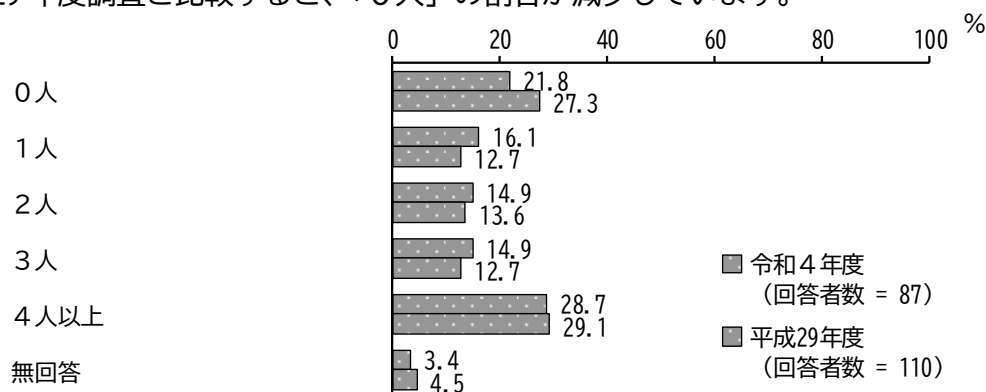
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



課長相当職者数

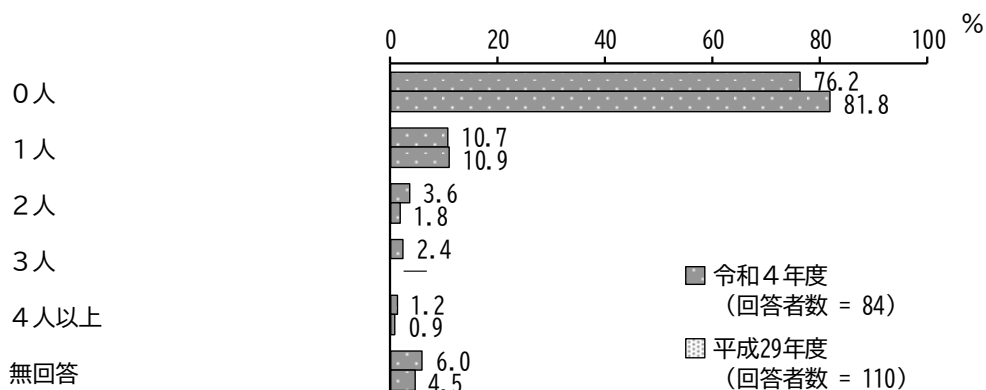
「4人以上」の割合が28.7%と最も高く、次いで「0人」の割合が21.8%、「1人」の割合が16.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「0人」の割合が減少しています。



課長相当職のうち女性役職者数

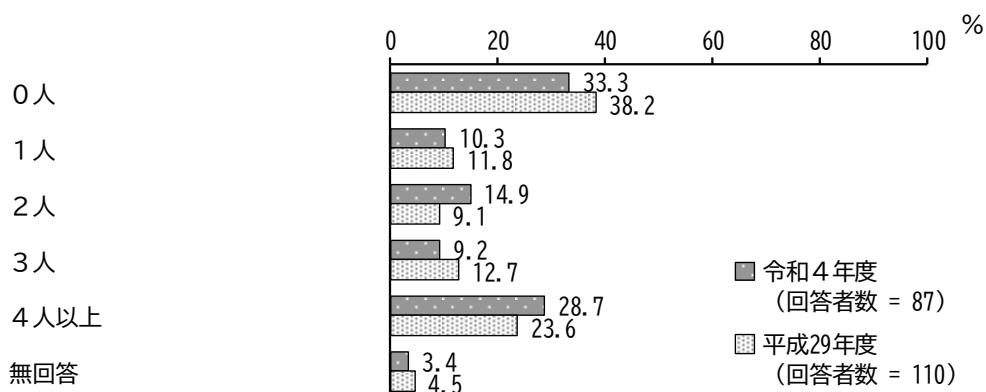
「0人」の割合が76.2%と最も高く、次いで「1人」の割合が10.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「0人」の割合が減少しています。



係長相当職者数

「0人」の割合が33.3%と最も高く、次いで「4人以上」の割合が28.7%、「2人」の割合が14.9%となっています。

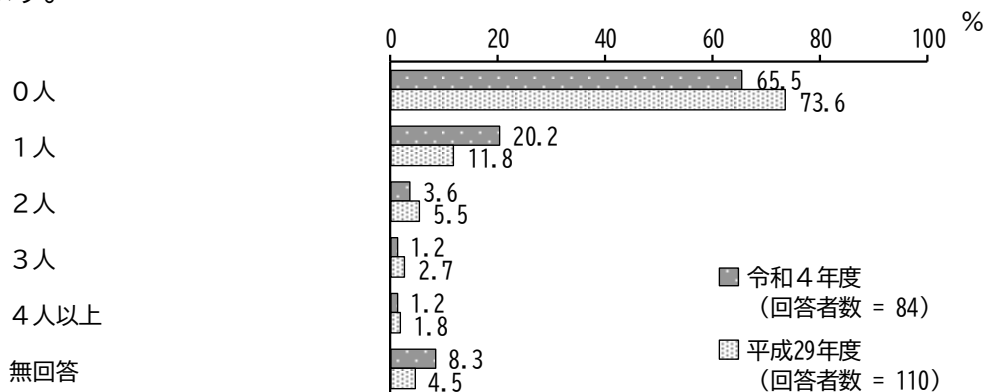
平成29年度調査と比較すると、「2人」「4人以上」の割合が増加しています。



係長相当職のうち女性役職者数

「0人」の割合が65.5%と最も高く、次いで「1人」の割合が20.2%となっています。

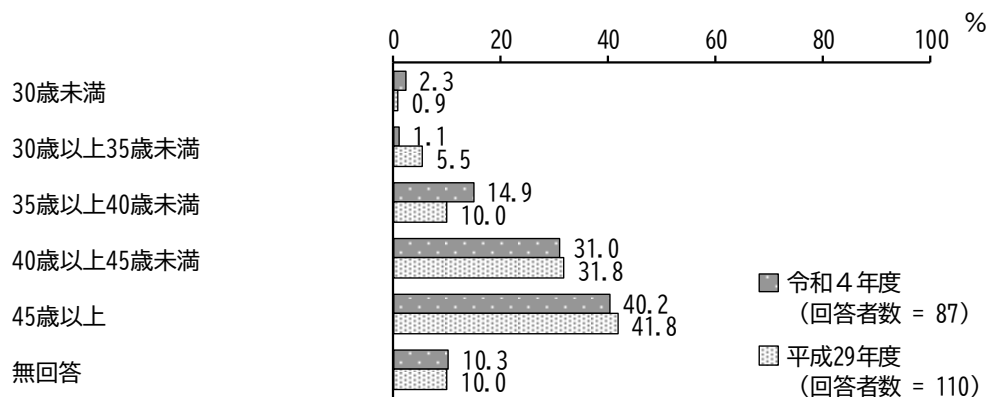
平成29年度調査と比較すると、「1人」の割合が増加しています。一方、「0人」の割合が減少しています。



男性平均年齢

「45歳以上」の割合が40.2%と最も高く、次いで「40歳以上45歳未満」の割合が31.0%、「35歳以上40歳未満」の割合が14.9%となっています。

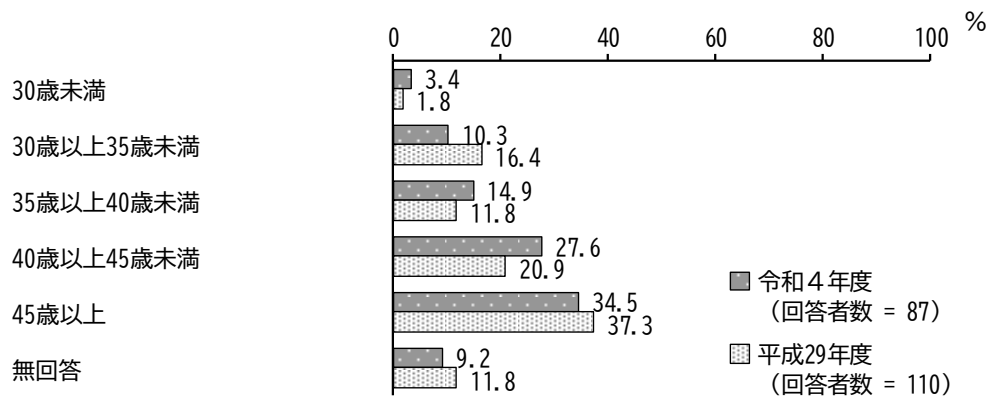
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



女性平均年齢

「45歳以上」の割合が34.5%と最も高く、次いで「40歳以上45歳未満」の割合が27.6%、「35歳以上40歳未満」の割合が14.9%となっています。

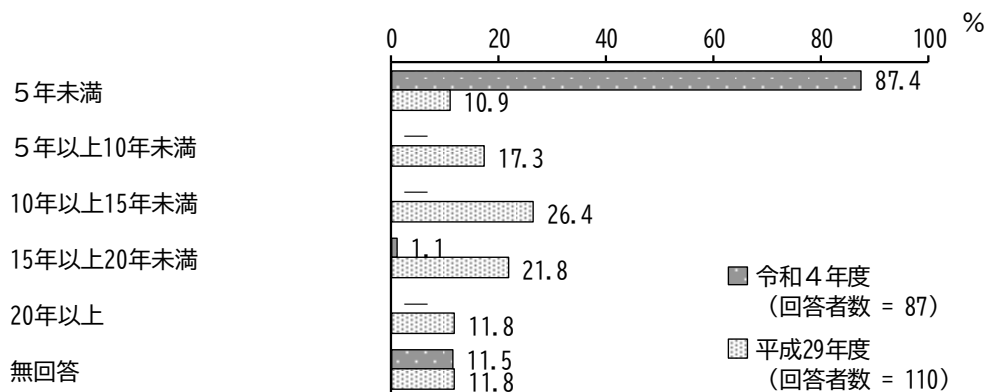
平成29年度調査と比較すると、「40歳以上45歳未満」の割合が増加しています。一方、「30歳以上35歳未満」の割合が減少しています。



男性平均勤続年数

「5年未満」の割合が87.4%と最も高くなっています。

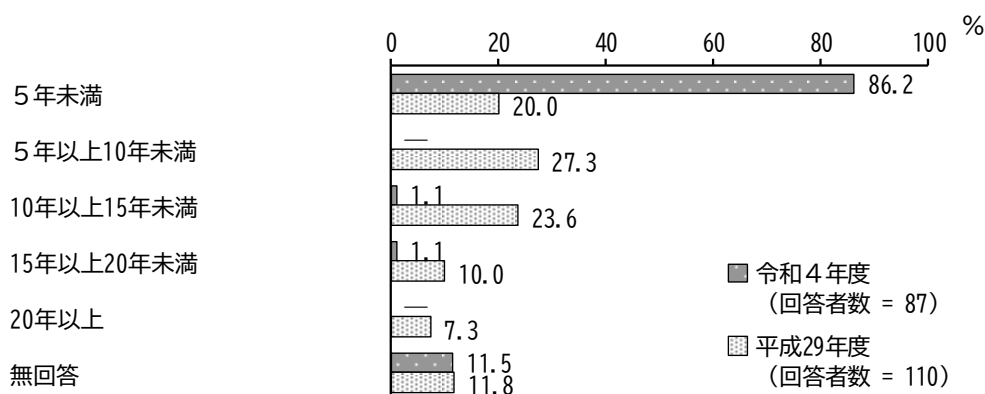
平成29年度調査と比較すると、「5年未満」の割合が増加しています。一方、「5年以上10年未満」「10年以上15年未満」「15年以上20年未満」「20年以上」の割合が減少しています。



女性平均勤続年数

「5年未満」の割合が86.2%と最も高くなっています。

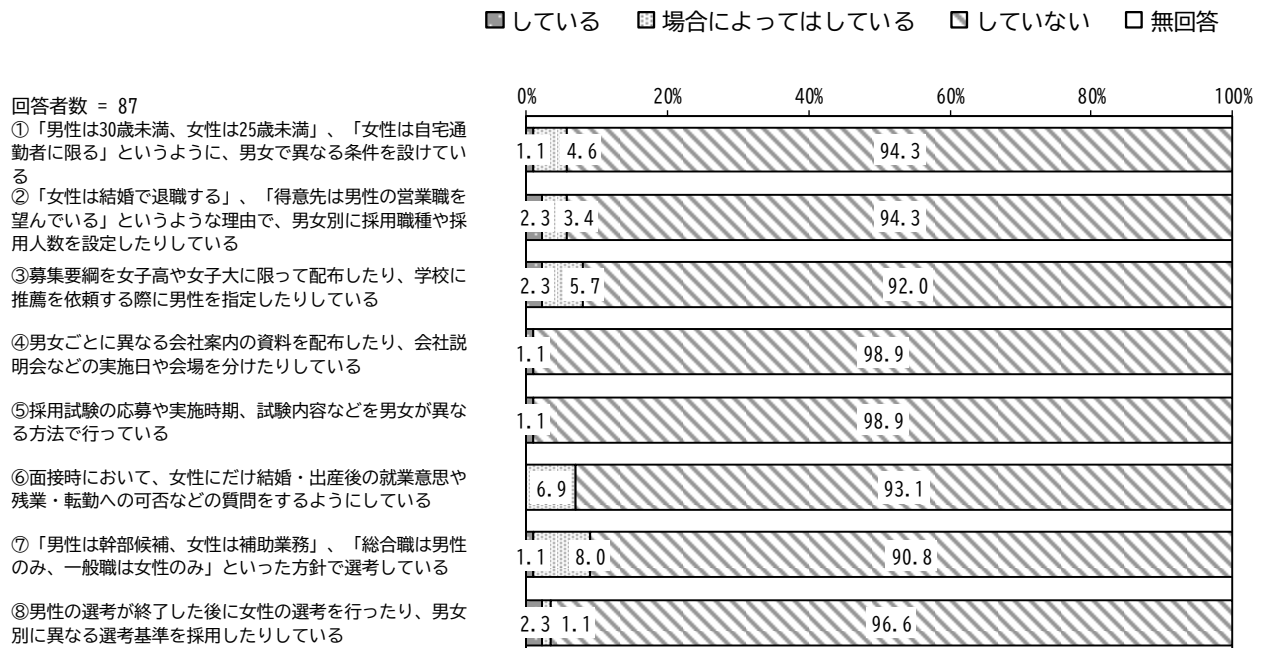
平成29年度調査と比較すると、「5年未満」の割合が増加しています。一方、「5年以上10年未満」「10年以上15年未満」「15年以上20年未満」「20年以上」の割合が減少しています。



2 女性の採用・登用について

問1 貴事業所において、従業員の募集や採用をどのように行っていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

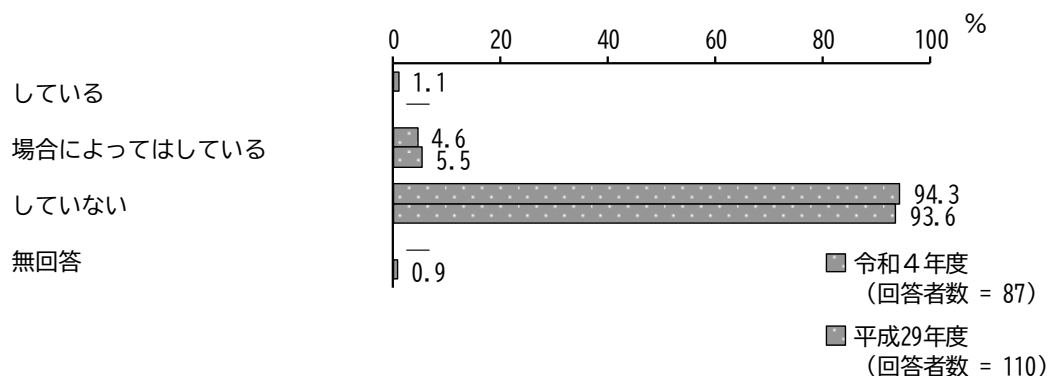
「していない」の割合が94.3%と最も高くなっています。



①「男性は30歳未満、女性は25歳未満」、「女性は自宅通勤者に限る」というように、男女で異なる条件を設けている

「していない」の割合が94.3%と最も高くなっています。

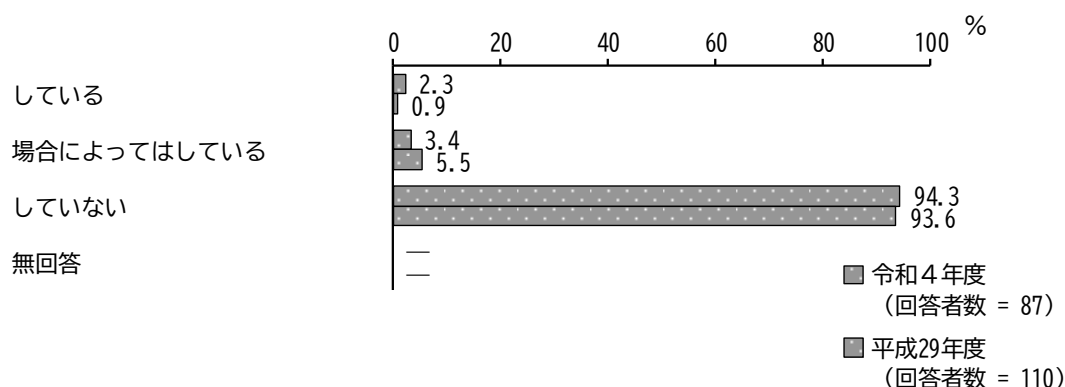
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②「女性は結婚で退職する」、「得意先は男性の営業職を望んでいる」というような理由で、男女別に採用職種や採用人数を設定したりしている

「していない」の割合が94.3%と最も高くなっています。

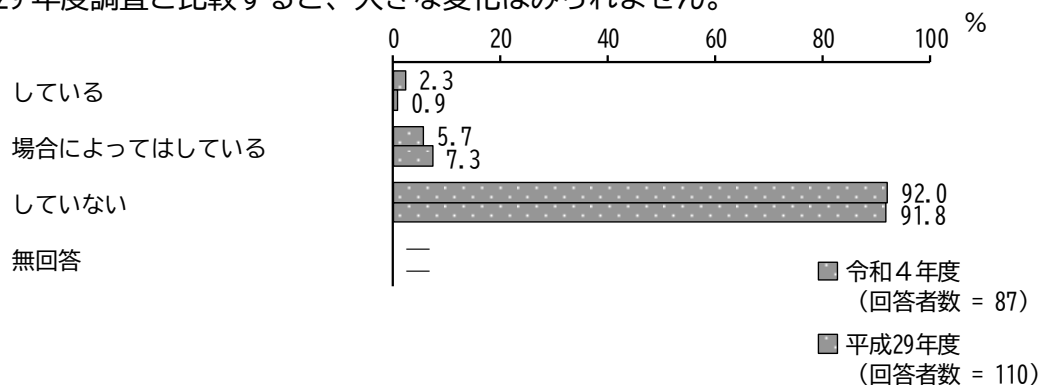
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



③募集要綱を女子高や女子大に限って配布したり、学校に推薦を依頼する際に男性を指定したりしている

「していない」の割合が92.0%と最も高くなっています。

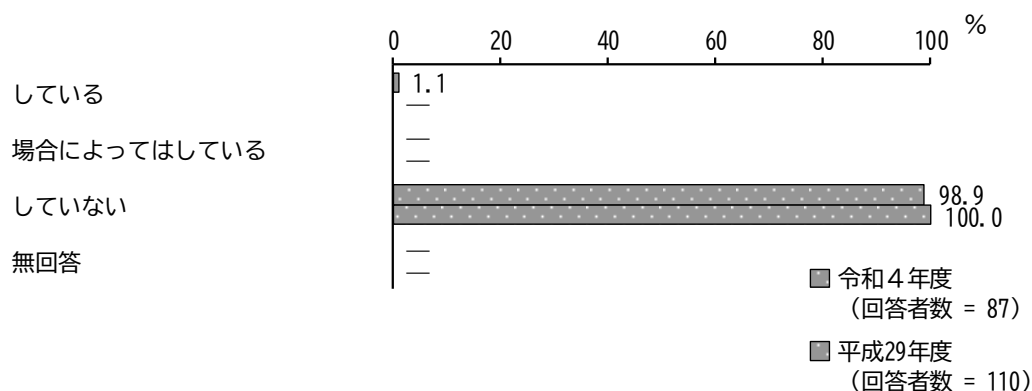
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



④男女ごとに異なる会社案内の資料を配布したり、会社説明会などの実施日や会場を分けたりしている

「していない」の割合が98.9%と最も高くなっています。

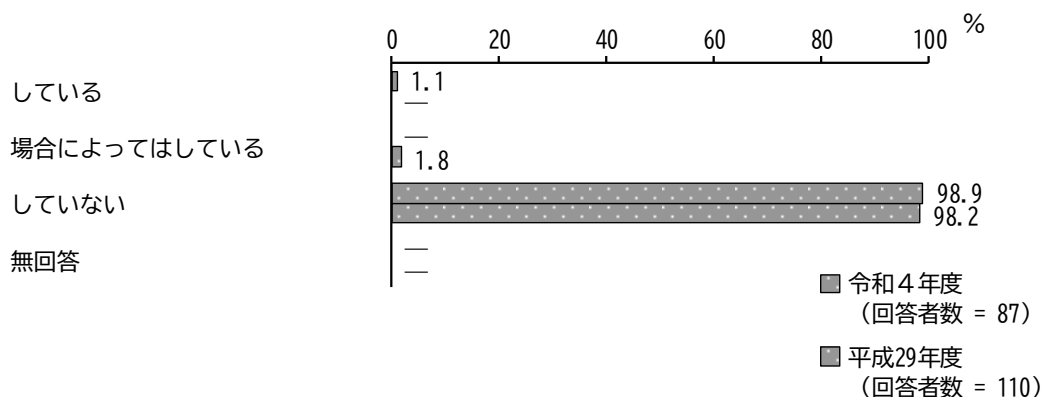
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑤採用試験の応募や実施時期、試験内容などを男女が異なる方法で行っている

「していない」の割合が98.9%と最も高くなっています。

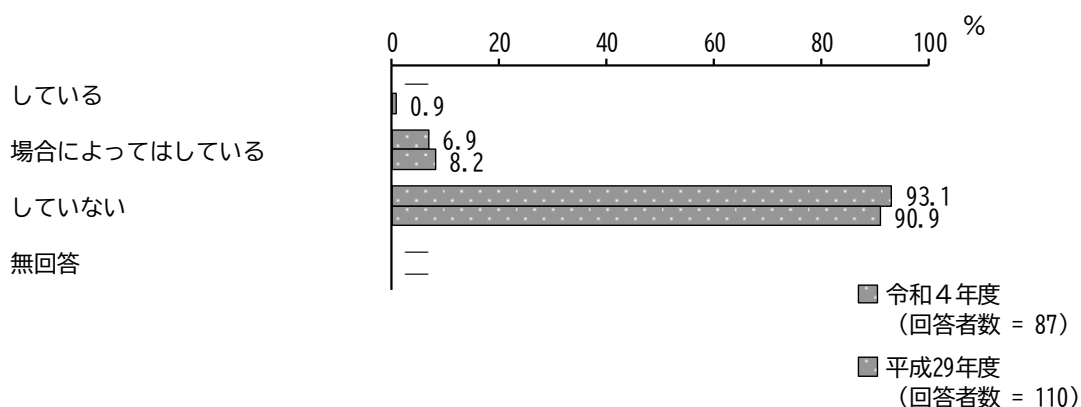
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑥面接時において、女性にだけ結婚・出産後の就業意思や残業・転勤への可否などの質問をするようにしている

「していない」の割合が93.1%と最も高くなっています。

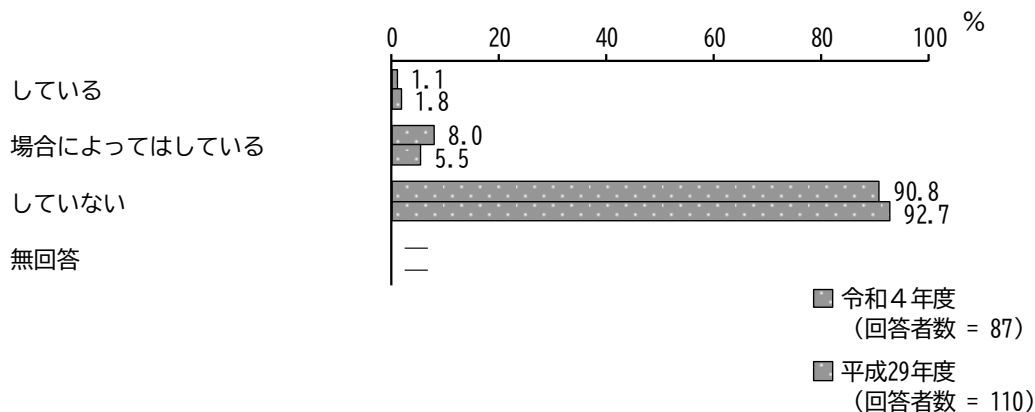
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑦「男性は幹部候補、女性は補助業務」、「総合職は男性のみ、一般職は女性のみ」といった方針で選考している

「していない」の割合が90.8%と最も高くなっています。

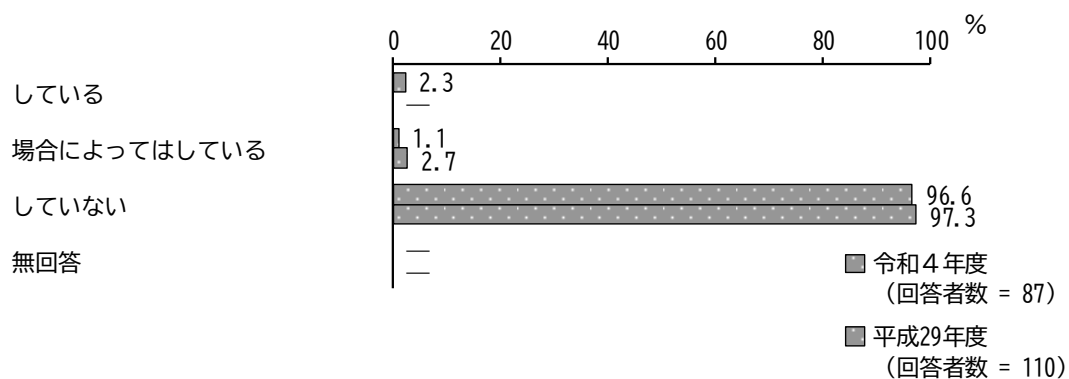
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑧男性の選考が終了した後に女性の選考を行ったり、男女別に異なる選考基準を採用したりしている

「していない」の割合が96.6%と最も高くなっています。

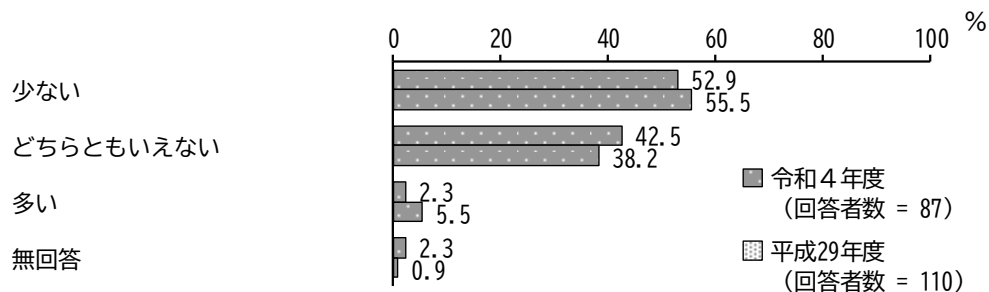
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問2 貴事業所において、役職付きの女性従業員は少ないと思いますか。(○は1つ)

「少ない」の割合が52.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が42.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

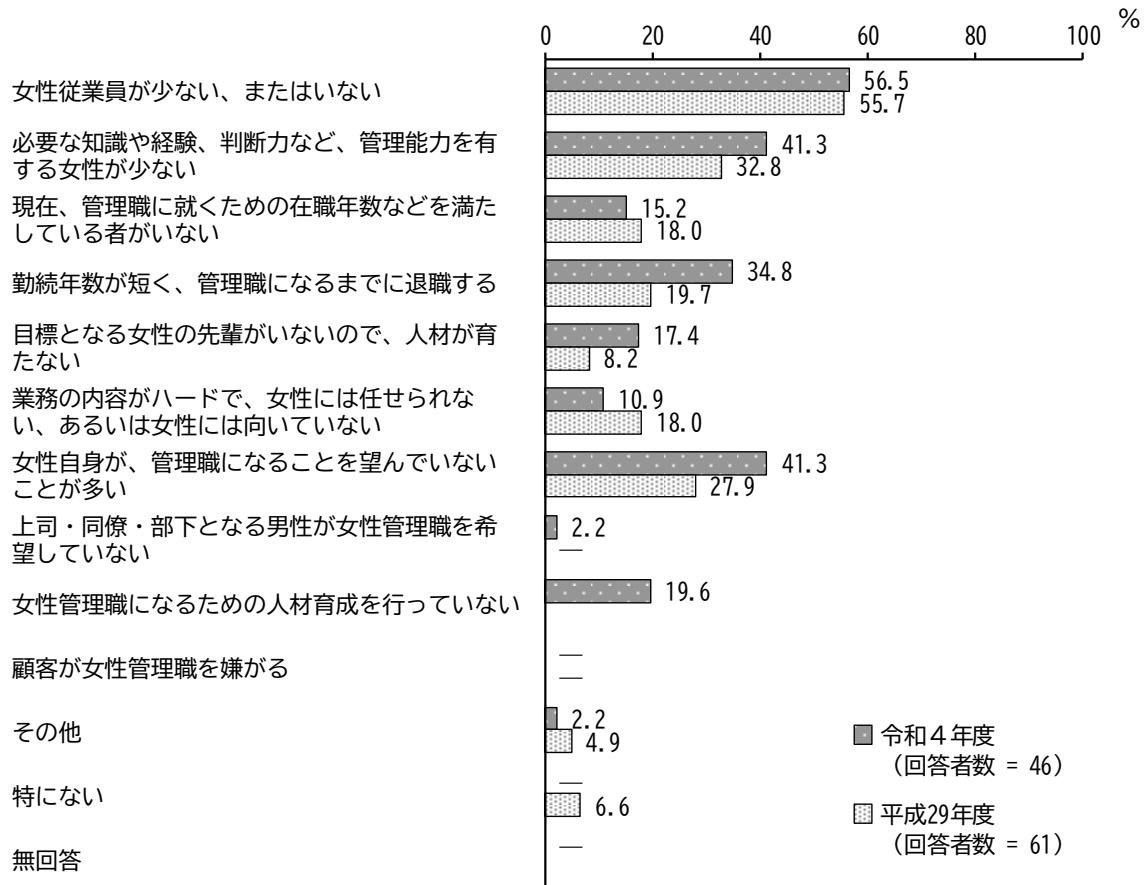


(問2で「1 少ない」と回答した方におたずねします。)

問2- 1 女性管理職が少ない(またはいない)のは、どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

「女性従業員が少ない、またはいない」の割合が56.5%と最も高く、次いで「必要な知識や経験、判断力など、管理能力を有する女性が少ない」、「女性自身が、管理職になることを望んでいないことが多い」の割合が41.3%となっています。

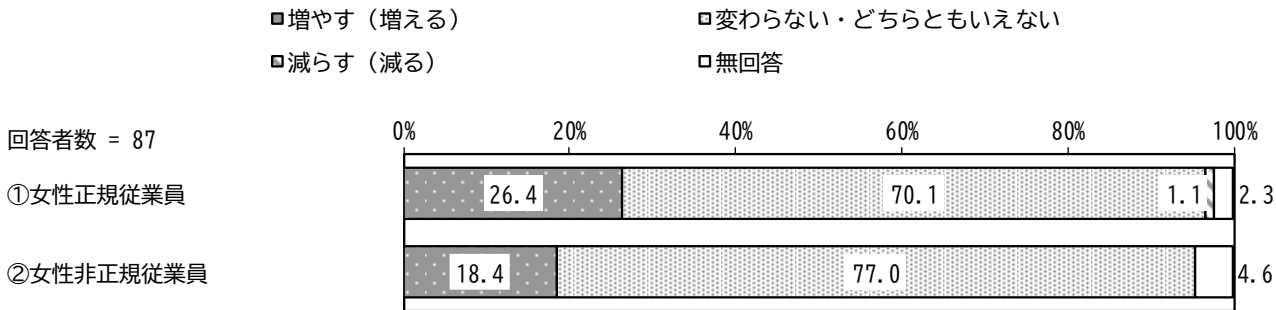
平成29年度調査と比較すると、「必要な知識や経験、判断力など、管理能力を有する女性が少ない」「勤続年数が短く、管理職になるまでに退職する」「目標となる女性の先輩がいないので、人材が育たない」「女性自身が、管理職になることを望んでいないことが多い」の割合が増加しています。一方、「業務の内容がハードで、女性には任せられない、あるいは女性には向いていない」「特にない」の割合が減少しています。



※平成29年度調査では「女性管理職になるための人材育成を行っていない」の選択肢がありませんでした。

問3 今後の5年間で、貴事業所で働く女性の比率をどのようにしたらよい（どのようになるとよい）と考えていますか。（○はそれぞれ1つずつ）

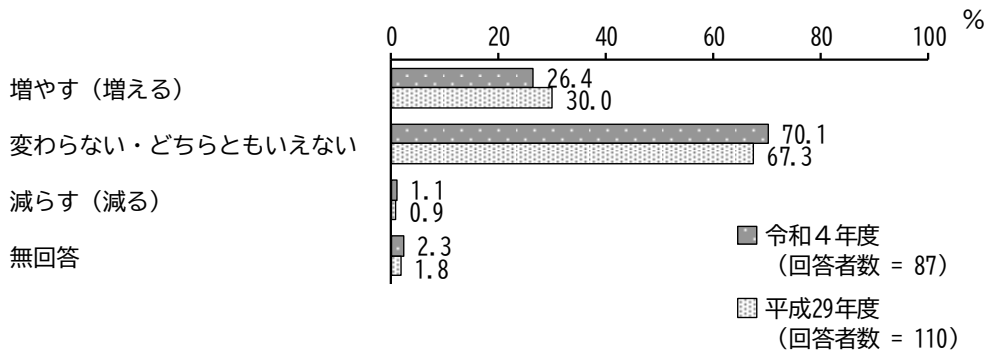
「変わらない・どちらともいえない」の割合が女性正規従業員よりも女性非正規従業員で高くなっています。



①女性正規従業員

「変わらない・どちらともいえない」の割合が70.1%と最も高く、次いで「増やす（増える）」の割合が26.4%となっています。

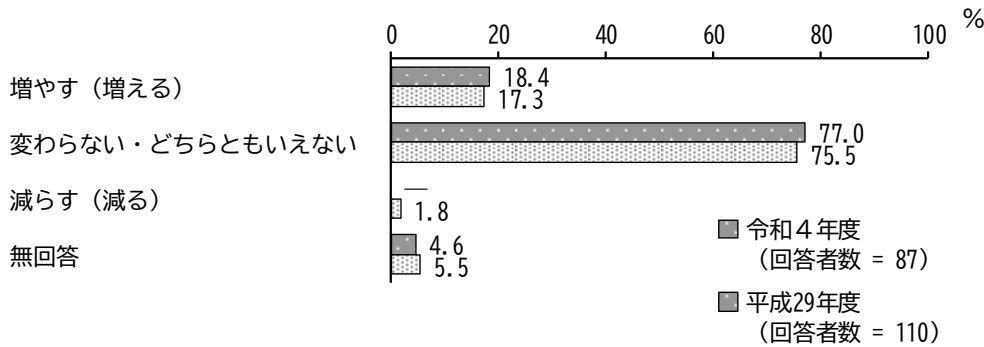
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②女性非正規従業員

「変わらない・どちらともいえない」の割合が77.0%と最も高く、次いで「増やす（増える）」の割合が18.4%となっています。

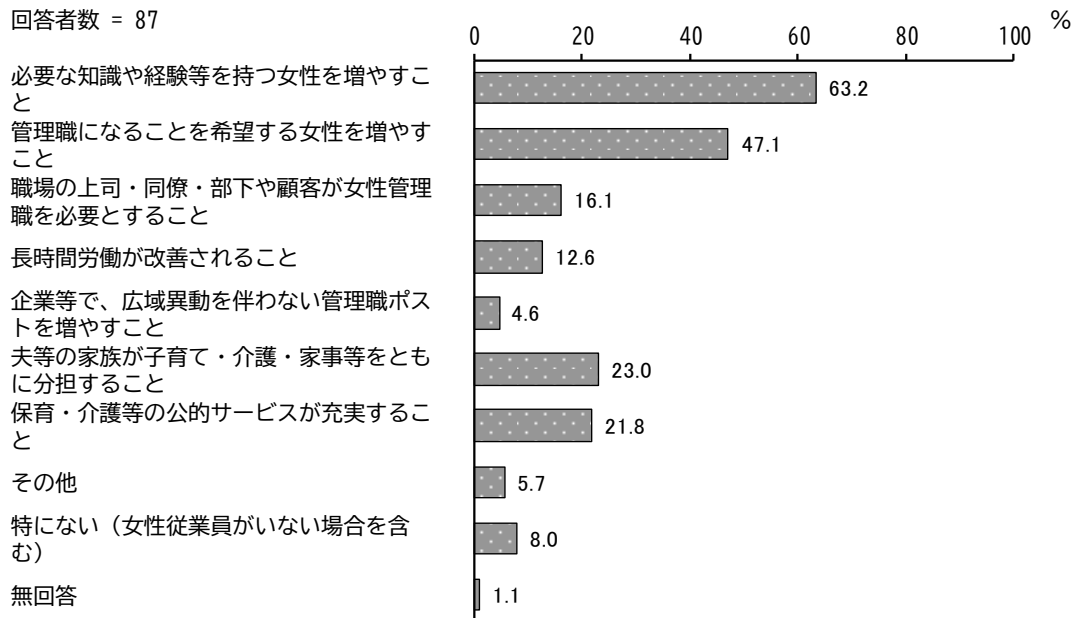
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問4 貴事業所で女性の管理職が増えるために必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

「必要な知識や経験等を持つ女性を増やすこと」の割合が63.2%と最も高く、次いで「管理職になることを希望する女性を増やすこと」の割合が47.1%、「夫等の家族が子育て・介護・家事等をともに分担すること」の割合が23.0%となっています。

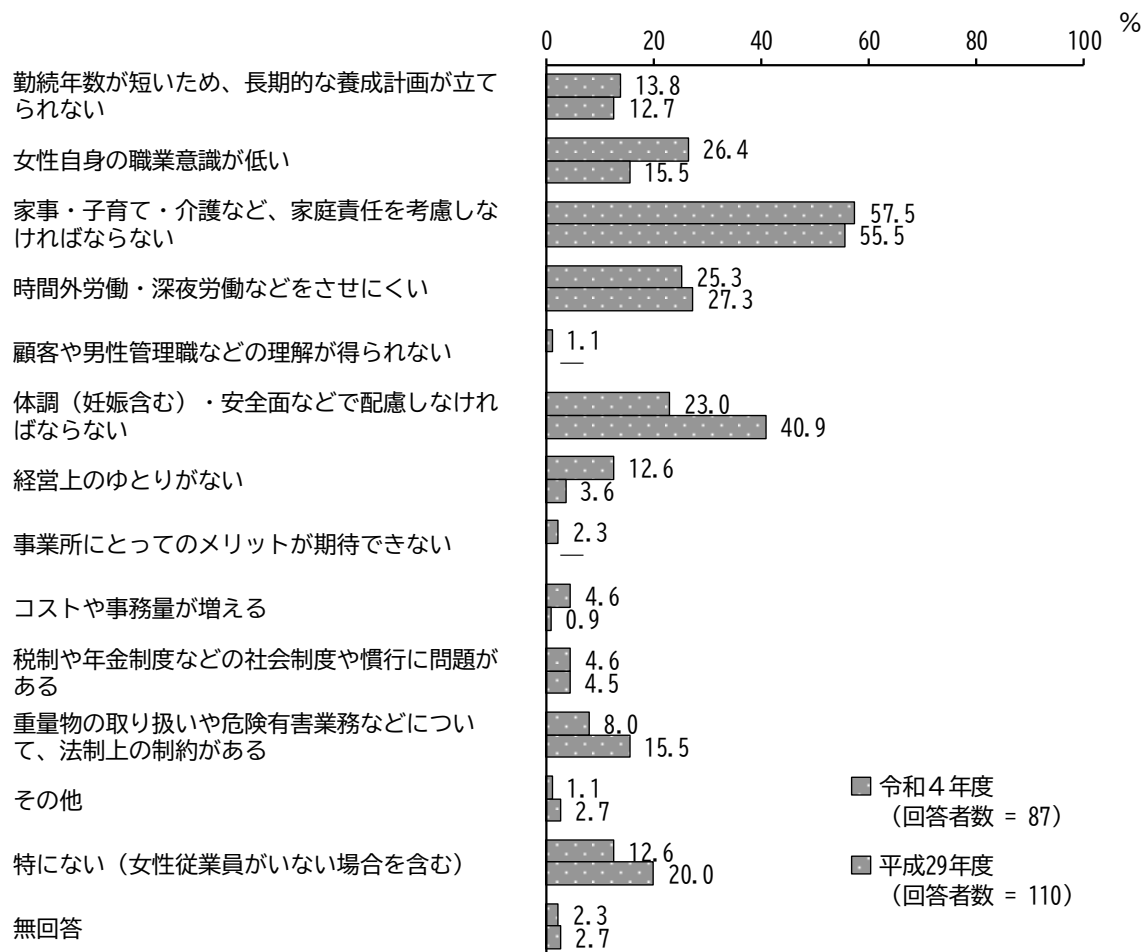
回答者数 = 87



問5 貴事業所において、女性従業員の能力活用にあたり課題となることはありますか。(〇はいくつでも)

「家事・子育て・介護など、家庭責任を考慮しなければならない」の割合が57.5%と最も高く、次いで「女性自身の職業意識が低い」の割合が26.4%、「時間外労働・深夜労働などをさせにくい」の割合が25.3%となっています。

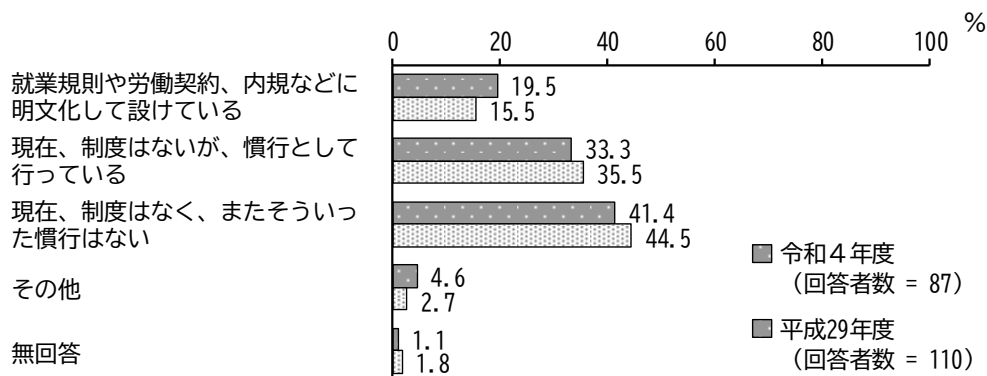
平成29年度調査と比較すると、「女性自身の職業意識が低い」「経営上のゆとりがない」の割合が増加しています。一方、「体調(妊娠含む)・安全面などで配慮しなければならない」「重量物の取り扱いや危険有害業務などについて、法制上の制約がある」「特にない(女性従業員がいない場合を含む)」の割合が減少しています。



問6 貴事業所では、結婚・出産・育児・介護などのために退職した女性を、その後一定の要件を満たせばもとの勤務先に再雇用する制度を設けていますか。(○は1つ)

「現在、制度はなく、またそういった慣行はない」の割合が41.4%と最も高く、次いで「現在、制度はないが、慣行として行っている」の割合が33.3%、「就業規則や労働契約、内規などに明文化して設けている」の割合が19.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

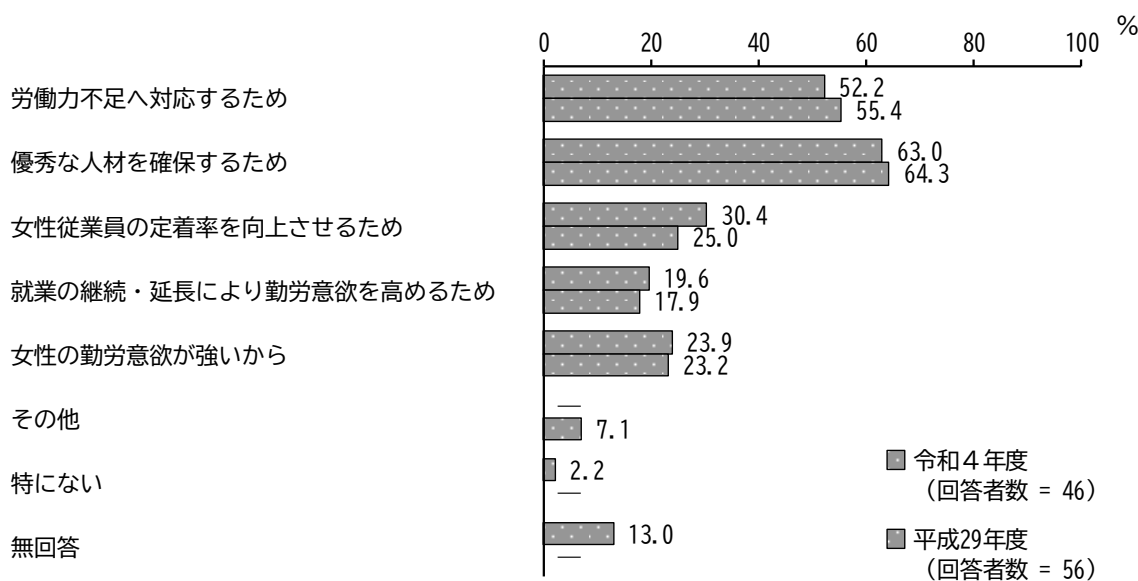


(問6で「1 就業規則や労働契約、内規などに明文化して設けている」「2 現在、制度はないが、慣習として行っている」と回答した方におたずねします。)

問6-1 再雇用の制度を設けている理由は何ですか。次の中から特に女性の再雇用に関して選んでください。(○は3つまで)

「優秀な人材を確保するため」の割合が63.0%と最も高く、次いで「労働力不足へ対応するため」の割合が52.2%、「女性従業員の定着率を向上させるため」の割合が30.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「女性従業員の定着率を向上させるため」の割合が増加しています。

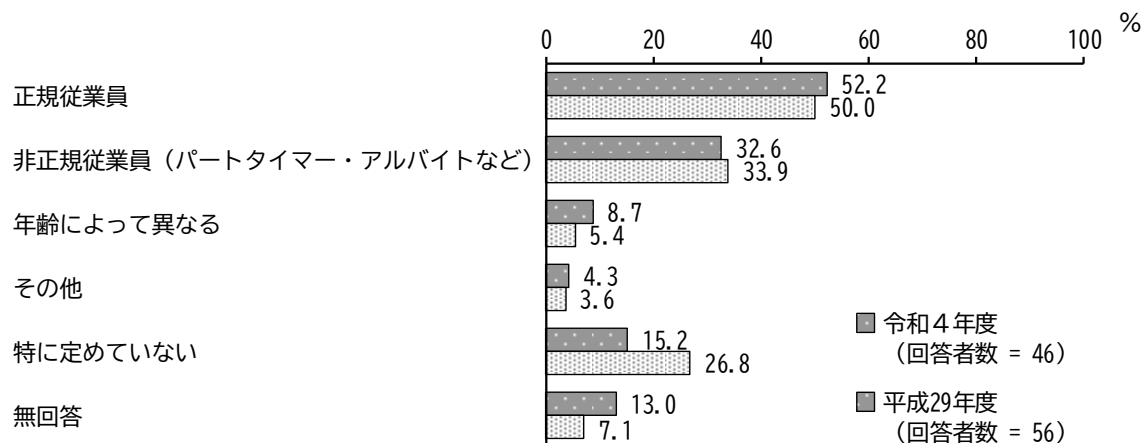


(問6で「1 就業規則や労働契約、内規などに明文化して設けている」「2 現在、制度はないが、慣習として行っている」と回答した方におたずねします。)

問6-2 女性従業員の再雇用後の配置はどうなりますか。(〇はいくつでも)

「正規従業員」の割合が52.2%と最も高く、次いで「非正規従業員(パートタイマー・アルバイトなど)」の割合が32.6%、「特に定めていない」の割合が15.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「特に定めていない」の割合が減少しています。

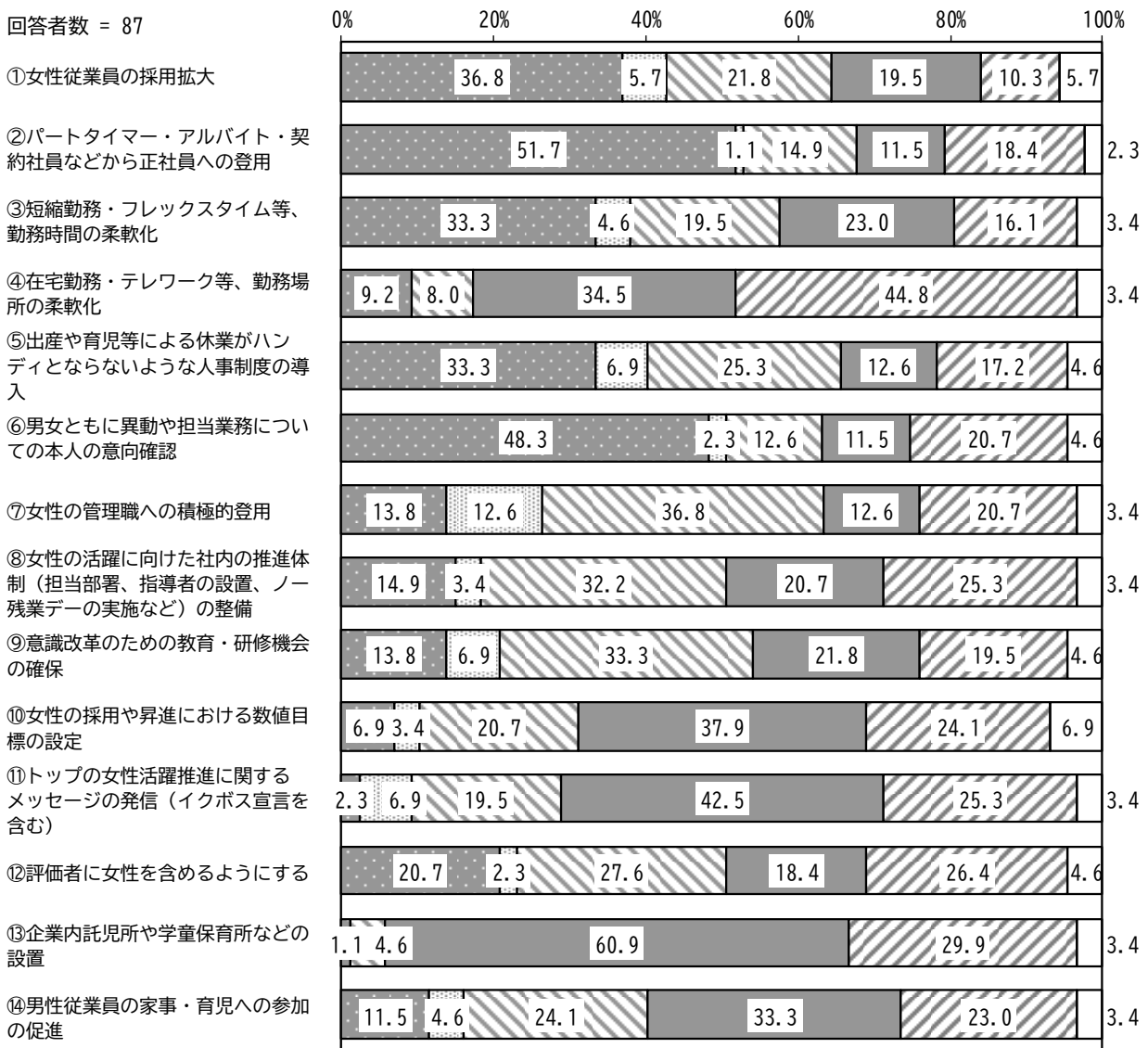


2 女性の活躍に向けて

問7 貴事業所では、女性の活躍に向けて実施、もしくは今後の実施を考えている取り組みがありますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

- すでに実施している
- ▨ 今後、実施する予定がある
- ▤ 実施について検討している
- 実施する予定はない
- 該当なし
- 無回答

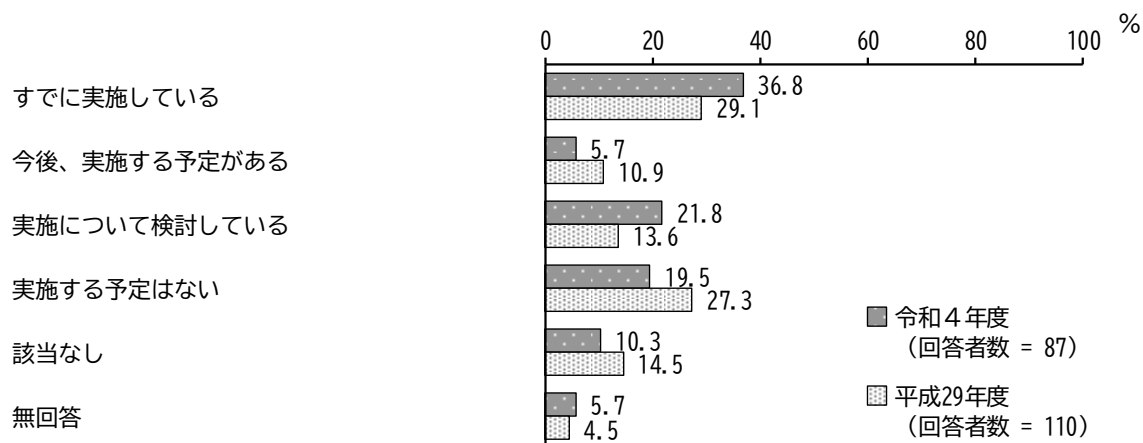
回答者数 = 87



①女性従業員の採用拡大

「すでに実施している」の割合が36.8%と最も高く、次いで「実施について検討している」の割合が21.8%、「実施する予定はない」の割合が19.5%となっています。

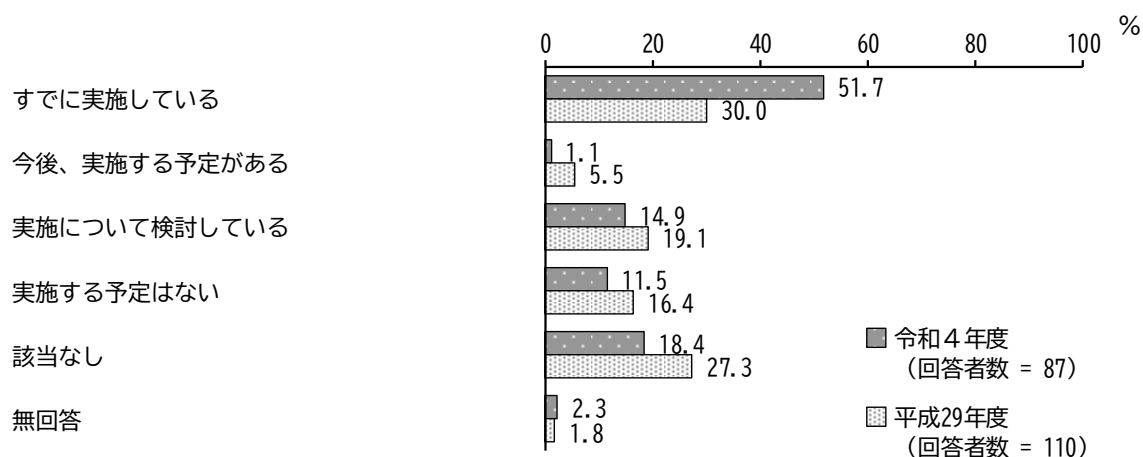
平成29年度調査と比較すると、「すでに実施している」「実施について検討している」の割合が増加しています。一方、「今後、実施する予定がある」「実施する予定はない」の割合が減少しています。



②パートタイマー・アルバイト・契約社員などから正社員への登用

「すでに実施している」の割合が51.7%と最も高く、次いで「該当なし」の割合が18.4%、「実施について検討している」の割合が14.9%となっています。

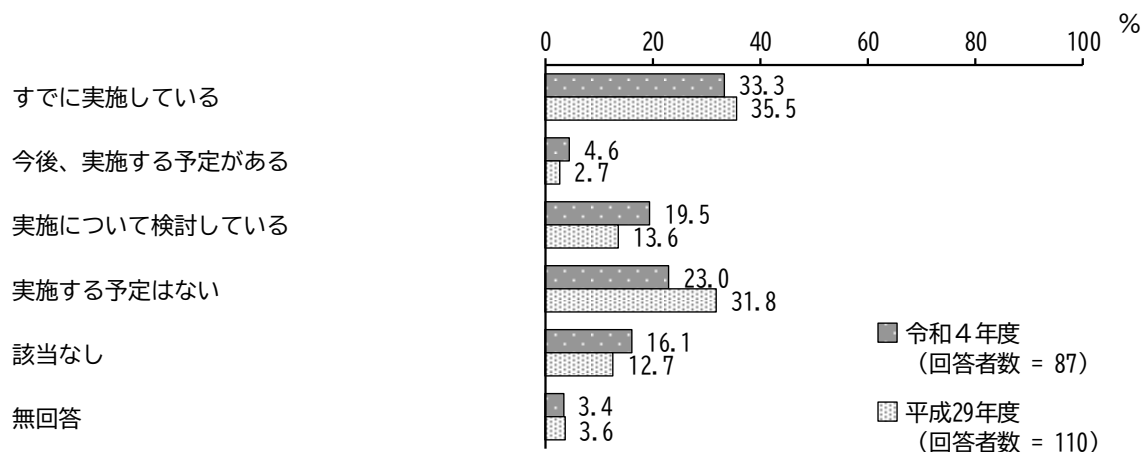
平成29年度調査と比較すると、「すでに実施している」の割合が増加しています。一方、「該当なし」の割合が減少しています。



③短縮勤務・フレックスタイム等、勤務時間の柔軟化

「すでに実施している」の割合が33.3%と最も高く、次いで「実施する予定はない」の割合が23.0%、「実施について検討している」の割合が19.5%となっています。

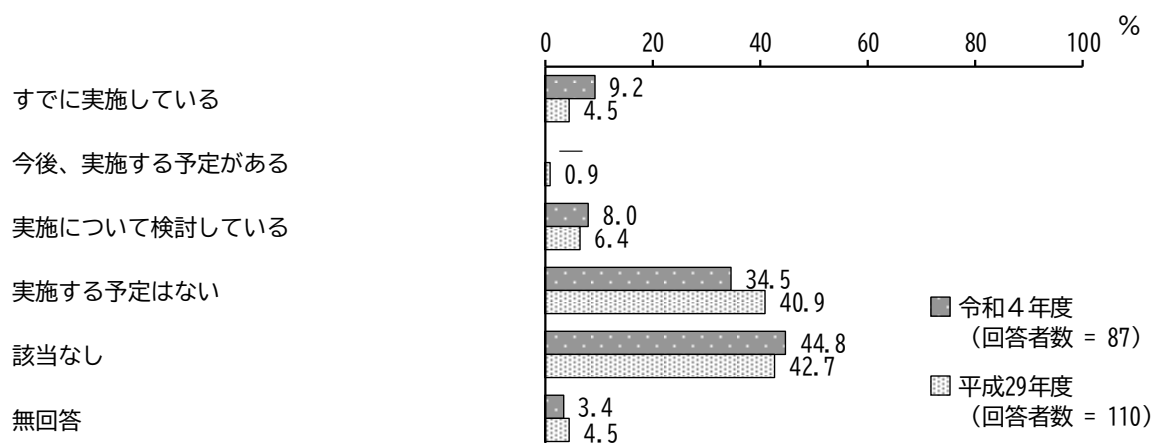
平成29年度調査と比較すると、「実施について検討している」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



④在宅勤務・テレワーク等、勤務場所の柔軟化

「該当なし」の割合が44.8%と最も高く、次いで「実施する予定はない」の割合が34.5%となっています。

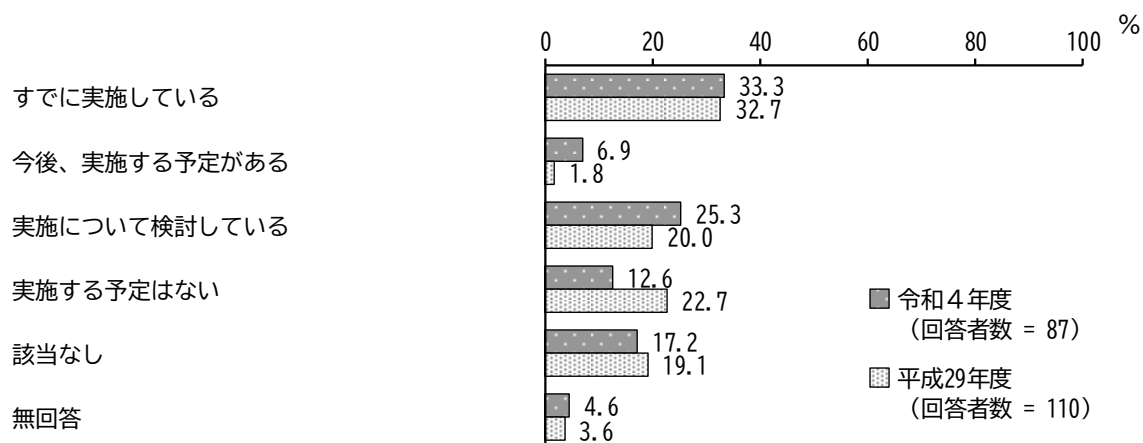
平成29年度調査と比較すると、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



⑤出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

「すでに実施している」の割合が33.3%と最も高く、次いで「実施について検討している」の割合が25.3%、「該当なし」の割合が17.2%となっています。

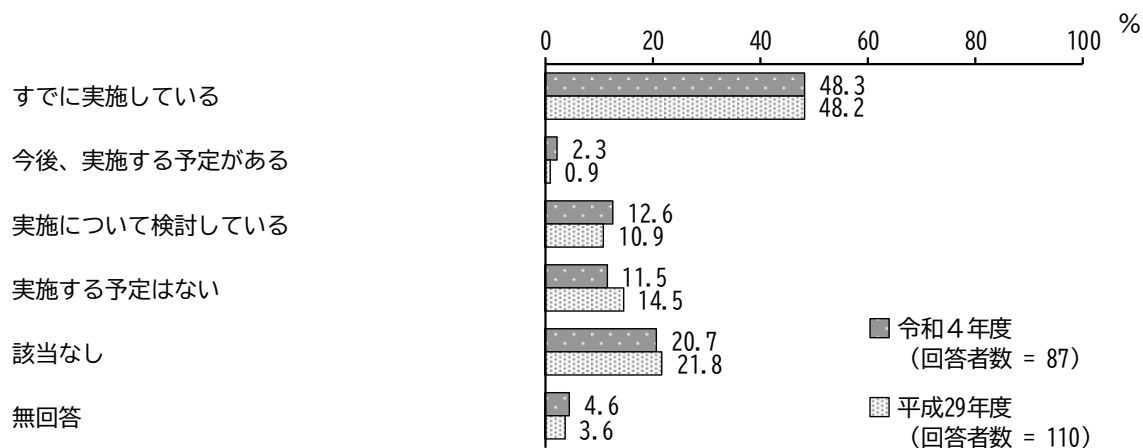
平成29年度調査と比較すると、「今後、実施する予定がある」「実施について検討している」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



⑥男女ともに異動や担当業務についての本人の意向確認

「すでに実施している」の割合が48.3%と最も高く、次いで「該当なし」の割合が20.7%、「実施について検討している」の割合が12.6%となっています。

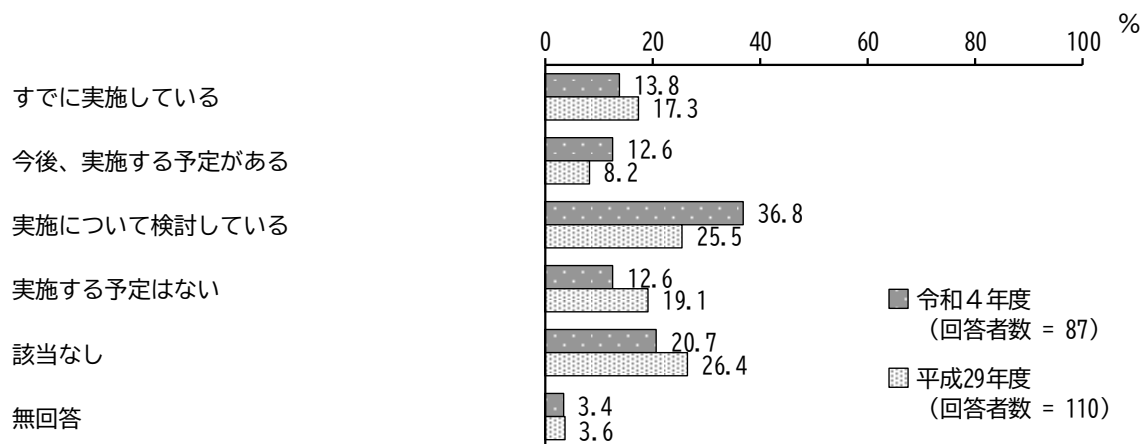
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑦女性の管理職への積極的登用

「実施について検討している」の割合が36.8%と最も高く、次いで「該当なし」の割合が20.7%、「すでに実施している」の割合が13.8%となっています。

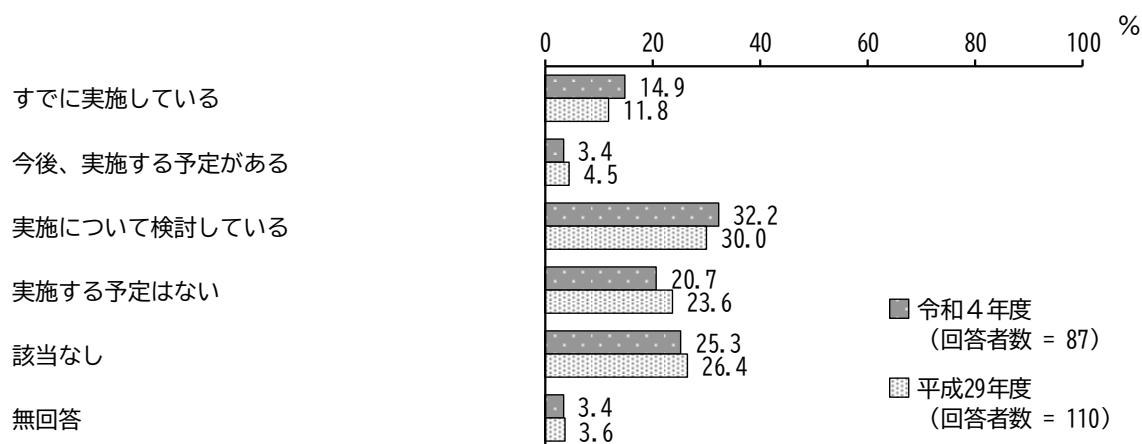
平成29年度調査と比較すると、「実施について検討している」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」「該当なし」の割合が減少しています。



⑧女性の活躍に向けた社内の推進体制（担当部署、指導者の設置、ノー残業デーの実施など）の整備

「実施について検討している」の割合が32.2%と最も高く、次いで「該当なし」の割合が25.3%、「実施する予定はない」の割合が20.7%となっています。

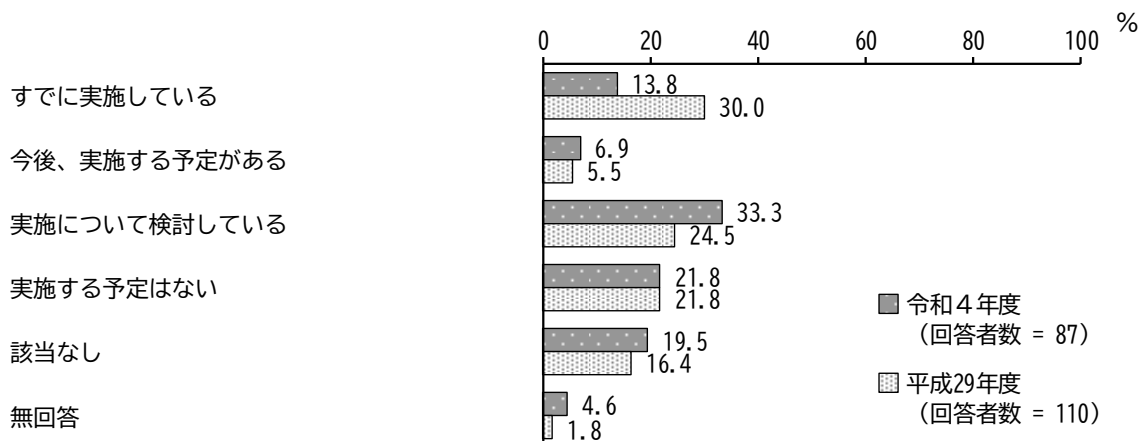
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑨意識改革のための教育・研修機会の確保

「実施について検討している」の割合が33.3%と最も高く、次いで「実施する予定はない」の割合が21.8%、「該当なし」の割合が19.5%となっています。

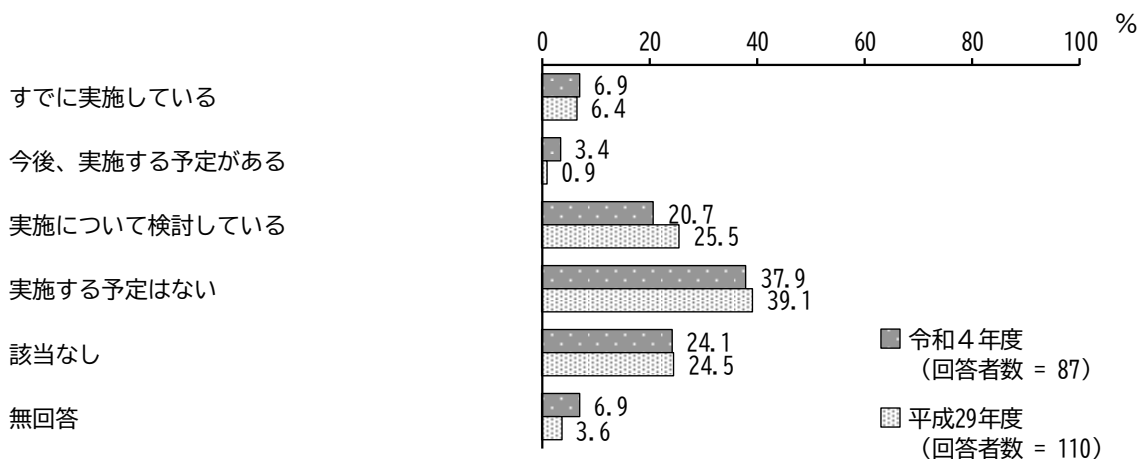
平成29年度調査と比較すると、「実施について検討している」の割合が増加しています。一方、「すでに実施している」の割合が減少しています。



⑩女性の採用や昇進における数値目標の設定

「実施する予定はない」の割合が37.9%と最も高く、次いで「該当なし」の割合が24.1%、「実施について検討している」の割合が20.7%となっています。

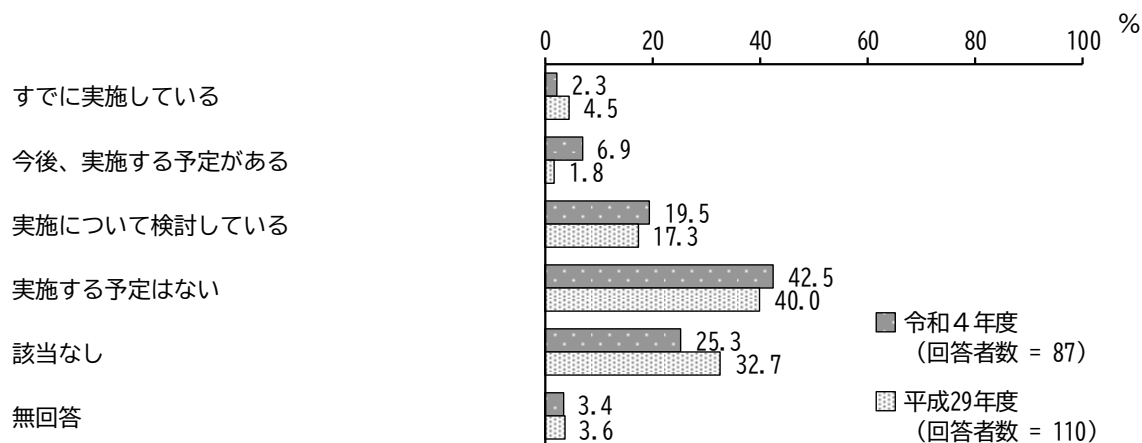
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑪ トップの女性活躍推進に関するメッセージの発信（イクボス宣言※2を含む）

「実施する予定はない」の割合が42.5%と最も高く、次いで「該当なし」の割合が25.3%、「実施について検討している」の割合が19.5%となっています。

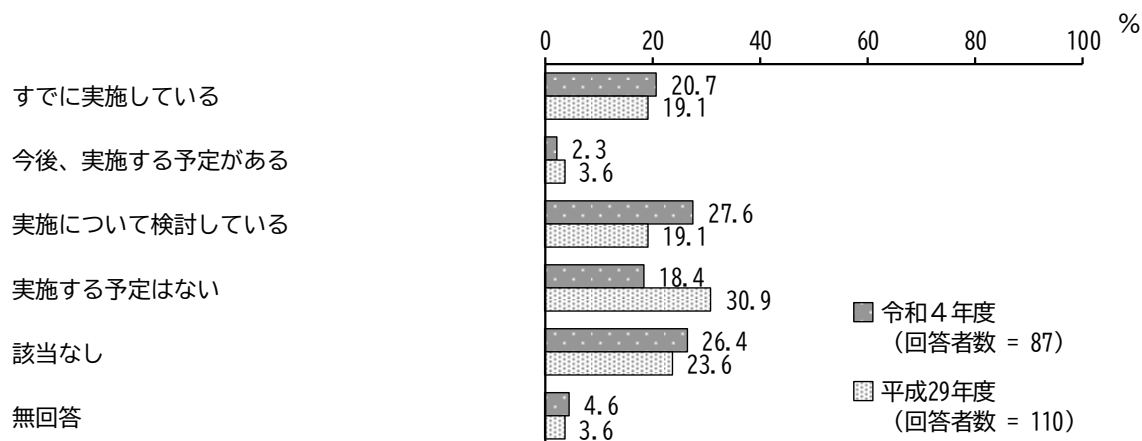
平成29年度調査と比較すると、「今後、実施する予定がある」の割合が増加しています。一方、「該当なし」の割合が減少しています。



⑫ 評価者に女性を含めるようにする

「実施について検討している」の割合が27.6%と最も高く、次いで「該当なし」の割合が26.4%、「すでに実施している」の割合が20.7%となっています。

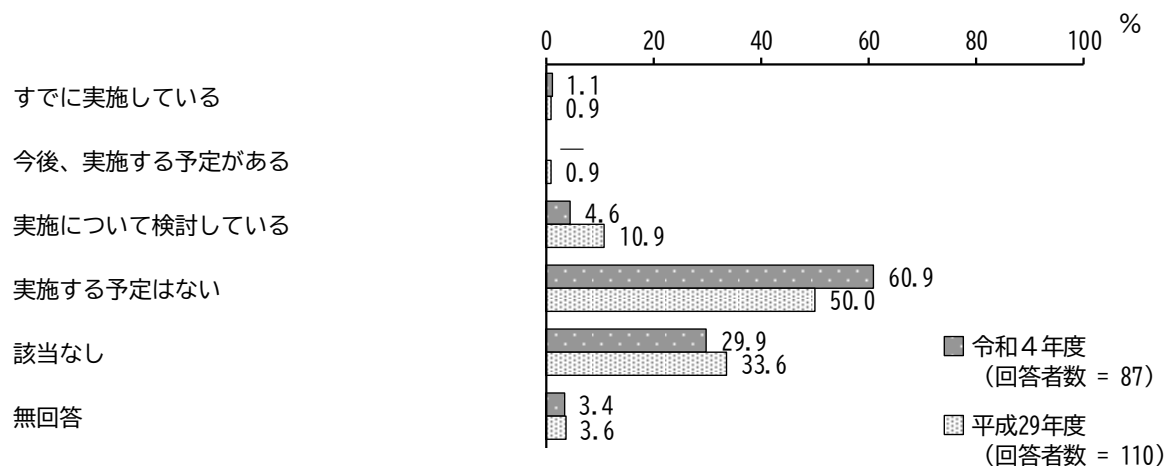
平成29年度調査と比較すると、「実施について検討している」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



⑬企業内託児所や学童保育所などの設置

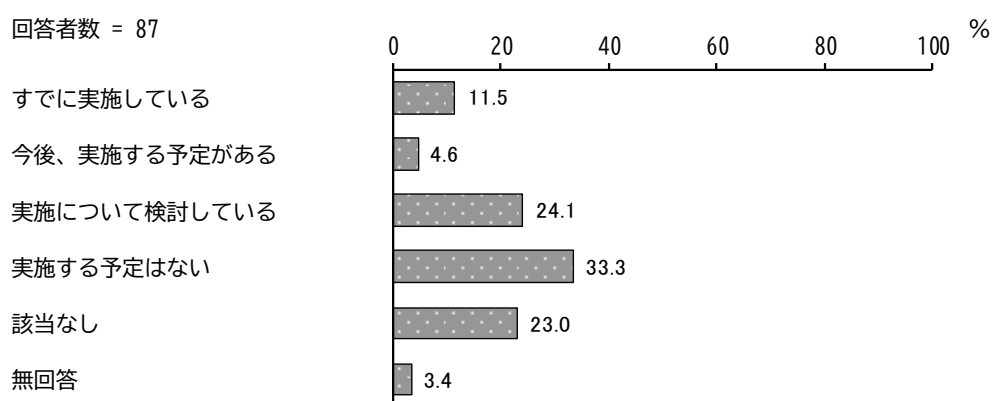
「実施する予定はない」の割合が60.9%と最も高く、次いで「該当なし」の割合が29.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「実施する予定はない」の割合が増加しています。一方、「実施について検討している」の割合が減少しています。



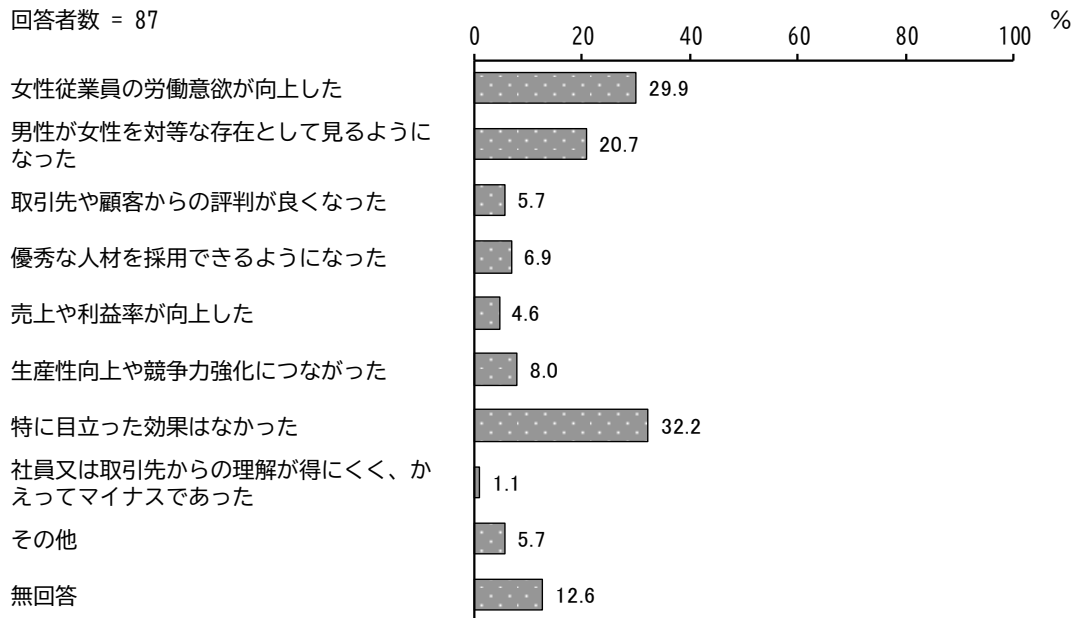
⑭男性従業員の家事・育児への参加の促進

「実施する予定はない」の割合が33.3%と最も高く、次いで「実施について検討している」の割合が24.1%、「該当なし」の割合が23.0%となっています。



問8 あなたの職場では、取り組みを実施し、どのような効果がありましたか。(〇はいくつでも)

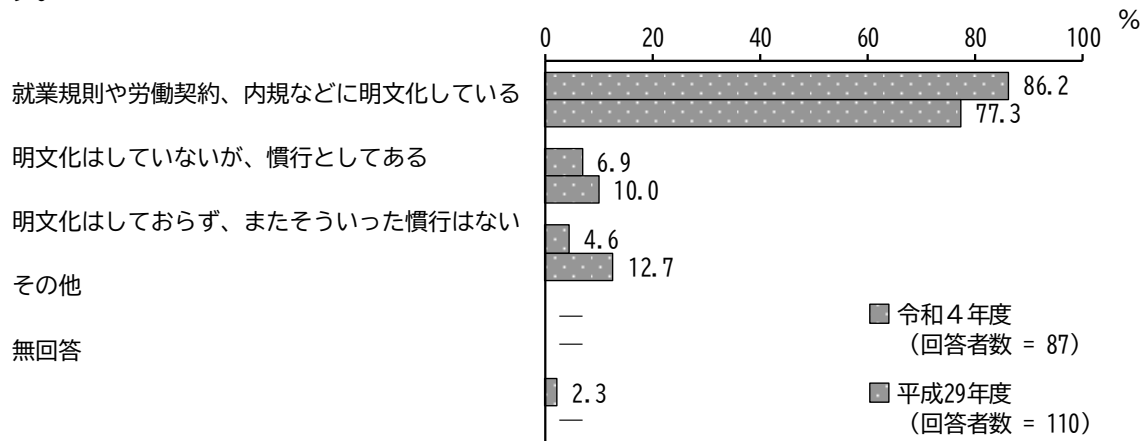
「特に目立った効果はなかった」の割合が32.2%と最も高く、次いで「女性従業員の労働意欲が向上した」の割合が29.9%、「男性が女性を対等な存在として見るようになった」の割合が20.7%となっています。



3 育児・介護休業制度について

問9 育児休業制度は、労働者が「育児・介護休業法」に規定する子を育てるために一定期間休業する制度をいいますが、貴事業所では、この育児休業制度を就業規則などで規定していますか。(〇は1つ)

「就業規則や労働契約、内規などに明文化している」の割合が86.2%と最も高くなっています。平成29年度調査と比較すると、「就業規則や労働契約、内規などに明文化している」の割合が増加しています。一方、「明文化はしておらず、またそういった慣行はない」の割合が減少しています。

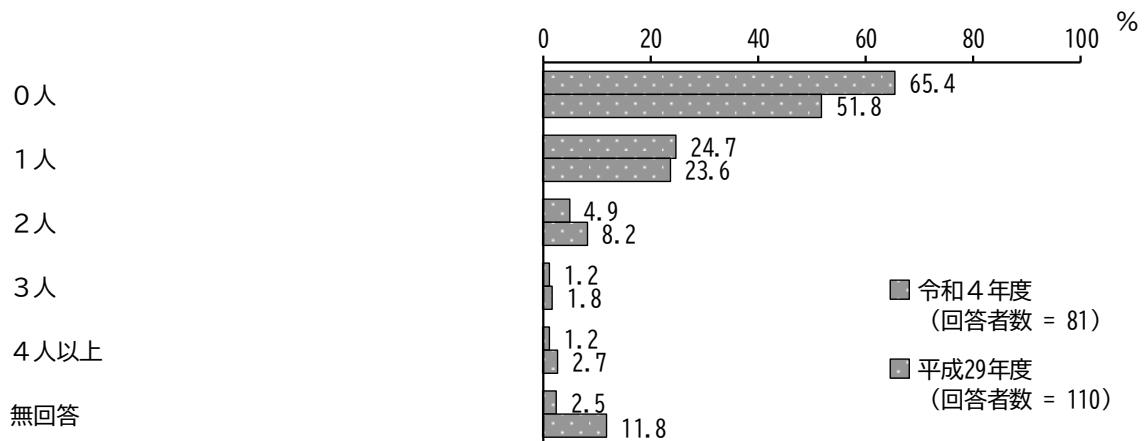


(問9で「1 就業規則や労働契約、内規などに明文化している」「2 明文化はしていないが、慣習としてある」と回答した方におたずねします。)

問9-1 令和3年1月1日から12月31日の1年間で、貴事業所において女性従業員で出産した人数および男性従業員で配偶者が出産した人数と、そのうち実際に育児休業制度を取得(利用)した従業員の数をそれぞれ記入してください。

女性従業員で出産した人

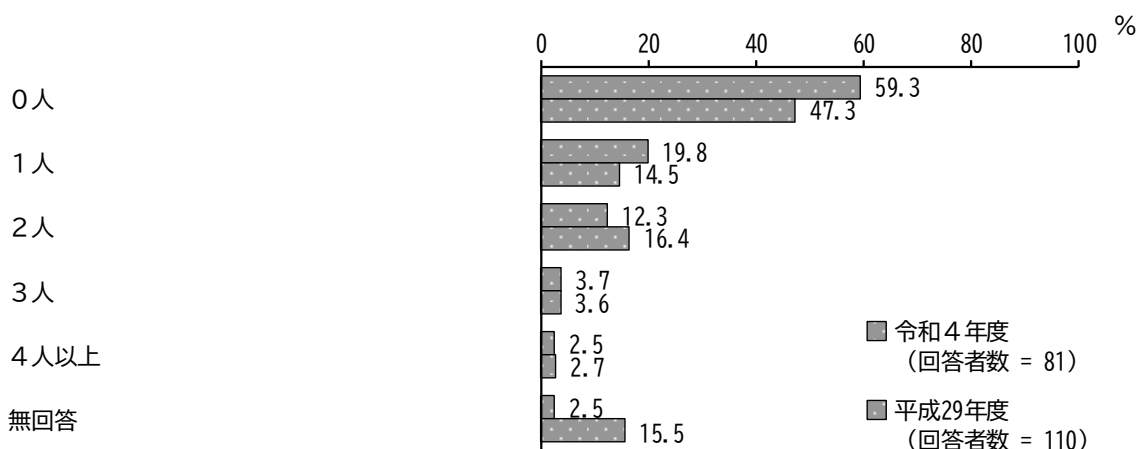
「0人」の割合が65.4%と最も高く、次いで「1人」の割合が24.7%となっています。平成29年度調査と比較すると、「0人」の割合が増加しています。



男性従業員で配偶者が出産した人

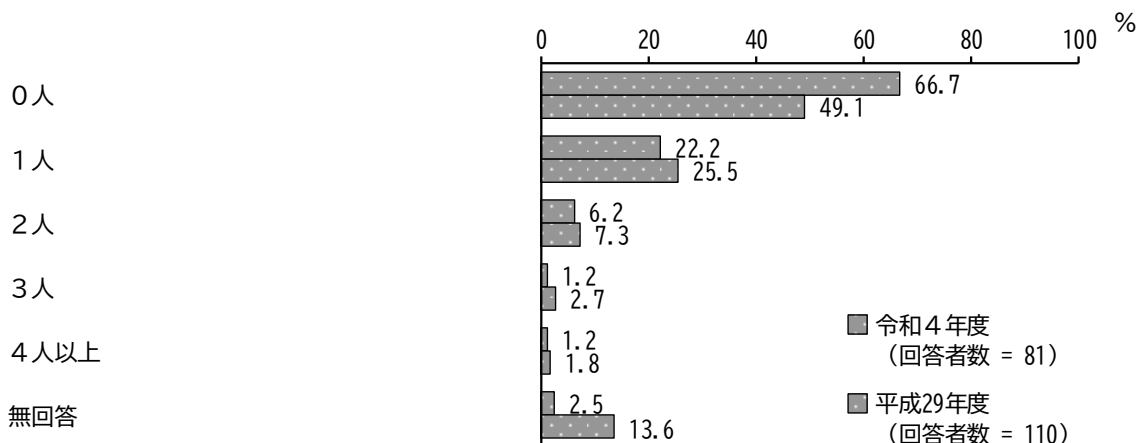
「0人」の割合が59.3%と最も高く、次いで「1人」の割合が19.8%、「2人」の割合が12.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「0人」「1人」の割合が増加しています。



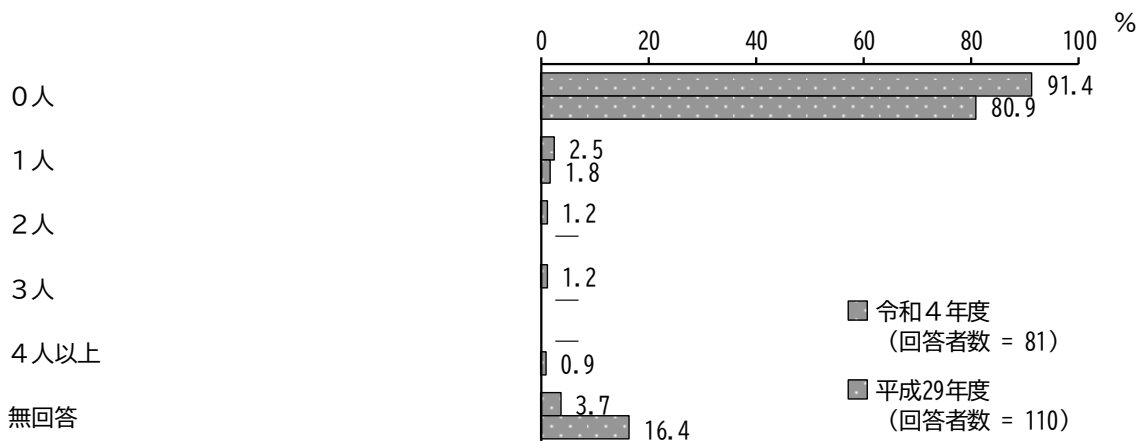
女性従業員で出産した人で育児休業制度を取得（利用）した人

「0人」の割合が66.7%と最も高く、次いで「1人」の割合が22.2%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「0人」の割合が増加しています。



男性従業員で配偶者が出産した人で育児休業制度を取得（利用）した人

「0人」の割合が91.4%と最も高くなっています。
平成29年度調査と比較すると、「0人」の割合が増加しています。

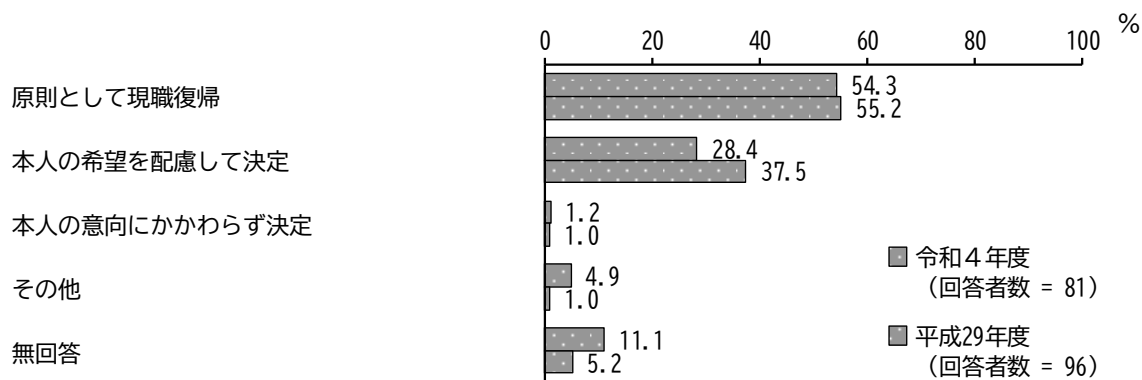


(問9で「1 就業規則や労働契約、内規などに明文化している」「2 明文化はしていないが、慣習としてある」と回答した方におたずねします。)

問9- 2 育児休業の復職後の配置はどうなりますか。(○は1つ)

「原則として現職復帰」の割合が54.3%と最も高く、次いで「本人の希望を配慮して決定」の割合が28.4%となっています。

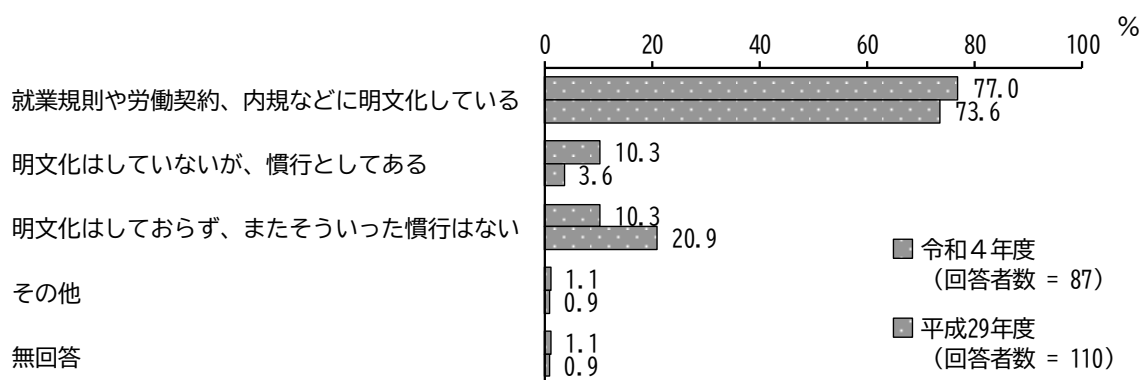
平成29年度調査と比較すると、「本人の希望を配慮して決定」の割合が減少しています。



問10 介護休業制度は、労働者が「育児・介護休業法」に規定する家族等の介護のために一定期間休業する制度をいいますが、貴事業所では、この介護休業制度を就業規則などで規定していますか。(○は1つ)

「就業規則や労働契約、内規などに明文化している」の割合が77.0%と最も高く、次いで「明文化はしていないが、慣行としてある」の割合が10.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「明文化はしていないが、慣行としてある」の割合が増加しています。一方、「明文化はしておらず、またそういった慣行はない」の割合が減少しています。



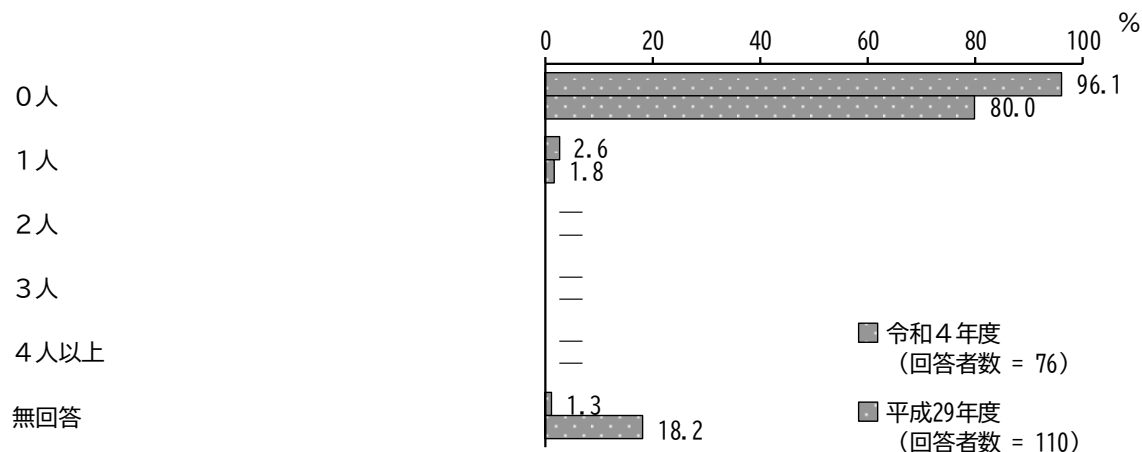
(問10で「1 就業規則や労働契約、内規などに明文化している」「2 明文化はしていないが、慣習としてある」と回答した方におたずねします。)

問10-1 令和3年1月1日から12月31日の1年間で、貴事業所において介護休業制度を取得(利用)した従業員は何人ですか。実際の取得(利用)者数を、男女別にそれぞれ記入してください。

介護休業制度を取得(利用)した男性従業員

「0人」の割合が96.1%と最も高くなっています。

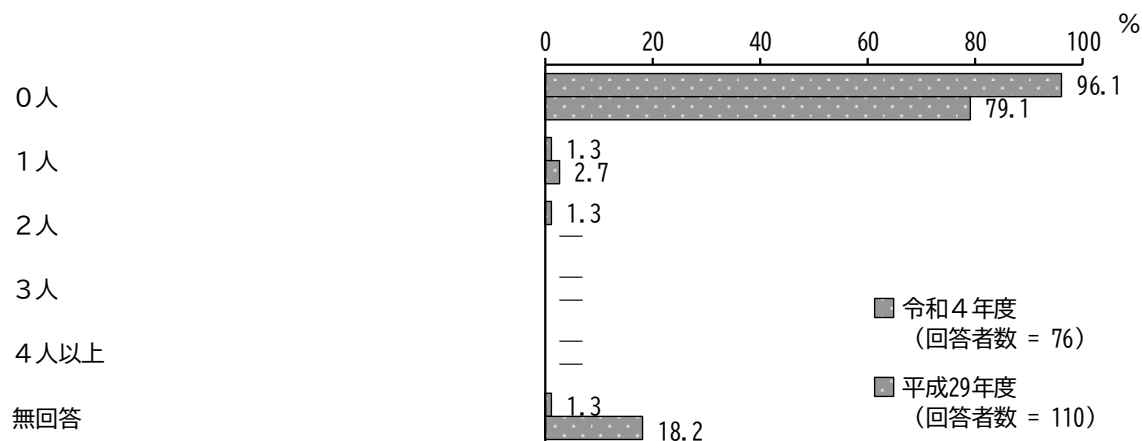
平成29年度調査と比較すると、「0人」の割合が増加しています。



介護休業制度を取得(利用)した女性従業員

「0人」の割合が96.1%と最も高くなっています。

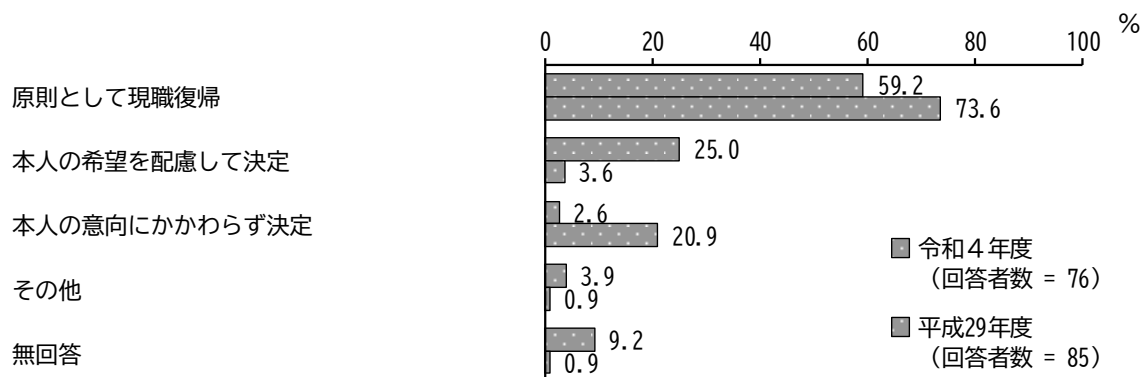
平成29年度調査と比較すると、「0人」の割合が増加しています。



(問 10 で「1 就業規則や労働契約、内規などに明文化している」「2 明文化はしていないが、慣習としてある」と回答した方におたずねします。)

問 10-2 介護休業の復職後の配置はどうなりますか。(○は1つ)

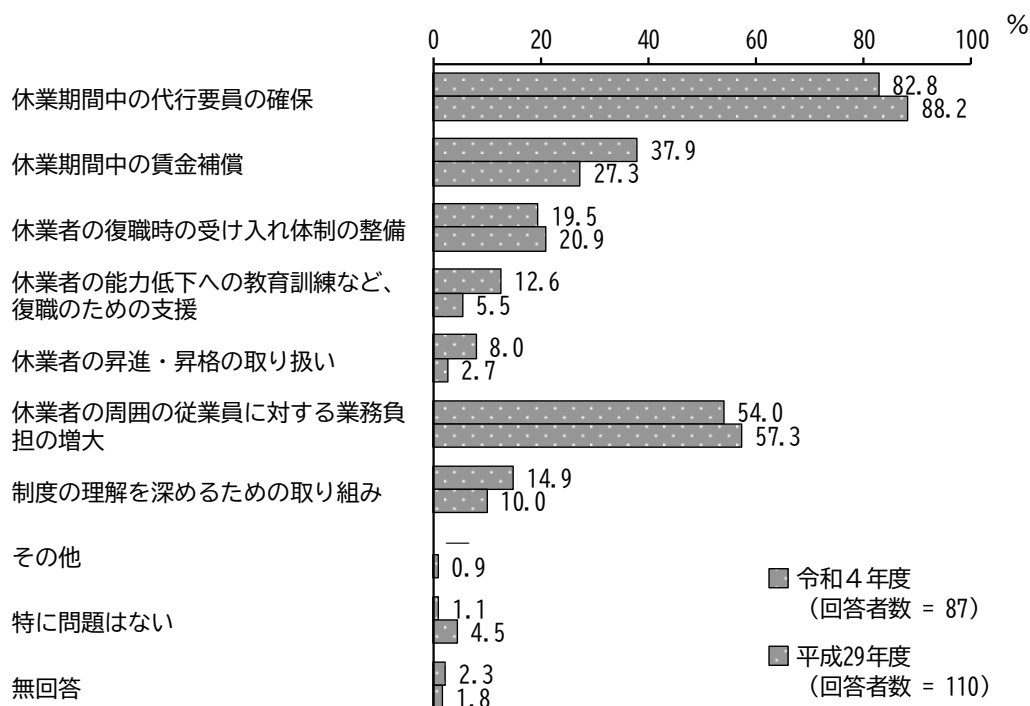
「原則として現職復帰」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「本人の希望を配慮して決定」の割合が 25.0%となっています。



問 11 育児・介護休業制度の活用を進めていくうえで、貴事業所で課題となることはどのようなことですか。(○はいくつでも)

「休業期間中の代行要員の確保」の割合が 82.8%と最も高く、次いで「休業者の周囲の従業員に対する業務負担の増大」の割合が 54.0%、「休業期間中の賃金補償」の割合が 37.9%となっています。

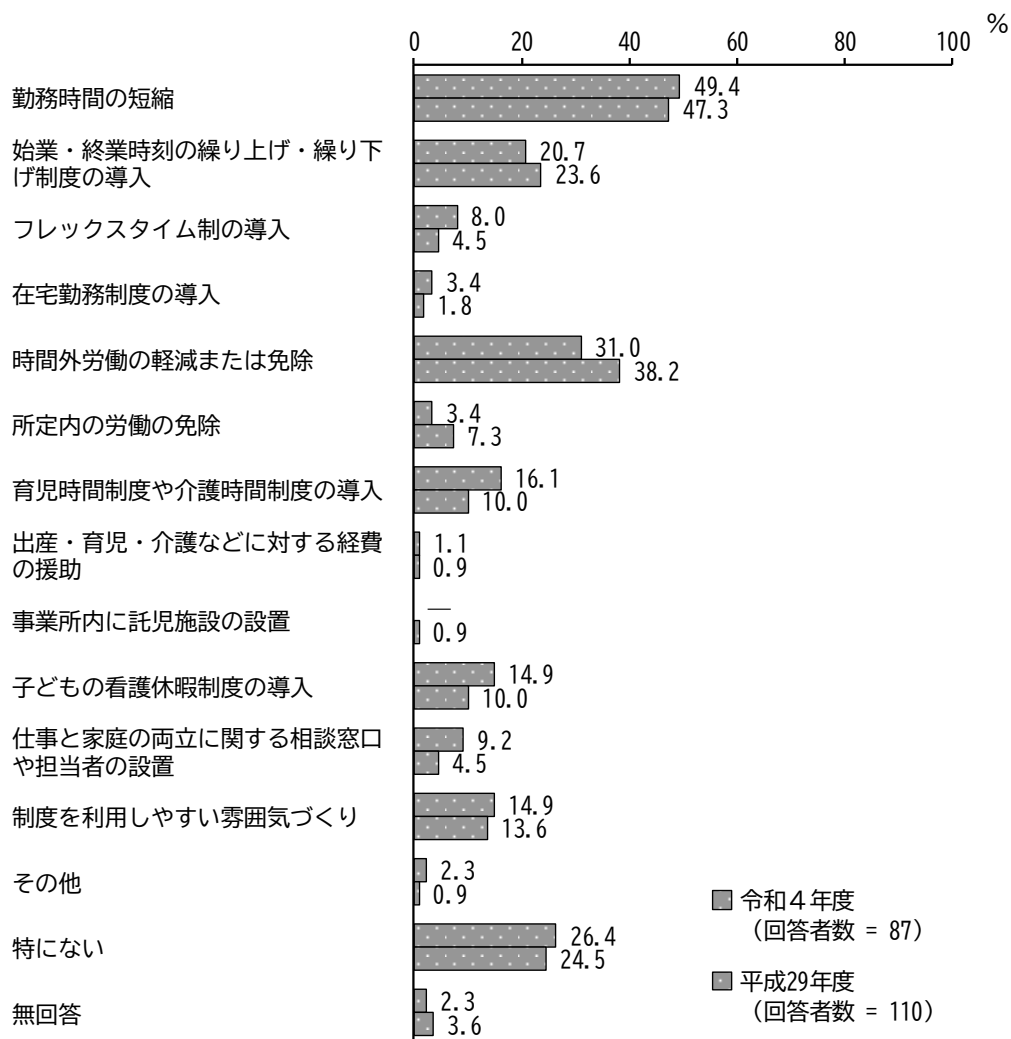
平成 29 年度調査と比較すると、「休業期間中の賃金補償」「休業者の能力低下への教育訓練など、復職のための支援」「休業者の昇進・昇格の取り扱い」の割合が増加しています。一方、「休業期間中の代行要員の確保」の割合が減少しています。



問12 貴事業所では、育児・介護休業制度のほか、仕事と家庭の両立のための配慮を行っていますか。(〇はいくつでも)

「勤務時間の短縮」の割合が49.4%と最も高く、次いで「時間外労働の軽減または免除」の割合が31.0%、「特にない」の割合が26.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「育児時間制度や介護時間制度の導入」の割合が増加しています。一方、「時間外労働の軽減または免除」の割合が減少しています。

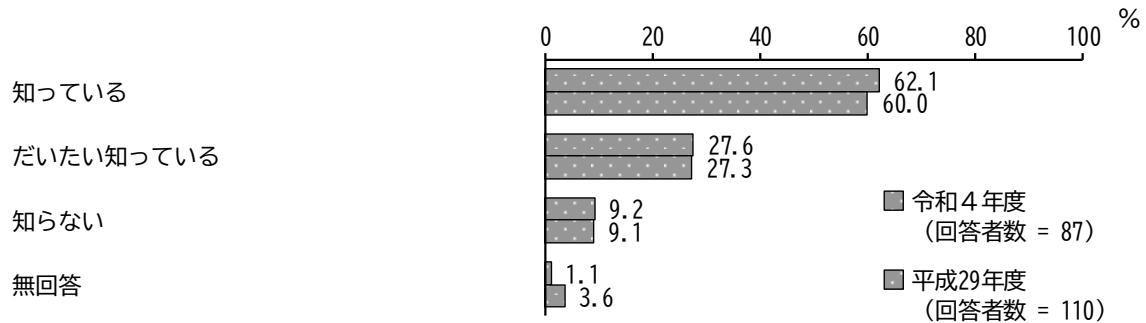


4 ハラスメントについて

問 13 男女雇用機会均等法では、事業主にセクシャル・ハラスメント防止のための雇用管理上の配慮が義務づけられています。貴事業所では、そのことについてご存知ですか。(○は1つ)

「知っている」の割合が62.1%と最も高く、次いで「だいたい知っている」の割合が27.6%となっています。

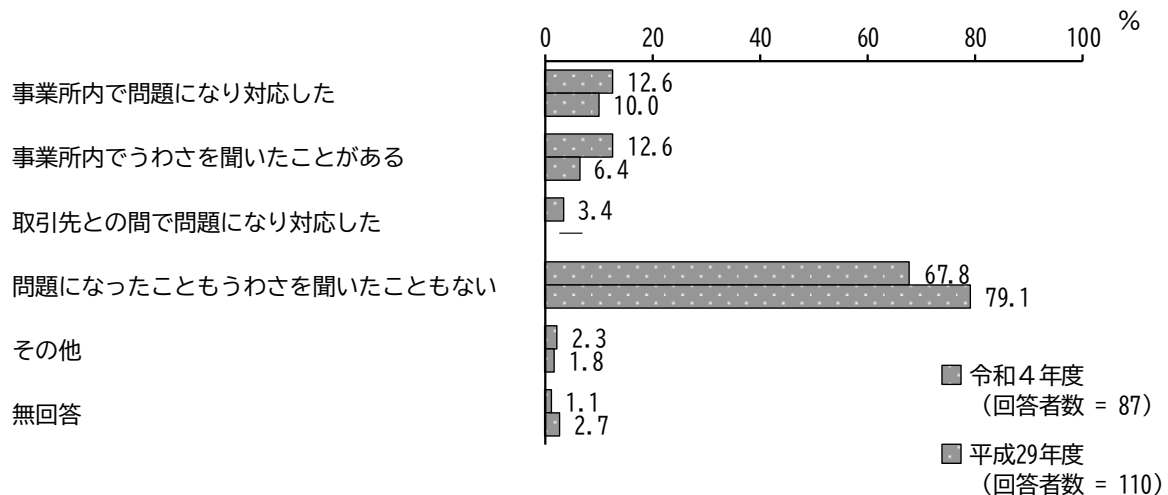
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 14 貴事業所において、セクシャル・ハラスメントが問題になったことはありますか。(○は1つ)

「問題になったこともうわさを聞いたこともない」の割合が67.8%と最も高く、次いで「事業所内で問題になり対応した」、「事業所内でうわさを聞いたことがある」の割合が12.6%となっています。

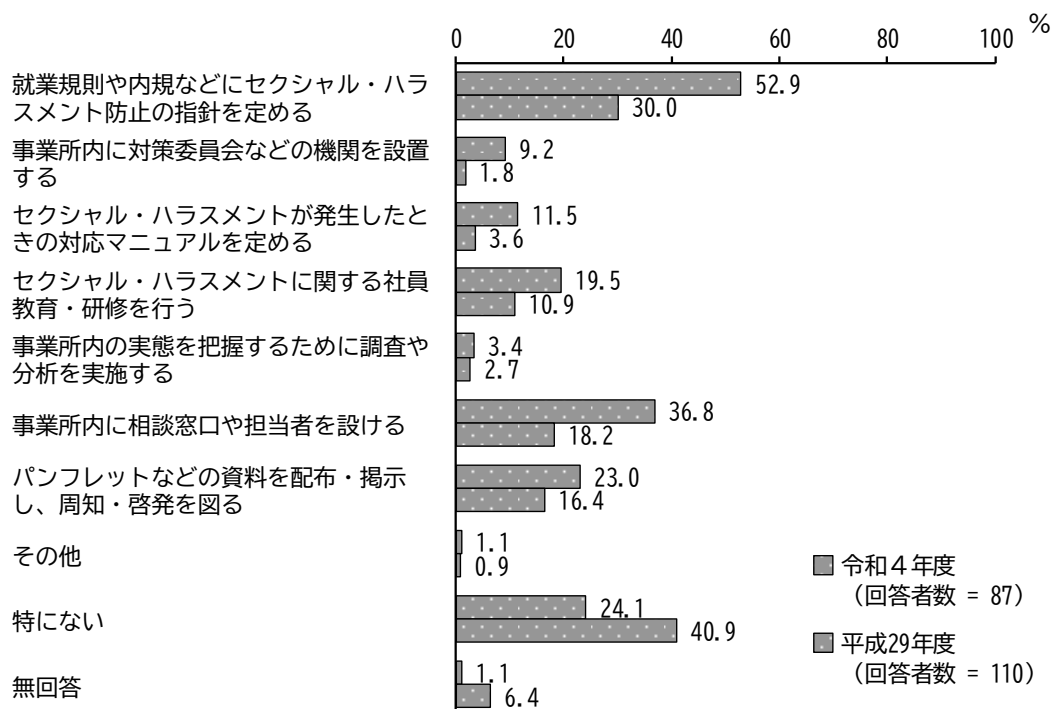
平成29年度調査と比較すると、「事業所内でうわさを聞いたことがある」の割合が増加しています。一方、「問題になったこともうわさを聞いたこともない」の割合が減少しています。



問 15 貴事業所において、セクシャル・ハラスメント防止に向けて、現在実施している、もしくは今後の実施を考えている取り組みがありますか。(〇はいくつでも)

「就業規則や内規などにセクシャル・ハラスメント防止の指針を定める」の割合が 52.9%と最も高く、次いで「事業所内に相談窓口や担当者を設ける」の割合が 36.8%、「特にない」の割合が 24.1%となっています。

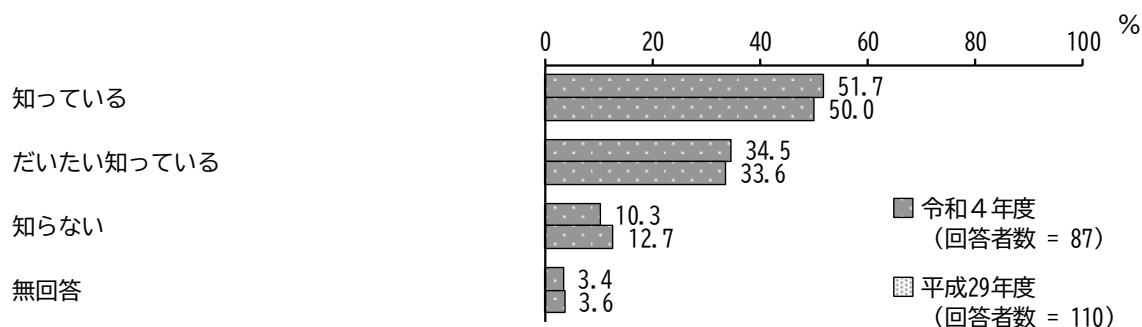
平成 29 年度調査と比較すると、「就業規則や内規などにセクシャル・ハラスメント防止の指針を定める」「事業所内に対策委員会などの機関を設置する」「セクシャル・ハラスメントが発生したときの対応マニュアルを定める」「セクシャル・ハラスメントに関する社員教育・研修を行う」「事業所内に相談窓口や担当者を設ける」「パンフレットなどの資料を配布・掲示し、周知・啓発を図る」の割合が増加しています。一方、「特にない」の割合が減少しています。



問 16 男女雇用機会均等法では、事業主に、妊娠・出産等に関するハラスメント防止のための雇用管理上の配慮が義務づけられています。貴事業所では、そのことについてご存知ですか。(〇は1つ)

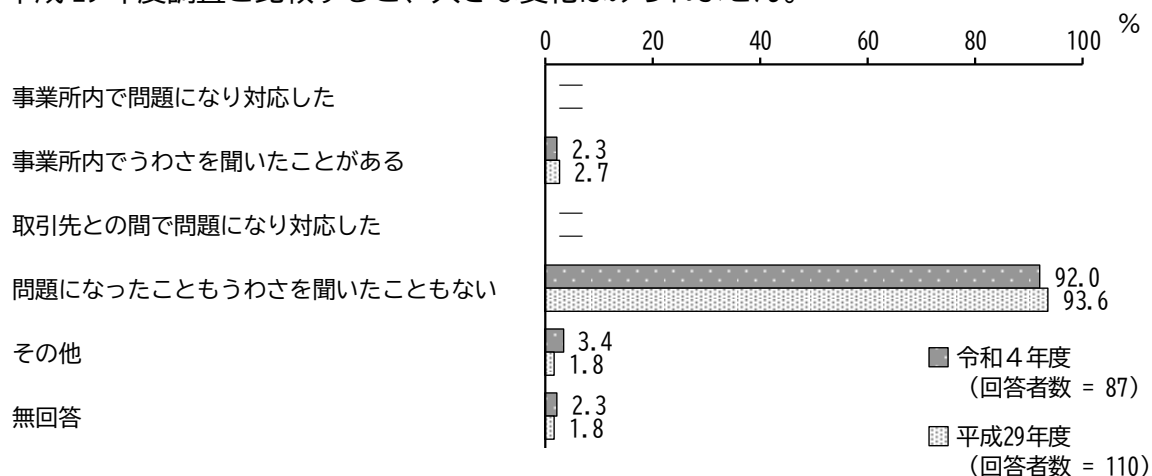
「知っている」の割合が 51.7%と最も高く、次いで「だいたい知っている」の割合が 34.5%、「知らない」の割合が 10.3%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 17 貴事業所において、妊娠・出産等に関するハラスメントが問題になったことはありますか。(〇は1つ)

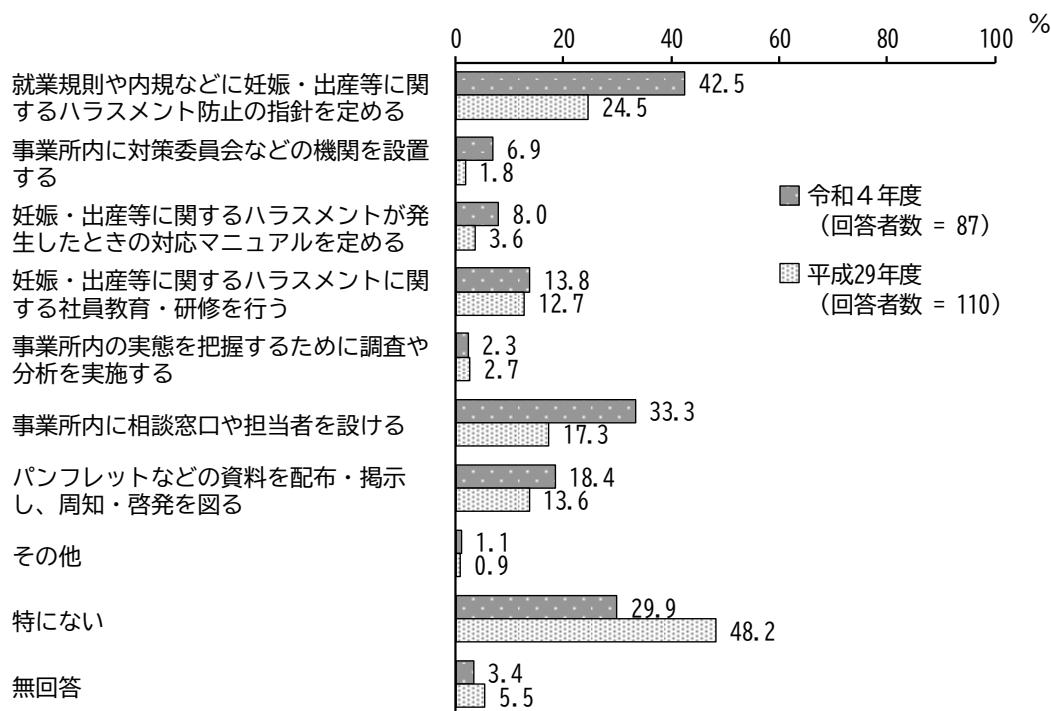
「問題になったこともうわさを聞いたこともない」の割合が 92.0%と最も高くなっています。平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 18 貴事業所において、妊娠・出産等に関するハラスメント防止に向けて、現在実施している、もしくは今後の実施を考えている取り組みがありますか。(〇はいくつでも)

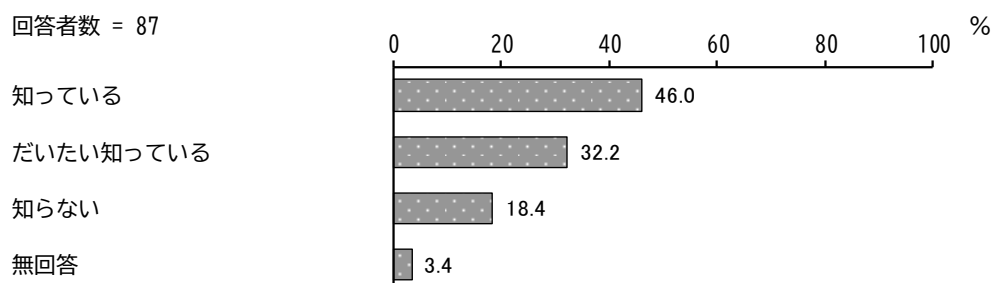
「就業規則や内規などに妊娠・出産等に関するハラスメント防止の指針を定める」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「事業所内に相談窓口や担当者を設ける」の割合が 33.3%、「特にない」の割合が 29.9%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「就業規則や内規などに妊娠・出産等に関するハラスメント防止の指針を定める」「事業所内に対策委員会などの機関を設置する」「事業所内に相談窓口や担当者を設ける」の割合が増加しています。一方、「特にない」の割合が減少しています。



問 19 労働施策総合推進法の改正により、職場におけるパワーハラスメント防止のために、雇用管理上必要な措置を講ずることが令和4年4月1日より、中小事業主にも義務となりました。貴事業所では、そのことについてご存知ですか。(○は1つ)

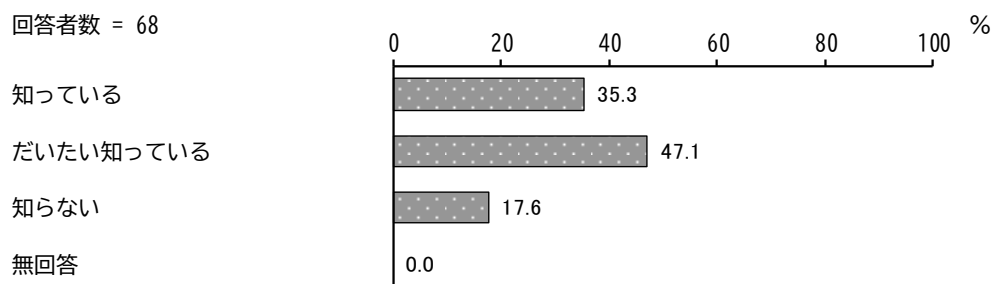
「知っている」の割合が46.0%と最も高く、次いで「だいたい知っている」の割合が32.2%、「知らない」の割合が18.4%となっています。



(問 19 で「1 知っている」「2 だいたい知っている」と回答した方におたずねします。)

問 19- 1 改正労働施策総合推進法では、職場で性的マイノリティの方々を差別するような言動やハラスメント、SOGI (性的指向および性自認) を暴露するようなアウトティング行為が起こらないよう、対策を講じることとされています。貴事業所では、そのことについてご存知ですか。(○は1つ)

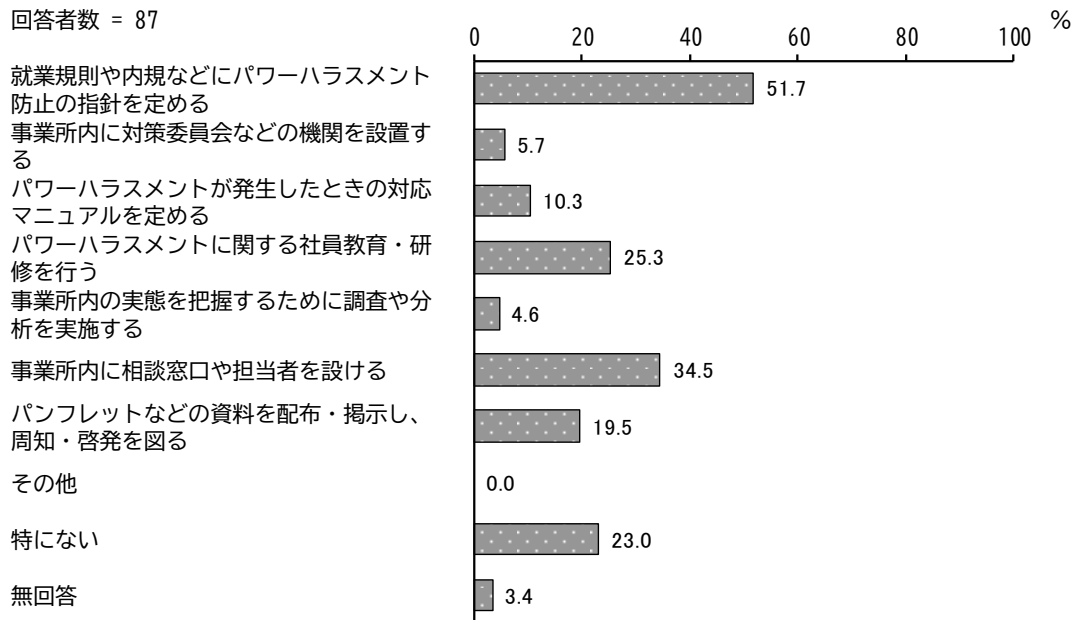
「だいたい知っている」の割合が47.1%と最も高く、次いで「知っている」の割合が35.3%、「知らない」の割合が17.6%となっています。



問 20 貴事業所において、パワーハラスメント防止に向けて、現在実施している、もしくは今後の実施を考えている取り組みがありますか。(〇はいくつでも)

「就業規則や内規などにパワーハラスメント防止の指針を定める」の割合が 51.7%と最も高く、次いで「事業所内に相談窓口や担当者を設ける」の割合が 34.5%、「パワーハラスメントに関する社員教育・研修を行う」の割合が 25.3%となっています。

回答者数 = 87

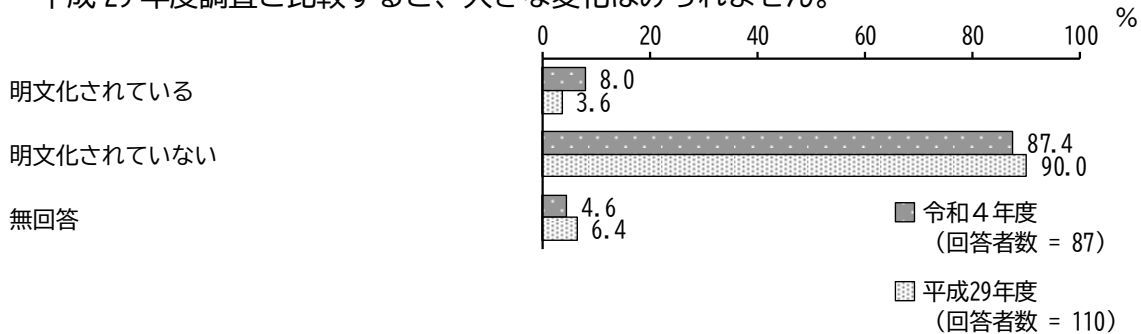


5 ワーク・ライフ・バランスについて

問 21 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）への積極的な取り組みの考え方が、経営や人事の方針として明文化されていますか。（○は1つ）

「明文化されている」の割合が 8.0%、「明文化されていない」の割合が 87.4%となっています。

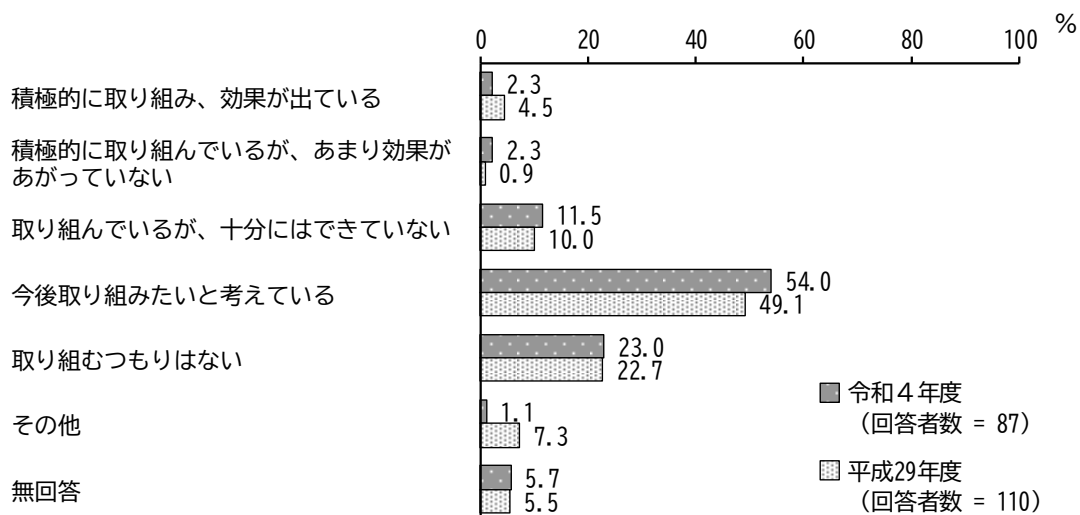
平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 22 従業員のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を阻む職場慣行の見直し等について、社内にプロジェクトチームなどを設けるなどの取り組みを行っていますか。（○は1つ）

「今後取り組みたいと考えている」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「取り組むつもりはない」の割合が 23.0%、「取り組んでいるが、十分にはできていない」の割合が 11.5%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

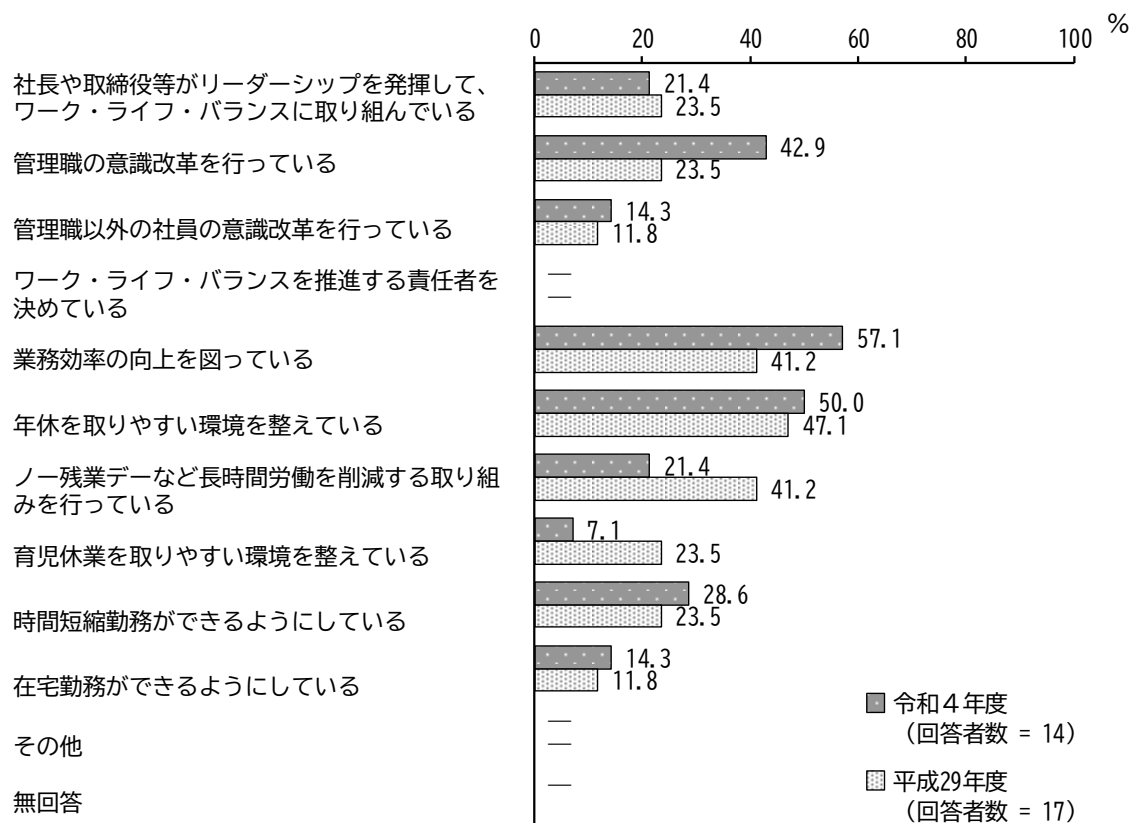


(問 22 で「1 積極的に取り組み、効果が出ている」「2 積極的に取り組んでいるが、あまり効果があがっていない」「3 取り組んでいるが、十分にはできていない」と回答した方におたずねします。)

問 22- 1 現在、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に関して行っている具体的な取り組みはどのようなものですか。（○はいくつでも）

「業務効率の向上を図っている」の割合が 57.1%と最も高く、次いで「年休を取りやすい環境を整えている」の割合が 50.0%、「管理職の意識改革を行っている」の割合が 42.9%となっています。

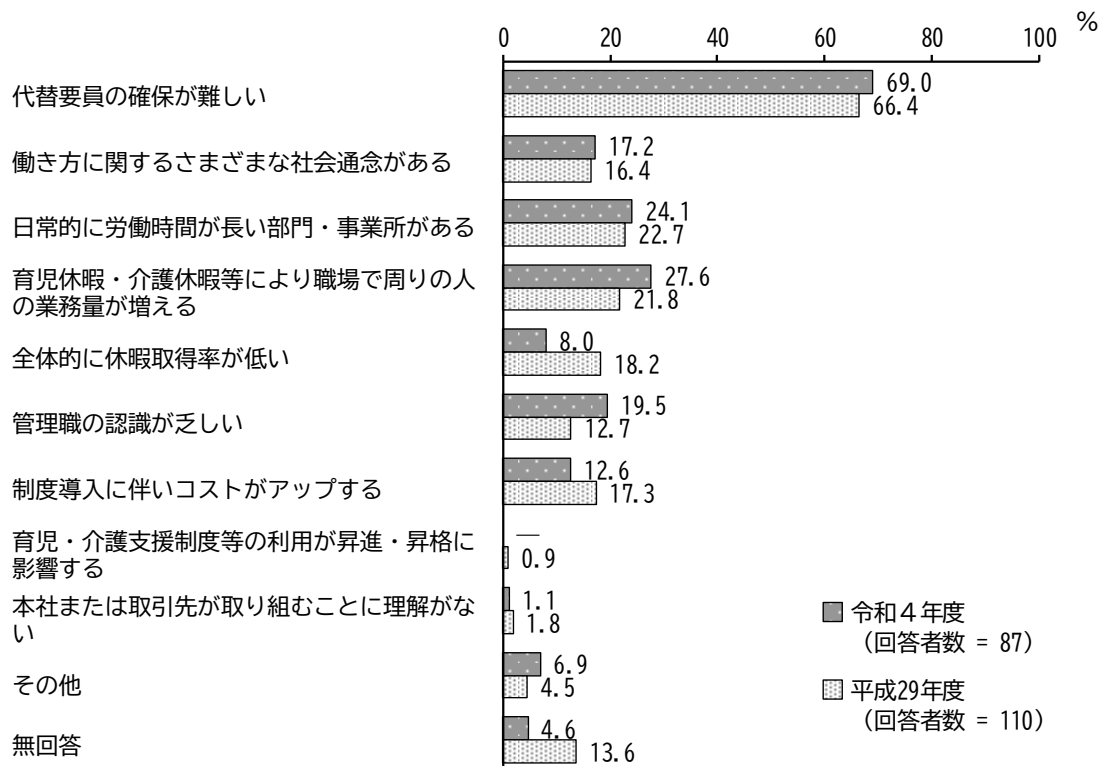
平成 29 年度調査と比較すると、「管理職の意識改革を行っている」「業務効率の向上を図っている」「時間短縮勤務ができるようにしている」の割合が増加しています。一方、「ノー残業デーなど長時間労働を削減する取り組みを行っている」「育児休業を取りやすい環境を整えている」の割合が減少しています。



問 23 貴事業所においてワーク・ライフ・バランスに取り組むうえでの課題は何ですか。(〇はいくつでも)

「代替要員の確保が難しい」の割合が 69.0%と最も高く、次いで「育児休暇・介護休暇等により職場で周りの人の業務量が増える」の割合が 27.6%、「日常的に労働時間が長い部門・事業所がある」の割合が 24.1%となっています。

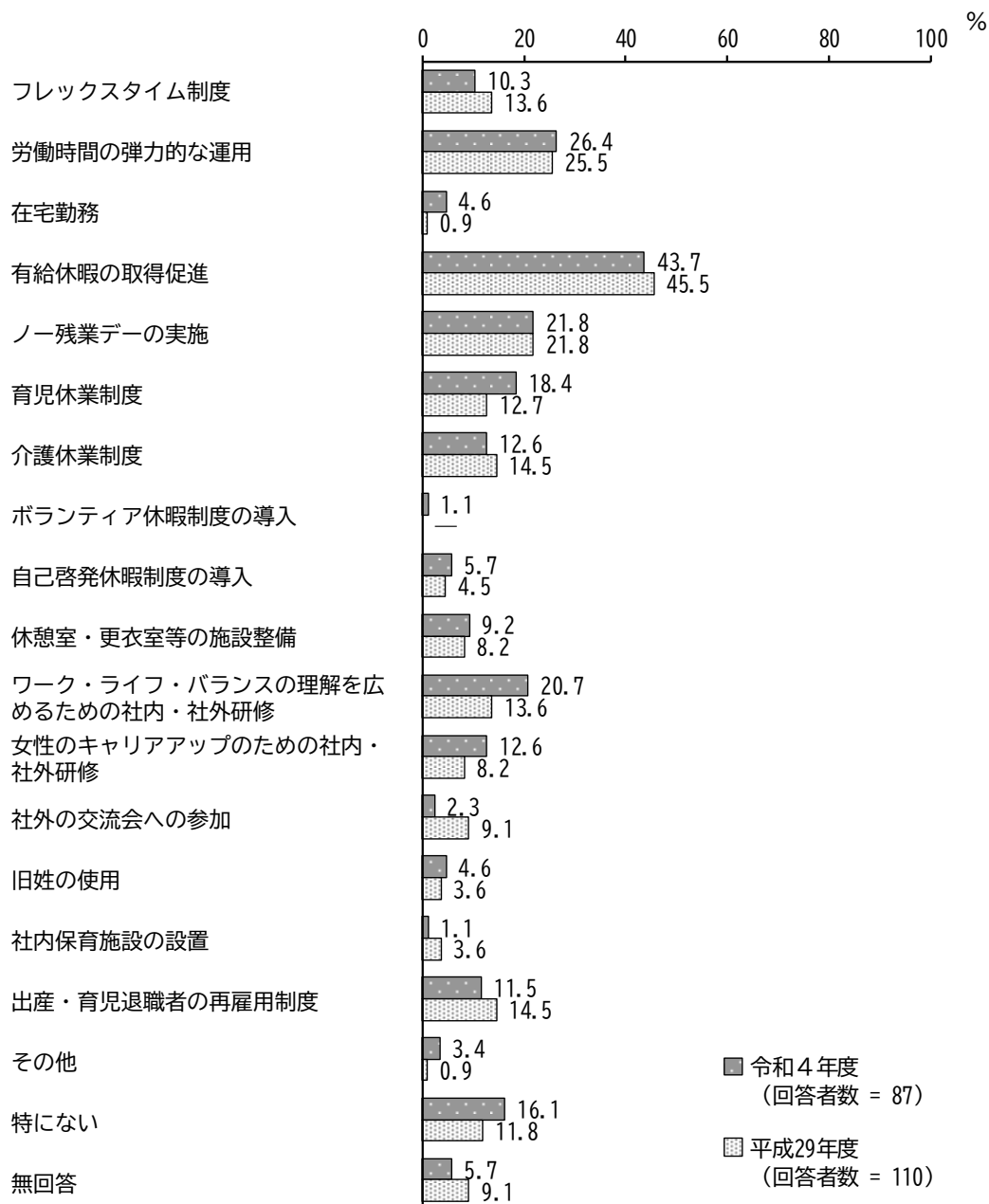
平成 29 年度調査と比較すると、「育児休暇・介護休暇等により職場で周りの人の業務量が増える」「管理職の認識が乏しい」の割合が増加しています。一方、「全体的に休暇取得率が低い」の割合が減少しています。



問 24 従業員のワーク・ライフ・バランスの実現を一層図るために、今後、整備・充実していく意向がある事項をお答えください。(〇はいくつでも)

「有給休暇の取得促進」の割合が43.7%と最も高く、次いで「労働時間の弾力的な運用」の割合が26.4%、「ノー残業デーの実施」の割合が21.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「育児休業制度」「ワーク・ライフ・バランスの理解を広めるための社内・社外研修」の割合が増加しています。一方、「社外の交流会への参加」の割合が減少しています。

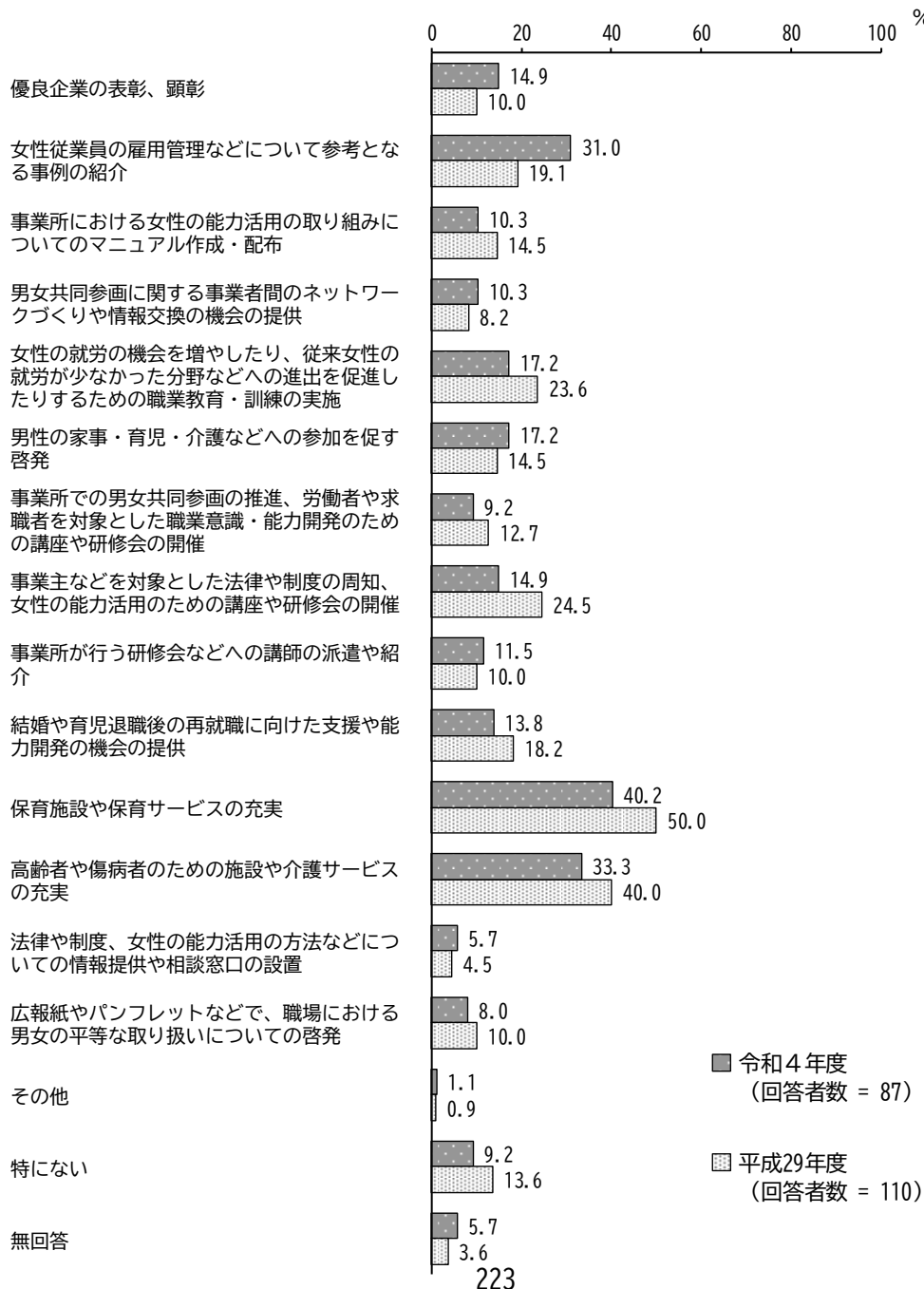


6 ともに働きやすい社会づくりについて

問 25 事業所での男女共同参画を進めるにあたって、焼津市が今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

「保育施設や保育サービスの充実」の割合が40.2%と最も高く、次いで「高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実」の割合が33.3%、「女性従業員の雇用管理などについて参考となる事例の紹介」の割合が31.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「女性従業員の雇用管理などについて参考となる事例の紹介」の割合が増加しています。一方、「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの進出を促進したりするための職業教育・訓練の実施」「事業主などを対象とした法律や制度の周知、女性の能力活用のための講座や研修会の開催」「保育施設や保育サービスの充実」「高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実」の割合が減少しています。



問 26 女性の働く環境や男女がともに働きやすい社会づくりについて、ご意見やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

- 女性が働きやすくするには、まず男性の家庭進出が必須だと思います。そのためのスキルや知識を企業が育てていかなければと思っています。市にはその手助けをお願いしたいです。
- ムダな税金を使うのであればもっと考えて行動してもらいたい。このアンケート含め不要。焼津市は何がしたいのか。
- 働き方改革の弊害がいろんなところに出ています。
- 男女の違いで昇進等を考える企業は既に少数派だと思われる。
- 時代遅れのことにいつまでもこだわって対策を講じるより、多数の企業にとってプラスとなる活動をして頂きたい。
- 焼津市の人口減少に歯止めをかけてほしい（結果を出してほしい）。
- 昨今、入社してくる社員等は女性の方が優秀なことが多いです。働く機会や場所を制限せず、思いっきりやらしてあげればものすごく生産性高い仕事をしてくれます。

男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査
男女共同参画社会づくりに関する事業所実態調査
報告書

令和5年2月

発行：焼津市 市民協働課